

# 川越高等学校音楽部

50年の歩み

“光よ音の流れよ”



埼玉県立川越高等学校音楽部OB会

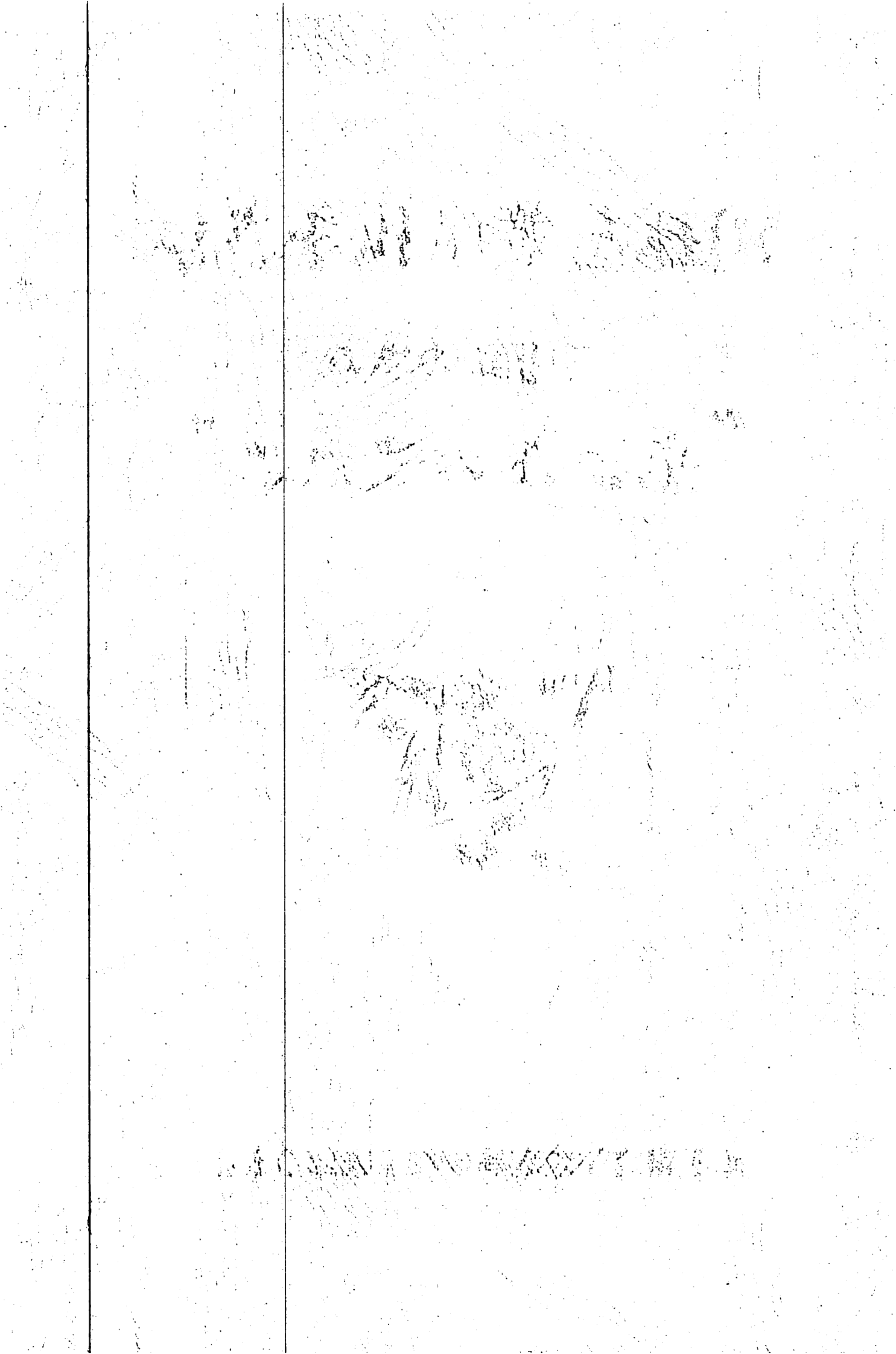
# 川越高等学校音楽部

50年の歩み

“光よ音の流れよ”



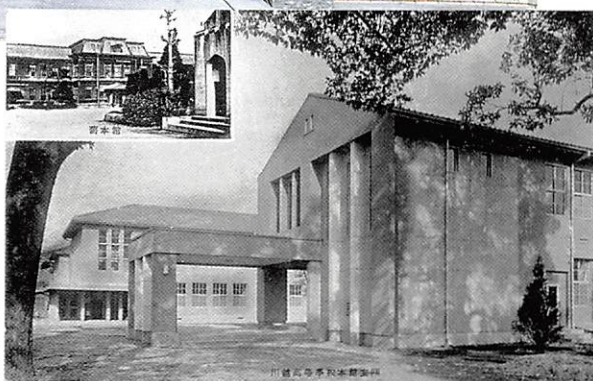
埼玉県立川越高等学校音楽部OB会







校舎全景



旧本館



音楽部の栄誉の一部



部旗

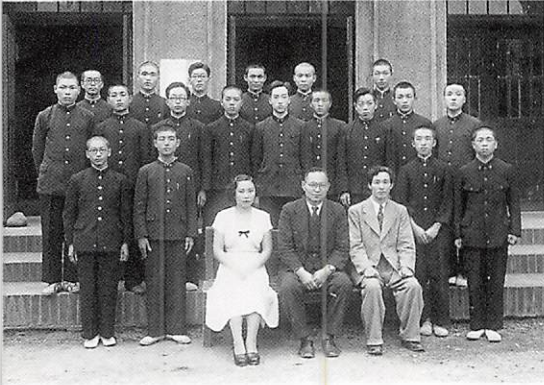


川高音楽部バッチ (昭和24年頃)  
青柳安彦氏デザイン



現在のグリーバッチ





第1回演奏会終演後（昭和26年9月）



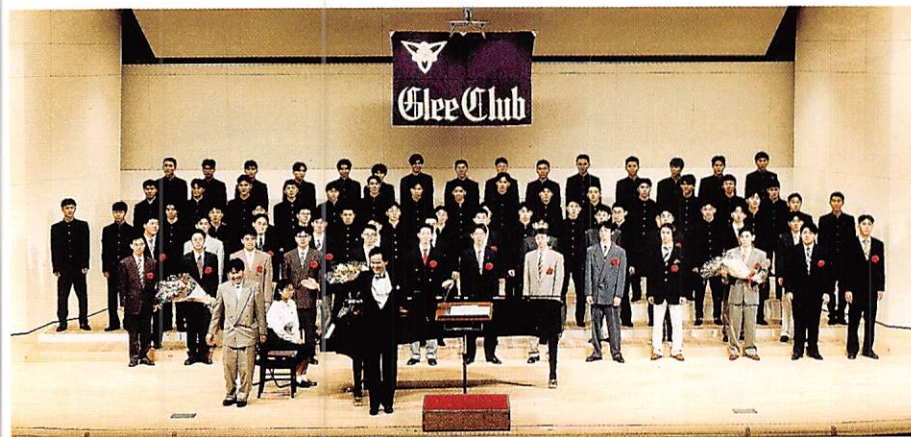
NHKコンクール全国優勝を祝って（昭和39年）



第30回定期演奏会（昭和55年7月17日）



第54回NHK全国学校音楽コンクール 1都6県代表校演奏会（昭和62年9月20日）

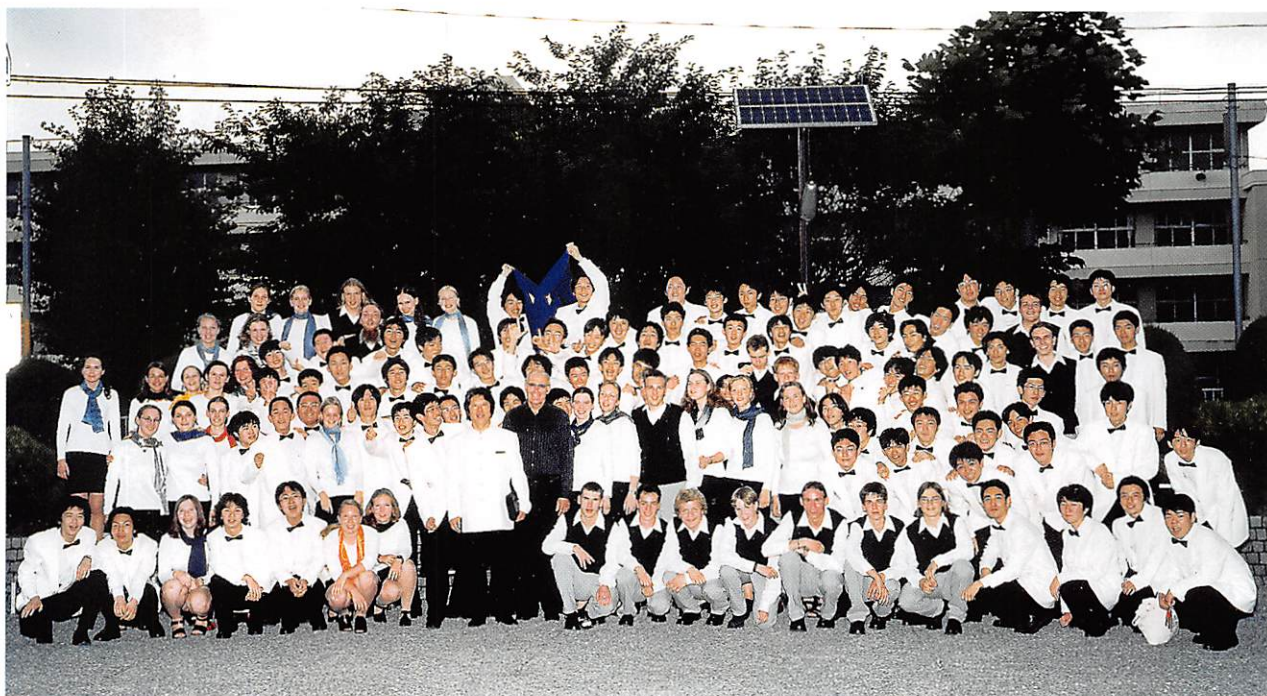


第8回送別演奏会（平成7年3月26日）



# 創立50周年記念コンサート

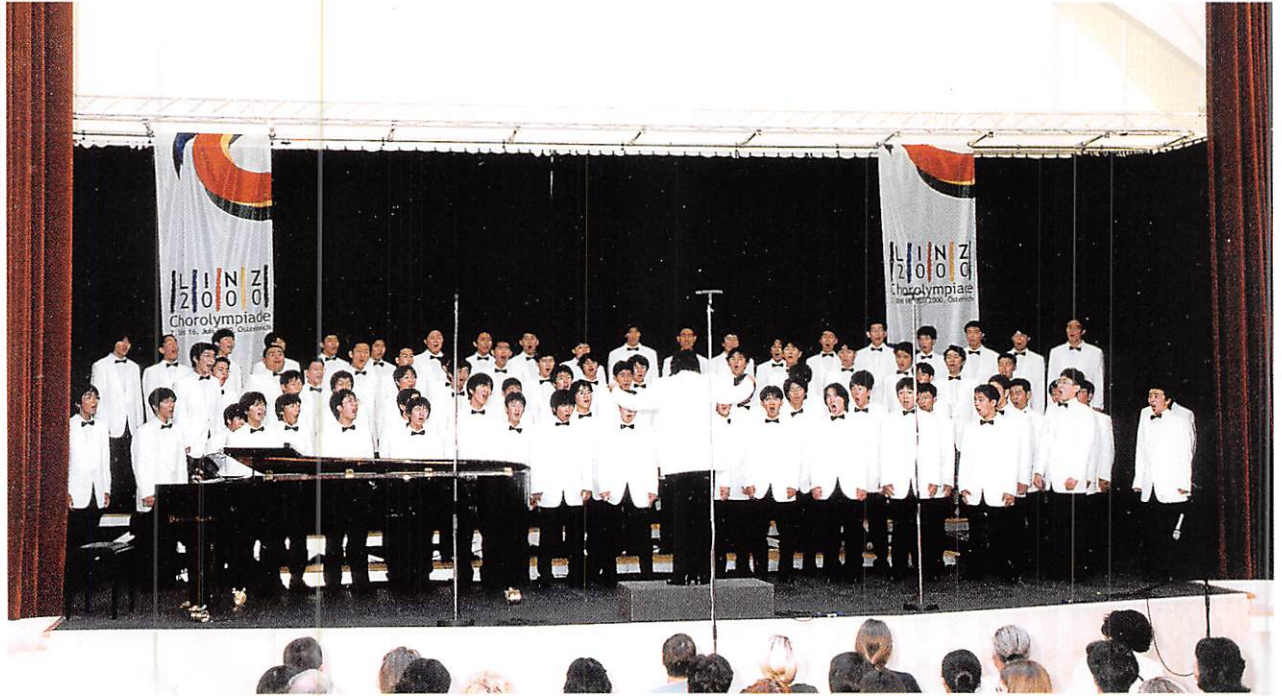
平成12年7月20日：川越市民会館



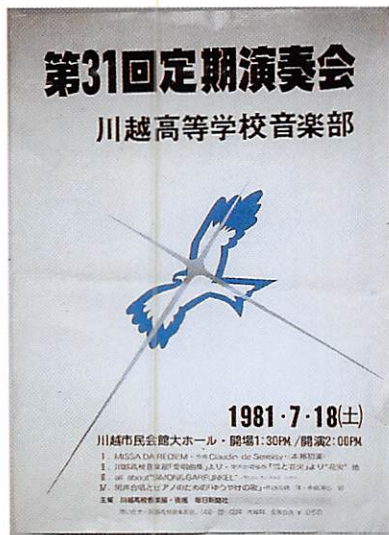


# 第1回合唱オリンピック出場

平成12年7月9日：オーストリア・リンツ



## ～定期演奏会ポスター20年の歩み～





# 第33回定期演奏会

1983. 7/23(土)

川越市民会館大ホール  
開場1:30PM / 開演2:00PM

川越高等学校音楽部

1. 愛唱曲集  
2. ボーイズ・ラブ  
3. 季節の風

# 第34回定期演奏会

I 男声合唱組曲「わがふるさとのうた」  
II 愛唱曲集  
III ビリー・ジョエル ステージ  
IV 男声合唱組曲「群の風」

1983年7月20日(金) 坂戸文化会館大ホール  
開場4:30PM 開演5:00PM / 全席自由250円

川越高等学校音楽部

# 第35回定期演奏会

1985年7月19日(金)

開場2:30PM / 開演3:00PM  
川越市民会館大ホール  
全席自由 ¥200

I 男声合唱組曲「わがふるさとのうた」  
II 愛唱曲集  
III Paul McCartney & John Lennon  
IV 男声合唱組曲「ゆうべ、夢を見た」

川越高等学校音楽部

# 第36回定期演奏会

日時：7月19日(土) 於：川越市民会館  
開場1:30 開演2:00 全席自由 ¥200

I 男声合唱組曲「わがふるさとのうた」  
II 愛唱曲集  
III ARE SUPPLY  
IV 男声合唱組曲「群の風」

川越高等学校音楽部

# 第37回定期演奏会

第1日 7月17日(土) 開場5:00PM 全席自由 ¥200 於：川越市民会館大ホール

第2日 7月20日(月) 開場2:30PM / 開演3:00PM 於：川越市民会館大ホール

I 男声合唱組曲「わがふるさとのうた」  
II これぞ我らの名曲集  
III 男声合唱のための「季節へのまなざし」  
IV 全日本合唱コンクール全国大会 賛賞受賞記念ステージ (0.5合唱演奏)

川越高等学校音楽部

# 第38回定期演奏会

7月20日(水)  
開場2:30 / 開演3:00  
川越市民会館大ホール  
全席自由 ¥200

I 男声合唱組曲「三時のうた」 III Summer Memories  
II 愛唱曲集 IV Zigeunerlieder, op.55

川越高等学校音楽部

# 第39回定期演奏会

1980年7月20日(木)  
開場2:00 / 開演2:30  
川越市民会館大ホール  
全席自由 ¥200

I 男声合唱組曲「わがふるさとのうた」 III ボーイズ・ラブ Boys' Hearts  
II これぞ我らの名曲集 IV 感傷的な2つの愛唱曲

川越高等学校音楽部

# 第40回記念定期演奏会

1990年7月21日(土)  
開場1:00 開演1:30  
川越市民会館 ¥200(当日券あり)

I 男声合唱組曲「わがふるさとのうた」  
II 愛唱曲集 (0.5合唱)  
III 男声合唱組曲「わがふるさとのうた」  
IV 青いメロデー

川越高等学校音楽部

# 第41回定期演奏会

1990年7月21日(土)  
開場1:00PM  
開演1:30PM  
川越市民会館大ホール  
¥200(当日券あり)

I 男声合唱組曲「わがふるさとのうた」  
II これぞ我らの名曲集  
III お茶の間シアター 映画乙女  
IV 季節へのまなざし

川越高等学校音楽部



## 第42回定期演奏会

1992年7月19日(日)  
川越市民会館大ホール  
開場1:00PM 開演1:30PM  
¥200(当日券あり)



I. 男声合唱組曲「富士山」  
作曲 新井 武  
II. ROCKY4 一矢の愛情 - 男声合唱組曲「水のいのち」  
作曲 新井 武

川越高校音楽部 ●お問い合わせ ☎0492-22-0224代

## 第43回定期演奏会

1993年7月25日(日)  
川越市民会館大ホール  
開場1:00PM 開演1:30PM  
¥200円(当日券あり)




I. 男声合唱組曲「清らかなる」  
作曲 新井 武  
II. 心代まぼくらの18番  
作曲 新井 武  
III. おいらはドラマノ  
作曲 新井 武  
IV. 男声合唱とピアノのための「清らかなる」  
作曲 新井 武

川越高校音楽部 川越市郭町2-6  
☎0492-22-0224代

## 第44回 定期演奏会

川越高校音楽部



I. 男声合唱組曲  
作曲 新井 武  
II. 合唱組曲  
作曲 新井 武  
III. 男声合唱とピアノのための「清らかなる」  
作曲 新井 武  
IV. 男声合唱とピアノのための「清らかなる」  
作曲 新井 武

1994年7月24日(日)  
開場18時00分 開演18時30分  
川越市民会館大ホール  
入場料200円(当日券あり)

●お問い合わせ ●  
川越高校音楽部  
☎0492-22-0224代

## KAWAGOE HIGH SCHOOL 第45回定期演奏会

1995年7月23日(日)川越市民会館大ホール  
開場 1:00 開演 1:30



MUSIC CLUB

PROGRAM

I. 男声合唱組曲「北の国」  
作曲 新井 武

II. 愛唱曲集「ほろり」  
作曲 新井 武

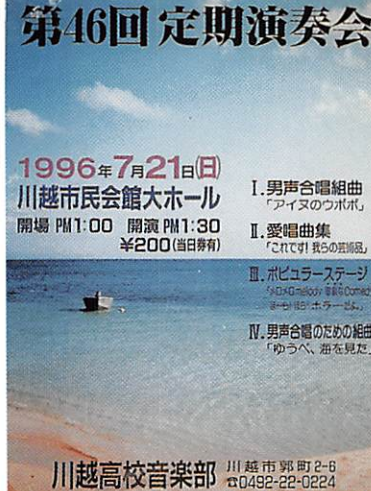
III. ボビュラステージ「白樺の森」  
作曲 新井 武

IV. 男声合唱組曲「清らかなる」  
作曲 新井 武

川越高等学校 音楽部 川越市郭町2-6  
☎0492-22-0224

## 第46回 定期演奏会

1996年7月21日(日)  
川越市民会館大ホール  
開場 PM1:00 開演 PM1:30  
¥200(当日券有)



I. 男声合唱組曲「アイヌのウポポ」  
作曲 新井 武  
II. 愛唱曲集「ほろり」  
作曲 新井 武  
III. ボビュラステージ「清らかなる」  
作曲 新井 武  
IV. 男声合唱のための組曲「清らかなる」  
作曲 新井 武

川越高校音楽部 川越市郭町2-6  
☎0492-22-0224

## 第47回定期演奏会

川越高校音楽部

●とき: 1997年7月21日 日～振替休日～  
●場所: 川越市民会館大ホール ●入場料: 200円(当日券有)  
●開場 13:00～ ●開演 13:30～



PROGRAM

男声合唱組曲  
I. 「梅河風俗詩」  
II. 「うたつてもいいかな?」

ボビュラステージ  
III. 「もろかマンでかい!」  
IV. 「五つのラメント」

●お問い合わせ ● 川越高校音楽部 ☎0492-22-0224代

## 第48回定期演奏会

1998年7月19日(日)  
川越市民会館大ホール  
開場 13:00 開演 13:30  
¥200(当日券有)



PROGRAM

I. 男声合唱組曲「海に寄せる歌」  
作曲 新井 武  
II. 愛唱曲集「飛んで! クリーメン」  
作曲 新井 武  
III. ボビュラステージ「スターウオースPTA」  
～とうさんとうさん、もうやめて～  
作曲 新井 武  
IV. 男声合唱とピアノのための組曲「ハレー彗星独白」  
作曲 新井 武

川越高校音楽部 川越市郭町2-6  
☎0492-22-0224(代)

## 第49回定期演奏会

1999年7月20日(祝) 川越市民会館大ホール  
開場 13:00 開演 13:30 入場料 ¥200(当日券有)



PROGRAM

1st STAGE  
男声合唱組曲「富士山」

2nd STAGE  
愛唱曲集「遺言…」

3rd STAGE  
ボビュラステージ「踊る大捜査船」  
～ザ・スーパー～

Final STAGE  
男声合唱とピアノのための組曲「Man of La Mancha」

川越高校音楽部 川越市郭町2-6  
☎0492-22-0224(代)

## 川越高校音楽部 創立50周年 記念コンサート

第1部 牧野 統 作品集  
第2部 OBステージ  
第3部 ゲストステージ シンケル高校合唱団  
第4部 第1回合唱オリエック 出場記念ステージ

2000年7月20日(祝)  
川越市民会館大ホール  
開場13:00 開演13:30 入場料 ¥500(当日券あり)

●お問い合わせ ● 川越高校音楽部 TEL. 0492-22-0224(代)

\*\*\*\*\* も く じ \*\*\*\*\*

グラビア

あいさつ	.....	5
祝辞	埼玉県立川越高等学校音楽部OB会会長 松本 正自	
祝 辞	.....	7
川高音楽部50年	埼玉県立川越高等学校同窓会会長 渋谷 健	
創立50周年を祝う	埼玉県立川越高等学校長 橋本 恭明	
祝辞	全日本合唱連盟関東支部長 箕輪 久夫	
川高音楽部よ“永遠に”	埼玉県合唱連盟副理事長 大岩 篤郎	
祝辞	川越市合唱連盟副会長 廣重 雅己	

川越高等学校音楽部によせて	.....	13
音楽部の思い出	元音楽部指揮者 小高 秀一	
音楽部と私	前音楽部指揮者 浅井 一郎	
不思議な縁	音楽部指揮者・教諭 宮寺 勇	
縁を感じて	音楽部副顧問・教諭 内田 正俊	
蒔かれた種	作曲家 荻久保和明	

指導者の先生について	.....	19
あの時北海道に帰らなくて良かった	牧野 陽子 (牧野 統先生夫人)	
不思議なご縁	秋月 智代 (秋月直胤先生夫人)	
思い出	小高 雅子 (小高秀一先生夫人)	
50周年によせて	浅井 和代 (浅井一郎先生夫人)	
美しい歌声を世界に	宮寺 順子 (宮寺 勇先生夫人)	

各回ごとのOBのページ	.....	25
音楽部員今昔	音楽部1回 新井 涼平	
牧野先生「生きる力」をありがとうございました	音楽部2回 深澤 源裕	
あのころの思い出	音楽部2回 柳下 恭治	
関東甲信越大会の基礎を築く	音楽部4回 伊藤 安男	
牧野先生のこと	音楽部5回 金橋 好邦	
楽しかった音楽部 (思い出すがままに)	音楽部8回 小高 秀一	
私と牧野 統先生	音楽部14回 鈴木 智	
指揮棒	音楽部16回 島田 薫	
組曲づくり、ウィスキーと共に	音楽部18回 矢部 秀一	
牧野先生にいただいた一生の宝物	音楽部19回 山本 恵男	
始まりは終わったか!?	音楽部21回 宇佐美平和	
～暗中模索の1972～	音楽部22回 小澤 誠	
くすの木だけが知っている「噂の真相」	音楽部23回 川本 軒司	
衰退の最高潮 (?), 細々の絶頂期 (?)	音楽部23回 洞口 靖	



雌伏の時代

音楽部にもこんな時代がありました

音楽部に通った3年間

小高先生をお迎えして

楠の根元から巣立った時

人数を増やすこと

音の流れ

川高音楽部の歴史的転換期を担った学年

32回の思い出

「17」

「小高先生の教え」と「音楽部の伝統」が開いた

勢いの第35回

思い出の原稿です

勧誘してくれた先輩方、有難う

蛙達と共に…

すべては私の実力なのだが

音楽部生活を通して…

8年前の3年間

私達の全国大会

記念誌座談会

48代を振り返って

宮寺先生とのたのしかった1年

音楽部から得たもの

音楽部24回 山崎 敏彦

音楽部26回 関根 康弘

音楽部27回 福田 紳一

音楽部27回 米丸 健一

音楽部28回 正木 一弘

音楽部29回 柴田 励司

音楽部30回 金子 高広

音楽部31回 柴崎 淳夫

音楽部32回 小林 正

音楽部33回 小島 達也

音楽部34回 高橋 啓太

音楽部35回 園山 実

音楽部38回 池田 哲哉

音楽部39回 小野 和彦

音楽部40回 松枝 治

音楽部41回 小沢 学

音楽部43回 小林 正俊

音楽部44回 五十嵐 良

音楽部46回 永田 憲司

音楽部47回 三吉 圭介

音楽部48回 守谷 滋記

音楽部49回 伊藤 貴史

音楽部50回 神庭 亮介

資料編 . . . . . 63

合唱の可能性を追求して

～昭和39年度NHK全国学校音楽コンクールを顧みて～

(「川越高校七〇周年記念誌」より)

元音楽部指揮者 牧野 統

定期演奏会プログラム

歴代顧問・歴代部長一覧

朝日・NHK合唱コンクールの記録

音楽部の沿革

音楽部に関する新聞記事

「くすの木の木の下で」～川越高校百周年記念連載～(埼玉新聞)

「音楽部・合唱オリンピック出場」(朝日新聞)

「川高・オリンピックで銀賞」(埼玉新聞)

楽譜

「埼玉県立川越高等学校校歌」 古谷喜十郎作詞・内田叅太郎作曲

「奮え友よ」〈応援歌〉 山本 明作詞・牧野 統作曲

「川高音楽部の歌」(昭和27年ごろ) 牧野 統作詞・作曲

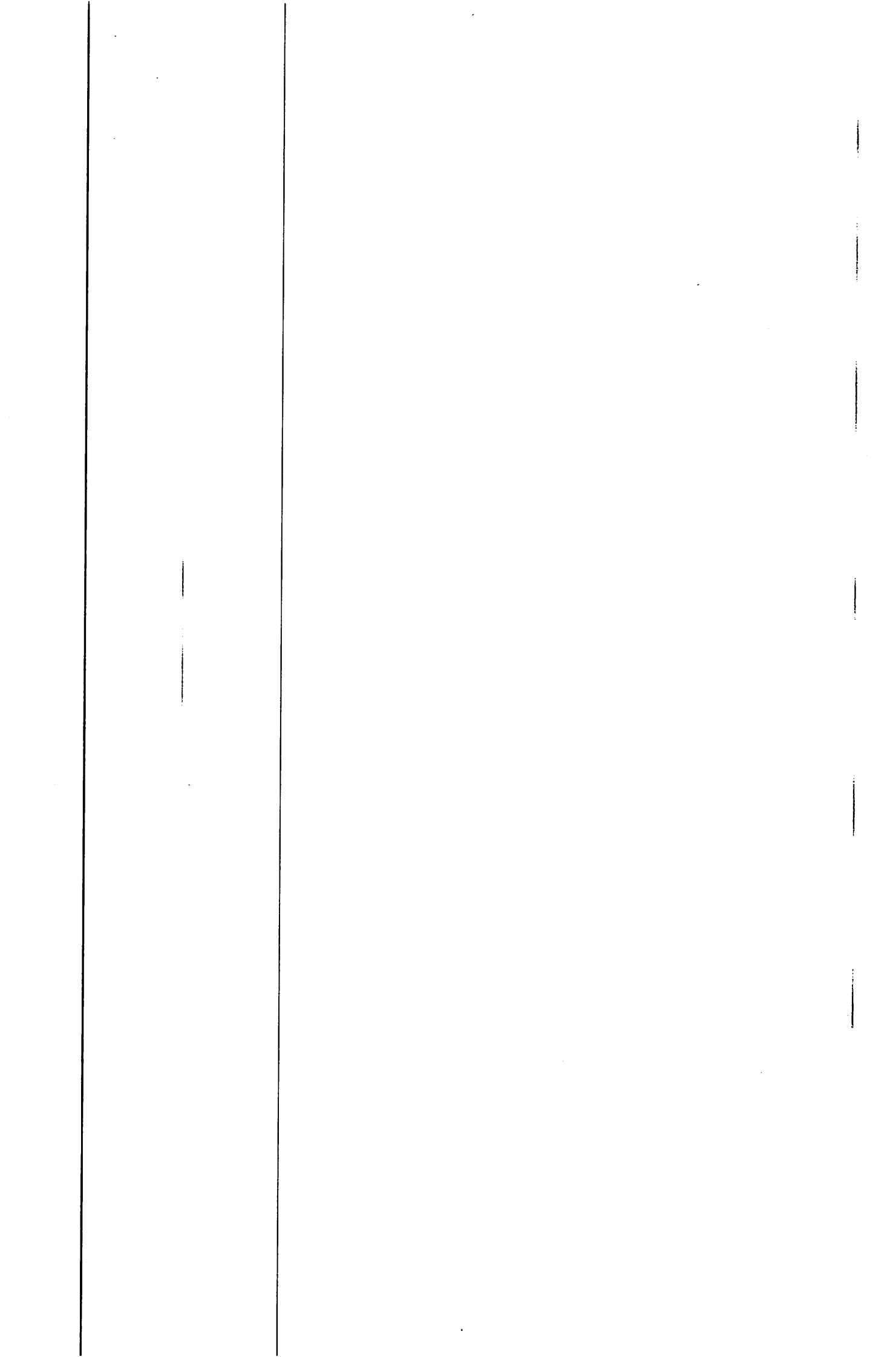
---

音楽部讃歌「光よ音の流れよ」(昭和41年ごろ) 牧野 統作詞・作曲  
川越高校音楽部創部五〇周年記念祝賀会の記録  
埼玉県立川越高等学校音楽部OB会会則・役員名簿

編集後記 . . . . . 158

表紙揮毫 . . . . . 小高 勝次 (中学24回・大正15年卒業)  
楽譜制作 . . . . . 井口 治 (音楽部35回)  
資料提供・技術協力 (本文執筆者以外の方々／敬称略)  
小池 栄子 (埼玉県合唱連盟主事)  
村田ひろ子 (NHK浦和放送局編成事業部)  
川越高等学校創立百周年記念誌編集委員会  
男声合唱団イル・カンパニーレ  
石井啓之 (前川越高校教諭・高校29回) ・中村 潔 (川越高校教諭・高校32回)  
堀 千尋 (川越高校生徒会)  
青柳安彦 (音楽部1回) ・朝日 明 (音楽部5回) ・東 弦 (音楽部5回)  
渡邊幸男 (音楽部8回) ・小林 敏 (音楽部16回) ・岩田幸三 (音楽部18回)  
柴田徹造 (音楽部23回) ・久保直樹 (音楽部36回) ・杉 芳智 (音楽部38回)  
横田哲生 (音楽部50回) ・江守建太 (音楽部51回)





# あいさつ・祝辞

---



妙義山・ひしや旅館での夏合宿（昭和43年）



## 祝 辞

埼玉県立川越高等学校音楽部OB会  
会長 松本正自

川越高校音楽部50周年、誠におめでとうございます。

音楽部の誕生から現在まで、関わりあった一人といたしましても感無量の感じがいたします。

私は、昭和28年に川越高校を卒業いたしました。高校5回生です。

そして、私が高校2年生の時にあの牧野統先生が赴任されたのです。選択科目の、美術・書道・音楽・園芸の中から音楽を選びましたので、その時から牧野統先生に御指導を頂くことになりました。

先生の授業は、受けた方はまだ覚えていらっしゃると思いますが、温かみのあるものでした。優しい笑顔で御指導頂くと、難しい曲も歌えたものと錯覚したことでした。

しかし、音楽部もまだ本当に揺籃期で、発声もままならず、楽譜も満足に読めない部員が多かったものですから、さぞかし先生は歯痒い思いを何度もされたことでしょう。

牧野統先生の偉大なことは、この地方都市の、ごく普通の県立男子高校で、進学校を自負しています川越高校の、ごく当たり前の学生をこつこつ指導されて、短期間で優秀な合唱団に育て上げられたことです。

その甲斐がありまして、昭和39年にはNHK全国音楽コンクール高校合唱の部で全国制覇を遂げ、その後も何回も全国大会に出場しては入賞するなど、高校合唱界で埼玉には川高ありと知られるまでになりました。

いふなれば、第一期黄金時代とでも申しましょうか、川越高校音楽部の輝かしい伝統の基盤が形作られたのです。

この伝統の基盤があったからでしょう。牧野統先生が早世された後も、先生の薫陶を受

けられた小高秀一先生が赴任されると、又同じような経過を辿って高校合唱界の一流校に申し上がっています。

さらには、小高秀一先生の教え子である浅井一郎先生が母校へ音楽教師として戻られるなど、音楽部のOBが母校で後輩の学生を指導し、しかも全国レベルにまで毎年育て上げていることは、称賛に値するものと思っております。

浅井一郎先生が転勤されたあとも、顧問に内田正俊先生が部員の面倒を見られ、又音楽部OBたちの世話役をされています。

音楽部OB会では現役の学生達が、全日本合唱コンクールでの関東大会や全国大会に出場する際の資金援助をするため浄財を募っております。

ほんとうに大勢の会員の方々の御理解のもとに、多額の寄付を頂戴しておりますが、何分にも殆ど毎年のように全国大会に出場しているような現状でありますので、これからも御厚情をくれぐれも宜しくとお願い致しますとご祝辞とさせていただきます。

(医師・医療法人松本医院)





## 川高音楽部50年

埼玉県立川越高等学校同窓会

会長 渋谷 健

音楽部が創設され早くも50年の歳月が経過されたと伺い、懐旧の情一入の感がいたし、改めて心からのお祝いと敬意を表します。

川高で本格的な音楽教育が実施されたのは、恐らく戦後の昭和25年に、はじめての専任教員である末広幸子先生が着任されてからだと思います。爾来、芸術としての音楽教育が本格的になりました。特に、昭和26年、牧野統先生が北海道から着任されたことがきっかけで、川高での音楽が飛躍的に発展いたしました。通称、「和製ベートーベン」とも称された牧野先生の魅力、卓越した指導力、慕われる人柄等々が相俟って、多くの生徒諸君が音楽に関心を持ち、その時期に音楽部は誕生したと考えられます。当時、青年教師であった私にとっても懐かしい思い出であります。

しかし、当時はまだ学校教育の中での音楽科の地位は低かったのか、設備も乏しく、僅かに一台の古いピアノが一番奥の古い木造校舎の一室に置かれていた状態でした。この時期はきっとご苦勞の多かったことと推察されます。やがて、旧図書館の一階の講義室に移り、些か音楽室らしい雰囲気になったようです。昭和53年、今の音楽室が出来上がり、次第に設備も整ってきたと思われまます。その間、昭和47年牧野先生急逝後は、秋月先生、小高秀一先生、浅井一郎先生、宮寺勇先生と何れも音楽に対するあつい情熱と指導力を有する先生方に受け継がれ、伝統の火は更に明明と燃え上がり今日の隆盛に繋がってまいりました。昭和28年には早くもNHKコンクールで県第一位に輝き、昭和39年にはNHKコン

クール全国優勝を勝ちとるなどのめざましい活躍、その間、朝日コンクールでも関東大会に連続出場するなど、川高音楽部の名は全国に轟くに至りました。そして今日では全国合唱コンクールの常連校としての不動の地位を占めるにいたりました。全く音楽不毛とも言われた中から、よくぞ短期間に音楽界の頂点にまで登り詰めたものと感じすると共に、ご関係各位のご努力に頭が下がります。それに加え、ハードな練習にも打ち勝ち、夫々が希望する大学に多数進学を果たし、文武両道を実践してくれている部員諸君にも心からの賛辞を贈ります。また、本年は音楽オリンピック出場の栄冠を得られ、オーストリアに出かけられた由、いよいよここまで来たかの感を強くいたしました。ますますのご精進を期待いたします。

一般に川越高校と聞けば多くの人は進学校としてのイメージが湧きます。勿論、それも結構なことでありますが、それと並んで人間形成に必要な情緒面の芸術、就中、音楽に素晴らしい実績を示している学校としての評価も高まっており嬉しい限りであります。来年は21世紀、ますますのご活躍を祈ります。

(中学47・高校1回)

西武台高等学校理事長・校長)



## 創立50周年を祝う

埼玉県立川越高等学校長 橋本 恭明

本校音楽部の定期演奏会は、本年は記念すべき第50回を迎えましたが、誠に喜ばしいことで、心よりお祝いをいたします。

これまで御指導・御支援いただいた皆様、本日御参会いただいた多数の皆様に、改めて感謝し御礼を申し上げます。

音楽部は創部以来、歴代顧問の御指導のもと数々の栄光に輝いてきましたが、本年の50周年記念演奏会では、ドイツのブランデンブルク州（埼玉県と姉妹提携）ノイルピン市・シンケル高校合唱団の賛助出演が実現いたしました。また、昨年度全国合唱コンクールでは金賞（岡山県教育長賞）受賞、これに基づき全日本合唱連盟の指定推薦、県教育委員会からは国際交流認定校と

して指定を受け、第1回世界合唱オリンピック リンツ2000（オーストリア・リンツ市で開催）に出場し、青年男声の部で、見事銀賞受賞に輝きました。本校にとりましても誠に名誉あることと思います。これも同窓会をはじめ音楽部OB会、保護者の皆様ほか関係の皆様の御支援の賜物であり心より御礼申し上げます。

本日の記念すべき演奏会は国際舞台に羽ばたいた音楽部の優れた男声コーラスで御参会の皆様を魅了できるものと期待いたします。

音楽部の一層の発展を祈念しますとともに御参会の皆様には今後ともどうぞ暖かい御支援・御協力をお願いしたいと存じます。





## 祝 辞

全日本合唱連盟関東支部長 箕輪 久夫

川越高等学校音楽部が創立50周年を迎えられたとのこと、誠におめでとうございます。歴史的にも文化遺産の豊かな土地柄の故かと存じますが、早い時期に合唱団を組織され、進取の精神で前進し、常に全国的レベルを保ち、数々の実績を残してこられましたことはすばらしい事です。優れ

た人材を育てられ、輝かしい歴史を築いてこられたことに心からの敬意を表します。今後ますます実力を蓄えられて、合唱界のリーダーとして、君臨されることを祈念致し、お祝いの言葉とさせていただきます。

(新潟県合唱連盟理事長・新潟大学教授)



## 川高音楽部よ“永遠に”

埼玉県合唱連盟副理事長 大岩 篤郎

川越高校音楽部の創立50周年誠におめでとうございます。心よりお祝い申し上げます。

一口に50年と言いますが、これ迄続けてこられたことそのものが大変な実績な上に、コンクールを中心に常に全国区で「埼玉に男声川高有り」と大活躍して今日に至っています。県内に於いても高校の男声合唱として常にトップを歩み続けそのリーダーとして今日まで立派に努めてこられたことは指導者の先生方の力がいかに大であったかということは勿論のこと、音楽部の生徒達の弛まない努力があったからに相違ありません。

合唱祭・コンクール等埼玉県の行事に参加しているときの川高のステージは常にマナーからして模範的であり、いつのステージでも聴衆の強い興味・期待を掻き立てるのです。またそれに応える以上の素晴らしい演奏を毎回してくれます。常に高いレベルを保持することは並大抵の努力ではないと思いますが、川高はむしろ毎年毎年レベルアップしているようにさえ思えるのです。本当に頭の下がる思いです。

歴代の指揮者の先生方についてコメントさせて頂くのは若輩者の私では大変失礼かとは思いましたがご無礼を御許し下さい。

牧野先生は県連盟でも理事として活躍されましたが、作曲もたくさん残されました。現役の指導中に亡くなられたと聞いておりますが、その素晴らしい業績を称えて県コンクールに二十数年間にわたり牧野賞が設けられました。コンクールで受賞された団体には大きな励みとなる素晴らしい賞でした。

そして現理事長の小高先生ですが、極めて真面目な礼儀を重んじられる先生で人間性溢れたとても情熱的な魅力的な指導者だと思います。人をほめることも実に素直でして……これは心の広さなくしては出来ないと常々感心しております。

小高先生を引き継がれた浅井先生は（県常務理事）実に細やかに気のつく先生でして何にでも一生懸命に取り組みまれて好感の持てる先生だと思います。そんなイメージとは反対に合唱の音楽作りには堂々とした正攻法でしてすばらしいと思います。

そして昨年より後を引き継がれました宮寺先生（県副理事長）は人を引きつける力量といい音楽的な力量といい群を抜くものを持っていらっしゃると思います。川高のこれ迄のりっぱな伝統の上に更に新しい血を注いで下さるように期待します。その意味からも先日、オーストリア（リンツ）での合唱オリンピック「銀賞」誠におめでとうございます。

りっぱな名誉に輝かれて本当に嬉しく思います。小高先生以降のお三方の先生は現在の県連盟の中核の方々ばかりでまさに川高でもって埼玉を引っ張っていただいている状況です。

今後とも連盟をリードして頂きたく思いますと同時に川高のすばらしい演奏が永遠に永遠に続きますよう強くお祈り申し上げます。

（声楽家・合唱指揮者）





## 祝 辞

川越市合唱連盟副会長 廣重 雅巳

川越高校音楽部が創部され、50周年の記念すべき年を迎えられたことを心よりお慶び申し上げます。

川越高校音楽部は、牧野先生をはじめ歴代の各先生方により、輝かしい実績が残されています。全日本合唱コンクールにおいては過去10回の全国大会出場を果たし、特にここ数年間は連続して出場し、全国大会の常連校となり活躍しています。

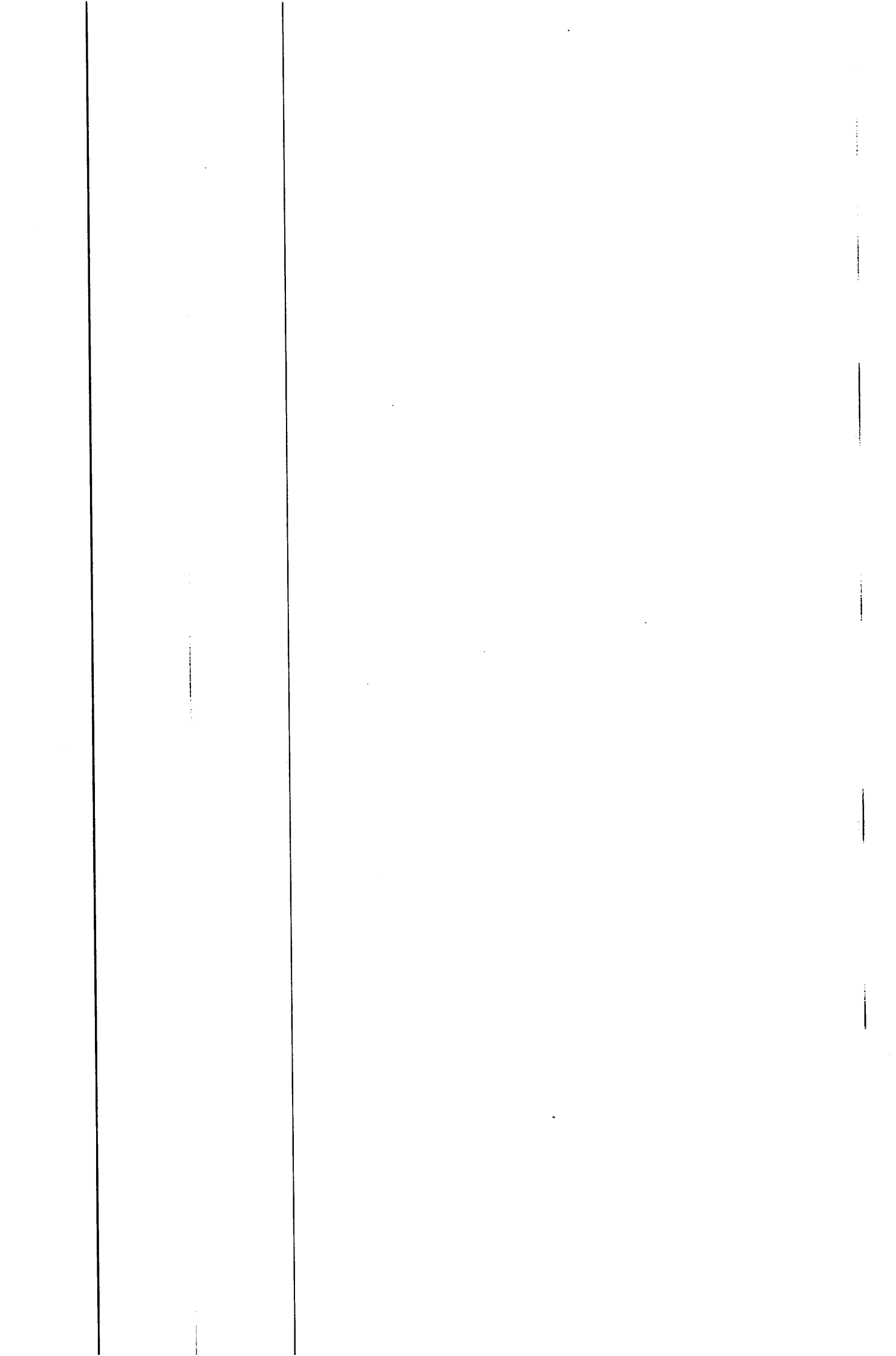
川越市合唱連盟は、その歴代の先生であります現在埼玉県合唱連盟理事長の小高先生によって創立されました。川越市合唱連盟の発足当時は20団体ほどでしたが、現在の加盟団体は45団体を数える盛況ぶりです。その中でも、川越高校音楽部の存在は大きく、常に他団体の目標と励みになり好影響

を与えております。

そして、歴代の各先生方に御指導いただいたOBや音楽部に係わりのある人達を中心となり結成されている合唱団の活躍が川越市合唱連盟の発展に大きく貢献してきたことは言うまでもありません。その合唱団は、牧野先生によって結成された牧声会をはじめ、秋月先生のHügel Chor1976、小高先生のイル・カンパニーレ、浅井先生のかわたかんと等です。川越市合唱連盟といたしましては心から感謝しております。

どうぞこれからも宮寺先生の御指導の下、さらにすばらしい実績を積み重ねていき、川越高校音楽部が益々御発展されることを期待いたします。

(星野女子高等学校教諭)





# 川越高校音楽部に寄せて

---



放課後のパート練習の風景（昭和53年）

## 川越高等学校音楽部によせて「音楽部の思い出」

元音楽部指揮者 小高 秀一

私は川高音楽部に三回携わった。最初は生徒として三年間。二回目は大学を卒業して教員採用試験に受かったのだが就職口がなく、牧野先生のご尽力により非常勤講師として一年間、引き続いて教諭として三年間の計四年間お世話になった。(この時1学年10~11クラスと生徒数が増え、音楽教師が二人必要であった。)この最初の四年間は私にとって基礎作りの重要な時期である。

この当時の生徒は声が綺麗だったように思う。新任の私など指導できないレベルの高さがあった。牧野先生がお休みになると私が指導することになる。合唱指導の経験のない私は大変苦労した。それに加え、コンクールの伴奏をしなければならない。高校三年で音楽の道に進もうと決めた私にとってピアノ伴奏をすることは地獄であった。(音楽の授業は何とかなった。)音楽部はこの時期に第一次黄金時代を迎え、NHK合唱コンクールで県の代表になり、関東大会を勝ち抜き、全国優勝・準優勝等を果たしたレベルの高い合唱団に成長していた。大宮商工会館で行われた埼玉県予選の時の伴奏で、演奏中に冷房の風で楽譜が手の上へ落ちてきて伴奏が止まってしまったことは忘れようとしても忘れられない出来事の一つである。

牧野先生はコンクール前にビールを一杯グイと飲んでから指揮をしていた。私は、待っている間も本番も、ハラハラドキドキして身体や指が震え、本番前には必ず精神安定剤を飲んでいて、全国優勝しテレビの生出演をしたとき、ピアノ伴奏が、もうこれで最後の音だというときに気が緩んだのか、最後の音を押し間違っただけでも悔しくて忘れられない出来事である。

酔った先生をお宅に送り届けることも私の仕事だった。「おれは飲むから小高は食べろ」という先生のお言葉で、コンクール等の後に生徒と一緒にラーメン等を食べたことも良い思い出だ。あの時はずいぶん小遣いが足りなくなかった。

長瀬青年の家の合宿では、先生と二人で夜にそっと抜け出し、青年の家の下駄(当時は木製のつっかけ)で駅の近くの焼鳥屋に行き、飲みながらそこにいた町のチンピラと口喧嘩をし、帰りに待ち伏せしているのではないかと心配しながらこっそりと戻ったこともあった。(先生は、川越でも飲み屋に行っただけよく喧嘩をしていた。)

昭和42年4月、狭山高校に転勤した。昭和47年3月28日、突然先生がお亡くなりになり大変ショックを受けた。その年の4月か

らお嬢さんの美紀子先生が1年間非常勤講師として授業をされ、大変な評判で、他の選択の生徒が授業を覗きにきたというくらい、美人でかわいくて明るくて憧れの的になっていたそうである。

同じ年、秋月先生が着任され、全く知らない高校においてになった先生も大変ではなかったかと思う。やはりビールが大好きで、よくレストランでお子様ランチを肴に飲んでいて、生徒の心をうまくつかみ指導していた。生徒も楽しかったと思う。

私が三回目にお世話になったのは、昭和51年4月からで、再スタートの気持ちで音楽部に取り組んだ。着任したときに部員数が三十名を欠けようとしていたために、部員を増やすことを生徒にお願いした。(前回着任していたときは部員が百名近くいた。)川越女子高校音楽部と合同定期演奏会を行っていたことも新鮮であり驚きだった。混声合唱をうまく歌えるようにと努力したが、男声合唱との歌い分けが出来ない、特にテノールの発声が難しい。男声合唱も混声合唱も中途半端になってしまう、止めたほうがよいという結論を出し、止めてしまったのは気の毒だった。

新しい校舎が出来、川越高校開校以来初めて五階の東側に音楽室ができた。引っ越しが大変だったが嬉しかった。歌ってみるととてもない響きで、まるで風呂場で歌っているようだった。真ん中に柱が二本あり、音が乱反射する。急遽ジュウタンを敷き、壁に布を貼ってもらいちょうど良くなった。NHK合唱コンクールが終わると三年生が私の家に遊びに来るといふ恒例行事も楽しい思い出だ。歌い方はどうしても大学生のまねをしてしまう。発声に無理があった。音が下がりハーモニーが決まらず、生徒も私も苦労をした。その後発声をかえ、ようやく関東・全国大会に多く出られるようになり、部員数も百名を超え、第二期黄金時代を迎えようとした昭和62年4月に転勤となった。12年間お世話になった。

その後を浅井先生が見事に引き継いでくれた。嬉しかった。50周年を迎えた今年、私は無事に県立芸術総合高等学校をスタートさせることが出来、退職を迎えようとしている。この年の巡り合わせも何かの縁だと思っている。今、宮寺先生のご指導のもとに川越高校音楽部が活躍していることに卒業生・前顧問として嬉しく思っている。いつまでも音楽部が歌い続けてくれることを願う。それは、そこに「青春」があるから。

(県立芸術総合高等学校長・埼玉県合唱連盟理事長)



# 「音楽部と私」

音楽部前顧問 浅井 一郎

川越高校音楽部、創立五十周年、おめでとうございます。前顧問という立場により、執筆の機会をいただきまして誠にありがとうございます。音楽部のことを語るには、まず自身の高校時代に遡らせていただきます。

昭和50年4月、川越高校に入学し、陸上部に入部後、6月の県合唱祭の1週間前に音楽部に転部いたしました。動機は、歌が好きなことと、川越女子高校との合同練習に惹かれた様に思います。1年生の時には芸術家肌の秋月先生に御指導をいただきましたが、はじめは口をきくのが恐れ多く、しかし話をしていただいた時は、大変嬉しかったことを覚えております。ピアノの即興演奏も、とても格好良かったです。2年生の時に小高先生が転入され、母校の音楽部出身で、情熱を持ちご指導くださり、私自身も、より男声合唱にのめり込んで行きました。その年の秋、進路を決めるに当たり、小高先生が母校で教鞭をとられた様に、「いつか母校で教師を」という夢を持ち、本格的に音楽の勉強を始めました。そして、昭和63年4月に、幸運にも母校の音楽教師として着任することが出来ました。

夢であった母校での指導は、OBとして音楽室を訪れた時とは異なり、教師として生徒の前に立つということで、とても緊張しました。自分の高校時代は3年生の時に、数年振りに関東大会に出場した、という40人程度の人数で活動しておりましたが、着任した時には前顧問の小高先生のお導きで、100人を超える人数と全国大会にも出場しているという状況でした。「凄い生徒達相手に、自分はどれだけ出来るのだろうか」と、思ったものです。しかし、母校での生活は、とても張りのある、楽しいものでした。生

徒と毎日遅くまで残って、練習をしたり、様々な話をしたものです。次第に生徒と自分の中に同じ音楽部で過ごした日々を重ね合わせ、「時は流れても変わらないもの」を感じ、益々のめりこんでいったように思います。

音楽部の指導に思う存分当たれたのは、毎晩帰宅が遅い中、11年間家庭を守るとともに音楽部のピアニストとしても7年間一緒に音楽が出来た「和代先生」、その活動を支えてくれた両親のお蔭だと思います。音楽部の活動は沢山の方々の暖かいご支援により成り立っておりますが、そのような環境で出来た私はとても幸せだったと思います。音楽部で、生徒として、良き師に巡り合え、一生涯の友を得、そして、教師として、400名を超える生徒と出会い、生徒と関わることによって成長させてもらったことは、私の一生の財産です。

最後になりましたが、副顧問として蔭でいつも支えて下さった、関口弘先生、青木恭子先生、清水徳雄先生、遠藤静枝先生、内田正俊先生、本当にありがとうございます。

宮寺先生のもと、音楽部が新たな伝統を築きあげて益々発展して行きますこと、前顧問また、一OBとして、心よりお祈りいたします。

(埼玉県立行田進修館高等学校教諭)

# 不思議な縁

音楽部指導者・教諭 宮寺 勇

〈牧野先生〉

シューベルト作曲「冬の旅」全曲のレッスンを受けた。最後の曲を終わらせたときの満足感は忘れられない。

やさしく、温かく、そして厳しいレッスンをさせていただいた。また時には美紀子先生からのご助言をいただいた。充実の時であった。

牧声会では副指揮をさせていただいたが、こんな事があった。

先生がいらっしゃるまで私が棒を振っていた。そして先生に代わったところ、アッという間に音が変わってしまったのである。こんな経験がよくあったものだ。まさに無言のレッスンであった。そのころ、「牧声」という新聞を出していたが、私は「先生は魔術師」と書いた記憶がある。

〈秋月先生〉

私が教師になり、川越高校音楽部と交歓会をやらせていただいた。その時の先生が秋月先生でやさしく接していただいた。

それまでの川高トーンにない「間宮芳生」の音を聴いた。

また不思議な縁だが、先生のお孫さんにあたる「カナチャン」を私が教えることになった。コーラス部員として頑張ってくれた。

〈小高先生〉

何といっても埼玉県合唱連盟での事になる。理事長・副理事長の関係でもう8年目を迎えている。合唱はもちろんのこと、連盟の仕事でもいつも教えていただいている。ここ数年、理事長宅でモチツキをやっているが、理事さんがたが多数集まり楽しい時を過ごしている。先生のスケールの大きさが連盟をうまく回転させている。小高先生なくしては県連は語れない。

〈浅井先生〉

まだ先生が高校時代、交歓会でお会いしている。また川高の先生になられてから何回かおじゃましている。若さと情熱をもって指導なさっていた。

県の合唱連盟でも常務理事として活躍されており、もう十年以上のおつきあいをしている。

以上のように代々の顧問の先生方との不思議な縁があって今の私がいる。

50回の定演も、私の歳（50歳）も、また何かの縁になるのだろうか。



# 「縁を感じて」

音楽部副顧問・教諭 内田 正俊

音楽部の創部50周年という節目に川高に勤め、音楽部の顧問であるめぐりあわせを幸せに思う。50周年記念コンサートが大盛況のうちに幕を閉じ、祝賀会も懐かしい先生方を多数お迎えして華やかに行われた。これまで準備に幅広くご協力くださったOB諸兄にまずお礼申し上げたい。

6年前に、それまでOB会の仕事を一手に引き受けておられた清水徳雄先生がご栄転の後、つづいて私が川高に着任することとなり、浅井一郎先生・青木恭子先生とともに音楽部の顧問に加えていただくことになった。青木先生のご退職後、遠藤静枝先生が引き継いでくださり、その後宮寺勇先生のご着任によって音楽部が新たな展開を見せているのは喜ばしい限りである。

小高先生のご発案で、OB会として創部50周年記念事業の準備を進めることとし、まず記念の男声合唱曲を委嘱することを大きな柱としたいものだと考えた。幸いにも荻久保和明先生の快諾をいただき、「ミサNo.4」の完成を見た。曲は7月20日の定期演奏会で松本会長から生徒たちに手渡された。荻久保先生から「楽しんで作曲した」と温かいお言葉もいただいた。遠征などで練習の日程がとれず、全曲の披露は51回定期演奏会に持ち越しになったのは少々惜しまれることだが、練習不足で皆様に聴いていただくよりはよいだろう。来年への楽しみが一つふえた。

記念曲のほか、記念誌・3枚組の記念CDの制作・記念祝賀会の4つを柱に、OB諸兄のご協力を仰ぐことにした。さらに余力があれば20年以上そのままになっている音楽室のじゅうたんの更新と、ピアノの寄贈ということまで視野に入れるという壮大な企画となった。幸いにもじゅうたんの更

新とピアノの手入れについては学校や同窓会のご配慮により進み、生徒の練習環境はかなり改善されたことをここに記して感謝申し上げたい。

前年、川高の創立百周年というビッグイベントがあり、例年全国大会へのご支援をお願いしているため心苦しく思ったが、予想を上回るご協賛をいただき感謝している。この間常任幹事のみなさんには、ご多忙の中何度も学校に足を運んでいただいた。

生徒には「伝統の重み」を感じてもらいたい。「全国区」の演奏ができることを部員たちの力だと過信することがあってはならない。川高音楽部は今年で関東合唱コンクールに18年連続（私が卒業したのが19年前……これも「縁」でしょうか）出場ということになる。全日本コンクールにもこのところ連続で出場、今年に関しては「LINZ 2000第一回合唱オリンピック」への出場の機会を得た。これもひとえに代々の指導者・OB諸兄・保護者の方々・関係機関など川高音楽部を支えてくださる方があってこそである。

OB諸兄の一層のご指導とご声援を切にお願い申し上げます。

(昭和58年3月卒業)



## 蒔かれた種

作曲家 荻久保 和明

昔、僕が高校生だった頃、その高校に一人の先生がいた。M先生といって、とても音楽が好きで、合唱を愛していた。それと同じ位お酒を愛していて、音楽室の戸棚の片隅にポケットウイスキーがあったとかなかったとか……。

20年以上その学校で男の子達に音楽を教え、男声合唱を通じて音楽する心を若者に伝えてきた。何人かは声楽の道を進んだ。ピアニストを夢見たものもいる。M先生と同じ道を進んだ者も、また。

僕はM先生にソルフェージュを教えてもらう代わりに合唱部に入った。それが作曲家になるきっかけだったとは……。そういうわけで初めピアノを、やがて作曲の道を志した。

僕が高校3年の時、音楽部の定期演奏会

はちょうど20回目だった。そして僕が一浪して芸大の作曲科に入学した年の春、M先生はこの世を去った。

僕はM先生によって蒔かれた種の一粒だったわけである。

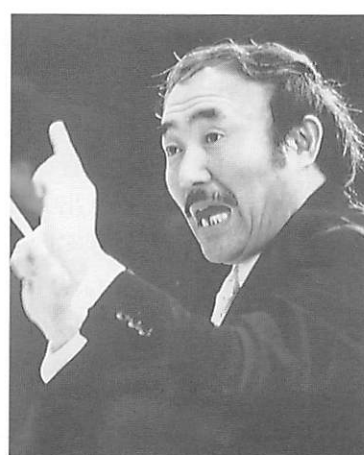
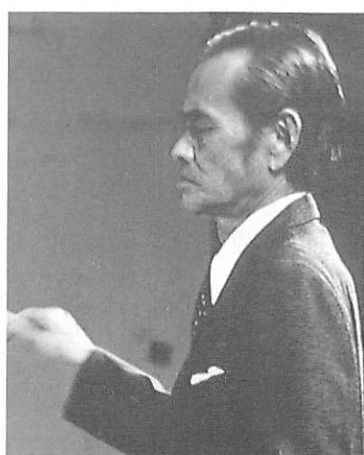
日本中にきっとたくさんのM先生がいて、せっせと種を蒔いていることだろう。ひとにぎりの人間はその芸術性によって人を感動させる。音楽する喜びを伝えるというささやかな行為も、また十分感動的なことではないだろうか。それは、より多くの人々の心に確かな美しい鏡を形作るかもしれない。

M先生の名を牧野統という。

(川越高校音楽部創立50周年記念男声合唱曲  
「ミサ曲第4番“炎上”」作曲)

# 指導者の先生について

---







## あの時北海道に 帰らなくて良かった……

牧野 陽子

開幕のベルが鳴り、緞帳が上がり始めると同時に校歌が響き渡ります。透明な歌声、ゾットする程の素晴らしいハーモニー。何十年経った今でもその時の感動は忘れる事はありません。昭和26年札幌高女から川越高校に赴任する事になり、住宅事情の悪い当時ですので、学校が用意してくれた住居はあるお寺の一角、十畳ひと間。その部屋のすぐ傍が納骨堂で、出入口もトイレも納骨堂のそば。わざわざ案内して下さった教頭先生の前なのに私は思わず「イヤダー」と云ってしまったのです。教頭先生の手前、立場の無い主人は私を怒鳴りつけました。心配で北海道から付いて来ていた私の母は泣く私を見て、「陽子を連れて北海道に帰ります。」と怒りだし主人を大変困らせました。今となればそれも懐かしい思い出です。

アップライトのピアノが一台置かれた物置小屋の様な部屋で授業が始まりました。男声に教える教材は少なく、当時の生徒さんには音域が高すぎたり低すぎたりの曲目に困って、よく編曲をしていました。チャリチャリと硬い音をさせながらガリ版の油紙に五線を引き、そこに一音一音、音符を書き込み、合唱に編曲していくのです。翌日学校で謄写版で一枚づつ丁寧に刷り上げるのですが、大変時間も手間もかかります。それを女性事務員の方がよく手伝ってくれた、と主人はいつも感謝しておりました。主人が亡くなったあと、ある卒業生の方が、そのガリ版刷りのうす茶色になった何十曲もの楽譜を大切に持ってあります、と見せて下さいました。本当に嬉しゅうございました。有難いことです。

「男子音楽」という教材を音楽之友社が

出版する時、何曲か主人が編曲を担当する事となり、その折り御一緒に仕事させて頂いた小山章三先生から「編曲が大変すばらしい」と誉められた、と言って嬉しそうにニコニコして帰って参りました。その時の笑顔は忘れられません。演奏会やコンクールの前になると、夜、雨戸を閉めてガラス戸に自分の姿を映し「シュ シュー シュー」と、息で歌いながら、長時間繰り返し繰り返し指揮の勉強をしていた事、いつも思い出します。

お酒が何よりも好きな主人は料理する事もとても好きで、クリスマスや家族の誕生日には必ず鳥の丸焼きをつくってくれるのです。皮つきのままのジャガイモと一緒にオーブンで焼くのですが、鳥の油がしみ込んだジャガイモが本当に美味しいのです。思い出の曲、思い出の作品、思い出の料理、たくさんあります。何よりも永遠に忘れることのできないのが川高音楽部の美しい歌声と清潔なハーモニーです。「ハーモニーが大事なのだ、メンタルハーモニーが大切なのだ」といつも言う主人でした。

五十周年おめでとうございます。そして記念コンサートで主人の曲を歌って頂き心より感謝致します。川越に来て皆様と出会えた事は主人と私にとって本当に幸せでした。

(牧野 統先生夫人)



## 不思議なご縁

秋月 智代

50周年おめでとうございます。

伝統ある音楽部のご活躍、心よりお慶び申しあげます。

牧野先生のご急逝の後を受けてお手伝いいたしました、秋月でございます。

このたびのおめでたい記念誌に、主人のプロフィールと写真をとのお申越しに、古いアルバムを見ておりましたら、さまざまなことが思い出されました。

その一つ二つをお話いたします。

昭和7年(1933年)、東京音楽学校声楽科に入学。山田耕筰、木下保、ハンス・プリングスハイムの各氏に師事。先輩に藤山一郎氏(歌手)。同期には山田和雄(指揮者)、松平晃(歌手)、松谷穰(日本のジャズの草分け的存在)、多久興(ヴァイオリニスト)の各氏。後輩には二葉あき子さん(歌手)など。

卒業後は、山田耕筰氏命名の「青山薫」の名で、歌手としてコロムビアレコードにいましたが、私が結婚いたしました時には、東京都立第八中学校(現・都立小山台高校)講師、NHKの国民歌謡の歌唱やその指導、音校受験生の指導をしておりました。

当初は渋谷・常盤松に住んでおり、近くに頭山満さん(玄洋社、右翼の巨頭といわれる)の家がありました。しかし、その家が戦災にあい、岡山の私の祖母の家へ移りました。

そこで主人は出征。終戦後の昭和21年(1946年)に主人は帰ってきましたが、東京との縁は遠くなってしまいました。

東京へ東京へと思いつつ姫路で足踏み。23年たち、やっとちょっと北ですが、当地白岡町に辿り着きました。

その時、川越高校からお呼び出しがあったのです。

「どんな学校かわからないが、まあ行ってみるか」と出掛けましたが、上機嫌で帰宅第一声、「オイ、スゲー学校ダ。県立なのに男

子校で頭のいい子が揃っているし、標準語デヤンノ(ずっと関西でしたので)。気分いいネー。決めるぜ!」。

白岡から川越までは当時2時間はかかりましたが、行くと申します。大丈夫かしらと心配でしたが、通勤第1日目、また感激!

「授業が実にやりやすい。音楽部でも、それぞれにパート練習はできているし、打てば響く生徒達の反応に、やっと思としていた生徒に巡り逢えた」と大喜び。ですから、風が吹こうが雨が降ろうが体調が悪かろうが、「生徒が待っているから休めるか」と出掛けます。「お父さま、どうなっちゃたの?」と、あまりの変身に家族もびっくりする有り様。

それにつけても、こんなに素晴らしい音楽部をお育てになった、牧野先生の偉大さ! 感じ入ります。立派な音楽部を受け継ぎました主人は、嬉しい半面、責任も重く、久しく弾かなかったピアノを弾いたり、歌ったり、若き日の主人が蘇りました。

充実した日々が続き、第二の定年となりましたが、川越女子高との合同演奏会をしていた縁で、混声合唱団「ヒューゲルコール1976」が誕生しご縁が続き、この中に5組のカップルができ、ますます充実したグループになりました。

昭和62年(1987年)、76歳で他界するまで演奏活動を続け、これでお別れかと思いましたが、主人の遺しました「ヒューゲル」は、立派に演奏活動を続けております。

こんなに良い方々に巡り逢えた私どもは果報者です。主人が嬉しくテレた時に申しました「シャラクセー」「ビール持って来い!」。そうそう、「ヒューゲル」を飲んでべーにしたのも主人です。

良いご縁をありがとうございました。

音楽部のますますのご発展を祈ります。

(秋月 直胤先生夫人)



## 想 い 出

小高 雅子

音楽部創立五十周年おめでとうございます。主人に連れられて、私が初めて川高音楽部の定期演奏会を聴きに行きましたのが三十数年前、舞台にはありし日の牧野先生のお元気なお姿を拝見することが出来ました。当時合唱とはほとんど無縁な私でしたが、主人との結婚を機に、合唱、特に男声合唱のすばらしさに強く惹かれるようになりました。「月光とピエロ」「雨」「乾杯の歌」「遙かな友に」等々強く印象に残っています。主人はと言えば、本当に仕事一筋の生活で、私はいつも「我が家は母子家庭ですから」を決まり文句にしてきました。子供達三人も無事成人となった今、私の役目もどうか果たせたのではないかと、少しほっとしています。この三十年を改めて振り返ってみますと、様々な事、様々な出会いがありました。その時々で喜んだり、悲しんだり、感動したり、考えさせられたりと、主人と一緒にあったおかげで私の人生はとても豊かなものになり、密かに感謝しております。

川越高校時代の主人は、NHKコンクール、朝日コンクール、朝練、夕練、合宿、定演…等、一年中合唱に明け暮れ、さらに音楽関係の役員会だ研修会だと、本当によくもこんなにエネルギーが続くものかと感心するばかりでした。「先生は夏休みがあっていいわね」と友人達から羨ましがられました。とんでもない事で、主人のスケジュール表を見せてあげたい位でした。

コンクールで入賞したときは嬉しそうな声で「やったよ」と電話が入ります。ところが、それからがさあ大変。三十名とか四十名のとかの生徒がドドッと我が家になだれ込んでくるのです。大きな靴が玄関を埋

め尽くし、それでも入りきらずに外まであふれる光景はまさに壮観！西瓜を三つも四つも割ったり、三十玉、四十玉の焼きそばをつくったり、私の孤軍奮闘の楽しい戦いはずいぶん長い間続いたように思います。

娘がまだおむつをしていた頃、美少年の高校生だった浅井先生も、今や立派な二児のお父様。川高にも長く勤務され、音楽部のますますの発展に力を発揮されたことは、息子の成長（浅井先生ゴメンナサイ）を見るようで、本当に嬉しいことでした。

主人も牧野先生はじめ、いろいろな方々との出会いがあり、助けられ励まされてここまでやってこられたのではないのでしょうか。そんな人人とのつながりがこの五十周年という長い年月の中にぎっしり詰まっていることでしょう。そして今、宮寺先生という素晴らしい先生をお迎えして、川高音楽部はさらなる発展が期待されるところで

す。男声合唱の一人のファンとして、川高音楽部がますます発展なさいますよう心よりお祈り申し上げます。

(小高 秀一先生夫人)





## 50周年によせて

浅井 和代

川高音楽部創立50周年、誠におめでとうございます。心よりお祝い申し上げます。50年間という、長い間に、どれ程たくさんの人たちが、その音楽に、心を打たれ、励まされ、魅了されたことでしょうか。

主人が、母校である川高に赴任したのは、昭和63年4月のことでした。日ごとに帰宅時刻が遅くなり、家族皆で健康を気遣っていましたが、主人は本当に、生き生きと、毎日、それはそれは楽しそうに音楽部の練習に励んでおりました。

川高在学中から、生活の中心に音楽部の活動があったと聞いています。両親の理解と協力のもとに、私も、定期演奏会やコンクールでの伴奏をさせて頂いたこともあって、まさに、川高音楽部を中心に、家族全員の生活が回っていた11年間でした。

福岡、高崎、静岡、大阪、などの遠征にも連れて行っていただき、いろいろな会場で一緒に演奏させていただいて、大変勉強になりました。また、音楽だけでなく私にとりましては、一生分の人生勉強の場であったと言っても過言ではないくらい、実り多い時間でした。

振り返りますと、次々と色々な場面が、思い出されます。

主人は、演奏会やコンクールに向けて、楽譜を常に持ち歩き、勉強しておりました。夢の中でも、思いついたことをすぐ記入できるようにと、枕元に楽譜と鉛筆を置き、書き込みをしていました。

また、生徒さん一人一人には、心を尽くして接しているのが、端から見て本当によくわかり、私にはとても真似の出来ない姿で、頭が下がる思いでした。

生徒さん達も、いろいろな学年にわたって何度か熊谷の住まいに訪ねて下さり、賑やかに、楽しいひと時を過ごしたこともいい思い出のひとつです。指揮をしている時とは少し違って、同じ部の先輩後輩としてリラックスして、羨ましいほど楽しそうに見えました。

札幌での、全国大会出場の年に生まれた長男は小学4年に、平成6年の県合唱祭出演当日に生まれた次男は、年長組になりました。ふたりとも、お腹の中で、川高音楽部の演奏を聴き、子守歌にも音楽部の演奏を聴いて大きくなった幸せ者です。心のどこかで、あのあたたかいハーモニーを憶えていてほしいと思います。

主人の指揮で、川高音楽部のピアノを弾かせて頂いたことは、私の宝物であり、誇りです。

川越高校音楽部の、品格のある演奏が、これからもますます、たくさんの人達の心に届くことを、心から願っています。

(浅井 一郎先生夫人)



## 「美しい歌声を世界に」

宮寺 順子

川越高校音楽部50周年おめでとうございます。素晴らしい生徒さん達によって、いつまでも川高トーンが受け継がれると共に、益々のご発展を心からお祈りいたします。

2000年7月7日。川越駅西口に数台のバスが連なり、どしゃ降りの雨のなかを傘もささずにスーツケースを引く若者が足早に歩いて行きます。数ヶ月前から着々と準備を進めてきた「世界合唱オリンピック」への参加が、台風3号の影響で予定より1日早い出発となった時の慌ただしい光景です。激しい風雨の中でも若者達のどの顔も輝いて見えます。快く送り出して下さった教職員の皆様やOBの方々、ご父母の皆様の暖かいご理解で実現したコンクールへの参加。どんなに、生徒さん達にとってかけがえない素晴らしい体験になるでしょう、どうか全員が無事にと、心熱い思いで見送ってきました。

未だに電話一本ありませんが、いつものごとく便りのないのは無事な証拠と安心しております。今ごろ、素晴らしい生徒さん達と満面の笑顔でウィーンの町を闊歩していることでしょう。

私は梅雨の合間年に一度の行事、黄ばんだランニングシャツと短パンをそっと干すと陸上の長距離走者だったかつての姿に思いを馳せます。私は写真でしか知り得ない主人の姿です。主人と知り合ってから間もない頃「スポーツ医学の勉強をしたかったけど、足を怪我して諦めたんだ。それから音楽を始めたんだよ。」と何気なく言った一言を今でも覚えています。黄ばんだシャツと短パンはいつも大きな勇気を与えてくれます。

いつでもいくつからでもやる気があればがんばれるよと。いつもの笑顔とおみやげ話を楽しみに乾いたシャツと短パンをしまいました。

(宮寺 勇先生夫人)

## 各回ごとのOBのページ

---



川越女子高校との合同演奏会で花束を受ける秋月先生  
(左は川越女子高校・秋馬先生) 昭和52年



# 音楽部員今昔

音楽部1回 新井 涼平

今はなき講堂の一隅に捨てられたようなアップライト。戦時中からその88鍵は鍵がかかった儘だった。初めてその音を耳にしたのは森田暁先輩(昭和19年3月卒)の弾くトルコマーチ。正にこの瞬間がお名前の如く私たちに音楽の暁をもたらしたものだと思う。と云うのも、それからは門外不出と思われたピアノの鍵が何んの手続もしないで事務所で快く手渡してくれたから……。

往時の部活は主にレコード鑑賞で『おーい楠の木よ』<戦中戦後ひとつ校舎に六年間川高第三期生還暦の文集>から抜粋すれば【部室は講堂西端来賓控え室の一つで財産は手巻き蓄音機、今なら貴重品。レコードはホスターその他数枚しか

なくみんなで重いSPを持ち込む。音楽も聴いたけど、サボリ部屋と云ったほうが早かった。】又部外活動?はもっぱら本川越駅近くの丸共パン二階の喫茶店(昔流行った名曲喫茶のはしり)でパンを噛りながら可成のSPの交響曲、協奏曲、歌劇(椿姫全曲)をDJしたことで玄人裸足の音楽評論家を輩出し、更には聴く楽しみよりも演奏の楽しみをとばかり卒業生を送る予餞会(2月12日)に出演、プログラムは比留間君のバイオリンで金婚式、小生のピアノで雨垂れ田中君のビバルディ協奏曲、青きドナウの

合奏それに伴奏新井雅子の賛助出演で悲愴ソナタだった。これに懲りずに挑戦したのが次なるものだった。

## 『おーい楠の木よ』より抜粋

### 【第一回 川高音楽部発表会

昭和25年6月3日(土)12時半

ピアノ	新井	前奏曲(ショパン)
		月光一楽章(ベードーベン)
		乙女の祈り(バダルウスカ)
	原	銀波(ワイマン)
バイオリン	原	ソナタ第三番(ヘンデル)
		メヌエット(モーツァルト)
	比留間	メヌエット(ベートーベン)
		ユモレスク(ドボルザーク)
		ニーナの死(ベルコレッセ)
		オリエンタル(クイ)
	田中	ロマンス(ベートーベン)
	原/比留間	ファランドール(ビゼー)
バリトン	東山先生ご主人	菩提樹 魔王
ピアノ伴奏	東山先生	新井雅子(姉君)
演出/司会	青柳	

ポスターはオケン、本川越駅、一中の三ヶ所に貼られた。】

部員はといえば七人の[侍]ならぬ[好事家]だけだが、バッジを好き勝手に楽譜、飛ぶ雁、バイオリンの形状の一部を表すとして製作(※ロゴ)。原君はピアノもバイオリンも達者だったが急逝、比留間君は武蔵野音大に進み二つの音楽教室を持ち、田中君はツゴイネルワイゼンの触りを弾いたことも忘れ、沼田君は体調を崩し、小熊/青柳両君の耳は冴えを増し希有のレコード収集家で小生はロックグループに練習/ライブの場を設けている変わり種。

(昭和26年3月卒業)

# 牧野先生「生きる力」をありがとうございました

音楽部 2 回 深澤 源裕

新任の牧野先生は川高にルネッサンスをもたらしたエネルギーの源泉だった。応援歌等の作曲、合唱部の創設、定演、コンクールを一年余りの間に果たした。先生の啓蒙活動は授業はもとより行事、部活等で熱心に行われた。「君、いい声してるネ」が殺し文句だった。熱意に打たれた丸刈りの少年達は一人又一人と練習に加わり数を増していった。私は庭球部にいた。スポーツ万能の先生はなかなかの腕前で、時々遊びに来ては合唱に誘われ、遂に卒業まで二足のワラジを履くことになってしまった。

西洋音楽に馴染みの薄かった少年達にとって先生の奏でるピアノの響きは琴線を震わす夢の世界であった。二日酔いで午前中はさえない時もあったが、午後になるとテンションも高まり渋いバリトンの弾き歌いも加わり魅力に満ちた授業となった。授業の半分は作曲家列伝・音楽史・楽典等の漫談風語り、後の半分は「ナマ演奏」で、一時間は短く残念だった。先生は「音楽は自分で創り共に楽しむもの」ということを身をもって示し、「ナマ」を聞くことが最高の楽しみだということを伝えたのである。

第二回音楽会は先生にとっても我々にとってもデビューだった。合唱・重唱・独唱・器楽の練習が始まると出演者達の目の色が変わってきた。私も独唱することになり、写譜し練習に入った。曲目は小松耕輔曲「母」とグノー曲オペラ「ファウスト」より「花の唄」の二曲で暗譜はすぐ出来たが本番を考えると腰の引ける思いだった。音楽会に先がけて応援歌「奮え友よ」（山本明先輩詞・牧野先生曲）の発表及びレコーディングがあった。深澤（T1）柳下（T2）八木（Br）加藤（Bs）の四名は先生に従ってレコーディングに出掛けた。場

所は銀座「白牡丹ビル」の某スタジオだった。その時は初めてのことなので緊張で皆声が出ずなかなかOKが出なかった。先生のアドバイスは「うまく歌おうと思うな。作るな。自然に。」であった。そしてやっと通ったのである。私は「よし、本番は自然体で楽しくやろう」と心に決めた。

高二の初秋九月末に音楽会は行われた。初めてのイベントはすべてが手造りで会場の設営から撤収まで全員で働いた。合唱譜は先生自筆のガリ版刷り、重唱ソロ譜は各自が写譜した。先生はプロデュースと同時に、ステマネ・指揮・伴奏・演奏と休む間もなく大車輪の活躍だった。音楽会は講堂一杯に聴衆を迎え無事終了した。思えばこの音楽会が川高という土壤に生命と情熱を吹き込んだ最初の行動であり伝統の始まりだったのではなからうか。翌27年由緒ある本館が新校舎に生まれ変わりイベントも盛況となった。NHK・毎日コンクール出場、先生作曲作品発表（オペラ「鐘」・ピアノ小品・合唱曲等）、卒業する我々のためにセットしてくれた女子高に会場を移しての音楽会（12月）。柔らかな女子高生の声に包まれて初めて歌った混声合唱トロイカは今も胸に生きている。

『先生有難うございました。僕は今も現役で歌っています。音楽は生きる力です。どうか川高音楽部の弥栄を御導き下さい。』

（昭和28年3月卒業）

# あのころの思い出

音楽部2回 柳下 恭治

昭和25年4月に私が入学した当時の音楽部は、楽器演奏が主で、コーラスは形ばかりのものでした。1年生の時は、コーラスの練習はしましたが、発表会に出演した記憶はありません。新井部長から発表会に何か歌えないかと聞かれましたが、とてもそんな柄ではありませんでした。

本格的にコーラスを始めたのは、牧野先生が来られてからです。当時、部員数は20名足らずだったと思います。3年生の岸田部長と協力して、一生懸命練習に励んだことが、つい先日のように思い出されます。

初めて合唱コンクールに出場することになりましたが、当時、浦和一女高が常連だった毎日コンクールは、人数が少ないので出場しないことになり、朝日コンクールとNHKコンクールに出場することにしました。

どのコンクールだったかははっきりしませんが、審査発表の中で審査員の芸大の下總皖一先生から、「今回は入賞しませんでした」と言われ、大変喜んだことを覚えています。

3年生になって、渡辺部長はヴァイオリン専門、副部長の私がコーラス担当となり、もう一人の副部長2年生の高橋さんがピアノでコーラスの伴奏もしてくれました。

4月に新部員募集で1年生の各クラスを回りましたが、私の予想以上の人が入部してくれて、これでやっとコーラスらしいものができるかと喜んだことを記憶しています。この時に入った人たちが、今の川越高校のコーラスの基礎を固めてくれた第一歩だと思います。

初めて校内の音楽発表会に出演したときには、コーラスの他に同期の加藤さんと二重唱を歌いましたが、1000人も入る旧講堂

がいっぱいで、女子高生の顔もたくさんあり、相手の声も聞こえないほどでした。

校舎改築などで、女子高校の講堂を借りて発表会を行ったり、女子高と合同演奏も行いました。発表会でソロもできるようになりましたが、牧野先生から半音違うとか、途中で息を切らずに日本語に忠実に歌うようにと厳しい指導を受けたことも、思い出されます。

余談になりますが、数学の時間に途中で教室を抜け出し、音楽室（兼部室）にいたところを風紀係の先生に見つかりましたが、牧野先生に助けられ事無きを得たり、牧野先生がNHK合唱コンクール課題曲の作曲に入選されお祝いをしたこと、牧声会の創立に参加したこと、女子高との打ち合わせには2年生の石川（新山ノリロー）さん等と一緒にいったこと、卒業の時には、生徒会活動での功労賞をいただいたこと等々がありました。

数年前から時間がとれるようになり、川越市民会館ホールでの定期演奏会を聴かせていただいておりますが、高校男子合唱で百名を超える大所帯は、創部当時予想もできなかったことで、感無量でした。

この合唱団の基礎を作った一人として、心の中で思い出の一頁といたしたいと思います。

(昭和28年3月卒業)



# 関東甲信越大会の基礎を築く

音楽部4回 伊藤 安男

私が入部した昭和27年4月当時は、現在の校舎の一代前の校舎が建築中で、一年生は、全員、武徳殿（現・本丸御殿）を教室としていた。（私たちが最後の学年となった）

音楽室は、本校舎の一番後の校舎にあり、机、椅子、黒板のほかは、古ぼけた縦型ピアノがあるばかりであった。

私は、芸術科目で音楽を選択した。音楽を選択したといっても、ピアノに合わせて唱うだけのものではあったが、牧野統先生の情熱にあふれ、ユーモアたっぷりの指導によって、時の経つのも忘れ、楽しく合唱に打ち込んだ。

クラブ活動も音楽部に入った。音楽部といっても、合唱の部員は、全学年合わせても20名足らずであった（と思う）。練習は、昼休みが普通で、発表会やコンクールが近づくと放課後に音楽室で、それでも間に合わなくなると、川高近くにあった牧野先生のお宅で夜遅くまで練習した。

当時、先生のお宅では、長女の美紀子さん（先生曰く、札幌の美しい森をイメージして美樹子と命名したかったが、樹の字が人名漢字にないので、三条美紀の美紀子にしたと。）が、奥様の背に負われていた年頃で、先生一家には、大変、迷惑をかけたことであった。

さて、秋に開催されるNHK合唱コンクール、このコンクールは、各新聞社主催のコンクールの数十人或いは出場人数制限なしといった大規模なものと異なり、合唱者28名、指揮者1名及びピアノ伴奏者1名とこじんまりしたものであった。（と思う。）

しかし、27年は、この音楽部員のみではNHKのコンクールにも出場できず、牧野先生が音楽を選択している生徒に頼んで、やっと人数をそろえたという状況であった。

かくして、27年秋の埼玉県大会高校の部が、埼玉会館で開催された。混声合唱あり女声合唱あり男声合唱ありの中から、代表は唯一校である。結果は、優勝は浦和一女で、我が川越高校は準優勝であった。

この準優勝は、予想以上の優秀な成績で、この効果は翌28年に音楽部員約40名となって現れた。（29年には約60名に）

翌28年のNHK合唱コンクール埼玉大会、牧野先生は、部員40名から出場者を選抜するという嬉しい苦勞をされた。場所は同じ埼玉会館。結果は、浦和一女が欠場したとはいえ、我が川越高校が優勝し、埼玉県代表として、嗜れて、関東甲信越大会に駒を進めた。

関東甲信越大会は、舞台演奏ではなく、録音によって審査するもので、録音室に入ったとたん、牧野先生をはじめ、部員一同平常心を失い、散々な結果になってしまった。

29年も埼玉県代表になり、（浦和一女欠場）、関東甲信越大会に出場したが、成果を挙げることなく終わってしまった。

とは言え、以後の後輩諸兄の活躍を見聞するにつけ、その扉を開いたのは、牧野先生の指導を受けた私達であったと自負している。

この一文を牧野統先生に捧ぐ。

（昭和30年3月卒業）

# 牧野先生のこと

音楽部 5回 金橋 好邦

定期演奏会のことである。当時（昭和29年頃）、川高に楽器らしいものといえば、大正時代の代物だと言われたピアノが音楽室に1台、講堂に1台の計2台だけだったように記憶している。それは調律してもしきれないものだったらしい。そこで定演の際は、ピアノは牧野先生の私物を先生宅（教員住宅？）から音楽部員が運んだのだ。今ならプロが軽々と運ぶところだろうが、その時は部員が交代しながらワッショイ、ワッショイと運んだのである。その時の先生の言葉は「怪我しちゃ困るけど、ピアノも傷つけないでくれよ」だった。生徒はみんな金ボタンの学生服を着用していたのだ。

NHK合唱コンクール埼玉県大会で優勝したときのことである。結果発表後、参加した学校・生徒全員で合唱する場面がある。その全員合唱では優勝校の指揮者が指揮をし、伴奏者が伴奏することになっていた。私が在部した二年間、共に優勝することができたが、その際指揮をした牧野先生の嬉しそうな、得意げな、満足した顔は、四十年以上経た現在でもはっきり思い浮かべることができる。

音楽部の練習のときだと思うが、発声練習に際して、自ら腹を指で押させて発声のコツを指導してくれた。それまでそういう経験がなかったので、それは衝撃的な出来事であった。「腹式呼吸」はその時知ったような気がする。それと「頭声」も。

牧野先生の専門は音楽である。それは当然だが、スポーツにも秀でていたらしい。何でも若いころ（旧制中学時代だが）、スキーの北海道代表になったこともあったとか。今でいうインターハイ・スキー競技の北海道の選手であったということだろうか。川高の校内スポーツ大会で野球をやったとき、

職員チームとして投手を務めたことがあった。確か左投げだった気がするが、スピードはないものの、スローカーブのコントロールはまずまずであった。

北海道といえば、NHK合唱コンクール課題曲・作曲部門に応募して見事最優秀となり、課題曲として採用された「若いおじさん」には「熊」が登場するが、「北海道では何度も熊に遭い…」という受賞者の言葉が『音楽の友』にたしか載っていた。

一般には「ロング・ロング・アゴー」で知られる「思い出」という歌がある。その中に「牧野君はどうしたろう」という一節があるが、つい最近までこれは先生の詞によるものだとばかり思っていた。（これは牧野先生自身が作った替え歌だと思っている人はかなり多いようだ。）その歌の授業をする際、面映ゆそうな顔を見せていたのを思い出す。

先生が本格的に音楽の勉強をされたのは、25歳からだ、と先生自身からお聞きしたように思う。幼いときから学ばなければならぬ「音楽」という分野で、そのような遅咲きは珍しいことだろう。それはやはり、持って生まれた【才能】によるものだろうか。

（昭和31年3月卒業）

## 楽しかった音楽部（思い出すがままに）

音楽部8回 小高 秀一

高校1年の時が今からちょうど45年前、大分忘れてしまった。故に思い出すがままに書いてみる。

高校に入学した翌日から昼飯がろくに食べられなかった。昼休みに校歌・応援歌の指導が応援団の先輩によって行われた（5日間ぐらい続いたか）。その後、「お説教」と称して3年生が昼休みに入るとすぐに1年生の教室に来て、(先輩は早弁をしていた)「起立」と立たせ説教を始める。先輩によっては机の上に立たせたりした。我々1年生の中にも生意気なのがいて反抗し、机の上から蹴落とされて大怪我をし、新聞記事になったりして騒ぎになったこともあった。その時の救いの神が音楽部の先輩で、先輩が教室を回ってきて呼び出してくれ、昼休みの練習を行った。故に説教なるものの被害はそんなに多く受けなかったように思う。この時期から1年生は早弁を憶えていくのである。

音楽室は校舎の一番北側にあった木造校舎の半分で、隣が書道室になっており、古い木造建築のため節穴がたくさんあった。音楽の授業の時等よく覗いたものである。覗いても、書道も男ばかりで何てことはないのだが、覗いてみたくなるのである。3年生の時に新しい図書館（新築なった今の前の図書館）が出来、その1階の視聴覚室が音楽室となり、喜んで引っ越しをした。特に牧野先生は嬉しそうであった。我々生徒にとっても昼休みに食堂に寄ってから練習に行けたので大変嬉しかった。同じ年にフルコンサート用のグランドピアノが入り、先生がしきりと自慢していたのを思い出す。(物置の時はアップライトピアノであった。)

川越女子高校音楽部と合同練習があった。顔には出さなかったが、皆ほんとうに嬉しそうだった。その日は朝から落ち着かず、

普段欠席する部員もその日は練習に参加する。いざ女子高の音楽室に入るとなると恥ずかしくてなかなか入れない。練習も混声のパート練習はろくに行わず、よく歌えなかったように思う。

牧野先生は、勿論煙草・酒がお好きで、授業中・部活動中にウイスキーを嗜んでいました。お話も楽しみでした。奥様の話、お子さんの話、北海道の話等、本当に楽しかった。授業や部活の練習をよくお休みになった。我々が3年生の時にコンクールの直前になっても先生がいらっしゃらないので、学校の目の前にあった先生のお宅まで練習に押しかけたことを思い出す。その時先生は寝間着のまま我々を迎えて下さり、快く昼の上で練習させていただいた。当然のことだが、部員全員牧野先生をお慕いし尊敬していた。

定期演奏会は校内の講堂で行い満員であった。先生の発案で、男声四重唱のステージが設けられ、代表になった私は嬉しくて一生懸命に練習をした。同期の渡邊君の記憶で私も思い出したが、関西への修学旅行の時、銀閣寺の境内や旅館の近くの猿沢の池のほとりで音楽部員22名が集まり合唱をした。大勢の見物人が集まり盛大な拍手をいただいた。ほんとうに嬉しかった。あの当時は何人か集まるとすぐにハモっていた。部活動が終わって駅までの帰り道で、コンクール等で駅に集合したときの駅前やホームで、電車の中で（特に川越線で）、演奏が終わったあとのホールの前で、……等思い出すのは楽しいことばかりだ。

牧野先生・先輩・後輩そして同期生諸君、本当にお世話になりました。五十周年を心からお祝い申し上げます。

(昭和34年3月卒業)

# 私と牧野 統先生

音楽部14回 鈴木 智

私達は、団塊の世代と呼ばれ、昭和38年に川越高校に入学、その時から音楽部員としての生活が始まりました。

幸いにして、歴代先輩達の培った実績と伝統を継承し、部員のチームワークと立派な指導者として、牧野統先生、小高秀一先生との充実した音楽環境が整ったこともあり、NHK合唱コンクール第一位をはじめ、多くの栄誉を賜った時代でもありました。

その中でも私は、牧野先生に感銘を受けた一人でもあります。自らを振り返るとき、いつでも先生は、私の後ろにおいでになりました。(今でもずっと…)

芸術性や音楽技術は、現在の部員に及びませんが、先生の提唱する「メンタルハーモニー」の精神(こころ)にふれたことが、私の人生の大きな財産となりました。

先生は、おっしゃいました。「コーラスに声自慢はいらぬ。歌っていて自分の声が聞こえている間は、本当のハーモニーになっていない。」「自信と誇りを持ってステージに立とう。」またちょうど音が合ったときには、「ピタッ股引きに〇〇〇」といったジョークで、部員の緊張感をほぐしたりしました。

コーラスの中の一つのパートの役割と重要性、それぞれ個々の機能が発揮され、そして集大成され音楽全体が構成されうねって進行してゆく。

私の人生は、牧野先生によりコーラスを通じて、その生き方を教えていただいたと思っております。

私達は、時代の先駆けと想っていたら、実は幕引き役でもありました。

本校のレンガ造りの講堂、浦和の旧埼玉会館、日比谷のNHKホールなど、今はなくなった施設も数多くあります。又、川越

市民会館の新設、定期演奏会での「山に祈る」の演奏など、一つ一つが懐かしい高校時代の、先生との懐かしい思い出でもあります。

本番前の練習中に牧野先生が長年愛用していた指揮棒が折れてしまったことがありました。私は駅前の楽器店まで駆けていき、指揮棒三本を買って戻り、うち一本を選んでいただき、それで演奏に間に合わせたこともありました。

その、折れた先生の指揮棒は、記念として三十年ほど私の手元にありましたが、その後先生の意志を継ぐ後輩の一人に託しました。

ステージが終了した後、胴上げのときの小柄な身体が更に軽く感じられたこと。奥さまと子供たちとの潤いなど。飾り気のない先生の人柄が私達にとって懐かしい、楽しい思い出となっています。

牧野統先生、メンタルハーモニーと青春を！ ありがとうございます。

(昭和40年3月卒業)



# 指揮棒

音楽部16回 島田 薫

私の手に、今一本の指揮棒がある。塗装は剥げ落ち、中央で折れ、先の部分がない。昔風の木製のこわれた指揮棒。私の宝物である。

元の持ち主は恩師「牧野統」先生。川高音楽部の数々の名演奏を生み出した指揮棒である。見つめれば、楽しかった現役時代のステージと先生の見事な指揮ぶりが儼に浮かぶ。曲想を余すところなく表現している指揮。ずっと引き込まれ音楽の空間を漂っている自分。各パートの出を必ず合図しながら表現し続ける棒。ハーモニーを大切にされた独特の音楽観。先生の小さな体から創り出されるスケールの大きな男声合唱をなつかしく思い出す。

当時の音楽部のハーモニーは独特の美しい響きをしていた。鼻腔や頭部共鳴を大切にされた透明感がそこにはあった。今流行りの、喉を必要以上に開ききった吼えるような発声（牧野先生はよくこれを「胴間声」とおっしゃっていた）とは対極をなす、甘く綺麗な音色だった。

中でもNHKコンクール県大会、大宮商工会館で先輩達が歌った「月の夜」のハーモニーが忘れられない。

白き花よ 台のべて  
今宵歌わめ いざともに・・・

本当に美しかった。

高校3年間で100を超える曲を演奏した。当時の楽譜をまだ持っている。その一枚一枚が当時の情景を鮮やかに思い出させてくれるのだ。もう一度歌いたい曲もある。

例えば1年次の朝日コンクール課題曲「小さな街が流れてきた」。トップテノールの甘いファルセットをもう一度聞きたい。2年次毎日コンクール自由曲「狩の歌」。3年次合唱祭で演奏した「マルシュネルの小夜曲」。独語が原詩であるが邦訳された歌詞が好きだった。どの楽譜も思い出が詰まっていて手放せない。いずれもレコードはおろかテープすら手元に残っていない。今では演奏会で取り上げる合唱団すらない。残念である。たまにこれらの曲を口ずさむと、もはや遠くなってしまった日々が思い出され、懐かしいハーモニーが頭の中で鳴り響くのである。

私もあと2年で牧野先生の没齢と齡が重なる。先生はあまりにも早く亡くなられた。もっと沢山の曲を作って頂きたかった。

今私は小さな合唱団で指揮をしている。手にあるこの指揮棒は、いつかまた演奏会で使いたいと思っている。

(昭和42年3月卒業)

## 組曲づくり、ウィスキーと共に

音楽部18回 矢部 秀一

「えっ！優勝バッジが届いた？」。これはNHKコンクール関東甲信越大会の放送前に同大会の「優勝バッジ」が学校に届き、皆で驚いたときの言葉である。当時は録音による大会であり、事前に審査したものが手違いで早く出てしまったのであろう。その後の全国大会は残念ながら等外であった。課題曲は「日本のみのり」、自由曲「月夜を歩く」であった。

朝日の合唱コンクールは、県大会が昭和43年(1968年)10月13日(日)に行われた。我が音楽部は高校第1部に参加した。曲目は、課題曲「いのち」、自由曲「河童昇天」で、他に高校1部の参加校は大宮、越谷、川越女子、浦和第一女子(シード)である。このとき川越高校音楽部は総合優勝を勝ち取っている。同コンクールの関東大会は10月26日(土)に水戸市・茨城県文化センターで行われた。前日の金曜日に川越を出発。大洗で一泊し大会に臨んだが、残念ながら全国大会出場には至らなかった。このとき、練習会場で尾花勇先生が少しの間指導して下さったことを覚えている。牧野先生とどのような話から尾花先生が指導するに至ったかを知りたいところである。

第18回の定期演奏会は、進行の台本があったので演奏した内容を簡単に記載しておく。

第1ステージは世界名曲集4曲、第2ステージは民謡曲集5曲、第3ステージはコンクール曲集4曲、第4ステージは特別出演で斎藤功司先生によるピアノ独奏、第5ステージはポピュラー曲集3曲を演奏した。最終の第6ステージは牧野統先生の作詞作曲による組曲「北国の若者たち」で①序曲「冬への予感」②「母と子の対話」③「父のロマンス」④「友の死」⑤「冬行進曲」

からなるものであった。当時、最終ステージは組曲を演奏していた。1・2年次では「お母さんのぼか」、「山に祈る」を演奏した。定演18回は、牧野統先生が台本を作成されて、曲も先生自身が作詞作曲し完成させたものである。③「父のロマンス」での演奏は「冬の夜更けに」である。朗読の中で、「冬の夜更けに」の詩は先生のお父さんの日記にヒントを得たものであると紹介している。

牧野先生がどうして組曲を作られるようになったかは忘れてしまった。覚えているのは、先生が時間がない中で作られるので、次の二点に不安を持ったことである。それは「作品自体の仕上がり」のことと「我々の練習時間不足」である。かくして生徒の我々は定演に臨んだが演奏の出来はどうだったのだろうか？このことは私だけの杞憂であったのだろうか。

牧野先生は市民会館の控室でウィスキーを飲んでいらした。職員室の机の引きだしにもウィスキーはあった。お酒を友とし、その友と共に音楽を愛した先生であった。ウィスキーを飲みながら作詞作曲に奮闘する牧野先生の姿が目に見えてくる。

(昭和44年3月卒業)

# 牧野先生にいただいた一生の宝物

音楽部19回 山本 恵男

音楽部入部を一番の目的として川高を選び入学式に臨んだ当日、式終了後直ちに音楽室に向かい後ろの隅に座って見学していました。練習が和やかに進んで一休みという時に先生が歌詞の説明を始めました。確か柳河風俗詩の中で「ノスカイヤ」の事を話しておられました。「昔は女郎買いと言ってな…」などと、面白おかしく話した後で「一年生が入ってきたら、まだこの話は刺激的すぎるかなー」と笑っていました。思わず「今日から来てちゃいけなかったかな」と思いました。正式に入部してパート分けの為にどの位音域が出るかを先生が試してくれました。判定は第二テナーでした。そこで浅はかにも「第一テナーになりたい」と言ってしまったのです。先生はいやな顔もせず「それでもいいよ」という感じでトップになりましたが…。

これが重大な間違いでした。その理由は二つあって、最高音が出ないで苦労したことと、和声の重要なセンスを磨きそこなったことです。あえて後輩の皆さんに発言させていただければ、第二やバリトンの内声パートが合唱に非常に大事であり、なおかつ本人の能力向上には素晴らしいパートであると確信しています。

さて毎日の練習は正門前の今から比べると簡素なブロック造りの音楽室外側の植え込みの所へ足踏みオルガンを運びだし、各パートリーダーの指導で始まります。「なるほど全国優勝するような音楽部は先生一人で指導するんじゃないんだな。このやり方なら早く合唱が仕上がるな」これがその時の初印象でした。夏休みに合宿があり長滞の青年の家や妙義の国民宿舎へ行きました。合唱コンクールは茨城、千葉、埼玉の関東大会に出場しましたが、すべて全国大会に

出場できず大変悔しい思い出として残っています。定期演奏会ではPPMのフォークソングを取り入れたり、「最上川舟歌」を太鼓入りで歌ったり、「山に祈る」を涙が出るようなナレーション入りで歌いました。

しかし私たちの年代が牧野先生の教えを丸々受けられた最後の学年となりました。卒業式を終えて3月末に先生は亡くなってしまわれました。その日在校生やOB数百名により途切れることなく合唱が流れ、それはそれは先生にふさわしいお葬式となりました。先生に教えていただいた合唱のすばらしさは確実に教え子たちに受け継がれたものと思います。

たとえば私の例を挙げれば、地元狭山市において2つの合唱団に参加し、「狭山市合唱協会」を組織しようと先輩の清水さん（高校教師）、石川さん（音楽の友社）、高梨さん（楽器店経営）達と共に活動し、「狭山市合唱祭」を始めることができました。また現在、鶴ヶ島市に移転してからも地元の混声合唱団に参加し日々生活の活力となっています。また私の子供達も音楽に親しんでいます。

牧野先生に頂いた合唱の種が、地域と世代を超えて育っていることをつくづく実感しています。「合唱」という一生の宝物を教えていただいた牧野先生本当にありがとうございます。

(昭和45年3月卒業)

## 始まりは終わったか！？

音楽部21回 宇佐美 平和

入学して次の日、応援団に連れて行かれた屋上で、思わず「放送部か音楽部に…」と言ってしまった。そして放送部に入部。1ヶ月程そこに居たが…、講堂での音楽部のクラブ紹介に魅せられて転部。遅れての入部なので1～3年50名程の前でいきなりパート分け。

初めて牧野先生に会った。当初、私はバリトンに魅力を感じていたのだが、あまりの緊張でAsまで出てしまった(?)。当然、パートはトップ。私と牧野先生との出会いであった。そして音楽の世界(合唱)との出会いの始まりであった。それからの3年間は私の人生の原点となり、すべての始まりとなった。

1年の時は、合宿で信国という同期が妙義の山中に迷い込み大騒ぎ。2年では色気が開花し、これまた大騒ぎ。3年の定演では「枯れ木と太陽」が暗譜できずに曲の立ち往生を繰り返し、伴奏の斉藤先生と牧野先生との絶妙なる連携によってタクトを終え、あの伝説の名言「無事でよかった。…」を生み出した。

そして引退。当時、川越牧声会という牧野先生の合唱団があり、その年の朝日の一般の部で関東に出場する事を知り、聴きに行った。(もしかしたら川女を聴きに行ったのだったかも)コンクール版の「川越讃歌」は今でも記憶に深い。毎年のように川高のために新曲を創った先生。練習の時の、あの薄く目を閉じた祈りのような表情を浮かべた先生。ああ、あの日あのとき、私の始まりがあったのだ！そして、あの時の音楽室での感動を求め、今も歌い続けているのだが…。

卒業の年の三月。先生の天国への旅立ちと共に感動もまた、何処かへ行ってしまっ

たのだろうか？あの感動はもう終わったか？！

(昭和47年3月卒業)



## ～暗中模索の1972～

音楽部22回 小澤 誠

私たち音楽部22回生が川越高校に入学したのは、昭和45年4月。時代が平成に移り、即座にカウントするのが難しくなりましたが、もう30年も昔のことなのですね。(自分や仲間たちがそれなりに老けてきたのもしようがないか。)

当時の顧問は牧野統先生。部長でもあり学指揮でもあり伴奏者でもあったのが、今日では大人気作曲家の荻久保和明氏、という豪華な陣容でした。一緒に入部したのは25名程いと記憶しておりますが、3年の定演のときは12名に激減。全体の人数も60名ほどから45名へと減り、22回生の入部と同時にコンクールも県大会で勝てなくなる、という「暗黒時代」とも言うべき時代でした。

そんな中でも最大の暗黒は私たちがもうすぐ3年生になるという昭和47年3月、突如として牧野先生がお亡くなりになったことでした。私たちの入学当初から普段の練習にはすでに週一回くらいしかお見えになりませんでした。教師という枠ではおさまりきれない人間味あふれる指導や、作品にも溢れているロマンチストぶりが、私たちを魅了してきた牧野先生の死。川高音楽部の為に最後に先生が作られた組曲「マッチ売りの少女」の終曲が「Finale Requiem」だったというのも何かの暗示だったのでしょうか…。告別式で唄った音楽部讃歌。泣くまい、と思っても唄っていてどうにも止まらない涙。定演ができるのだろうか、そんな想いにもかられる日々が続きました。

しかし、不幸のどん底のように思っていた私たちにも救いの神はいたものです。4月から臨時講師として急遽、川高へこられることになった牧野美紀子先生。もちろん故牧野先生のお嬢様。今お見かけしても、

信じられないほど若い！

当時は20代で「本当」にお若かったし、とてもチャーミング。女っ気のまったくない川高で、音楽部だけがすごく得をしているなぁ～、と自然と練習に身がはいった者もいたことでしょう。(絶対にいたはずだ)

6月に秋月先生が赴任され、美紀子先生ともお別れ。夏の合宿や通常練習でも荻久保さんを初めとして心配してくださった先輩方の暖かいフォローもあり、なんとか定演を成功裏に行うことができました。「牧野統先生追悼演奏会」と銘うち、3、4ステージでは先生の遺影を横に3年生は涙で唄がぐちゃぐちゃでした。ね。(泣かなくてもY君とK君のデュオは絶妙にハモらなかったというのに！)

以上、思いつくままに書いてきました。紙面がいっぱいようです。川高音楽部のさらなる発展を22回生一同、祈念いたしております。現役諸君。悔いのない音楽部生活で、悔いの残る大学受験を。是非！

(昭和48年3月卒業)

## くすの木だけが知っている「噂の真相」

音楽部23回 川本 軒司

いま筆者の手許に、薄汚く変色した1冊のパンフレットがあります。

B6判(週刊誌サイズの半分)で、中トジ、白い画用紙にガリ版印刷の本文は14ページ、元は淡い黄緑色であったはずの表紙には、「合宿便覧」と「川高音楽部」の文字、そして不気味な(?)イラストが描かれています。

これは、私たちが3年生だった年の夏合宿の思い出。1973年の8月14~16日、2泊3日、県立長瀨青年の家でした(そういえば、私たちの前後はいつもこの時期で、毎年同じ終戦記念日の「訓話」と、「〇〇の井戸」への散歩には閉口しましたね)。

この時点で3年生は、トップからバスへ2-3-2-3のわずか10人。全部員でも41人の名前しかここには記されていません。

若い後輩のみなさんには、「この時期とりたてて記すべき活躍なし」と片付けられてしまう私たちですが、2年生になる春休みには牧野統先生を喪い、6月に着任された秋月直胤先生のもと、川越高校音楽部の伝統を守りとおしたことは、わかっただけだと思います。もっとも、川越女子高校音楽部との合同演奏会をはじめたために、ときに「軟派」の烙印を押されることはありますが。

新しいひとつのことを始めるエネルギー、たしかに「若さ」だったのかもしれませんが。40代も半ばになって振りかえってみると、つくづくそう思います。

1930年代から合唱指揮をしておられた秋月先生のアドヴァイスだったか、はたまた部長の柴田徹造君のアイデアだったのか、ことの発端は、いまの筆者には、どうしても思い出すことができません。

両校の生徒にとってみれば、男声合唱、

女声合唱だけでなく、レパートリー的にも魅力的な混声合唱もできるわけですし、もちろん、川高音楽部の伝統である「スケベ心」も、多少は部員の脳に作用したかもしれませんが(みなさんだって、交歓会や合同練習などに胸をときめかした思い出があるはずです!)、いずれにしても、部員が減り、「単独政権が維持できず連立へ」というのが、いまになってできる、おとなの表現でありましょうか。

しかし、合同演奏会が決まるまでの練習後のミーティングでは、まさに侃侃諤諤。純粋で真剣な議論は、連日夜遅くまで続いたものです。結局は、合同反対派の首領であった筆者も、採決の結果に従う道を選びました。

たしかに、コンクールでの赫赫たる戦績はありませんし、技術的にはもちろん、音楽的にも先輩・後輩の諸兄の足元にも及ばなかったであろう私たちではありますが、歌いたいという気持ち、そして合唱を愛する想いは、けっして諸兄には負けていないつもりです。

今夜は、私たちをおいて一足先に天国へ旅立ってしまった、岸(松田)悟君がソロを歌う定演のアンコール曲、《甲斐より》をききながら、遠い青春の思い出の数々に、とことん酔ってみようと思います。

(昭和49年3月卒業)

## 衰退の最高潮（?）、細々の絶頂期（?）

音楽部23回 洞口 靖

早いものでもう50回を数えるんですか。白髪交じりの頭を見やりながら、感慨もひとしおです。（中には薄いものいたなどと、何の関係もないことを考えたりして、気ばかりは当時と全く変わらない自分であります。）

閑話休題。さて、川高音楽部の50年の永きにわたる歴史の中には、栄光の時代や衰退の時代もありました。又、大所帯のときも小人数で細々と暮らしていたときもあったでしょう。私たち23回生は、ちょうど衰退の最高潮（?）、細々の絶頂期（?）の時に在籍していたと思われま。約10年程前には全国屈指の男声合唱団が、あれよ、あれよという間に、埼玉有数となり、私たちの代にはついに県の賞からも見放される所まで落ち込みました。又、後には現在にいたるまでの輝かしい歴史があるのは皆さん、ご承知の通りです。このように活動としてはかなり、追いつめられた状態でしたが、このどん底の状態でも、いやむしろどん底の状態だからこそあった思い出も沢山あります。

まず第一は、小人数であったことで、皆が役割を持って部活に参加し、わいのわいの議論を重ねたことです。中には、意見がなかなかまとまらず喧嘩状態になったり、皆黙り込んで打ち合わせが全然終わらず、デートに遅れた人もありましたが、今となっては良き思い出です。

第二に、同じ理由からお互いが性格を把握し、口に出さなくとも何を考えているか分かるようになったことです。例えば、夏の合宿では練習後、歌いつかれたかさかさ声なのに、それでも深夜まで互いの事を、おまえはああだこうだと語り明かした賜物でもあります。

第三に、あの憧れの（!）川高音楽部と仲良くなれたことです。なんと、第一回の合同演奏会を持ったからです。（でも、いざ実施する段になると、川高の伝統や実施方法、役割分担等で色々と悩んだんですよ、本当に）

そして、最後にいえることは、栄光と栄光の狭間で、先の見えない不安におののきながらも何とかこの音楽部の伝統を絶やさないで、精いっぱい努力を重ねたことです。（ちょっとオーバーですかね?）その結果として、今輝かしい時代があると思えば、私たちにとってこの上もない喜びでもあります。（これは本当!）

今、この文章を書くにあたって、当時の資料を探していたら、3年次の定期演奏会のプログラムに皆のコメントを見つけ、ああ、このメンバーでやってきたんだ、と一人一人の顔が当時のままで懐かしく思い出されました。

最後に、この栄光の23回生の氏名を記し、この文章の締めとさせていただきます。

T1：木村康弘、洞口靖

T2：大野義一、村田学、高橋和義

B1：松田悟

B2：川本軒司、柴田徹造、野口郁夫  
(昭和49年3月卒業)

# 雌伏の時代

音楽部24回 山崎 敏彦

昭和47年4月、川越高校に入学した我々を待っていたのは、音楽部顧問牧野先生の訃報だった。中学生のときに定期演奏会で聞いた川越高校音楽部の演奏は、当時の私には衝撃的なカルチャーショックであり、川高に入学したら当然音楽部に入ると決めていた。それだけに牧野先生の突然の死はまさに青天の霹靂であった。

私が入学した直後の音楽部の混乱は、今思えば相当なものであった。当時の2、3年生の先輩方や、突然伝統校の顧問になった秋月先生のご苦勞は、並大抵のものではなかったと思う。多くのOBの方々等にもお世話になった。岡部申之先生、牧野美紀子先生、荻久保和明先生に直接ご指導していただいたことも思い出される。

1年生のときは混乱の中、何も分からぬまま毎日の練習に参加していた。3年生がとても偉大に見えた。2年生のときに、定期演奏会を川女と合同で開催することを上級生が決断した。この形式はこの後8回続くことになる。これについての詳細は23回卒の柴田、川本両氏にお任せする。

昭和49年、我々24回生が3年生となり、牧野先生を直接には全く知らない音楽部となる。当時の3年生は、正門脇のブロック作りのような音楽室の中で、暇さえあればボーリングゲームやトランプに興じる者、進学のための勉強に励む者が非常に多く、練習に対しては極めて後ろ向きであった。実際に発声の理論も知らず、実技に関しても見よう見真似であり、系統的な練習も、後輩の指導も全くできていなかった。NHKコンクールも振るわず、秋の朝日コンクールはついに出場を断念せざるを得なかった。音楽部の輝かしい伝統の中で、「このころ目立った活躍はない」と、1行で記述さ

れる時代を過ごした。ある先輩からは、「伝統を守れなかったのではない。伝統があったからつぶさずにすんだのだ。」と言われたこともある。

この時期、コンクールでの成果は全くあげられなかったが、学んだことも多かった。秋月先生の年齢を感じさせない朗々とした歌声や、音楽に対する情熱に対して、我々は圧倒され、深い尊敬の念を抱いていた。先生は指揮をしながら、「八分音符！音のつながり！」と注意することが多かった。最近になってこの指示に込めた先生の意図が、ようやく理解できるようになってきた。長く音楽を続けてきてよかったとつくづく感じる次第である。

先述の柴田、川本両氏らと秋月先生を担ぎ出し、「ヒューゲルコール1976」を結成し、来年2001年には創立25周年を迎えることになった。生涯にわたって合唱の楽しみを持ちつづけることができたこと、多くの先生や仲間と知り合えたこと等を考えるにつけ、川高音楽部との出会いは、私にとって本当に幸せなことであったと思う。

(昭和50年3月卒業)



創立50周年記念パーティーにて、秋月先生夫人をかこんで



# 「音楽部にもこんな時代がありました」

音楽部26回 関根 康弘

我々が音楽部で活動していたのは、およそ四半世紀前のこととなります。

今でこそ、川高音楽部の名声は全国に知れ渡っていますが、おそらく50年の歴史の中で、我々の代が過ごした3年間は最も日の当たらない時だったのではないか、と思うのです。コンクールに出ても、すべて県予選どまり。県予選にさえ出ない年も。部員の数は減少の一途で、我々が3年生の時は、全部員を合わせても32名。まさに「風前の灯」状態。でも、だからこそ声を大にして言いたいのです。今の音楽部の隆盛は、我々があの時つぶさずにたすきをつないだからこそ存在するのである、と。

我々が1・2年の時の指導者は、秋月直胤先生でした。音楽室への通路を悠然と風格たっぷりに歩く姿、ギョロリと動く鋭い眼、振りながら指揮棒を華麗に飛ばすダイナミックな指揮…と、およそ高校生になりたての初々しい少年には近寄りたがたい芸術家肌の先生でした。でも、実はとても親しみやすい先生で、音楽のすばらしさとお酒の味(!)をしっかりと教えていただきました。

当時、定期演奏会は川女の音楽部と合同で行っていました。第1ステージが女声、第2ステージが男声、第3・4ステージが混声という具合です。当然、混声合唱の練習のため、双方が相手校に定期的に行き来していました。高校生で男声合唱と混声合唱を両方経験できたと言うこと(女子校の校舎内に大手を振って入れたこと?)は、とても幸せなことだったのではないかと思います。

我々が3年生になったときに、小高秀一先生がお見えになりました。今思えば、当時の小高先生はまだ30代の若かりし時だ

ったわけです(そうは見えなかったなどとは決して言いません)。当時、9人しかいなかった3年生と小高先生とで、これからの音楽部の進め方等について、市役所の食堂でコーヒーを飲みながら話をしたのを覚えています。小高先生には、その後も部員でお宅におじゃましてごちそうになるなど、公私にわたり面倒をみていただきました。

小高先生の指導は、一言で言うと懇切丁寧。我々がどんなにひどい演奏をしても、匙を投げずに根気よく教えてくださいました。いつも、よい歌い方・悪い歌い方を自分で示してくださるので、とてもわかりやすかったです。

さて、時は過ぎ、当時の紅顔の美少年たちも皆40を過ぎ、すっかり“おじさん”になってしまいました。今でも趣味で合唱を続けている者もいれば、すっかり遠ざかってしまった者もいます。しかし、音楽部で過ごした3年間で、それぞれの人生に大きな影響を与えたことは間違いありません。

50年はほんの通過点。これからも男声合唱の魅力にのめり込む若者が更に増殖するように、川高音楽部のますますの発展を願ってやみません。

(昭和52年3月卒業)

# 音楽部に通った3年間

音楽部27回 福田 紳一

私の川越高校3年間の思い出は、そのまま音楽部で過ごした3年間の思い出です。ちなみに一生懸命勉強した記憶はほとんどありません。何度か赤点をとったことをうっすらと憶えている程度です。しかし、音楽部に傾けたあの異常とも思える情熱は鮮烈に、鮮明に、私の脳裏に焼きついていきます。私にとってのあの3年間はまさに、川高ではなく“音楽部に通った”3年間だったように思うのです。

話が少し大袈裟になってしまいましたのでここでいくつか思い出を書いてみましょう。

## ☆入部の動機☆

ずばり先輩方の歌っている時の「顔」でした。クラブ見学の時に「雨の来る前」と「光よ音の流れよ」を聞き、男声四部のすばらしさと共に、なんとも楽しそうに、幸せそうに、そして、誇らしそうに歌う先輩方の顔（表情）を見て自分も仲間になりたい、と思いました。サッカー部に仮入部していましたが即、やめました。

## ☆酒☆

1年生の時、顧問であられた秋月先生は、土曜日、川女との混声合唱の練習が終ると帰りにビールをお飲みになるのが楽しみだった様です。ある時、先輩のSさんに誘われて、先生のカバン持ちをするふりをして赤ちょうちんまでついて行き、しこたまビールを飲ませていただきました。帰りはマジにフラフラでした。（今、こんな先生いる？）

## ☆パー練☆

当時パート練習をする時は、音楽室のピアノで1パート、残りの3パートは外にオルガンを持ち出して練習した。季節のいい時は気持ちいいが、真冬や真夏はかなりつら

かった様に思う。朝練も試験期間以外毎日やった。近くに住んでいるヤツほど遅刻するのがムカついた。

## ☆チャンカチャンカ☆

音楽部とは関係ないが、よく食べたのがチャンカチャンカの焼そばでした。太めんとソースの濃さのマッチングが絶妙で、よく探すとひき肉も入ってたっけ？

## ☆熱い涙☆

なんとも表現しようのない感動が、体の奥底から湧きあがり、熱い熱い涙がとめどもなく流れ出してきて止まらない。そんな経験を二度しました。一度目は1学年上の先輩の追い出し会。「雨」を歌っている時だったと思います。途中から泣けて泣けて歌えませんでした。二度目は私が部長だった3年生の時。前年から顧問になられた小高先生の御指導のもと、見事数年振りに朝日コンクールで埼玉代表となり関東大会に進んだ時でした。歌い終ると同時、いや曲の途中だったかもしれません。感動で体が震え、熱い涙が止まりませんでした。

人生で一番、多感な時期を音楽部で過ごすことができた幸せでした。音楽部よ。ありがとう！音楽部よ永遠なれ！ 合掌

（昭和53年3月卒業）

# 小高先生をお迎えして

音楽部27回 米丸 健一

自分たちが川越高校の音楽部にいた頃は、音楽室が校門の脇、すなわち図書館の下にあった一番最後の頃にあたるかと思います。朝クラブは8時から開始で、オルガンをくすの木の下に移動して、パート練習をやっていました。音楽室に下駄箱があったので、学校に来て、朝クラブをさぼって教室に直行などということは、考えられませんでした。しかし、自分が住んでいた入間市と川越市には時差があったようで、自分が8時と思って川越高校に着いても、川越市内の部員は、まだ川越高校に到着していないことが、よくありました。

自分たちの代は、1年生の時に秋月先生。2年生の時に小高先生をお迎えしました。秋月先生は、こよなくキリンビールを愛され、1年生の時に秋月先生が「ついてこい」と言われるので、同級生たちと先生についていったら、行き着いた先が居酒屋で、どぎまぎしたことを、今でも鮮明に覚えています。また、秋月先生は「大地讃頌」が非常に気に入っておられ、この曲を定期演奏会でやった時には、思い入れたっぷりに指揮をしていらっしゃいました。秋月先生は先ほどご紹介したように、非常にお酒を愛されましたが、たとえ酔った席での合唱でも、いい加減な演奏は決して許されませんでした。

この頃は、川越女子高校との合同演奏会をやっていましたが、川越高校の音楽部員の数が3学年合わせて、NHKコンクールの出場制限人数を満たすか満たさないか、すなわち30人を多少上回る程度の人数しかないところへ、川越女子高は70人近い人数の音楽部員がおり、混声合唱の声のバランスを取るために、ひたすら大声を出すことに努力した日々でした。

2年生で小高先生をお迎えして、新しい体制での練習となりました。2年生での定期演奏会では、私は浅井先生と共に、ピアノ伴奏の曲をいただいたのですが、自分のやらせていただいた曲が、「マイ・ウェイ」でした。この曲は当時の部長の伴さんが、ご自分でソロを歌うために、合唱の編曲にも携わり、演奏会にかけた曲でした。伴さんは3年生の夏休みに、予備校の夏期講習に行くついでに嘘をつかれて家を出て、そのまま川高の音楽室にこもって編曲をされたと聞いています。部員のやる気は、当時も非常に高いものがありました。

3年生では福田紳一君が部長で、浅井先生が学生指揮者でした。小高先生が指揮者となられて2年目でしたが、この頃川越高校の音楽部は、コンクールで関東大会に進んだことは、8年近くありませんでした。その年もどうせ駄目だろうと、あきらめの境地で発表を聞いていると、何と金賞、関東大会出場ということで、皆、大泣きして感激しました。現在の川越高校の活躍からすれば、取るに足りない成績ですが、それは自分たちにとっては、高校時代の、この上ない思い出となっています。

(昭和53年3月卒業)

## 「楠の根元から巣立った時」

音楽部28回 正木 一弘

私たちが入学した昭和51年は小高先生が川越高校に復任された時で、三年間音楽に限らずいろいろご指導いただいた一期生です。当時先生は34歳、親爺というにはまだ若いですが兄貴にしては既に輝き始めていて、毎日のように合唱団の指導に飛び回っていました。

1年生：

音楽系の部活ではブラバンが隆盛を極めていました。音楽部を選んだ動機は13人みなまちまちですが、三年前から川越女子高校との合同演奏会になっていたため「週2回は女子高生と歌えるんだぜ」という浅井先輩の殺し文句で心を決めた者もありました。意味のわからぬまま「混声の前に床が光る位に磨いておけ！」という命令に従っていた純情な頃です。長滞の夏合宿には数多くのOBが来て下さり、混声ポピュラーの編曲をお願いしていた荻久保先輩の姿もありました。バーベキューではあまり肉を食べた記憶がありません。

2年生：

一番思い出に残っている演奏は、2年生の朝日コンクールで「雪明りの路」から「梅ちゃん」と「雪夜」を歌って小高先生の指揮で初めて関東大会に選ばれたことです。高崎まで関越高速も上越新幹線もない頃なので、前日に川越線と高崎線を乗り継いで移動し、町はずれの旅館で雑魚寝した寝つかれない夜も楽しかったことです。吹雪がおさまった雪明りの中でpから重なり、受け継がれていく「静かな青い」という歌声とともに、部員の心の中に共通の景色が伝わっていったのではないのでしょうか。この一瞬が合唱の素晴らしさを今もって忘れ得ぬものにしました。

3年生：

五階建の校舎が完成するまでは旧図書館の下の視聴覚室が練習場で、楠の下に朝夕足踏みオルガンを運び出してパー練をするのが日課でした。現在の音楽室に移ったのは3年に進級する春です。2、3年合わせて20人ほどしかいないので、10回位づつ往復して楽譜やオルガンを運び上げました。まさに歴史と伝統の重みを身をもって感じたことになります。

この年から共通一次試験が始まり、定演は9月から7月に移しました。男声の組曲は「富士山」、混声は109名で「メサイア」より4曲と組曲「海の詩」です。定演を準備するために「企画構成」「PR」の各委員会に加え、技術の交流を目指して「パーマス会」も始めました。あんなにも毎日が充実していたのは、音楽が徐々に形になっていくのと同時に、人を恋うる気持ちも膨らませていたのですね。

しかし、定演の夜に女子が集まっている家の近くまで行っても「小夜曲」ひとつ歌えませんでした。結局、憧れは揃いも揃って実ることなく終わりました。私たちのラストソングは朝日コンクール県大会の「海の構図」の「神話の巨人」でした。でも、合唱の虫は冬眠しただけだったのかもしれませんが、11人のうち半数以上が大学や牧教会などで合唱を続けたのですから。

オルガンは姿を消し、楠の下の出会いから既に四半世紀になろうとしています。28期生は今も機会があると交流が続いています。

(昭和54年3月卒業)



# 人数を増やすこと

音楽部29回 柴田 励司

とにかく人数を増やすこと。これこそ29代が3年次になるにあたっての最大の課題であった。当時、高校合唱団の大型化が進み、コンクールにおいて上位入賞を望むのであれば、少なくとも50名以上の団体になる必要があった。そこで、昭和53年の年明けから、小高先生、ヤマさんこと副部長の山崎君、後に麻雀にはまる掛川君、色男の三谷君、実直な安田君、そして気配りの吉富君（当時私に手作りのかばんをプレゼントしてくれた。）、カーリーヘアーの学指揮遠藤君（実はやたらと女にもてた。）と、部長であった私（当時の通称は“もうさん”であった。）と“いかにして新入生をだまくらかして入部させるか”について策略を練った。

数度に及ぶ策略会議の結果、“刷り込み”、“親へのアピール”、“DM”、そして“川女の制服”といった当時としては少々やりすぎ(?)の方策が考案された。“刷り込み”と“親へのアピール”については、中学生とその親が入学願書を提出に来る日を調査し、当日、くすのきの下で待ち構えて“いざたて”であるとか“ウボーイ”といった威勢の良い歌を披露するものである。これにより、「川高→男声合唱」の刷り込みを試みた。また、当然親御さんに好評を博すために、さわやかかつ知的な趣を漂わせることに留意した。（ afroヘアーとピチピチパンツの三上くんが後方に並ぶことになったのはこのためだろう。）その後のフォローアップのために、合格者の自宅へ“祝合格！来たれ！男声合唱団へ”というDMを送った。（どのようにして合格者の住所を得たかについては、20年以上経った現在でも極秘である。）仕上げは“川女の制服”。当時は、川越女子高校音楽部との合同演奏会を行っていたので、週2回合同練習の機会があった。

そこで、当時の川女部長の若井さんに無理を言って、練習前にキャーキャー言いながら校内を練り歩いてもらった。

こうした策略に上手い具合に引っかかったのが31代の諸君である。（諸君、胸に手を当ててみたまえ。）結果として当初目標の50名を大きく上回って、一気に60数名の大所帯となった。当時60数名といったら、有数の大型合唱団であった。人数が多くなり、演奏の幅も広がったが、1年生が半分以上を占めていたために、声質が若くなったり、音程が不安定となり、結果としてコンクールなどでは芳しい成績を残すことができなかった。しかし、少なくともわれわれの次の代からの第?期黄金時代のきっかけづくりをしたという自負はある。

29代には、上記に紹介した数名のほかに、ベーこと増田（後に不良になる）、パンチパーマの須田（後に更生して推薦で立教に入る）、日本の農業を支える風貌の田中耕一、どうもどうもが口癖の浅野、ベースの要の阿部、いつも同じ顔の安藤、速攻帰宅の小久保、100円で秩父鉄道の構内を走った土肥など個性豊かな面々が揃っていた。我々は当時発足したばかりのOB合唱団（川越グリー）にも出入りし、まさに合唱漬けの高校生活を過ごした。実に良き思い出である。

（昭和55年3月卒業）

# 「音の流れ」

音楽部30回 金子 高広

私達第30代は、3年の人数は11名と少なかったものの、先代部長の柴田氏の発案によるダイレクト・メールでの新入部員の獲得策が功を奏し、部員数が64名まで急増し、強豪揃いの県内他校と比較しても遜色のない人数となった。

この年は第30回記念演奏会ということで、牧野先生の作曲による男声合唱の代表作4曲とNHK全国コンクールで金賞を受賞したときの課題曲「まがりかど」を取り上げた。「冬の夜更けに」と「春」の2曲を現役で演奏し、30数名のOBの方々を交えて「音楽部讃歌」と「フィナーレ・レクイエム」を演奏したわけであるが、100名近い人数で歌う男声合唱は身震いがするほどの迫力があり、まさに川高音楽部の30年の歴史を飾るにふさわしい感動的なステージとなったと思う。

また、コンクールについては、NHKでは優秀賞と県代表の座を逃したものの、朝日の県大会では念願の金賞を受賞することができた。自由曲として男声合唱用に編曲された「組曲～島よ」を2年連続で選曲し、必勝を期して臨んだことが好結果に繋がったものと考えている。

その後行われた関東大会では、上野の文化会館の晴舞台で演奏するという願ってもないチャンスに恵まれた。それまで、このように大きなステージで歌った経験のなかった私達はかなり緊張し、普段どおりの演奏ができたかどうかは不明だが、それでもあと3点で全国大会に手が届くという銀賞の第1位を獲得することができた。現在の音楽部の輝かしい実績からすれば、本当にとるに足らない結果だとは思いますが、第2期以降の黄金時代へ向けて着実な一歩が記せたのではないかと、勝手ではあるが密かに

思っているところである。

しかしながら、このように青春時代の素晴らしい思い出となった音楽部の活動を常に支えてくださったのは、言うまでもなく小高先生のご指導の力によるものであった。当時は川女と合同で演奏会を催しており、ほとんど毎日放課後に練習を行っていた。小高先生は、休むことなく本当に熱心にご指導くださり、音楽的にも人間的にも未熟な私達に、音楽の心や物事に真摯に取り組む姿勢を教えてくださいましたと思う。

今からちょうど20年前に、定期演奏会に先立って小高先生と副部長の阿部君と3人で牧野先生のご自宅にお邪魔し、記念演奏会のご報告をさせていただいたことがあった。牧野先生の奥様からいろいろな話を伺うことができたが、その時初めて牧野先生から小高先生に引き継がれた音楽に対する熱い情熱と川高音楽部の本当の意味での伝統を知ることができたような気がした。

最後となったが、記念すべき50周年を迎えた我が川高音楽部に、これからも大いなる川の流れのように音楽を愛する心（メンタル・ハーモニー）が受け継がれて行くことを心より祈念している。

(昭和56年3月卒業)

# 川高音楽部の歴史的転換期を担った学年

音楽部31回 柴崎 淳夫

私たちが川越高校新入生として音楽部に入った頃は、一時期の黄金時代の後低迷していた時代で、県のシード権ありませんでした。私たちの前には浦和女子高校が大きく立ちはだかり、全国的には、川越高校は全く知られていなかったと思います。事実、私自身山形大学の混声合唱団に所属し、その中には会津高校、福島高校、安積女子、山形西とそうそうたる全国区の卒業生がいましたが、川越高校音楽部でしたといっても誰も知りませんでした。

部活動としては、文化部の中では最も練習量の多い、まじめなクラブでしたし、週に一度川越女子高校と混声合唱の合同練習もあり、定期演奏会も合同で開催したりとなかなか楽しいものでしたが、このままではとてもコンクールに勝てないと感じた私たちが、川女との話し合いの結果、混声合唱をやめてそれぞれ単独で活動しようと決定。もちろん定期演奏会も単独開催するという川越高校音楽部の歴史的転換期を担った学年となった訳です。それからすぐに関東大会出場を果たし、県のシード権を獲得、以来全国大会の常連校となり今日に至っているという。結果から言えば大正解と言える一大決心と実行だったと思います。川女とのお別れは誰もが望んでいたことではなく、一部のわがままな熱血組が心を鬼にして、男声合唱を極めるために訴えかけ実現したものです。

その頃の部員の多くの者が合唱をやりたいがために早稲田グリーに入りたいとか慶應ワグネルに入りたいとか、およそ進学校とは思えないような理由で大学を目指したものです。今思えば、皆がいかにこのクラブに熱中し、いかに第二期黄金期を築きあげようと頑張っていたか、正に懐かしく、

まざまざとその運動部並の厳しくも楽しい練習風景がよみがえってきます。

そんな、受験勉強をそっちのけで川越高校音楽部第二期黄金時代への道を切り開いた音楽馬鹿達も、今ではそれぞれ違った道で社会人となり、お腹も出はじめ、そろそろいろいろな役職がついてきた頃でしょうか。その中でも、ある者はプロの指揮者となり、ある者は、音楽の会社の役員となり、そしてある者は、カラオケの達人となって今でも音楽を楽しんでいるようです。私自身、医療に従事しながら、地域ボランティア活動として、ミュージックスタッフを集め、老人ホームや保育園で音楽普及活動をしています。

私たちの学年は実績こそ関東大会銀賞でしたが、正に川越高校音楽部発展への激動の時代を歌い抜いた音楽猛者達の集まりであったと、密かに自負しています。

(昭和57年3月卒業)

## 3 2 回 の 思 い 出

音楽部32回 小林 正

32回の我々はいろいろな意味で過渡期を過ごしてきたように思います。

まず、最後の川越女子高校との合同演奏会となった、S 55年の第30回記念演奏会。押しくら饅頭状態で練習をしていた記憶があります。(女子高生に囲まれてだったら、続いていたんでしょうが…)

どちらも、人数が増えてきて、それぞれ単独で演奏会を開催できるようになってきたということで、発展的解消という経過だったと思います。

しかし、裏を返せば、K女以外の女子高と交歓会がやりたいという意図があったのではとも考えられます。

あと、ステージ上で突然人が倒れるという事件もありました。一人貧血で、演奏中にバタリと音がしたのですが、よく演奏が止まらずに最後まで歌ったとおもいます。

倒れるといえば、演奏会以外で、炎天下の中の競(強?)歩大会が、NHKで放送されたことが印象に残っています。といっても、日射病によって、救急車で運ばれた人が出たため、「進学校で日ごろの受験勉強から倒れた」といった内容でしたが。その中に、音楽部の3年生も含まれていました。余談ですが、翌年からコースが変更になりました。

コンクールですが、朝日コンクールで関東大会にて、4点差で次点に終わり悔しかったのと、予想以上の成績だったのと複雑な気持ちだったことを覚えています。ただ、まだ合唱をはじめて数ヶ月の我々1年生は、川高がうまいのか下手なのかもまだ、わかっていませんでしたが。

ただ、後にも先にもコンクールを東京文化会館で行ったというのではないことだと思います。今でこそ、良いホールは数ありますが、当時としては、最高のホールではなかったでしょうか。

さて、翌年の第31回の演奏会は、またまた大変な演奏会でした。

単独で開催する、我々にとってははじめての演奏会でしたので、みんな気合が入っており、かなりお金をかけて赤字がすごかった記憶が残ってます。なにせ、私は会計だったもので。ただ、これって会計の責任?で感じであり罪悪感はありませんで

したが。

一番お金をかけたのは、プログラムとポスターの印刷代でしたなー。

コンクールでは再び朝日コンクールで関東大会で、今度は1点差で、またまた次点という結果に今度は本当に悔しかった思い出です。

さて、我々も3年になり、最後の演奏会となりましたが、一番の印象は、当時川越市民会館が改装工事中で、演奏会中に、かなづちの音が鳴り響き、さらには塗装のシンナーのにおいが漂っていたことでしょうか。

シンナーのにおいに、最前列のお客さんの中には気分が悪くなって、途中で会場を出られた方もいたと聞きます。最後まで、「倒れる」ことにつきまといわれていたようです。

また、3ステージ目をポピュラーステージにしたのですが、舞台を変えるので時間がかかるため、その間お客さんを楽ませるためにとはじめたのが、2.5ステージと呼ばれるものでした。曲目は、「女声」3部の「蛍こい」で、3年生がファルセットで輪唱している間、2年生が蛍の格好でステージ上を飛んでいくという予定でしたが、あれはどうみても、ゴキブリでした。

コンクールでは、前々回4点差で次点、前回1点差で次点と来たからには、今度こそ全国大会と我々もOBの皆さんも期待を膨らませて臨んだのですが、結果は県大会で終了でした。(今現在、関東大会に進めなかった、最後の年となってしまっています。)

まあ、その分今の現役の人たちは、関東に行って当たり前のようになっていますが、我々の年代が土台となっていると、勝手に考えています。

その悔しさからでしょうか、現在も歌いつづけている人が、我々の前後の年代に多いような気がします。

そんな過渡期を過ごせた高校時代を、懐かしく思いながら、まだまだ60周年さらには100周年と、川越高校の音楽部が発展しつづけることを祈り、この辺で失礼させていただきます。

(昭和58年3月卒業)



# 「 1 7 」

音楽部33回 小島 達也

17歳のぼくはこんな文を載せていた。「青春のエネルギーに裏打ちされた情熱の限りに歌い上げた後の私たちはより大きな人間へと成長していることでしょう」

1983年7月23日の「第33回定期演奏会」のパンフレット。青臭さにへきえきしながら、思わず読みふけた。

髪がまだ黒い小高秀一先生が、口を大きく開けて指揮をしている。「川越高校のもう一つの歴史をささえて二十余年」と、「仙台屋」の広告がある。「3年生世論調査」で「好きな女子校」の1位は「松山女子」…。記憶の中の、音楽室の扉が開かれる。あの赤いじゅうたん。ぼろいオルガン。

ぼくらの姿も、浮かんできた。

トップの仲直樹が逆立ちしている。木村将広のでかい声が聞こえる。まじめそうだった坂本弘幸と高木敏和。「えーとですね」と、松本一宏が集金に乗り出す。セカンドで、学生指揮者の島田卓也は背筋を伸ばして指揮棒を振っていた。「伊藤つかさ命」だった小川正和。角田剛は、バリトン尾形武彦と相撲してテレビ台を壊した。バリトンの吉田道隆はクールだった。浅見均は頭を前後動させて歌っていた。佐野高志は「睡眠学習の鬼」だった。まだ硬派っぽかった佐村一久。無口だった津田谷公利。バスの清沢優は、びちびちのジーパンをはいていた。関根均は「ひょう均スマイル」を浮かべていた。

そして、ぼく。

私服の校風にあこがれて入学したころは、坊主頭だった。村育ちで、中学校の生徒数は1学年で50人。ものの見方からして狭かったと思う。何よりも音痴だった。

そんな田舎育ちの少年の、ものの見る目を開いてくれたのが、例えば全員大学入試

に失敗するほど気の合っていた、あの仲間たちだった。

ぼくらは、赤いじゅうたんの上で、コーヒー飲み放題の喫茶店で、夜遅くまで語り合った。何をそれほど話したかは、ほとんど覚えていない。それでも、笑いころげ、時には怒りをぶつけ合い、そうしてきずなを深めていったおかげで、ぼくの世界は広がった。あれから17年。定期演奏会の後で、ぼくは果たして「成長している」のだろうか。

あの3年間とおなじくらい密度の高い経験は、世の中に出てからもしている。高校生のころは、まだまだガキだったとも思う。

でも、いまのぼくの原型は、たぶんあの音楽室でつくられたのだ。

カラオケ以外では歌うこともなくなった。転勤を繰り返して、川越からも遠ざかった。それでも、ぼくを入れた17人が、いまでもあの音楽室で歌っているような気がする。

(昭和59年3月卒業)

# 「小高先生の教え」と「音楽部の伝統」が花開いた

音楽部34回 高橋 啓太

この度は、川越高校音楽部五十周年、おめでとうございます。また、OB会役員の方々の、日頃の活動に感謝し、厚く御礼申し上げます。

さて、当時を振り返りますと、一番の思い出としましては、NHKコンクルールの県大会優勝でしょうか。ちょうど、小高先生が指揮者として十年目に、初優勝できたと言っておられたのが印象に残っています。朝日コンクールでは関東大会止まりでしたが、翌年、後輩たちが全国大会初出場を果たしてくれ、まさに、小高先生の教えと、音楽部の伝統が、花開いた時期だったのではないかと思います。

また、定期演奏会の会場が、坂戸文化会館になってしまったのも、音楽部の歴史としては珍事でありました。なぜかと申しますと、前年度の三月、学校行事で三年生を送る会というのを市民会館で行った際、ゲストとして呼んだ、タレントの白井貴子さんのステージがありました。ステージはかなり盛り上がり、生徒もノリノリで、みんな近くで見たいということで前に集まり、中には椅子の上に乗って立ちあがっている者もいました。すると、ガタッと前列の椅子と床が同時に抜けてしまいました。もともと市民会館も老朽化していましたが、あれだけの人が集中してしまえば、無理ありません。学校行事であったため、高校としては、市民会館の使用を一年間自粛するということになったのでした。

今でもまだ、続いていると思いますが、四校合同演奏会と、送別演奏会を初めてやったのが私達の時でした。四校合同演奏会は、当時先輩方が六大学のグリークラブにたくさんおり、東京六大学合同演奏会を聞きに行った時の、あの人数の迫力と演奏に

感動し、私達もやってみたいと思いました。たまたま、中学時代の友人が松山高校にいて、話をしたところ、やろうということになり、小高先生にご協力をいただき、無事第一回目を開催することができました。

送別演奏会は、ステージ好きのみんなが、久々にNHKコンクールに優勝したことだし、最後にもう一度演奏会もしたいし、まだやったこと無いみたいだしということで、これも無理を言って小高先生にお願いし、ご協力いただきました。

NHKコンクール県大会優勝、朝日コンクール関東大会出場、坂戸文化会館での定期演奏会、第一回四校合同演奏会、第一回送別演奏会、そして、数々の女子校との交歓会と、私達にとってはかなり充実した音楽部生活を送らせていただいたと思います。本当に小高先生のご指導とご協力に感謝いたします。

五十周年を迎え、川越高校音楽部のますますの発展を願い、これからもOBとして応援させていただきます。

(昭和60年3月卒業)

## 勢いの第35回

音楽部35回 園山 実

自他共に認める空前絶後の外れ年、音楽性の欠如という致命的な宿命を持つ我々35回卒業生が川越高校音楽部に残せたもの、それは予想もしない朝日コンクール全国大会初出場であった。その理由を幸運としか表現できないことが我々のそもそもの実力のなさを象徴していることは確かであるが、諸先輩方が一年一年蓄えて来られた「位置エネルギー」に我々に潜在的に存在していた「勢い」が相まって、あの青学ホールの高い壁を超えることができたのだろうと解釈している。

我々の代には色々な壁を乗り越える正体不明の「勢い」があったように思う。

それを象徴していたのがまさに「勢い」だけの部員勧誘といえる。新入生名簿をベースに風潰しに勧誘をし、少しでも脈があれば「勢い」だけの話術で赤い絨毯の土俵に上らせる。あとは小高先生の横で発声させ「いいねいいね。よ～し、トップだ。」と横綱相撲で寄り切ってしまう。結果として、およそ50名(当初)にも上る36回部員を確保できたことはとりえのない我々にとって大きな自信となった。そして、何といても、その自慢すべき後輩達に後押しされて我々は大きくなった。

音楽部員としての3年間の出来事には枚挙に遑がない(→10大語り草参照)。定演、送別、四連、コンクール、合唱祭、合宿、交歓会、・・・等の行事を次々にこなしていく達成感は何ものにも代え難いものだったし、メンタルハーモニーの中で実感できる一体感は比類のない格別なものだった。そして、これらの行事もさることながら、共通の目的や喜びをもって仲間と過ごせた毎日には本当に楽しかったし、今なお我々の宝であり誇りであると断言できる。定期演

奏会のパンフレットに「我々は川越高校音楽部をこの上なく愛している。」と真っ直ぐな気持ちで記したことを鮮明に記憶している。そしてその気持ちは現在も少しも変わっていない。

最後になってしまったが、半人前の我々を一人の大人として扱って下さり、「勢い」だけがとりえの我々に自信を授け、合唱の喜びを教えて下さった小高秀一先生、我々の「勢い」を容認し、支えて続けて下さった諸先輩方や後輩の皆さんに心よりお礼を申し上げたい。

### ——第35代 10大語り草——

1. 朝日コンクール全国大会初出場(3年)
2. 定演超満員。立見続出会館激怒。(3年)
3. 文化祭学年ステージ「ぼろぼろ」。出だしが正しいI口を皆で睨む。(1年)
4. ソリスト歌詞間違え続出(ソロ邪魔も)
5. 勢いだけの勧誘。部員数100名突破。
6. 全員交歓会中毒も大所帯が足かせに。  
最後の触手を一女に伸ばすも断られる。
7. 長滞合宿。熊女交歓会中止の危機。学指揮は1階と2階で二度ピンタ。(3年)
8. セカンドテノール氷河期。MルとN瀬。
9. S水ファミレス食い逃げ事件。
10. K固定演で感極まりバック転。(2年)  
番外. 今更だけど、西日がアレ(って何)?  
(昭和61年3月卒業)

# 音楽部での思い出

音楽部38回 池田 哲哉

## 一、合唱曲との出会い

我々の代は、「ごびらっふの独白」との衝撃的な出会いに始まる。まだまだ、発声の基本も分からない一年生ではあったが、愛媛の全国大会の舞台に立つことができた。ただ、先輩の作るハーモニーについて精一杯歌うしかなかった。草野心平の詩の世界に入り込み、高嶋みどりの現代曲的な作風にふれ、我々はすっかり合唱の世界のとりこにされてしまった。先輩方が作り上げたあの高い完成度の演奏を目指し、われわれの三年間は始まった。

伴奏付の大曲はもちろんであるが、われわれはアカペラの曲を良く歌った。中でも多田武彦や、民謡も気に入ってよく歌っていた。黒人霊歌も人気が高かった。また大学の演奏はよく聞いた。早稲グリや慶応ワグネル、関学グリー、京産大などのテープを擦り切れるほど聞き込んだ。

こうして、多くの曲と出会い、三年間の最後にわれわれの代で最も記憶に残る曲を歌うことになる。新実徳英による「祈りの虹」の「ヒロシマにかける虹」である。三年生の朝日コンクールに向けて練習した曲である。当時三年生であったわれわれが格闘した美しい旋律は今でもふと口ずさむことがある。

## 二、人との出会い

三年間の活動を通し、いろいろな先生方と出会うことになった。まずはもちろん小高先生である。小高先生には一二年生で指導いただき、音楽の基礎とメンタルハーモニーの大切さを教えていただきました。その後三年生から浅井先生には、わがままな私達を辛抱よく指導をしていただきました。

合宿にわざわざいらっしゃった淀川工業

高校の高嶋先生の斬新な指導は思い出深い。また、荻久保先生自ら指導していただいた「季節へのまなざし」は忘れられない。ピアノの鋭い弾き方が印象に残っている。

そしてなによりよく思い出すのは、仲間達のチームワークが良かったことである。それぞれの役職をみなが少しでもいい方向になるように、率先して役割を果たしていた。そして仲のよかった先輩や後輩。私にとって、人と信頼関係を結ぶ重要性はここで教わったような気がする。

すでに遠い過去となってしまった三年間であるが、音楽の世界に純粋にひたっていたこの三年間。心の中に暖かい思いとともに今でも息づいている。

(平成元年3月卒業)

# 勧誘してくれた先輩方、有難う

音楽部39回 小野 和彦

「女子校と交歓会、全国大会はタダ旅行、有名校進学」それは嘘ではなかった。それぞれ実現に1年、3年、4年の歳月を要したけれど。中でも3年目の全国大会出場は、カラスの鳴き声を聴く度に思い出す。後輩諸君の人的資源に助けられたのだ。勧誘されてくれた後輩よ、有難う。

その他の断片的な思い出を以下に記す。

一年生の関東大会の審査発表直前に「勝利の王座」と応援歌を歌った拳句、金賞を取れず涙した事。この時ピアノの細野先生が「伴奏が乱れたせいで」と我々のお包みした僅かな謝礼を拒絶された。その己への厳しさに受けた衝撃。その日もピアノは素晴らしかった事を書き残したい。

小高先生。お顔を思い出せば耳の奥でハーモニーの倍音が聞こえる。「ドイツでトイレに入ったら小便器に俺の足が届かない。彼らは体が大きくて鼻腔もでかい」「輝く埼玉だろ。臭い玉に聞こえるぞ」的確な指摘を受けて我々の雄叫びが芸術に変わる瞬間を実感した。退部者が出た日の練習の後の言葉「部活は友達がいれば3年間続けられるんです。彼には友達がいらない様だった。いいか、残った者は皆仲良くしろ、一人もやめるな」多忙でも生徒を良く見ていた。

浅井先生御夫妻からは「謙虚で心の広い浅井先生を心から尊敬する気持ちがないと良い音楽はできません」と書かれた手紙を頂いた。今でも宝物として保存している。

暖かき理解者、国語の関口先生、化学の青木先生。発声指導の青柳さん、産休を取られたピアノの藤田先生も懐かしい。

牧野美紀子先生(統先生ご令嬢)がNHKのTV録画の伴奏を弾いてくれた。その音楽性と美貌は我々の憧れだった。

毎年恒例の豆まき大会に本物の鬼が出現

した事件。5階からまいた豆が車に当たった事に怒り狂った定時制のお兄さんが怒鳴り込んできた時は肝を冷やした。

夏合宿で先輩の怪談のあまりの恐さに笑い転げてガラスを割った事件。

詳細は秘密だが音楽室で野球をして柱の鏡を割った事件。球は丸めた雑巾だったが鏡の止め金に命中したのだ。下に座っていた男の頭の上に鏡が倒れてきて真っ二つに割れた時のスロー映像が脳裏に残る。こっそり鏡を買いに行った店の大きなチャウチャウ犬は今頃どうしているだろうか。

音楽室の壁に卒業記念品の時計を残した。打球が当たらなければあそこにあるだろう。

まだ見ぬ後輩よ、お願いだ。時計は壊しても良いが怪我はしないで欲しい。お互い仲良く、音楽部をやめないで欲しい。

(平成2年3月卒業)



## 蛙達と共に…

音楽部40回 松枝 治

私たちがあの赤絨毯の敷き詰められた池にいたのは、今からちょうど10年前。現在はある程度の年齢を重ねて、あの頃の蛙達はそれぞれ違った道を歩んできたことと思います。ある時は天にも上るような嬉しさ、楽しさに包まれたり、ある時はとてつもなく落ち込んだりしたり…。形はどうあれ、それぞれの道を切り拓いてきたことでしょう。

しかし、いつも考えていることなのですが、何年間か一緒に歌を通して語り合ってきたものは、それぞれに（少なくとも自分の中には）一つの財産として残っているのではないのでしょうか。

では、その「一つの財産」とは何か。このような問いは、本来、それぞれが考えていくべきものであり、それに答えを出そうとすること自体ナンセンスだと思うのですが、今までの“道程”を見つめなおすきっかけとして考えたいと思います。

私は、“池”においては一応(?)部長としての役職についておりました。ちょうどその時期「伝統的なものにとらわれず自分たちの考えを出して活動をしていこう」という話が蛙達の中で出ており、私も基本的にはその意見に賛成だったので、その考えの下、部長職をこなそうとしました。

しかし（言い訳をするつもりではないのですが）その頃、蛙の数は100匹あまり。同じ春に生まれた蛙だけでも56匹おりました。今考えるだけでもぞっとしますが、皆が皆個性的であり、定演の第4ステージで歌った「ごびらっふの独白」を決めるのも大変な思いをし、まとめようとしてもまとまらず、あまり職務をこなしたとは思っていません。

もっとも、そういう個性的な仲間と真剣に話し合い、そして何も無いところからも

のを作り上げるということはすばらしい事ではないでしょうか。これらを通して、個人差（個蛙差?）はありますが、自分で考える力、精神的なたくましさ、人への思いやり等、自分たちに残っていったと思います。

よく、私のクラスの友達に「音楽部ってさ、いつも部活のはじめに蛙の真似しているでしょう。何で?」と聞いていました。多分、その蛙の声は腹張りの声ではないでしょうか。今考えると誠に微笑ましく思います。なぜなら、尻の青い蛙がまるで、まだ見たこともない大海原について一生懸命“ばらあ ばらあ”って、話している感じがしませんか?

今再び、故北川君の冥福を祈ると共に音楽部の繁栄を祈って、あの言葉をささげたいと思います。

(平成3年3月卒業)

# 「すべては私の実力なのだが」

音楽部41回 小沢 学

第41代の執筆を担当するのは、バリトン出身、元やるきなしお軍団団長のオザワガクです。当時は反執行部グループの求心力として、朝連に行かなかったり、練習中にみどりやに行ったりと、日夜部内の結束に一役買っておりました。そんな私の最強の敵はモチロン音楽部顧問の某A先生でした。就任2年目の某A先生は、私達の代が初担任で、1年生のとき運悪く（良く？）私の担任となったのでした。部活を私用（遊びともいう）でサボると翌日のHRで「オザワ君、昨日はどうしたの？先生待ってたよ。」と先制攻撃。「いやあ、母が交通事故に遭ったという連絡があって…」と反撃。おかげでウチの家族は何度も死にかけたことになってます。私は2年生から担任は某A先生ではなくなりましたが、こんなバトルは某A先生担任のクラスでは繰り返されていたことでしょう。

さて当時の自慢に移りましょう。実は41代は黄金世代と呼ばれています。ま、呼んでいるのは私だけですが。それは3年連続全国大会出場という記録からです。それも1年：福岡、2年：札幌、3年：岡山、と南から北までを旅行できてしまったわけです。旅行代なしかつ「遠征費」という名のお小遣い付きでウハウハでした。OBのみなさま、たくさん寄付どうもありがとうございます。おかげで明太子と札幌ラーメンを食べることが出来ました。まあ、全国出場も私がムードメーカーとして部内をまとめたからできたわけではありますが。ハハハ。

そんな41代の現在ですが、人数が20人強と少ないことも幸いしてか、年数回の飲み会と毎年恒例のスキーツアーが続いています。スキーツアーはなんと来年が10回目と

いったいつまで続くのだろうかという感じですが。今年2000年には遅れ馳せながら41代初の結婚式が行われ、その式の余興として久しぶりに皆で校歌や「遥かな友に」を合唱をしました。現在でも合唱を続けている人が数名いるおかげで、なんとかサマにはなった。まあすべては私の実力なのだが、たまには謙遜して他の人も立てないとね。来年は新たに2人が結婚の予定をしており、即席合唱団の仕事も増えそうな気配。ほどほどにやりましょう。

また、最近では41代のホームページを開設し運営しております。コンテンツのメインはスキーや飲み会のイベントの写真など内輪なものですが、この他にもこだわりの川越リンク集や、「川高校歌」や「奮え友よ」が携帯電話の着メロとしてダウンロードできるコンテンツも用意しています。これからもどんどん内容を充実させていく予定なので、興味のある方は是非一度訪れてみてください。URLは以下の通りです。

KGC41 Home Page <http://www.amy.hiho.ne.jp/hugo/>

(平成4年3月卒業)

## 音楽部生活を通して…

音楽部43回 小林 正俊

高校生活においての音楽部員としての活動は、私たちに永久的で大変に貴重な数々の経験を積ませてくれるものでした。入部の時に既に一個人の責任のもとに「ある団体への所属を決定する」という選択をすることで、青年から大人になるための必要な意識の芽生えを感じ、それをきっかけに部活動を含む高校生活の中で「自分自身」を知ることになります。言うまでもなく、本校は男子校のために、私は入学当初から様々なことに臆していました。それは、男性だけで行動することで生まれて来るのであろう暗い歪みに自分が飲み込まれてしまうのでは、というものでした。勿論、その反面様々な期待も持っていましたが…。ですが、「住めば都」とは誰が言ったのか非常に名言でありまして、物事のプラス・マイナスがたとえあろうとも、それがよいバランスを保てば美しいハーモニーを奏でるのだということをその後の高校生活を通して知ることができました。物事のプラス・マイナスと先程言いましたが、それは各人の視点によって変わるものであると思います。それで、私にとって特にそれを感じたのは、部の問題や議論について話し合いの場を持ったときに交わされる各人の意見にでした。私たちは当時の顧問であった浅井先生を中心として幾度も話し合いの場を持ちましたが、そこで自分の意見と他人の意見を交換、拒絶、そして同意することで、自分の大切さ、そして同時に他人の大切さをも知り得ることができていたのだと思います。これらの経験は現在でも非常に役立っていると感じます。

私たちの代は、一年次に勧誘されるときに「全員レギュラーで全国大会に行ける」と言われ、その言葉に心躍らせて入部を決

めた者も多かったと思います。実際、入部当初からその大きな舞台があったからこそ、それからの音楽部生活並びに高校生活が活気あるものになっていったことは間違いありません。先輩方の必死のご指導、激励にこちらも必死に応えようとし、それらの先輩方の「教え」がいざ自分たちが「先輩」となった時に、どれだけ参考になったことか…。今思えばその「教え」は我らが川越高校音楽部が築かれてから代々受け継がれてきたものなのだ、と思うと感慨無量であります。

私たちの代は二年次を除く計2回、朝日コンクールの全国大会の舞台に立ちました。例年の如く、三年次の定演を最後に活動の場を離れた仲間もいましたが、皆それぞれに頑張っていたのだと思います。全国大会等の俗に言う「遠征」では、自分たちのあまり知らない場所で演奏するわけで、大きな期待と不安を持つことで、得られたものが数多くありました。学校の中だけでは積むことのできない経験を得、貴重な体験をすることで視野も広がり、また、全国各地から集まってくる同胞達から刺激を受け、更なる練習を重ね、合唱という音楽の追究に邁進する毎日を送りました。本当に二度とない青春でした。

(平成6年3月卒業)

## 「8年前の3年間」

音楽部44回 五十嵐 良

さて、この度44代としての原稿を何故か任されてしまうことになったのであるが…私としては少なからずギモンを持っているのである。恐らく同期の他のメンバーも同じなのではないだろうか？

私は在学中、一介の楽譜係に過ぎなかった人物。フツーこういう文章は「代表」とも言える部長・副部長、もしくは学指揮に任せた方が相応しいのではないのだろうか？

何故、私なのか？

答えは「他に連絡の取れる適当な人物がいなかったから」という至極単純な理由によるものであったりするのだ。

なるほど、そうでもなければ私なんぞにこんな重要な文書の作成依頼など来ないだろう。しかし、せっかくの機会である。何かそれなりの物を書いてみたいのだが、さて何を書いたものか…。

現在はどうなっているのかは分からないが、音楽部への入部は以下のような方式で行われていた。まず入学直後の右も左も分からない私達は「コーヒー飲まない？紅茶もあるよ？」などとのたまう「お兄さん」(複数)に取り囲まれ、半ば強引に音楽室へ。確かにコーヒーなど頂くのだが、その後「じゃあ、この紙にクラスと名前と住所書いてよ」などと言われ署名。実質的にこの時点で入部が決まってしまうのであった。今にして思えばナンパ(男相手にこの表現でいいものだろうか)と悪質なキャッチセールスを融合させたような手法である。このようにして集められた人間が、全国大会に出場したりしてしまうのであるから世の中というのは分からないものだ。

ここで私達の代の簡単な成果を記してみたい。

我々の最初のステージとなったのは42回定演、1992年の7月19日である(覚えてないのでパンフレット参照)。コンクールとしてはNHKコンクールが8月にあった。結果

は県大会銀賞。

10月には全日本合唱コンクール関東大会(高崎)も銀賞。この年は全国大会に出場が出来ない年だったのである。12月には今成小学校でのファミリーコンサート。トイレが低く用を足すのにかなりキツイ体勢になったのを今でも覚えているから妙だ。

新年度に入ると新入生の「勧誘」。マニュアルがある事を始めて知った人も多かったのでは。

43回の定演は7月25日であった。8月のNコンは再び県大会銀賞。9月には合唱コンクール関東金賞。11月には全国大会(大阪)にて銀賞を獲得した。しかし残念ながら私達が全国に出場できたのはこれが最初で最後であった。12月、山田小ファミコン。

最終年の定演は7月24日。9月25日の合唱コンクール(浦和)が県大会銀賞で、私達の基本的な活動はこの時点で終了した。

最後のステージとなったのは1995年3月26日の送別演奏会である。

この時点以降、合唱を続けている者、そうでない者(因みに私は後者)と思われるのだけれど、何はともあれ「一つのことにあれほど熱中(一部?)することができた」というのは多分に皆に共通しているのではなからうか？

もう「過去」の体験になりつつある音楽部での3年間であったが、私には不思議と嫌な体験は戻って来ない。丁度社会人に成りつつある私達には消えかかり始めている出来事であるが、いつまでも良い思い出であり続けることだろうと思う。

それは良い仲間たちと人生の短くはあるが、一部を共有することができた喜びであるのかもしれない。

以上、日程・出来事を述べただけに終わってしまった誠に拙い文章を最後までお読み頂いたことに感謝して終わりにさせていただきます。

(平成7年3月卒業)

# 私達の全国大会

音楽部46回 永田 憲司

私達46代にとって最も忘れられない思い出といえば、やはり3年生の時に京都で行なわれた朝日コンクールでの全国大会である。このコンクールで私達は、課題曲の「ぼろぼろなダチョウ」、自由曲の「アイヌのウポポ」から「くじら祭り」「イヨマンテ」「リムセ」を歌った。

1年、2年と、2年続けて全国大会への切符を逃してしまった私達にとって、この3年生の時の全国大会の位置付けは特別なものであった。

もちろん、コンクールで勝ち進むことだけが私達の目的ではない。しかし、1年生の時から先輩方から全国大会での話を聞かされてきていた私達には「全国」という2文字には憧れであって、このステージで歌うことは悲願であった。だから、例年は3年生の7月の定期演奏会で何人かの人が引退してしまうにもかかわらず、私達の代は20人中19人の3年生がコンクール迄残ることになった。

「万全の体制」で臨んだコンクールであったが、現実はなかなか厳しかった。県大会はなんとか通過したものの、関東大会出場校6校のうち5位だった。この頃までの歌のレベルは定演の頃と比べて、それほど飛躍的には上達していなかったようだ。みんなの意識もそれほどは高くなっていなかった。「このままじゃいけない！」私達は急に焦りを感じるようになった。

関東大会が近づくにつれて、緊張感が高まり、練習の雰囲気はだんだん変わっていった。「やらされている音楽」ではなく、「自分達でつくる音楽」へと、はっきりと変わっていったのである。それと共に合唱のレベルも着実に上がっていった。

水戸で行なわれた関東大会当日、私達の

緊張は最高潮になった。ひょっとしたら今日が最後になってしまうかもしれない、そう思うといつにもなく落ち着かない気持ちだった。いよいよ私達の番になった。浅井先生の指揮の下、ピアノの伴奏が始まった。「なーにがおもしろくて、ダチョウを飼うのだ」

最初のフレーズにとにかく思いを込めた。あとはひたすら歌うのみだった。結果のことは何も考えなかった。とにかく自分達のすべての力をを出し切ろう、それだけだった。結果はあとからついてくるものなのだから。

演奏が終わって成績発表の時はまさに祈るような気持ちだった。

「川越高校、全国大会出場」と言われた時には皆で涙を流して抱き合った。「全国に行けるんだ!!」

10月26日の全国大会では、「全国」という大きな場で歌うことに対する緊張はあったが、関東の時とは違ってリラックスして歌えた。何よりも自分達の音楽を聴かせることができた。それで満足だった。

私達46代は、途中でやめた人が多かったり、総務の人が途中で変わってしまったりと、たくさんの困難を乗り越えてきた。そして、最後のコンクールをみんながひとつになって取り組むことができた。だから、今でも他の代にはないほど強い絆で結ばれている。これから先、いつまでもこの友情は守っていきたい。

(平成9年3月卒業)

## 「記念誌座談会」

音楽部47回 三吉 圭介

2000年5月21日、都内某所。記念誌に名を残すべく、高原、鈴木、松崎、永吉、平田、三吉の6名が集まり、座談会を行った。

永：僕さ、音楽室の指揮棒、遊んでて折っちゃったんだよね。

高：だから1本だけ短かったのか。

平：あったあった。何も言わなかったけど。

松：音楽部に入ってビックリしたことは？

高：やっぱ有理の自己紹介かな。

三：上祐。超時事ネタだったよね。

平：あれには度肝を抜かれたね。

鈴：卒業旅行の写真あるよ。あっ、二人乗り自転車だ。

高：これ、パンクしたやつだよね。この時はまだご機嫌だったけどね。

平：カーリングやった時、高野メチャメチャ燃えてたよね。

鈴：石川だけカメラ目線だよ。たしかさ、夜に「ソルトレーク出よう計画」とか立てなかった？

永：「まだ今なら競争率高くないからさあ、カーリングなら行けるよ」とか言ってるね。

平：でもその後部屋帰ってテレビつけたらメチャクチャうまくてさ、「やべえカーリングなめてたよ！」ってなったんだよね。

鈴：なんかさ、裏事件いろいろあったよね。

平：麻雀犯人総検挙事件とかね。

高：次の日行ったらなんか険悪なんかもん。

平：でもさ、指揮台を麻雀台に使ったの見つからなかったんだよね。

鈴：指揮台って音はしないし、滑りはいいし、大きさもちょうどだったよね。

平：成木君の小話集。音楽部に確固たる地位を築いたよ

永：成木君って役職なんだっけ？

三：小話・・・。

鈴：京都の嵐山でさ、ボートウォーリア結成したよね。二群に分かれてさ。

平：くっだらねえことやってたよなあ。

平：ワントンの中にクープ入れたのは？

鈴：「吐いた」って言われてマジ困った。

高：でもあれウソだったんだよね。

三：うん。

鈴：チョットまった！！やべ〜だまされた！

高：しかも、怪しまれないように、ズボンをジャージに穿きかえる芸の細かさ。

三：でもさ、結局音楽部で良かったよね。

皆：そうだね。

こうして座談会はお開きとなった。100周年、70才になっても、我々の繋がり変わらない。音楽部とはそういう存在なのだ。

(平成10年3月卒業)



# 48代を振り返って

音楽部48回 守谷 滋記

五〇周年を記念し、我々49代音楽部について書こうと思う。貴代と照らし合わせながら、我等が代の実態を楽しんで頂きたい。

1. 気質——我々の代には非常に個性派が多くいた一方で意見の多様性を容認する風潮もあったため、議論が活発であった。そのためか新しい試みが多く、良くも悪くも「前代未聞」と言われた。
2. 練習——練習時の集中力は、貴代に引けを取らないと思う。例えば、練習時に、先生から改めるべき点を指導され、その次に今度、そこまでしなくてもよいと指導されたこともよくあった。今思えば、練習以外の時の多様な性格や考えからは想像もつかないような、一体感あふれる練習こそが、我々をして3年間もの間音楽部に没頭せしめた、49代音楽部の真の魅力であったろう。
3. 定期演奏会——我々の代には、あるイベントに対して熱心に、一生懸命に努力する、というふうな、青春物語的に熱意をむき出しにすることをあまり好まない者が多くいた。そのため定演へ向けての練習が進んだ頃も、おそらく貴代と比べるとおとなしい雰囲気であったろう。しかし、皆それぞれにこの節目の演奏会を隠れて意識しており、私にはかえってそれが青春物語的に思えた。思い出深い話し合いがあったのもこの頃である。
4. 大会——前述した多様性の容認は、大会に臨む態度においてはあてはまらない。なぜなら、コンクールに対しては興味を示さない仲間は参加しないからである。我々の代では特にギャップが激しく、居残り練習の回数は倍増した。

一方でこの時期には、部活全体においての目標と、一人一人の目指すものとの同一化が、一種の快感を部内に生み出していたので、長時間の練習や、重要であるが単調である反復練習もあまり苦にはならなかった。我々がよい結果を手に入れることができたのは、他でもなくこの同一感・連帯感を創り得たからであろう。

5. 他校との交流——我々が入部した時には既に音楽部の、埼玉県における盟主的地位は確立しており、五連（四連）が行われていた。しかし、我々の代は他校をぐいぐい引っ張っていくことにもあまり関心を示さず、「五連脱退論」まで飛び出した。他方では各女子校との交流においても表面的な使節の交換に留まった。これは音楽部の強豪化に伴う排他的集団化、あるいは主要な目的以外に対する無関心化の影響を受けて起こった。我々の代の欠点と言えるだろう。

現部員は参考にしてほしい。

以上48代の特徴を挙げてみた。貴代と比べてどうだったであろうか。私は、我々の代のなしたことを愛しており、また誇りに思っている。これからも、人にかけてえのない感動や、経験を与えるだろう埼玉県立川越高等学校音楽部の末永い活躍を信じつつペンを置く。

(平成11年3月卒業)

# 「宮寺先生とのたのしかった1年」

音楽部49回 伊藤 貴史

私達49代は3年にあがると、宮寺先生を新たな顧問としてお迎えすることになりました。それまでの浅井先生に負けるとも劣らずのギャグのセンスに私達はある種の寒気と親近感を覚えたものでした。

こうして始まった私達の最後の音楽部生活は苦勞の絶えない日々ばかり。音楽部の部員は基本的にワガママなのにそれに宮寺先生のワガママまでこられたからたまったものではありません。1学期は部員の間での議論が絶えまもなく続きました。

ただこのよう状況の中で音楽部がうまく機能していたのは、宮寺先生のレッスンと3年生の仲の良さにほかならないからでした。

2時間という短い時間のなかでどうやって人を感動させる音楽を創りだしていくのかを宮寺先生は熱く私達に語りかけてくれました。3年生は持ち前の柔軟性でそれに応え、来る定期演奏会に向けて大きな飛躍を遂げたのです。

7月の定期演奏会は多田武彦の「富士山」、愛唱曲集、ポピュラーステージは「踊る大捜査船」、源田俊一郎編曲の「Man of La Mancha」を演奏しました。最後まで練習を重ね続けて迎えた当日は超満員のお客さんのなかで歌ったことを思い出します。大成功に終わった定期演奏会のアンケートには「感動しました」と書かれたものが多く、思い出深い1日になりました。

演奏会を終えると私達はコンクールに向けて活動を始めました。今年から3年生のコンクールを自由にすることに決定し不安を隠せないままNHKコンクールに臨むことになりました。結果は銅賞。このままではだめだと思った私達は朝日コンクールで歌う曲を例年以上の集中力で練習をこなし

ました。宮寺先生がコンクールを演奏会と思って歌うこととおっしゃって私達は開花し、その音楽は関東大会、全国大会で高く評価されました。

最後の送別演奏会も大きな拍手で大成功となりました。

この1年間は宮寺先生と出会い様々な活動を行うなかで先生とのコミュニケーションを深めた1年であると同時に音楽部自体にとっても意義深い1年だったと思います。

最後にこの1年間が音楽部の更なる発展になることを願い49代のページにしたいと思います。

(平成12年3月卒業)

# 音楽部から得たもの

音楽部50回 神庭 亮介

川越高校第50代音楽部の一員として過ごしてきた3年間を振り返ってみて、まず思うのが、諸活動を通して様々なものを得ることができた、ということである。音楽部に育ててもらった、といっても過言ではないかもしれない。それほど音楽部はたくさんの、そして大切なものを私に与えてくれた。

入部したての頃、右も左もわからず、ただただ先輩についてゆくのがやっとだった。それでも多くの演奏会をこなすうちに、徐々に部活にも慣れていった。そんな矢先の顧問交代。新旧のやり方の違いに当初は戸惑うこともしばしばであった。それが、幾度ものぶつかり合いを経て、互いを理解し、尊重し合えるようになった。2年生になってからは後輩ができた責任感から、音楽部の一員としての自覚が一層高まり、何もわからぬままがむしゃらにやってきた頃とは違い、明確な目的意識を持って部活に取り組めるようになった。中でも特に思い出深いのは、自分たちの手で一から作り上げた定期演奏会や努力の末に勝ち取った、全国大会3位入賞である。その上全国大会での好成績には、世界合唱オリンピック出場という予期せぬオマケもついてきた。今現在はこの新たな目標に向かい努力している真っ最中である。このように活動の範囲が拡大していく中でも、小中学校の招待演奏など草の根的な活動を並行していったことで、より広く川越高校音楽部を認知してもらうこともできた。

こういった活動を通して得られたもの。それは、努力することの大切さであり、団結することのすばらしさだった。中学生の頃は何か熱中する、ということが少なかった私も、川高音楽部でそれらのことを身

をもって学んだ。また、音楽部は私にとって第二の家のようなもので、そこでの友達は家族のような存在だった。気持ちが沈んでも部活に行くと晴れやかな気持ちになれたし、友達同士何でも言い合えた。部活に行っていたというより、友達に会いに行っていた、という方が正確かもしれない。一生つきあっていける友達ができたことは音楽部での一番の収穫になった。

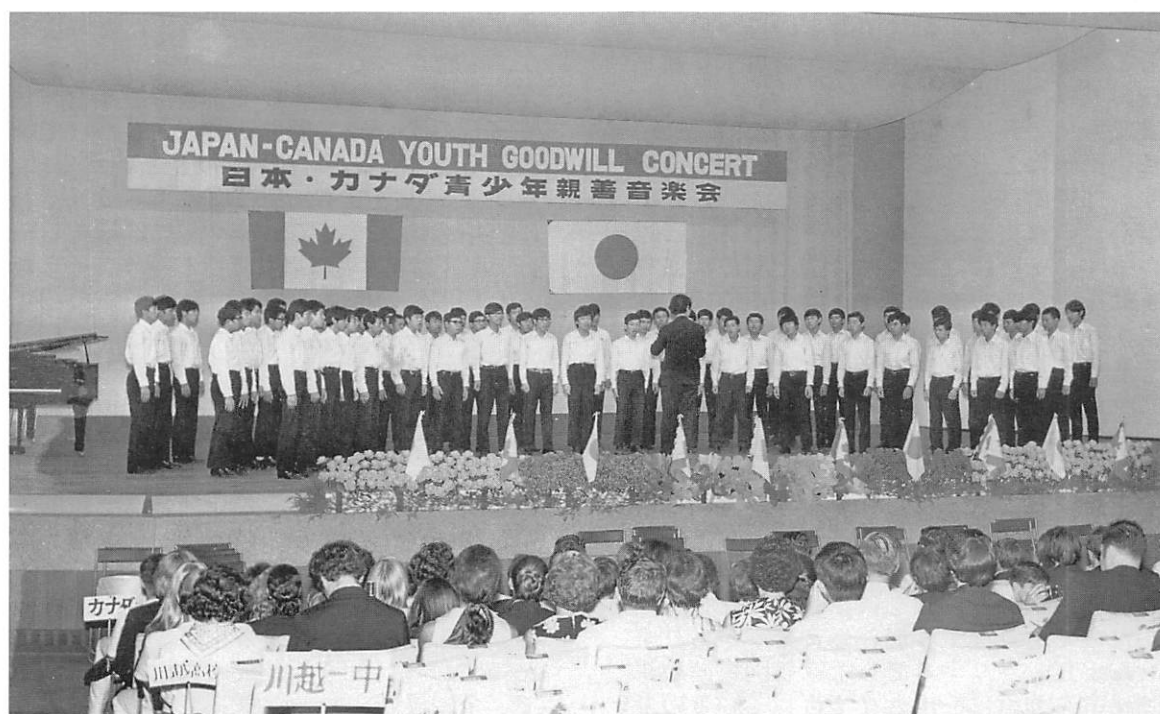
考えてみれば、川高音楽部にそれぞれが集まってきたこと自体が小さな偶然の積み重ねであり、それが一つのコーラスとしてハーモニーを奏でるということは、ある種奇跡とも言える。その意味で誰か一人が欠けても第50代音楽部ではあり得なかったし、途中でやめていった人達も含めて第50代だったように思う。

社会に出てから、一つの目標に向かって集団が一致団結して何かをやり遂げるといふ体験はまずできないだろう。だからこそ、音楽部での活動は非常に価値あるものだったし、青春時代の3年間を音楽部で過ごすことができたのは本当に幸せだった。

最後になるが、部長、副部長、学生指揮者をはじめ、パートマスターやマネージャー、PR、企画などの委員会、また音楽部を様々な面から支えてくださった顧問の先生や他多くの人達、そして音楽部の皆に心からの感謝の意を表し、結びたいと思う。

(平成13年3月卒業)

# 資料編



日本・カナダ青少年親善音楽会（昭和45年7月・川越市民会館）

# 合唱の可能性を追求して 昭和39年度NHK全国学校音楽コンクールを顧みて

音楽部初代指揮者 牧野 統

「清潔で、素直で高校生らしい演奏」

これが当日審査委員の批評の言葉の一端であります。もはや何も申し上げることはありません。それこそが私をはじめ、音楽部全員の目標とした音楽だったからであります。もしも、「にごっている。くせが多い。大人ぶった演奏」というような批評を一つでも頂いたら、一体どんな気持ちがしたでしょう。それだけに嬉しい言葉でありました。全国優勝の経過も、感想もすでにこれできていると思います。「しっかりした目標があれば、自然に方法が生まれ、それが自然に実を結ぶ」と思う。そんな考え方で、与えられた誌面に私の合唱に対する気持ちをできるだけ素直に述べてみたいと思います。

コンクール全国大会の結果が発表になった時、全国民の中には地図を拡げて、川越市を探された方が多かったのではないのでしょうか。川越芋、タンス。最近では働く人の「根っ子の家」などで知られていますが、漫才や落語でも埼玉県は田舎者の役で出てくることが多いようです。しかも男子普通高校の男声合唱が、日本一になったとなると、誰でもハテナと首をかしげたことでしょう。この奇蹟は、どうして起こったのか、分析すれば理由はいくつもあるでしょうが、川越高校の歴史と伝統もその一つであると思います。それは直接には音楽と関係はありません。むしろ関係がなさ過ぎる位であります。開校以来70年になる関東の名門校であることが、有形無形に生徒の気持ちに誇りを持たせ、それが責任感となって、学業も生活も清潔に真摯にという気風が生れ出ていることが、そのうれしい理由の一つでありましょう。ただ音楽教育の実績となると、私が19年前に札幌北高校から赴任して来るまでは、責任教師もなく、週に5、6時間の講師でお茶をにごしていた状態だったのであります。現在も音楽室がありません。ビックリするでしょう。図書館の視聴覚室を強引に転用させて貰っているのです。その状態になるまでにさえ8年かかったのです。その8年間にコンクールで県代表に連続3年を含めて4度、関東甲信越で2位に入ったこともあります。

その当時の校長さん（ユーモア溢れる良

い人）曰く「コーラスは良いなあ、設備がなくても実績が上がる」そんなわけで私の学校に参観にいらしても、お見せするものは何もありません。粘着的な結びつきの義しさだけが誇りなのです。現在音楽部員約60名、授業の音楽選択は全校1350名中約900名で、音楽愛好者の底辺の広さをたのしく思っています。

お昼休みのベルが鳴って10分たつと、もう、発声が始まっています。先生の方は目を白黒させて昼食をほおぼっています。（生徒は、いつお昼を食べるんでしょう）でもお昼休みに「全員集合」これがわが音楽部の数年来の合言葉なのです。名門校、即受験校の時世の悲しさで、放課後は、受験課外その他でなかなか全員が集まりきれない。「全員の集まらない合唱は無意味である」これが私の一貫した主張です。学校でクラブ組織を作り、クラブ活動を奨励しながら、事実上はその集合時間を与えられないという矛盾。皆さんは、どうお考えになりますか。したがって、お昼休みの25分が貴重な全員合唱になるわけです。もちろん放課後も毎日のように、集まり得る人数だけで練習をします。男声合唱の90名というのは、なかなか壮観です。学級増に伴って（それに実績も物を言って）年々部員は増える一方で来年は120名にはなるでしょう。そうなると練習場の広さ、椅子の数も頭痛の種です。本校の音楽部の特色、あるいは性格というものがあるとすれば、それはやっぱり、男声合唱団らしいおおらかさと、川越市という城下町の名門校らしい素直さ（これはある場合には無気力となってマイナスにもなります）でしょう。もしコンクール向きの合唱団？というものとすれば、本校はおおよそその正反対なのです。誇り得ることは私の着任以来、毎年定期演奏会を開き、1年間の勉強の成果を発表してきたことです。第14回を新装成った川越市民会館で、全国優勝記念と銘打って、開催できたことは誠に幸甚でした。

先生と生徒が本当に信頼しあって楽しい演奏をくりひろげ、私も四重唱の一員になったり、ソロやセリフも受け持ったり、時には女形までやられます。川越市では最

も人気のある年中行事で、賛助出演して頂いた団体も、東京混声合唱団、HG・メンネルコール等ずいぶん多数に上がります。

この演奏会が年間の最大目標なのですが、それと同時にコンクールに参加することによって、より広い視野に立ち、身の程を知る、ということを考えているわけです。コンクールもNHKや朝日などでかなり上位に入りながら全国大会へ出られないでおりましたが、この優勝は良い刺激となりました。

#### 私の合唱練習法

正直に言って私には独特の方法はありません。練習法というよりは練習態度なのですが、それは私の長い合唱生活から自然に会得したもので、理論的に整理もしていません。

「清潔で、素直で高校生らしい合唱」という言葉にもどりましょう。このたび多数の方々から「ハーモニーに特色があり、他の学校と異質な透明さを感じた」と言われました。清潔ということは、まずハーモニーの清潔さです。合唱といえば、発声々々と唱える人が多いようですが、ソリストが集って果して良い合唱ができるのでしょうか。しかも高校生90名に対し、いかに発声法を説いても、徹底的にそのメソッドを訓練できるのでしょうか。むしろ誤って受けとられることが多いのではないかと考えられます。それで私は根本的な問題を和音感におくのです。よくハモるという言葉を使います。(私は余り好きな言葉ではありません)だが本当にハモるといえるのはどういう状態なのでしょう。私は私の好きな和音の色にするのです。確信をもって、今、君達の作った和音が本当だ、と教えるのです。「ハーモニーすることが分る耳を作ることにより、声はその要求に従う」というのが私の主張です。

もちろんそのための発声練習はいたします。しかし、それはいわゆる声を作るというよりは、声の「くせ直し」です。作り声、気強り、いきもれ、などの不自然さをとり去ることで、自然なありふれた声をハーモニーさせるとでも申しませうか。それが本校の場合、線の弱い演奏になって表われて来ているかもしれません。しかしそれが素直で高校生らしいということにも結びつくのではないのでしょうか。結局クレシェンドとデェミヌエンドが不自然になる声はいけないと信じています。声のことを文章で書くことはわずかしく、また誤解も招きやすいと思いますが、「おたくのテノールは良いですねえ」などと再三言われますので、

一言のべさせて貰いますが、「自分でつかまえている声ではなくて、身体からはなれて遠方へのびやかに送られる声」とでも申しませうか。つまりそれが私の言うハーモニーする声なので、ボリュームばかり追求している、おっかぶせたブォーンという声は、絶対にハーモニーしないと信じています。

男子高校では、新入生の変声期の扱いもむずかしいことですが、夏休みをさかいに声の安定があることは、面白い現象で、何か医学的にも根拠があるのではないかと思います。夏休み中には約1週間の合宿(秩父の山の中の青年の家)をしたり、登校強化練習をしたりすることも関係あるかもしれません。群馬県妙義山でのひしや旅館で約1週間の合宿練習をしたことも何度かありました。

最後に私事を申し上げて恐縮ですが、私は17才で札幌の聖歌隊で合唱を始めてから丁度35年になります。(年齢が分ってしまいましたが)コーラスの指導をはじめからでも25年ですから、その間に一度位は優勝の栄誉にあずかっても良いわけだったな、などと考えています。現在も本校の他に川越牧声会(一般団体)を指導して16年になります。数年前埼玉大学合唱団を2年半程指導しました。教会音楽の洗礼を受けて育っただけにハーモニーにうるさくなり、高校以上の合唱団を扱うことによって合唱の可能性をより高度に信じられるようになった、とでも言えませうか。もともと私は声楽は不得手で下手な作曲をやっています。「若いおじさん」「未来の星」など、NHKコンクールの課題曲に入選した男といえば、なつかしく思い出して下さる方もおありだと思います。

このたびの入賞にたくさんの方々から祝電やらいろいろ頂きましたが、その中に川越市あるいは近郊の小中学校の先生方からのが大変たくさんありました。私の教え子で音楽学校へ進んだ方々が60人を越し、みなそれぞれ先生になっているわけです。つまり私の孫弟子をあずかって教育しているわけです。今度の入賞に伴奏してくれた本校専任音楽教師小高秀一君(現在狭山高校教諭)も本校卒業で私の教え子で大変頼もしく思っています。私はこれからも合唱の虫のように今の仕事をつづけて行くことでしよう。

全国の皆さん、より高い合唱の可能性を信じて、お互いに、励んで参りませう。

(「川越高校創立七〇周年記念誌」より)



# 朝日コンクール課題曲／自由曲

年度	年度	課題曲名	作詩者	訳詩者	作曲者
2000	平成12	ふるさと	室生犀星		磯部俣
1999	平成11	月	三木露風		佐藤眞
1998	平成10	ふるさとの（「風の八章」から）	赤木衛		池辺晋一郎
1997	平成9	海景色（「海」から）	北川冬彦		高田三郎
1996	平成8	ぼろぼろな駝鳥（「猛獣篇」から）	高村光太郎		佐藤敏直
1995	平成7	Come lietasi mostra どんなに 喜びを見せているか			Costanzo Festa
1994	平成6	たんぼぼ（「花に寄せて」から）	星野富弘		新実徳英
1993	平成5	O Domine Jesu Christe おお、主よ イエス・キリスト、善き牧者よ			Antoine Brumel
1992	平成4	海神（「ティオの夜の旅」から）	池澤夏樹		木下牧子
1991	平成3	An Webers Grabe (Am16.Dezember 1844) ウェーバーの墓前に			Richard Wagner
1990	平成2	パリンカ（「小譚詩」から）	藪田義雄		小山章三
1989	平成1	Pater noster 天にまします我等の父よ			Franz Liszt
1988	昭和63	心の渚	高見順		清水脩
1987	昭和62	Die Nacht 夜	Friedrich Wilhelm Krummacher		Franz Schubert
1986	昭和61	Pomorane ポメラニヤの人々	Frantisek Ladislau Celakovsky		Antonin Dvorak
1985	昭和60	秋の歌（「月下の一群第1集」から）	ポールヴェルレーヌ	堀口大學	南弘明
1984	昭和59	天のベンチ（「五つのラメント」から）	草野心平		廣瀬量平
1983	昭和58	白熊仔熊（「子供の国」から）	サトウ・ハチロー		平吉毅州
1982	昭和57	Der frohe Wandersmann 楽しい旅人の歌	Joseph von Eichendorff		Felix Mendelssohn
1981	昭和56	Die minnesanger 吟遊詩人	Robert Schumann		Heinrich Heine
1980	昭和55	枯木は太陽に祈る（「枯木と太陽の歌」から）	中田浩一郎		石井歓
1979	昭和54	落葉松	北原白秋		別宮貞雄
1978	昭和53	Mailed 五月の歌	Wolfgang von Goethe	中山知子	Hugo Wolf
1977	昭和52	春宵感懐	中原中也		大中恩
1976	昭和51	春（「季節と足跡」から）	北川冬彦		高田三郎
1975	昭和50	Cantate Domino 新しい歌を主のために歌え （出場せず）	ラサーン		Hans Leo Hassler
1974	昭和49				
1973	昭和48	Wasserfahrt 水面を渡る	Heinrich Heine	高田三九三	Felix Mendelssohn
1972	昭和47	小曲（「蛙の歌」から）	草野心平		南弘明
1971	昭和46	（課題曲なし）			
1970	昭和45	（課題曲なし）			
1969	昭和44	河童のうた（「河童のうた」から）	宮沢章二		湯山昭
1968	昭和43	いのち	小林金次郎		石河清
1967	昭和42	十三の砂山—津軽地方民謡—	民謡（津軽地方）		上柴茂
1966	昭和41	能登の大岩	宮沢章二		福井文彦
1965	昭和40	黎明の歌	武川寛海		石井歓
1964	昭和39	小さな街が流れて来た	以倉絃平		中村茂隆
1963	昭和38	夜明け	伊藤整		高田三郎
1962	昭和37	河童昇天	神保光太郎		石河清
1961	昭和36	波	奥野椰子夫		石河清
1960	昭和35	雨の来る前（「雨」から）	伊藤整		多田武彦
1959	昭和34	高原（「青い照明」から）	宮澤賢治		清水脩
1958	昭和33	月夜	小林知		平井康三郎
1957	昭和32	旅路	津川主一		Carl Friedrich Zoln
1956	昭和31	風（「季節と足音」から）	北川冬彦		高田三郎
1955	昭和30	船	猪狩満直		清水脩
1954	昭和29	家路の歌	武井つたひ		平井康三郎
1953	昭和28	海	富永恒雄		清水脩
1952	昭和27	野はうるわし	潮彰二		中村仁策
1951	昭和26	山の朝	潮彰二		中村仁策
1950	昭和25	秋の日ぐれ	近藤吐愁		平井保喜（康三郎）
1949	昭和24	悦ばしき逍遥の人 Derf rohe Wandersmann	飯田忠純		Felix Mendelssohn

年度	自由曲名	作詩者	訳詩者	作曲者	編曲者	指揮	伴奏
2000	Kyrie—曼珠沙華—/Dies irae—炎上—	宗左近ヲホ		荻久保和明		宮寺勇	永山陽祐
1999	愉快なシネカメラ「真夜中」から	清岡卓行		木下牧子		宮寺勇	永山陽祐/田尻桂
1998	バトンタッチのうた「遊星ひとつ」から	木島始		三善晃		浅井一郎	松井晴美/松崎康裕
1997	V o l g a 「五つのラメント」から	草野心平		廣瀬量平		浅井一郎	
1996	くじら祭り/イヨマンテ(熊祭り)/ リムセ(輪舞)「アイヌのウポポ」から	近藤鏡二郎採譜		清水脩		浅井一郎	神田耕二郎
1995	ティオの夜の旅	池澤夏樹		木下牧子		浅井一郎	石川大
1994	草「若人のうた」から	中沢昭二		佐藤眞		浅井一郎	浅井和代
1993	ヒロシマにかける虹「祈りの虹」から	津田定雄		新実徳英		浅井一郎	浅井和代
1992	鳥が「やさしい魚」から	川崎洋		新実徳英		浅井一郎	浅井和代
1991	Groria 「MESSE SOLENNELLE」から			Albert Duhaupas		浅井一郎	
1990	V o l g a 「五つのラメント」から	草野心平		廣瀬量平		浅井一郎	
1989	くじら祭り/イヨマンテ(熊祭り)/ リムセ(輪舞)「アイヌのウポポ」から	近藤鏡二郎採譜		清水脩		浅井一郎	浅井和代
1988	ヒロシマにかける虹「祈りの虹」から	津田定雄		新実徳英		浅井一郎	浅井和代
1987	ゆめみる「季節へのまなざし」から	伊藤海彦		荻久保和明		小高秀一	細野啓子
1986	ごびらっふの独白「青いメッセージ」から	草野心平		高嶋みどり		小高秀一	小川圭子
1985	さる「ことばあそびうたⅡ」から	谷川俊太郎		新実徳英		小高秀一	伊沢裕子
1984	野分/木乃伊「野分」から	井上靖		高田三郎		小高秀一	細野啓子
1983	流水のうた/光の讃歌「流水のうた」から	阿部保		湯山昭		小高秀一	細野啓子
1982	V o l g a 「五つのラメント」から	草野心平		廣瀬量平		小高秀一	
1981	ゆうやけの歌	川崎洋		湯山昭		小高秀一	沢田妙子
1980	島よⅢ・Ⅳ章	伊藤海彦		大中恩	福永陽一郎	小高秀一	野島万里子
1979	島よⅠ・Ⅳ章	伊藤海彦		大中恩	福永陽一郎	小高秀一	栗原万里子
1978	海と蝶/神話の巨人(「海の構図」から)	小林純一		中田喜直	福永陽一郎	小高秀一	栗原万里子
1977	梅ちゃん/雪夜(「雪明りの路」から)	伊藤整		多田武彦		小高秀一	
1976	月夜を歩く(「雪明かりの路」から)	伊藤整		多田武彦		小高秀一	
1975	雨の来る前/雨の日に見る/雨(「雨」から)	伊藤整/大木博夫/八木重吉		多田武彦		秋月直胤	
1974							
1973	引き念仏(「合唱のためのコンポジションⅢ」から)			間宮芳生		秋月直胤	
1972	普香天子(「青い照明」から)	宮沢賢治		清水脩		秋月直胤	
1971	冬の夜の木枯の合唱/枯木は太陽に祈る (「枯木と太陽の歌」から)	中田浩一郎		石井欽		牧野統	斉藤功司
1970	あしたまで/詩編98			パークス	平田甫	牧野統	
1969	亡霊(「蛙の歌」から)	草野心平		南弘明		牧野統	
1968	河童昇天	神保光太郎		石河清		牧野統	
1967	冬のセレナーデ	安田二郎		サンサーンス		牧野統	
1966	普香天子(「青い照明」から)	宮沢賢治		清水脩		牧野統	
1965	智恵子抄巻末のうた六首	高村光太郎		清水脩		牧野統	
1964	神こそわが牧者なれ(詩編23)			シューベルト	津川圭一	牧野統	
1963	狩の歌		東辰三	エマーソン		牧野統	
1962	新しき歌をエホバに向かいて歌え	平田甫				牧野統	
1961	波	奥野椰子夫		石河清		牧野統	
1960	雨の来る前(「雨」から)	伊藤整		多田武彦		牧野統	
1959	新しき歌をエホバに向かいて歌え	平田甫				牧野統	
1958	狩の歌		東辰三	L.O.Emerson		牧野統	
1957	月の夜		林英太郎	パークス		牧野統	
1956						牧野統	
1955						牧野統	
1954	村の踊り	不詳		オリオンコール		牧野統	
1953						牧野統	
1952						牧野統	
1951						牧野統	
1950						牧野統	
1949						牧野統	

# NHKコンクール課題曲／自由曲

年度	年度	課題曲名	作詩者	作曲者	編曲者
2000	平成12				
1999	平成11	この世の中にある	石垣りん	大熊崇子	
1998	平成10	また、あした	島田雅彦	三枝成彰	
1997	平成9	めばえ	みずかみかずよ	木下牧子	
1996	平成8	風を拓いて	村田さちこ	菅野由弘	
1995	平成7	生きる	谷川俊太郎	新実徳英	
1994	平成6	そして夜が明ける	なかにし礼	西村朗	
1993	平成5	遠く吹く風	県多乃梨子	黒澤吉徳	
1992	平成4	ありがとう	高野喜久雄	鈴木輝昭	
1991	平成3	聞こえる	岩間芳樹	新実徳英	
1990	平成2	この愛を	片岡輝	高嶋みどり	
1989	平成1	作品第肆「富士山」から	草野心平	多田武彦	
1988	昭和63	時代—飛び立つ鳥は—	阿久悠	佐藤眞	
1987	昭和62	巨木のうた	木島始	林光	
1986	昭和61	小曲「蛙の歌」から	草野心平	南弘明	
1985	昭和60	柳河「柳河風俗詩」から	北原白秋	多田武彦	
1984	昭和59	秋のピエロ「月光とピエロ」から	堀口大學	清水脩	
1983	昭和58	みぞれ	伊藤民枝	野田暉行	
1982	昭和57	水のうた	丸山豊	大中恩	
1981	昭和56	わが里程標	片岡輝	平吉毅州	
1980	昭和55	走る海	吉野弘	廣瀬量平	
1979	昭和54	冬・風蓮湖	岩間芳樹	高田三郎	
1978	昭和53	ひとつの朝	片岡輝	平吉毅州	
1977	昭和52	みえない樹	伊藤海彦	佐藤眞	
1976	昭和51	旅に出よう	吉原幸子	大中恩	
1975	昭和50	海はなかった	岩間芳樹	廣瀬量平	
1974	昭和49	ともしびを高くかかげて	岩谷時子	富田勲	
1973	昭和48	博物館の機関車	筒井敬介	池辺晋一郎	
1972	昭和47	開演のベルが	中山知子	末吉保雄	
1971	昭和46	ひとみのうた	木島始	三宅榛名	
1970	昭和45	赤い機関車	高田敏子	高木東六	
1969	昭和44	道	伊藤海彦	三善晃	
1968	昭和43	日本のみのり	中村千栄子	小山清茂	
1967	昭和42	さよなら	阪田寛夫	南弘明	
1966	昭和41	大いなる櫛の木に	野上彰	清水脩	
1965	昭和40	郷愁	丸山薫	磯部俣	
1964	昭和39	曲がりかど	竹内しげ	石川皓也	
1963	昭和38	白い雲	風間富美子	小林秀雄	
1962	昭和37	若き神々のうた	神保光太郎	山本弘	保科洋
1961	昭和36	海はこころ	丸山薫	三神道雄	清水脩
1960	昭和35	かもめに寄す	野田宇太郎	上元芳男	別宮貞雄
1959	昭和34	わが胸に	神保光太郎	浜本正孝	平井康三郎
1958	昭和33	未来は遙か	笹沢美明	雨宮伊之助	磯部俣
1957	昭和32	白き雲ゆく	藤原定	橋本喬雄	島岡譲
1956	昭和31	空遠く君はありとも	土岐善麿	渋谷禎三	柴田南雄
1955	昭和30	春秋の歌	大木惇夫	加藤義登	松本民之助
1954	昭和29	未来の星	丸山薫	牧野統	下総皖一
1953	昭和28	若い日の歌	勝承夫	石桁真礼生	
1952	昭和27	青春賛歌	神保光太郎	深井史郎	

年度	自由曲名	作詩者	訳詩者	作曲家	編曲者	指揮	伴奏
2000	(不出場)						
1999	たたら (踊輪)			三木稔		宮寺勇	
1998	弥生人よ きみらはどうして「ハレ-彗星独白」から	大岡 信		鈴木輝昭		浅井一郎	松本信彦
1997	柳河/紺屋のおろく「柳河風俗詩」から	北原白秋		多田武彦		浅井一郎	
1996	くじら祭り/リムセ (輪舞)「アイヌのウポポ」から					浅井一郎	鈴木有理
1995	ティオの夜の旅	池澤夏樹				浅井一郎	神田耕二郎
1994	OH MY SOLDIER「IN TERRA PAX」から	鶴見正夫		荻久保和明		浅井一郎	神田耕二郎
1993	月夜を歩く/白い障子「雪明りの路」から	伊藤整		多田武彦		浅井一郎	指田智宏
1992	鳥が	川崎洋		新実徳英		浅井一郎	
1991	感傷的な唄					浅井一郎	西澤裕美
1990	輪踊り「月下の一群」から		堀口大聖	南弘明		浅井一郎	石川大/西川竜太
1989	黄金の魚「クレーの絵本・第2集」から	谷川俊太郎		三善晃		浅井一郎	
1988	輪踊り「月下の一群・第3集」から		堀口大聖	南弘明		浅井一郎	藤田りえ子
1987	十月の薔薇「月下の一群・第2集」から	グールモン	堀口大聖	南弘明		小高秀一	谷口典亨
1986	光の讃歌「流水のうた」から					小高秀一	塚原理
1985	かきつばた/梅雨の晴れ間「柳河風俗詩」から	北原白秋		多田武彦		小高秀一	
1984	木乃伊「野分」から	井上靖		高田三郎		小高秀一	小暮孝明
1983	弦「ひたすらな道」から	高野喜久雄		高田三郎		小高秀一	小暮孝明
1982	風/夜明け	伊藤整/北川冬彦		高田三郎		小高秀一	加藤千恵子
1981	島よIV章	伊藤海彦		大中恩	福永陽一郎	小高秀一	
1980	川「水のいのち」から	高野喜久雄		高田三郎		小高秀一	臼木学
1979	そうらん節	熊本県民謡				小高秀一	
1978	作品第貳拾壹「富士山」から	草野心平		多田武彦		小高秀一	三上紀之
1977	河童昇天	神保光太郎		石河清		小高秀一	斉藤功司
1976	PSALM98				平田 甫	小高秀一	斉藤功司
1975	雨の来る前「雨」から	伊藤整		多田武彦		秋月直胤	斉藤功司
1974	巡礼の合唱			ワグナー		秋月直胤	斉藤功司
1973	みずいろの風よ「大手拓治の三つの歌」から					秋月直胤	
1972						秋月直胤	斉藤功司
1971						牧野統	斉藤功司
1970	両国「木下空太郎の詩」から	木下空太郎		多田武彦		牧野統	荻久保和明
1969	島原の子守歌	宮崎一章		宮崎一章	福永陽一郎	牧野統	荻久保和明
1968	月夜を歩く「雪明りの路」から	伊藤整		多田武彦		牧野統	
1967	最上川舟歌	山形県民謡			清水脩	牧野統	
1966	新しき歌をエホバに向かいて歌え			平田甫		牧野統	小高秀一
1965	河童昇天	神保光太郎		石河清		牧野統	小高秀一
1964	月の夜	林英太郎		パークス		牧野統	小高秀一
1963	月の歌					牧野統	小高秀一
1962						牧野統	
1961						牧野統	
1960						牧野統	
1959						牧野統	
1958						牧野統	
1957						牧野統	
1956						牧野統	
1955	ふるさと					牧野統	
1954						牧野統	
1953	水夫のセレナーデ					牧野統	
1952						牧野統	

## コンクールの結果

年度	年度	朝日コンクール 県大会結果	関東大会 結果	全国大会 結果	NHKコンクール 県大会結果	関東甲信越	全国大会
2000	平成12	シード賞	銀賞		(不出場)		
1999	平成11	金賞	金賞	金賞/岡山 県教育長賞	銅賞		
1998	平成10	シード賞	金賞	金賞	銀賞		
1997	平成9	シード賞	金賞	銀賞	銀賞		
1996	平成8	金賞	金賞	銀賞	銀賞		
1995	平成7	金賞/教育長賞	銀賞		銀賞		
1994	平成6	シード賞	金賞		銅賞		
1993	平成5	金賞/総合一位	金賞	銀賞	銀賞		
1992	平成4	シード賞	銀賞		銀賞		
1991	平成3	シード賞	シード賞	優良賞	銀賞		
1990	平成2	シード賞	金賞	金賞	銀賞		
1989	平成1	金賞/知事賞/教育長賞 文団連賞/総合一位	金賞	銀賞	銅賞		
1988	昭和63	金賞	銀賞		金賞	銀賞	
1987	昭和62	シード賞	銀賞		金賞	金賞	銀賞
1986	昭和61	シード賞	金賞	銀賞	優秀賞		
1985	昭和60	金賞	金賞	優良賞	優秀賞		
1984	昭和59	金賞	銅賞		最優秀賞		
1983	昭和58	金賞/牧野賞	銅賞		優秀賞		
1982	昭和57	銀賞			優秀賞		
1981	昭和56	金賞	銀賞		優良賞		
1980	昭和55	金賞	銀賞		優秀賞		
1979	昭和54	銅賞			優良賞		
1978	昭和53	銅賞/知事賞/教育長賞			優良賞		
1977	昭和52	金賞	優良賞		優秀賞		
1976	昭和51	優良賞			優良賞		
1975	昭和50	優秀賞/牧野賞			優良賞		
1974	昭和49	(不出場)					
1973	昭和48	優良賞			優秀賞		
1972	昭和47	長谷川賞					
1971	昭和46	優秀賞					
1970	昭和45	優秀賞					
1969	昭和44	優秀賞			県代表	3位	
1968	昭和43	最優秀賞	5位		県代表	最優秀賞	出場
1967	昭和42	最優秀賞			県代表		優良賞4位
1966	昭和41	3位			県代表		出場
1965	昭和40	優勝	4位		県代表		2位
1964	昭和39	2位			県代表		優勝
1963	昭和38	2位	2位		県代表	2位	
1962	昭和37	優勝	入賞				
1961	昭和36	優勝			県代表	4位	
1960	昭和35				3位		
1959	昭和34	優勝			2位		
1958	昭和33	優勝			県代表	3位	
1957	昭和32		男声一位		県代表	出場	
1956	昭和31		男声三位		2位		
1955	昭和30		(不出場)		県代表	2位	
1954	昭和29				県代表	2位	
1953	昭和28				県代表	出場	
1952	昭和27				2位		
1951	昭和26						
1950							

# 定期演奏会プログラム

年度	年度	回	ｽﾚ	ｽﾃｰｼﾞ	曲名 1	曲名 2	作詩	作曲	編曲
1952	昭和26	1	1	各学年合唱(三ｽﾃｰｼﾞ)					
1952	昭和26	1	2	音楽部合唱(二ｽﾃｰｼﾞ)					
1952	昭和26	1	3	重唱・四重唱(一ｽﾃｰｼﾞ)					
1952	昭和26	1	4	独唱・岸田 徹(3)					
1952	昭和26	1	4			懐かしきバージニア			
1952	昭和26	1	4			他一曲			
1952	昭和26	1	5	独唱・柳下恭治(2)					
1952	昭和26	1	5			金髪のジェニー			
1952	昭和26	1	5			他一曲			
1952	昭和26	1	6	独唱・深澤源裕(2)					
1952	昭和26	1	6			母			
1952	昭和26	1	6		「ファウト」より	花の唄			
1952	昭和26	1	7	ヴァイオリン独奏・渡辺重信(2)					
1952	昭和26	1	7			マドリガル			
1952	昭和26	1	7			他一曲			
1952	昭和26	1	8	ピアノ独奏・高橋廣(1)					
1952	昭和26	1	8			ピアノソナタK 331		モーツアルト	
1952	昭和26	1	8			イ長調(トルコ行進曲付)			
1952	昭和26	1	9	ピアノ独奏・牧野先生					
1952	昭和26	1	9			ピアノソナタ 8 番		ベートーヴェン	
1952	昭和26	1	9			ハ長調 op.13 (悲愴)			
1952	昭和26	1	10	ソプラノ独奏・弓削むつ子					
1952	昭和26	1	10			ジョスランの子守歌			
1952	昭和26	1	10			他数曲			
1952	昭和26	1	10		トスカより	歌に生き恋に生き			
1952	昭和27	2	1	合唱・一年					
1952	昭和27	2	1		魔弾の射手より	牧場の朝		ウェーバー	
1952	昭和27	2	1			獵人の合唱			
1952	昭和27	2	2	バリトン独唱・菅谷規矩雄(1)					
1952	昭和27	2	2			夢路より		フォスター	
1952	昭和27	2	2			さらばおやすみ		シューベルト	
1952	昭和27	2	3	四重唱・横田/八木/安達/大橋					
1952	昭和27	2	3			故郷の我が家		アリゾナ民謡	
1952	昭和27	2	3			鱒		シューベルト	
1952	昭和27	2	4	合唱・二年					
1952	昭和27	2	4			ケンタッキーホーム		フォスター	
1952	昭和27	2	4			雪山の歌		高木東六	
1952	昭和27	2	5	テノール独唱・柳下恭治(3)					
1952	昭和27	2	5			セレナーデ		トスティ	
1952	昭和27	2	5		マルタより	君がみ姿		フロートー	
1952	昭和27	2	6	合唱					
1952	昭和27	2	6			アンニー・ローリー		スコット	
1952	昭和27	2	6			和蘭人の仲間		不詳	



年度	年度	回	ｽﾚ	ｽﾃｰｼﾞ	曲名1	曲名2	作詩	作曲	編曲
1952	昭和27	2	6			かりうどの別れ		メンデルスゾーン	
1952	昭和27	2	7	ピアノ独奏・高橋廣(2)					
1952	昭和27	2	7		奏鳴曲	悲愴			
1952	昭和27	2	8	合唱・三年					
1952	昭和27	2	8			深山の朝		ヘンデル	
1952	昭和27	2	8		新世界より	ふるさとの夢		ドヴォルシヤーク	
1952	昭和27	2	8			奮え友よ		牧野統	
1952	昭和27	2	9	合唱					
1952	昭和27	2	9			青春の讃歌		深井史朗	
1952	昭和27	2	9			水夫のセレナーデ		エマーソン	
1952	昭和27	2	10	ヴァイオリン独奏・渡邊重信(3)					
1952	昭和27	2	10		奏鳴曲	3・4楽章		タルティーニ	
1952	昭和27	2	10			ユーモレスク		ドヴォルシヤーク	
1952	昭和27	2	11	テノール独唱・深澤源裕(3)					
1952	昭和27	2	11			セレナーデ		シューベルト	
1952	昭和27	2	11			聴けひばりを		シューベルト	
1952	昭和27	2	12	混声合唱					
1952	昭和27	2	12			ロンドンデリーエーア		アイルランド民謡	
1952	昭和27	2	12			トロイカ		チャイコフスキー	橋本国彦
1952	昭和27	2	13	バリトン独唱・渋谷禎三(賛助)					
1952	昭和27	2	13			富士山見たら		橋本国彦	
1952	昭和27	2	13			旅籠屋		シューベルト	
1952	昭和27	2	13			楽に寄す		シューベルト	
1952	昭和27	2	14	ソプラノ独唱・大林深雪(賛助)					
1952	昭和27	2	14			お菓子と娘		橋本国彦	
1952	昭和27	2	14			田植え歌		橋本国彦	
1952	昭和27	2	14			悲歌		箕作秋吉	
1952	昭和27	2	14		「トスカ」より	歌に生き恋に生き		プッチーニ	
1952	昭和27	2	15	ピアノ独奏・牧野統					
1952	昭和27	2	15		奏鳴曲	月光		ベートーヴェン	
1952	昭和27	2	16	合唱(ソプラノ独唱つき)					
1952	昭和27	2	16			蒼き月		ローカン	
1952	昭和27	2	16			舟人のうた		エマーソン	
1953	昭和28	3	1	合唱・一年					
1953	昭和28	3	1			老犬トレイ		フォスター	
1953	昭和28	3	1			ロマンス		モーツァルト	
1953	昭和28	3	2	ピアノ独奏・水野浩一(2)		ソナチネ		クレメンティ	
1953	昭和28	3	3	テノール独唱・吉野廣(1)					
1953	昭和28	3	3			カロミオベン		ジョルダニー	
1953	昭和28	3	3			オーソレミオ	ナポリ民謡		
1953	昭和28	3	4	合唱・二年					
1953	昭和28	3	4			野ばら		牧野統	
1953	昭和28	3	4			ふるさと		オナルティン	
1953	昭和28	3	5	バリトン独唱・菅谷規久雄(2)					

年度	年度	回	行	ステージ	曲名 1	曲名 2	作詩	作曲	編曲
1953	昭和28	3	5			溢るる涙		シューベルト	
1953	昭和28	3	5			道しるべ		シューベルト	
1953	昭和28	3	6	ピアノ独奏・塩島貞夫(1)		ソナタ (悲愴)		ベートーヴェン	
1953	昭和28	3	7	テノール独唱・志村和美(2)					
1953	昭和28	3	7			歌の翼に		メンデルスゾーン	
1953	昭和28	3	7			悲歌		マスネー	
1953	昭和28	3	8	合唱・三年					
1953	昭和28	3	8			ハインリッヒフラウエンローブ		ガーテ	
1953	昭和28	3	8			ラウテを弾きあげよ盃		シューマン	
1953	昭和28	3	9	テノール独唱・石川徳夫(3)					
1953	昭和28	3	9			さらばナポリ	ナポリ民謡		
1953	昭和28	3	9			帰れソレントへ		クルティス	
1953	昭和28	3	10	ピアノ独奏・高橋廣(3)		ソナタ(ワルドシュタイン)		ベートーヴェン	
1953	昭和28	3	11	合唱					
1953	昭和28	3	11			流浪	ドイツ民謡		
1953	昭和28	3	11			水夫のセレナーデ		エマーソン	
1953	昭和28	3	11			兵士の合唱		グノー	
1953	昭和28	3	12	賛助出演：テノール独唱・八木一郎(OB)					
1953	昭和28	3	12			おおいとしき恋人よ		グルック	
1953	昭和28	3	12			日は昇りぬガンヂスより		スカラッティ	
1953	昭和28	3	13	賛助出演：女声合唱・川越女子高校音楽部					
1953	昭和28	3	13			噂り		ライハルト	
1953	昭和28	3	13			渡り鳥		信時潔	
1953	昭和28	3	14	バリトン独唱・牧野統					
1953	昭和28	3	14			忘れさせ給えや		ガスパリーニ	
1953	昭和28	3	14			美しき昏		ロッティ	
1953	昭和28	3	15	賛助出演：混声合唱・牧声会合唱団					
1953	昭和28	3	15			ロングロンガアゴー			
1953	昭和28	3	15			みどりの森よ		メンデルスゾーン	
1953	昭和28	3	15			夢みたものは		牧野統	
1953	昭和28	3	15			村祭りの夜		ラッソー	
1953	昭和28	3	16	賛助出演：混声合唱・所沢高校音楽部					
1953	昭和28	3	16			殖生の宿		ビジョップ	
1953	昭和28	3	16			流浪の民		シューマン	
1953	昭和28	3	17	賛助出演：女声合唱・川越女子高校音楽部					
1953	昭和28	3	17			駒はいなくな		福井文彦	
1953	昭和28	3	17			祭りと花と娘		シャブリエ	高木東六
1953	昭和28	3	18	ピアノ独奏・牧野統					
1953	昭和28	3	18			ラブソティ(ト短調)		ブラームス	
1953	昭和28	3	18			ポロネーズ(英雄)		ショパン	
1953	昭和28	3	19	男声合唱					
1953	昭和28	3	19			若い日の歌		石桁真禮夫	
1953	昭和28	3	19			自由を平和を		ベートーヴェン	
1954	昭和29	4	1	合唱・一年音楽選抜生全員					

年度	年度	回	行	ステージ	曲名 1	曲名 2	作詩	作曲	編曲
1954	昭和29	4	1			ネリーよき人		フォスター	牧野統
1954	昭和29	4	1			コロラドの月		フォスター	牧野統
1954	昭和29	4	2	四重唱・南／木谷／渡井／東(2)					
1954	昭和29	4	2			遠き昔の		フォスター	
1954	昭和29	4	2			いとし子は眠る		フォスター	
1954	昭和29	4	3	テノール独唱・吉野宏(2)					
1954	昭和29	4	3			初恋		越谷達之助	
1954	昭和29	4	3			千曲川旅情の歌		弘田龍太郎	
1954	昭和29	4	4	ピアノ独奏・高橋誠(1)		奏鳴曲(月光)		ベートーヴェン	
1954	昭和29	4	5	合唱・二年音楽選択生全員					
1954	昭和29	4	5			コサック	ポーランド民謡		
1954	昭和29	4	5			平城山		平井康三郎	
1954	昭和29	4	6	四重唱・馬場／梅澤／伊藤／澤田(3)					
1954	昭和29	4	6			アロハオエ		リリオカラニ	
1954	昭和29	4	6			自由の歌		ストウンツ	
1954	昭和29	4	7	ピアノ独奏・水村浩一(3)		奏鳴曲へ長調K332		モーツアルト	
1954	昭和29	4	8	合唱					
1954	昭和29	4	8			三匹の蜂		トリューン	
1954	昭和29	4	8			家路の歌		平井康三郎	
1954	昭和29	4	8			村の踊り			オリオンコール
1954	昭和29	4	9	テノール独唱・志村和美(3)					
1954	昭和29	4	9			悲歌		マスナー	
1954	昭和29	4	9			愛の喜び		マルティーニ	
1954	昭和29	4	10	ピアノ独奏・塩島貞夫(2)	演奏会用練習曲	侏儒・ライゲン舞曲		リスト	
1954	昭和29	4	11	合唱・三年音楽選択生全員		美しき碧きドナウ		ヨハンシュトラウス	
1954	昭和29	4	12	合唱					
1954	昭和29	4	12			冬の山家		牧野統	
1954	昭和29	4	12			未来の星		牧野統	
1954	昭和29	4	13	賛助出演：ソプラノ独唱・笠止みや子	シューベルト作品より	鱒		シューベルト	
1954	昭和29	4	13			泉のほとりの若者		シューベルト	
1954	昭和29	4	13			糸を紡ぐグレーチヘン		シューベルト	
1954	昭和29	4	14	賛助出演：ピアノ独奏・野田暁子	ショパン作品より	幻想即興曲		ショパン	
1954	昭和29	4	14			練習曲(別れの曲)		ショパン	
1954	昭和29	4	14			ワルツ(遺作)		ショパン	
1954	昭和29	4	15	賛助出演：ソプラノ独唱・笠止みや子	邦人作品より	今この庭に	三好達治	牧野統	
1954	昭和29	4	15			わが骨は	西村一平	牧野統	
1954	昭和29	4	16	賛助出演：ヴァイオリン独奏・鈴木すみ子					
1954	昭和29	4	17	賛助出演：ソプラノ独唱・笠止みや子	リヒルト・シュトラウス作品より	恋人よ今こそ別れなれ		シュトラウス	
1954	昭和29	4	17			セレナーデ		シュトラウス	
1955	昭和30	5	1	合唱(二ステージ)		七曲			
1955	昭和30	5	2	重唱(二ステージ)		四曲			
1955	昭和30	5	3	ピアノ独奏(二ステージ)		二曲			
1955	昭和30	5	4	独唱(二ステージ)		四曲			
1955	昭和30	5	5	音楽選択者の合唱					

年度	年度	回	ｽﾚ	ｽﾃｰｼﾞ	曲名 1	曲名 2	作詩	作曲	編曲
1955	昭和30	5	6	賛助出演：牧声会ステージ					
1955	昭和30	5	7	賛助出演：東京芸大コーラス部ステージ					
1956	昭和31	6		(この回はほとんど資料が見あたらない。)					
1956	昭和31	6		賛助出演：東京混声合唱団（東京メルクワルテット）独唱ステージ					
1956	昭和31	6		賛助出演：東京混声合唱団（東京メルクワルテット）四重唱ステージ					
1957	昭和32	7	1	合唱	世界民謡集				
1957	昭和32	7	1			バイカル湖のほとり	ロシア民謡		
1957	昭和32	7	1			ネリーよき人	アメリカ民謡		
1957	昭和32	7	1			山の唄	ドイツ民謡		
1957	昭和32	7	1			進め若人	チェコ民謡		
1957	昭和32	7	2	バリトン独唱・大塩三千雄(3)					
1957	昭和32	7	2			金髪のジェニイ		フォスター	
1957	昭和32	7	2			帰れソレントへ	イタリア民謡		
1957	昭和32	7	3	四重唱・田中／二杉／小高／若宮(2)					
1957	昭和32	7	3			ふるさと		オナルティン	
1957	昭和32	7	3			村のかじや	小学唱歌		
1957	昭和32	7	4	合唱	抒情作品集				
1957	昭和32	7	4			眠れいとし子		ヘンスレイ	
1957	昭和32	7	4			夜のささやき		エマーソン	
1957	昭和32	7	4			冬の夜更けに	牧野統	牧野統	
1957	昭和32	7	4			白百合		スコット	
1957	昭和32	7	5	テノール独唱・田島英雄(2)					
1957	昭和32	7	5			白銀の糸	アメリカ民謡		
1957	昭和32	7	5			マリアマリ		カプア	
1957	昭和32	7	6	四重唱・高岡／小林／安藤／小室(3)					
1957	昭和32	7	6			ケンタッキーの我が家		フォスター	
1957	昭和32	7	6			少女と若者	十六世紀民謡		
1957	昭和32	7	7	テノール独唱・佐藤勝弘(3)					
1957	昭和32	7	7			溢るる涙		シューベルト	
1957	昭和32	7	7			菩提樹		シューベルト	
1957	昭和32	7	8	合唱	ユーモア作品集				
1957	昭和32	7	8			お医者さん	ドイツ民謡		
1957	昭和32	7	8			三匹の蜂		トリューン	
1957	昭和32	7	8			親方と弟子		ツエルター	
1957	昭和32	7	8			走るよ汽車は		マルシュネル	
1957	昭和32	7	8			私は誰でしょう		小山章三	
1957	昭和32	7	9	ヴァイオリン独奏・木村光(2)					
1957	昭和32	7	9			協奏曲イ短調		バッハ	
1957	昭和32	7	10	テノール独唱・朝日恵一(3)					
1957	昭和32	7	10			悲歌		箕作秋吉	
1957	昭和32	7	10			曼珠沙華		山田耕筰	
1957	昭和32	7	11	四重唱・奥平／中島／本木／海野(3)					
1957	昭和32	7	11			とおりゃんせ			
1957	昭和32	7	11		組曲「富士山」より	作品第肆	草野心平	多田武彦	

年度	年度	回	行	ステージ	曲名 1	曲名 2	作詩	作曲	編曲
1957	昭和32	7	12	合唱	コンクール課題曲 他				
1957	昭和32	7	12			旅路		ツエルナー	
1957	昭和32	7	12			月の夜		パークス	
1957	昭和32	7	12			白き雲ゆく		橋本喬雄	
1957	昭和32	7	12			奮え友よ		牧野統	
1957	昭和32	7	13	賛助出演：東京メールクワルテット・四重唱					
1957	昭和32	7	13			夏の思い出		中田喜直	
1957	昭和32	7	13			たーんき ぼーんき		中田喜直	
1957	昭和32	7	13			待ちぼうけ		山田耕筰	
1957	昭和32	7	13			からたちの花		山田耕筰	
1957	昭和32	7	14	賛助出演：弓削睦子・ソプラノ独唱					
1957	昭和32	7	14			Non tamopiu		トスティ	
1957	昭和32	7	14			A sera		トスティ	
1957	昭和32	7	14			或る晴れた日に		プッチーニ	
1957	昭和32	7	15	賛助出演：滝沢明子・ピアノ独奏					
1957	昭和32	7	15			仔犬のワルツ		ショパン	
1957	昭和32	7	15			花火		ドビッシィ	
1957	昭和32	7	16	賛助出演：東京メールクワルテット・四重唱					童謡集
1957	昭和32	7	16			どんぐりころころ			
1957	昭和32	7	16			秋の子			
1957	昭和32	7	16			かたつむり			
1957	昭和32	7	16			故郷			
1957	昭和32	7	16			汽車ぼっぼ			
1957	昭和32	7	17	賛助出演：東京メールクワルテット・四重唱					
1957	昭和32	7	17			五木の子守歌			
1957	昭和32	7	17			ずいずいずっころばし			
1957	昭和32	7	17			黒田節			
1957	昭和32	7	17			お江戸日本橋			
1957	昭和32	7	17			山寺の和尚さん			
1958	昭和33	8	1	男声合唱	宗教曲				
1958	昭和33	8	1			詩篇			平田甫
1958	昭和33	8	1			新しき歌をエホバに向かいて歌え			平田甫
1958	昭和33	8	1		コミック				
1958	昭和33	8	1			お母さん鶯鳥の話			
1958	昭和33	8	1			祝婚ポルカ			
1958	昭和33	8	1		その他				
1958	昭和33	8	1			未来は遙か	笹沢美明	雨宮伊之助	磯部倅
1958	昭和33	8	1			狩の歌	東辰三訳詩	エマーソン	
1958	昭和33	8	2	四重唱					
1958	昭和33	8	2			月の夜			
1958	昭和33	8	2			冬の夜更けに	牧野統	牧野統	
1958	昭和33	8	2			白百合			
1958	昭和33	8	3	独唱					
1958	昭和33	8	3			菩提樹			

年度	年度	回	ｽﾏ	ｽﾃｰｼﾞ	曲名 1	曲名 2	作詩	作曲	編曲
1958	昭和33	8	3			カタリ			
1958	昭和33	8	3			二人の擲弾兵		シューマン	
1958	昭和33	8	4	ヴァイオリン独奏					
1958	昭和33	8	4			コンチェルトNo.5		モーツァルト	
1958	昭和33	8	5	賛助出演：水村浩一・ピアノ独奏		ソナタ イ短調		モーツァルト	
1958	昭和33	8	6	賛助出演：高橋誠・ピアノ独奏		バラードNo.2		ショパン	
1958	昭和33	8	7	賛助出演：篠沢愛枝・メゾソプラノ独唱		カルメン ハバネラ		ビゼー	
1958	昭和33	8	8	賛助出演：藤田みどり・アルト独唱		黒人霊歌集			
1958	昭和33	8	8			邦人作品集			
1958	昭和33	8	8			オペラアリア集			
1958	昭和33	8	9	賛助出演：石浜朗子・ピアノ独奏		ショパン作品集			
1959	昭和34	9	1	合唱 (三ステージ)					
1959	昭和34	9	1			アベ マリア			
1959	昭和34	9	1			わが胸に			
1959	昭和34	9	2	四重唱 (三ステージ)					
1959	昭和34	9	2		ボッカチオ組曲より	恋・結婚			
1959	昭和34	9	3	テノール・バリトン独唱 (二ステージ)					
1959	昭和34	9	3		シューベルト				
1959	昭和34	9	3		ロシヤ民謡				
1960	昭和35	10	1	合唱					
1960	昭和35	10	1			アヴェマリア		アルカデルト	
1960	昭和35	10	1			セレナーデ		マルシュネル	
1960	昭和35	10	1			ふるさと		オナルティン	
1960	昭和35	10	2	バリトン独唱					
1960	昭和35	10	2			誰も知らぬ悩み	黒人霊歌		
1960	昭和35	10	2			深い川	黒人霊歌		
1960	昭和35	10	3	四重唱					
1960	昭和35	10	3			ネリーよき人		フォスター	牧野統
1960	昭和35	10	3			親方と弟子		フォスター	
1960	昭和35	10	3			七つの子	日本童謡		
1960	昭和35	10	4	合唱					
1960	昭和35	10	4			大漁祝歌	宮城県民謡		
1960	昭和35	10	4			祝歌			藤井・清水
1960	昭和35	10	4			斎太郎節			藤井・清水
1960	昭和35	10	4			囚人の合唱		ベートーヴェン	
1960	昭和35	10	4			二人の擲弾兵		シューマン	
1960	昭和35	10	5	四重唱					
1960	昭和35	10	5			希望の島			
1960	昭和35	10	5			三匹の蜂		トリューン	
1960	昭和35	10	5			菩提樹		シューベルト	
1960	昭和35	10	6	テノール独唱					
1960	昭和35	10	6			カロミオベン		ジョルダナーニ	
1960	昭和35	10	6			夢		トステイ	
1960	昭和35	10	7	合唱					



年度	年度	回	行	ステージ	曲名 1	曲名 2	作詩	作曲	編曲
1960	昭和35	10	7		世界童謡集	さくらんぼ	牧野統訳詩		牧野統
1960	昭和35	10	7			親豚子豚	牧野統訳詩		牧野統
1960	昭和35	10	7			焼きたてパン	牧野統訳詩		牧野統
1960	昭和35	10	7			通りゃんせ	牧野統訳詩		牧野統
1960	昭和35	10	7			子守唄	牧野統訳詩		牧野統
1960	昭和35	10	8	四重唱					
1960	昭和35	10	8			信者とならまほし	黒人霊歌		
1960	昭和35	10	8			スワニー川の唄		フォスター	
1960	昭和35	10	8			なつかしきケンタッキーの家		フォスター	
1960	昭和35	10	9	バリトン独唱					
1960	昭和35	10	9			死なしめんとせば		スカラッティ	
1960	昭和35	10	9			さすらい人		シューベルト	
1960	昭和35	10	10	合唱					
1960	昭和35	10	10			かもめに寄す		上元芳夫	
1960	昭和35	10	10			雨の来る前		多田武彦	
1960	昭和35	10	10			勝ちませる君		パレストリーナ	
1960	昭和35	10		賛助出演	東京芸術大学音楽学部6名				
1960	昭和35	10		バリトン独唱	シューベルト歌曲集				
1960	昭和35	10			「水車小屋の乙女」より	訊きたがり			
1960	昭和35	10				焦燥			
1960	昭和35	10			「冬の旅」より	さらばお休み			
1960	昭和35	10			「白鳥の歌」より	小夜歌			
1960	昭和35	10			「選曲集」より	汝は憩らい			
1960	昭和35	10				楽に寄す			
1960	昭和35	10		フルート独奏		ハンガリア田園幻想曲		ドップラー	
1960	昭和35	10			「アルルの女」より	メヌエット		ビゼー	
1960	昭和35	10		ソプラノ独唱		からたちの花			
1960	昭和35	10				からりこ			
1960	昭和35	10			「椿姫」より	あゝそは彼の人か			
1960	昭和35	10				花より花へ			
1960	昭和35	10		ピアノ独奏		前奏曲集より		ショパン	
1960	昭和35	10		テナー独唱		帰れソレントへ	イタリア民謡		
1960	昭和35	10				薄情（カタリ）	イタリア民謡		
1960	昭和35	10			「愛の妙薬」より	人知れぬ涙		ドニゼッティ	
1960	昭和35	10			「トスカ」より	星も光りぬ		プッチーニ	
1960	昭和35	10		二重唱	「椿姫」より	パリを離れて		ヴェルディ	
1960	昭和35	10				乾杯の歌		ヴェルディ	
1961	昭和36	11			(この回はほとんど資料が見あたらない。)				
1961	昭和36	11			賛助出演：HG メンネルコール				
1962	昭和37	12			(この回はほとんど資料が見あたらない。)				
1962	昭和37	12			賛助出演：日本歌曲研究会				
1962	昭和37	12		独唱					
1962	昭和37	12			カタリー等				

年度	年度	回	ｽﾚ	ｽﾃｰｼﾞ	曲名 1	曲名 2	作詩	作曲	編曲
1962	昭和37	12		四重唱					
1962	昭和37	12			バイカル湖のほとり				
1963	昭和38	13			(この回はほとんど資料が見あたらない。)				
1963	昭和38	13		賛助出演：大野はるみ					
1964	昭和39	14	1	世界の名曲（四曲）					
1964	昭和39	14	2	日本民謡（三曲）					
1964	昭和39	14	2			夏の思い出			
1964	昭和39	14	3	コンクール曲集					
1964	昭和39	14	3			曲がりかど	竹内しげ	石川皓也	
1964	昭和39	14	3			月の夜	林英太郎	パークス	
1964	昭和39	14	3			小さな街が流れてきた	以倉紘平	中村茂隆	
1964	昭和39	14	3			神こそ我が牧者なれ		シューベルト	津川主一
1964	昭和39	14	4	四重唱					
1964	昭和39	14	5	組曲「山に祈る」					
1964	昭和39	14	5		山の家	清水脩	清水脩	清水脩	
1964	昭和39	14	5		リュックサックの歌	清水脩	清水脩	清水脩	
1964	昭和39	14	5		山小屋の夜	清水脩	清水脩	清水脩	
1964	昭和39	14	5		山を憶う	清水脩	清水脩	清水脩	
1964	昭和39	14	5		吹雪の歌い	清水脩	清水脩	清水脩	
1964	昭和39	14	5		お母さん、ごめんさい	清水脩	清水脩	清水脩	
1965	昭和40	15	1	世界名曲集					
1965	昭和40	15	1		思い出の港			W.Berwald	
1965	昭和40	15	1		君美しく			Fr.Kucken	
1965	昭和40	15	1		Little Brown Church			William.S.Pitts	
1965	昭和40	15	1		蛙の合唱			作曲者不明	
1965	昭和40	15	2	フォスター・メドレー					
1965	昭和40	15	2		故郷の人々			フォスター	
1965	昭和40	15	2		おおスザンナ			フォスター	
1965	昭和40	15	2		ネリーブライ			フォスター	
1965	昭和40	15	2		草競馬			フォスター	
1965	昭和40	15	2		夢見る佳人			フォスター	
1965	昭和40	15	3	コンクール曲集					
1965	昭和40	15	3		郷愁	丸山薫		磯部俣	
1965	昭和40	15	3		河童昇天	神保光太郎		石河清	
1965	昭和40	15	3		浜の子守歌			バーンビー	
1965	昭和40	15	3		狩の歌	東辰三訳詩		L.O.Emerson	
1965	昭和40	15	3		黎明の歌	武川寛海		石井歆	
1965	昭和40	15	4	賛助出演：川越牧声会	牧野統作品集				
1965	昭和40	15	4		野ばら	深尾須磨子		牧野統	
1965	昭和40	15	4		甲斐より	有木芳水		牧野統	
1965	昭和40	15	4		小譚詩	立原道造		牧野統	
1965	昭和40	15	5	智恵子抄巻末の歌六首			高村光太郎	清水脩	
1965	昭和40	15	5	音楽部讃歌			牧野統	牧野統	

年度	年度	回	ｽﾚ	ｽﾃｰｼﾞ	曲名 1	曲名 2	作詩	作曲	編曲
1966	昭和41	16	1	愛唱曲集					
1966	昭和41	16	2	オペラ曲集					
1966	昭和41	16	3	コンクール曲集					
1966	昭和41	16	3			大いなる樫の木に	野上彰	清水脩	
1966	昭和41	16	3			新しき歌をエホバに向かい歌え		平田甫	
1966	昭和41	16	4	賛助出演：安田直弘・遠藤秀一郎					
1966	昭和41	16	5	組曲「おかあさんのばか」					
1966	昭和41	16	5			開始の音楽	吉田幸	中田喜直/磯部俵	
1966	昭和41	16	5			ちかいのことば	吉田幸	中田喜直/磯部俵	
1966	昭和41	16	5			語りの音楽	吉田幸	中田喜直/磯部俵	
1966	昭和41	16	5			じんちょうげ	吉田幸	中田喜直/磯部俵	
1966	昭和41	16	5			すきやき	吉田幸	中田喜直/磯部俵	
1966	昭和41	16	5			おかあさんのばか	吉田幸	中田喜直/磯部俵	
1966	昭和41	16	5			おにいちゃんの成績	吉田幸	中田喜直/磯部俵	
1966	昭和41	16	5			白いカーネーションはいや	吉田幸	中田喜直/磯部俵	
1966	昭和41	16	5			雨の降る日	吉田幸	中田喜直/磯部俵	
1966	昭和41	16	5			七夕	吉田幸	中田喜直/磯部俵	
1966	昭和41	16	5			おくり火	吉田幸	中田喜直/磯部俵	
1966	昭和41	16	5			教会の神様	吉田幸	中田喜直/磯部俵	
1967	昭和42	17	1	世界名曲集					
1967	昭和42	17	1			なつかしのバージニア		フォスター	
1967	昭和42	17	1			あしたまで			
1967	昭和42	17	1			シェナン・ドーア			
1967	昭和42	17	1			柳河	北原白秋	多田武彦	
1967	昭和42	17	1			ふるさと		オナーティン	
1967	昭和42	17	2	フォークソング集					
1967	昭和42	17	2			虹と共に消えた恋			
1967	昭和42	17	2			風に吹かれて			
1967	昭和42	17	2			パフ			
1967	昭和42	17	3	コンクール曲集					
1967	昭和42	17	3			さよなら	阪田寛夫	南弘明	
1967	昭和42	17	3			最上川舟歌	山形県民謡	清水脩	
1967	昭和42	17	3			十三の砂山	民謡(津軽地方)		上柴茂
1967	昭和42	17	3			冬のセレナーデ	安田二郎	サンサーンス	
1967	昭和42	17	4	賛助出演：古典ギター部ステージ					
1967	昭和42	17	5	組曲「山に祈る」					
1967	昭和42	17	5			山の家	清水脩	清水脩	
1967	昭和42	17	5			リュックサックの歌	清水脩	清水脩	
1967	昭和42	17	5			山小屋の夜	清水脩	清水脩	
1967	昭和42	17	5			山を憶う	清水脩	清水脩	
1967	昭和42	17	5			吹雪の歌	清水脩	清水脩	
1967	昭和42	17	5			お母さん、ごめんさい	清水脩	清水脩	
1968	昭和43	18	1	世界名曲集					
1968	昭和43	18	1			The Lord Is My Shepherd		グラナハム	

年度	年度	回	ｽﾏ	ｽﾃｰｼﾞ	曲名1	曲名2	作詩	作曲	編曲		
1968	昭和43	18	1	民謡曲集		My Bonny	宮沢賢治 堀口大學	フラー	牧野統 津川主一 牧野統 福永陽一郎 福永陽一郎		
1968	昭和43	18	1			森		秋のピエロ		清水脩 清水脩	
1968	昭和43	18	1			秋のピエロ					
1968	昭和43	18	2			すずらん	ロシア民謡				
1968	昭和43	18	2			コサックの悲歌	ロシア民謡				
1968	昭和43	18	2			ともしび	ロシア民謡				
1968	昭和43	18	2			島原の子守歌	長崎県民謡				
1968	昭和43	18	2			おてもやん	熊本県民謡				
1968	昭和43	18	3			コンクール曲集					
1968	昭和43	18	3				「雪明りの路」より	日本のみのり		中村千榮子	小山清茂
1968	昭和43	18	3			月夜を歩く	伊藤整	多田武彦			
1968	昭和43	18	3			いのち	小林金次郎	石河清			
1968	昭和43	18	3			河童昇天	神保光太郎	石河清			
1968	昭和43	18	4	賛助出演：斉藤功司先生ピアノステージ							
1968	昭和43	18	5	ポピュラー							
1968	昭和43	18	5			Edelweiss	O.Hammerstein	R.Rongers	O.Makino		
1968	昭和43	18	5			Yesterday	J.Lennon	P.Mcartney	O.Makino		
1968	昭和43	18	5			Angelita Di Anzio	T.Romand	M.Minerbi	O.Makino		
1968	昭和43	18	6	組曲「北国の若者たち」							
1968	昭和43	18	6		序曲	冬への予感	牧野統	牧野統			
1968	昭和43	18	6			母と子の対話	牧野統	牧野統			
1968	昭和43	18	6			父のロマンス	牧野統	牧野統			
1968	昭和43	18	6			友の死	牧野統	牧野統			
1968	昭和43	18	6		終曲	冬の行進曲	牧野統	牧野統			
1969	昭和44	19	1	世界名曲集							
1969	昭和44	19	1			Kirie eleison		デュオウパ			
1969	昭和44	19	1			二人の擲弾兵	H.ハイネ	R.シューマン	津川主一		
1969	昭和44	19	1		組曲「柳河風俗詩」より	紺屋のおろく	北原白秋	多田武彦			
1969	昭和44	19	1			かきつばた	北原白秋	多田武彦			
1969	昭和44	19	1			梅雨の晴れ間	北原白秋	多田武彦			
1969	昭和44	19	2	小組曲「雪」							
1969	昭和44	19	2			雪がはなびらのように	やなせたかし	牧野統			
1969	昭和44	19	2			白い街	やなせたかし	牧野統			
1969	昭和44	19	2			冬のあいさつ	やなせたかし	牧野統			
1969	昭和44	19	2			雪の街	やなせたかし	牧野統			
1969	昭和44	19	3	コンクール曲集							
1969	昭和44	19	3			道	伊藤海彦	三善晃			
1969	昭和44	19	3			島原の子守歌	宮崎一章	宮崎一章	福永陽一郎		
1969	昭和44	19	3			河童の歌	宮沢章二	湯山昭			
1969	昭和44	19	3		組曲「蛙の歌」より	亡霊	草野心平	南弘明			
1969	昭和44	19	4	賛助出演：川越女子高校マンドリン部							
1969	昭和44	19	5	世界民謡集							
1969	昭和44	19	5			通りゃんせ					

年度	年度	回	ｽﾏ	ｽﾃｰｼﾞ	曲名 1	曲名 2	作詩	作曲	編曲				
1969	昭和44	19	5			アロハオエ							
1969	昭和44	19	5			乾杯の歌							
1969	昭和44	19	5			カリンカ							
1969	昭和44	19	5			太湖舟							
1969	昭和44	19	5			琉球の子守歌							
1969	昭和44	19	5			秩父音頭							
1970	昭和45	20	1			心のふるさと							
1970	昭和45	20	1							ふるさと			オナーティン
1970	昭和45	20	1							いざたて戦人よ			グラナハム
1970	昭和45	20	1							組曲「青い照明」より 普香天子	宮沢賢治		清水脩
1970	昭和45	20	1		赤い機関車	高田敏子		高木東六					
1970	昭和45	20	1		Untill the Dawn			パークス					
1970	昭和45	20	1		組曲「木下空太郎の詩から」より 両国	木下空太郎		多田武彦					
1970	昭和45	20	1		かあさんの歌	窪田聡		窪田聡					
1970	昭和45	20	1		ふるさと	文部省唱歌							
1970	昭和45	20	2	組曲「おかあさんのうた」									
1970	昭和45	20	2		おかあさんはわたしを生んだの	サトウハチロー		荻久保和明					
1970	昭和45	20	2		五人ばやしに	サトウハチロー		荻久保和明					
1970	昭和45	20	2		坊や坊や よくごらん	サトウハチロー		荻久保和明					
1970	昭和45	20	2		山あれば	サトウハチロー		荻久保和明					
1970	昭和45	20	2		かあさんのくせ	サトウハチロー		荻久保和明					
1970	昭和45	20	2		いつでもおかあさんはおかあさん	サトウハチロー		荻久保和明					
1970	昭和45	20	3	宗教曲集									
1970	昭和45	20	3		わが魂よ(詩篇103)	Ippolitov Ivanov							
1970	昭和45	20	3		Hospodi Pomilui	ロシア・ギリシヤ正教聖歌			福永陽一郎				
1970	昭和45	20	3		聖なるかな(Zum Sanctus)			シューベルト					
1970	昭和45	20	3		PSALM98(新しき歌をエホバに向いて歌え)				平田甫				
1970	昭和45	20	4	組曲「マッチ売りの少女」									
1970	昭和45	20	4		夕ぐれの街	牧野統		牧野統					
1970	昭和45	20	4		小さな怒り(間奏曲)	牧野統		牧野統					
1970	昭和45	20	4		星が流れて	牧野統		牧野統					
1970	昭和45	20	4		Finale Requiem	牧野統		牧野統					
1971	昭和46	21	1	小曲集									
1971	昭和46	21	1		柳河	北原白秋		多田武彦					
1971	昭和46	21	1		ひとみの歌	木島始		三宅榛名					
1971	昭和46	21	1		There is a Church in the Vally			ピッツ					
1971	昭和46	21	1		秋のピエロ	堀口大學		清水脩					
1971	昭和46	21	1		ウ・ボイ	スロバキア民謡							
1971	昭和46	21	1		雨	八木重吉		多田武彦					
1971	昭和46	21	2	ドイツ学生歌									
1971	昭和46	21	2		Der Gute Kamerad								
1971	昭和46	21	2		Der Jager Abschied	アイヒェンドルフ		メンデルスゾーン					
1971	昭和46	21	2		Abschied	シュヴァーベン民謡							
1971	昭和46	21	2		Freie Kunst	ウーラント		シュトゥウンツ					

年度	年度	回	ｽﾂ	ｽﾂｰｼﾞ	曲名 1	曲名 2	作詩	作曲	編曲
1971	昭和46	21	2	フォスターアルバム		Standchen	ヴォルフ	マルシュネル	
1971	昭和46	21	3						
1971	昭和46	21	3				Swanee River		フォスター
1971	昭和46	21	3				Oh Susanna		フォスター
1971	昭和46	21	3				Uncle Ned		フォスター
1971	昭和46	21	3				Nelly Bly		フォスター
1971	昭和46	21	3				Hard times come again no more		フォスター
1971	昭和46	21	3				De camp town ladies sing dis song		フォスター
1971	昭和46	21	3				Beautiful dreamer		フォスター
1971	昭和46	21	4	マリンバ演奏					
1971	昭和46	21	4			ロンドカプリチオーゾ		サンサーンス	
1971	昭和46	21	4			マリンバのための二章		田中利光	
1971	昭和46	21	5	組曲「枯木と太陽の歌」					
1971	昭和46	21	5			枯木は独りで歌う	中田浩一郎	石井歓	
1971	昭和46	21	5			花と太陽の会話	中田浩一郎	石井歓	
1971	昭和46	21	5			冬の夜の木枯しの合唱	中田浩一郎	石井歓	
1971	昭和46	21	5			枯木は太陽に祈る	中田浩一郎	石井歓	
1972	昭和47	22	1	小品集					
1972	昭和47	22	1			武蔵野の雨	大木惇夫	多田武彦	
1972	昭和47	22	1			木曾節	長野県民謡	清水脩	
1972	昭和47	22	1			市場所見	木下杢太郎	多田武彦	
1972	昭和47	22	1			聖なるかな	安城四郎	シューベルト	
1972	昭和47	22	1			西ふきあれて	中勘助	多田武彦	
1972	昭和47	22	1			ともしび	ロシヤ民謡	牧野統	
1972	昭和47	22	1			普香天子	宮沢賢治	清水脩	
1972	昭和47	22	2	ポピュラー曲集					
1972	昭和47	22	2			The Sounds of Silence	P.Simon	P.Simon	
1972	昭和47	22	2			遠くへ行きたい	永六輔	中村八大	
1972	昭和47	22	2			These from Love Story	F.Lai	岩谷時子	
1972	昭和47	22	2			Dona Dona	S.Secunda	安井かずみ	
1972	昭和47	22	2			イムジン河	朴世永	高宗漢	
1972	昭和47	22	2			Where Have All the Flowers Gone?	ビートシンガー		
1972	昭和47	22	2			恋は水色	P.Cour	A.Popp	
1972	昭和47	22	2			Moon River	J.Master	H.Mancini	
1972	昭和47	22	2			Love Theme From Romeo and Juliet		N.Rota	
1972	昭和47	22	2			Bridge Over Troubled Water	P.Simon	P.Simon	
1972	昭和47	22	3	牧野統遺品集					
1972	昭和47	22	3			音楽部讃歌・光よ音の流れよ	牧野統	牧野統	
1972	昭和47	22	3		小組曲「雪」より	雪がはなびらのように	やなせたかし	牧野統	
1972	昭和47	22	3			白い街	やなせたかし	牧野統	
1972	昭和47	22	3			冬のあいさつ	やなせたかし	牧野統	
1972	昭和47	22	3			雪の街	やなせたかし	牧野統	
1972	昭和47	22	3			わかいおじさん			
1972	昭和47	22	3		組曲「北国の若者たち」より	冬の夜更けに	牧野統	牧野統	

年度	年度	回	ｽﾀ	ｽﾃｰｼﾞ	曲名 1	曲名 2	作詩	作曲	編曲	
1972	昭和47	22	4	組曲「マッチ売りの少女」						
1972	昭和47	22	4			夕ぐれの街	牧野統	牧野統		
1972	昭和47	22	4			小さな怒り (間奏曲)	牧野統	牧野統		
1972	昭和47	22	4			星が流れて	牧野統	牧野統		
1972	昭和47	22	4			Finale Requiem	牧野統	牧野統		
1973	昭和48	23	1	女声合唱						
1973	昭和48	23	2	男声合唱 (第1ステージ)						
1973	昭和48	23	2		組曲「おかあさんのばか」より	開始の音楽	吉田幸	中田喜直/磯部俣		
1973	昭和48	23	2			ちかいのことば	吉田幸	中田喜直/磯部俣		
1973	昭和48	23	2			語りの音楽	吉田幸	中田喜直/磯部俣		
1973	昭和48	23	2			じんちょうげ	吉田幸	中田喜直/磯部俣		
1973	昭和48	23	2			すきやき	吉田幸	中田喜直/磯部俣		
1973	昭和48	23	2			おかあさんのばか	吉田幸	中田喜直/磯部俣		
1973	昭和48	23	2			おにいちゃんの成績	吉田幸	中田喜直/磯部俣		
1973	昭和48	23	2			白いカーネーションはいや	吉田幸	中田喜直/磯部俣		
1973	昭和48	23	2			雨の降る日	吉田幸	中田喜直/磯部俣		
1973	昭和48	23	2			七夕	吉田幸	中田喜直/磯部俣		
1973	昭和48	23	2			おくり火	吉田幸	中田喜直/磯部俣		
1973	昭和48	23	2			教会の神様	吉田幸	中田喜直/磯部俣		
1973	昭和48	23	2	男声合唱 (第2ステージ)	男声合唱名曲集					
1973	昭和48	23	2			エーデルワイス Edel Weiss	0. ハマーSTEIN II	R. ロジャース	牧野統	
1973	昭和48	23	2			ゆれるよ幌馬車	黒人霊歌		B. アンダーソン	
						Swing Low Sweet Chariot				
1973	昭和48	23	2			マトナの君よ Matona Mia Cara	津川主一訳詩	O. ラッスス	津川主一	
1973	昭和48	23	2			音楽部讃歌・光よ音の流れよ	牧野統	牧野統		
1973	昭和48	23	2			水面を渡る Wasserlahrt	H. ハイネ	F. モンデルスゾーン		
1973	昭和48	23	2			二人の擲弾兵	H. ハイネ	R. シューマン	津川主一	
						Die Beiden Grenadiere				
1973	昭和48	23	2		[録音のためのコンポジション]より	引き念仏		間宮芳生		
1973	昭和48	23	3	混声合唱 (第1ステージ)						
1973	昭和48	23	3		組曲「山に祈る」	山の家	清水脩	清水脩	清水脩構成	
1973	昭和48	23	3			リュックサックの歌	清水脩	清水脩	清水脩構成	
1973	昭和48	23	3			山小屋の夜	清水脩	清水脩	清水脩構成	
1973	昭和48	23	3			山を憶う	清水脩	清水脩	清水脩構成	
1973	昭和48	23	3			吹雪の歌い	清水脩	清水脩	清水脩構成	
1973	昭和48	23	3			お母さん、ごめんなさい	清水脩	清水脩	清水脩構成	
1973	昭和48	23	3	混声合唱 (第2ステージ)	混声合唱名曲集					
1973	昭和48	23	3			流浪の民	小倉小三郎	シューマン		
1973	昭和48	23	3		カンタータ「土の歌」より	大地讃頌	大木惇夫	佐藤眞		
1973	昭和48	23	3			アヴェ・ヴェルム・コルプス		モーツァルト		
1973	昭和48	23	3		オラトリオ「メサイア」より	ハレルヤ・コーラス		ヘンデル		
1974	昭和49	24	1	女声合唱						
1974	昭和49	24	2	男声合唱						
						音楽部讃歌・光よ音の流れよ	牧野統	牧野統		



年度	年度	回	ｽﾀ	ｽﾃｰｼﾞ	曲名 1	曲名 2	作詩	作曲	編曲
1974	昭和49	24	2			すずらん	ロシア民謡		
1974	昭和49	24	2			コサックの悲歌	ロシア民謡		
1974	昭和49	24	2			ウ・ボイ	スロバキア民謡		
1974	昭和49	24	2			ヴォルガの舟歌	ロシア民謡		
1974	昭和49	24	2			コサック	ポーランド民謡		
1974	昭和49	24	2			トロイカ	ロシア民謡		
1974	昭和49	24	2		歌劇「タンホイザー」より	巡礼の合唱		ワーグナー	
1974	昭和49	24	3	混声合唱	ポピュラー				
1974	昭和49	24	3			コンドルは飛んで行く	ペルー民謡	P.Simon	
1974	昭和49	24	3			スカボロフェア	P.Simon	P.Simon	
1974	昭和49	24	3			思い出のグリーングラス	C.Putman		
1974	昭和49	24	3			悲しき天使		Gene Raskin	
1974	昭和49	24	3			涙を越えて	かぜ耕士	中村八大	
1974	昭和49	24	4	混声合唱					
1974	昭和49	24	4			祈りの日	メキシコ民謡		
1974	昭和49	24	4			アニー・ローリー	堀内敬三訳詩	スコット	
1974	昭和49	24	4			ねえママ	インドネシア民謡	宮城五鈴	
1974	昭和49	24	4			ロンドンデリー・エア	アイルランド民謡		
1974	昭和49	24	4			奉献歌	三浦和夫訳詩	ベートーベン	
1974	昭和49	24	4		「天地創造」より	御空は語る神の榮譽		ハイドン	
1974	昭和49	24	5	組曲「筑後川」					
1974	昭和49	24	5			みなかみ	丸山豊	團伊玖磨	
1974	昭和49	24	5			ダムにて	丸山豊	團伊玖磨	
1974	昭和49	24	5			銀の魚	丸山豊	團伊玖磨	
1974	昭和49	24	5			川の祭	丸山豊	團伊玖磨	
1974	昭和49	24	5			河口	丸山豊	團伊玖磨	
1975	昭和50	25	1	女声合唱					
1975	昭和50	25	2	男声合唱					
1975	昭和50	25	2			柳河	北原白秋	多田武彦	
1975	昭和50	25	2			そのとき	松谷稜	松谷稜	
1975	昭和50	25	2			海はなかった	岩間芳樹	廣瀬量平	
1975	昭和50	25	2			Cantate Domino	ラサーン	ハスラー	
1975	昭和50	25	2			Trosterin Musik		ブルックナー	
1975	昭和50	25	2		組曲「雨」	雨の来る前	伊藤整	多田武彦	
1975	昭和50	25	2			武蔵野の雨	大木惇夫	多田武彦	
1975	昭和50	25	2			雨の日の遊動円木	大木惇夫	多田武彦	
1975	昭和50	25	2			十一月に降る雨	堀口大學	多田武彦	
1975	昭和50	25	2			雨の日に見る	大木惇夫	多田武彦	
1975	昭和50	25	2			雨	八木重吉	多田武彦	
1975	昭和50	25	3	混声合唱					
1975	昭和50	25	3			流浪の民	小倉小三郎	シューマン	
1975	昭和50	25	3			しらさぎ			
1975	昭和50	25	3		歌劇「タンホイザー」より	巖かなるこの広敷	ガイベル	ワーグナー	
1975	昭和50	25	4	混声合唱					

年度	年度	回	行	ステージ	曲名 1	曲名 2	作詩	作曲	編曲	
1975	昭和50	25	4		組曲「蔵王」より	蔵王讃歌	尾崎礎瑛子	佐藤眞		
1975	昭和50	25	4			投げようリンゴを	尾崎礎瑛子	佐藤眞		
1975	昭和50	25	4			苔の花	尾崎礎瑛子	佐藤眞		
1975	昭和50	25	4			どっこ沼	尾崎礎瑛子	佐藤眞		
1975	昭和50	25	4			吹雪	尾崎礎瑛子	佐藤眞		
1975	昭和50	25	4			早春	尾崎礎瑛子	佐藤眞		
1976	昭和51	26	1	女声合唱						
1976	昭和51	26	2	男声合唱						
1976	昭和51	26	2				そのとき	松谷稔		松谷稔
1976	昭和51	26	2				月夜を歩く	伊藤整		多田武彦
1976	昭和51	26	2				春	北川冬彦		高田三郎
1976	昭和51	26	2				PSALM98 (詩篇)			平田甫
1976	昭和51	26	2				Standchen	ヴォルフ		マルシュネル
1976	昭和51	26	2				My Way	中島淳訳詩		ポール・アンカ
1976	昭和51	26	2			組曲「月光とピエロ」	月夜	堀口大學		清水脩
1976	昭和51	26	2				秋のピエロ	堀口大學		清水脩
1976	昭和51	26	2			ピエロ	堀口大學	清水脩		
1976	昭和51	26	2			ピエロの嘆き	堀口大學	清水脩		
1976	昭和51	26	2			月光とピエロと ピエレットの唐草模様	堀口大學	清水脩		
1976	昭和51	26	3	混声合唱						
1976	昭和51	26	3			ジャン・ラシーヌ頌	中山知子訳詩	ガブリエル・フォーレ		
1976	昭和51	26	3			秋の女よ	佐藤春夫	大中恩		
1976	昭和51	26	3		オラトリオ「四季」より	来よ春	高田三九三	ハイドン		
1976	昭和51	26	3			グローリア		モーツァルト		
1976	昭和51	26	3		オラトリオ「天地創造」より	はえあるみ手わざ		ハイドン		
1976	昭和51	26	3		カンタータ「土の歌」より	大地讃頌	大木惇夫	佐藤眞		
1976	昭和51	26	4	混声合唱						
1976	昭和51	26	4		混声合唱曲「島よ」		伊藤海彦	大中恩		
1977	昭和52	27	1	女声合唱						
1977	昭和52	27	2	男声合唱						
1977	昭和52	27	2			アカシヤの径	鈴木薫	多田武彦		
1977	昭和52	27	2			年の別れ	堀口大學	多田武彦		
1977	昭和52	27	2			春宵感懐	中原中也	大中恩		
1977	昭和52	27	2			河童昇天	神保光太郎	石河清		
1977	昭和52	27	2			音縁譚・光よ音の流れよ	牧野統	牧野統		
1977	昭和52	27	2		組曲「雪明りの路」	春を待つ	伊藤整	多田武彦		
1977	昭和52	27	2			梅ちゃん	伊藤整	多田武彦		
1977	昭和52	27	2			月夜を歩く	伊藤整	多田武彦		
1977	昭和52	27	2			白い障子	伊藤整	多田武彦		
1977	昭和52	27	2			夜まわり	伊藤整	多田武彦		
1977	昭和52	27	2			雪夜	伊藤整	多田武彦		
1977	昭和52	27	3	ポピュラー						

年度	年度	回	ｽﾚ	ｽﾃｰｼﾞ	曲名 1	曲名 2	作詩	作曲	編曲	
1977	昭和52	27	3	混声合唱	「サウンド オブ ミュージック」より	The Sound of Music			荻久保和明	
1977	昭和52	27	3			Do-Re-Mi			荻久保和明	
1977	昭和52	27	3			Climb Every Mountain			荻久保和明	
1977	昭和52	27	3			カントリー＝ロード			米丸健一	
1977	昭和52	27	3			怪獣のバラード	岡田富美子	東海林修		
1977	昭和52	27	4			合唱曲集「からたちの花」より	からたちの花	北原白秋	山田耕筈	増田順平
1977	昭和52	27	4				この道	北原白秋	山田耕筈	増田順平
1977	昭和52	27	4				ペイチカ	北原白秋	山田耕筈	増田順平
1977	昭和52	27	4			組曲「空・道・河」より	空	江間章子	福井文彦	
1977	昭和52	27	4				道	江間章子	福井文彦	
1977	昭和52	27	4				河	江間章子	福井文彦	
1977	昭和52	27	4			組曲「風のうた」より	春の風	中村千栄子	大中恩	
1977	昭和52	27	4				夏の風	中村千栄子	大中恩	
1977	昭和52	27	4		秋の風	中村千栄子	大中恩			
1977	昭和52	27	4		冬の風	中村千栄子	大中恩			
1978	昭和53	28	1	女声合唱						
1978	昭和53	28	2	男声合唱						
1978	昭和53	28	2	ポピュラー	組曲「富士山」	アニー・ローリー	スコットランド民謡	スコット		
1978	昭和53	28	2			夜明け	伊藤整	高田三郎		
1978	昭和53	28	2			紀の國	津村信夫	多田武彦		
1978	昭和53	28	2			最上川舟歌	山形県民謡	清水脩		
1978	昭和53	28	2			作品第壹	草野心平	多田武彦		
1978	昭和53	28	2			作品第肆	草野心平	多田武彦		
1978	昭和53	28	2			作品第拾陸	草野心平	多田武彦		
1978	昭和53	28	2			作品第拾捌	草野心平	多田武彦		
1978	昭和53	28	2			作品第貳拾壹	草野心平	多田武彦		
1978	昭和53	28	3							
1978	昭和53	28	3		The Sound of Silence	P.Simon	P.Simon	J.Nowak		
1978	昭和53	28	3		雨にぬれても	Hal David	Bart Bacharach	荻久保和明		
1978	昭和53	28	3		"OB-LA-DI,OB-LA-DA"	J.Lennon / P.McCARTNEY	J.Lennon / P.McCARTNEY	荻久保和明		
1978	昭和53	28	3		Melody Fair	B.Robin / M.Gibb	B.Robin / M.Gibb	荻久保和明		
1978	昭和53	28	3		出発の歌	及川恒平	小室等	荻久保和明		
1978	昭和53	28	4	混声合唱	「メサイヤ」より					
1978	昭和53	28	4			主エホバの御栄光は		ヘンデル		
1978	昭和53	28	4			視よ神の羔羊		ヘンデル		
1978	昭和53	28	4			ハレルヤ		ヘンデル		
1978	昭和53	28	4			世のつみを負ひてほふられたるこひつじに		ヘンデル		
1978	昭和53	28	4	組曲「海の詩」		海はなかった	岩間芳樹	廣瀬量平		
1978	昭和53	28	4			内なる怪魚シーラカンス	岩間芳樹	廣瀬量平		
1978	昭和53	28	4			海の子守歌	岩間芳樹	廣瀬量平		
1978	昭和53	28	4			海の匂い	岩間芳樹	廣瀬量平		

年度	年度	回	桁	ステージ	曲名 1	曲名 2	作詩	作曲	編曲
1978	昭和53	28	4			航海	岩間芳樹	廣瀬量平	
1979	昭和54	29	1	女声合唱					
1979	昭和54	29	2	男声合唱					
1979	昭和54	29	2			EDEL WEISS			
1979	昭和54	29	2			BEATIMORTUI			
1979	昭和54	29	2			KYRIE ELEISON			
1979	昭和54	29	2		組曲「草野心平の詩から」	そうらん節	北海道民謡	清水脩	福永陽一郎
1979	昭和54	29	2			石家荘にて	草野心平	多田武彦	
1979	昭和54	29	2			天	草野心平	多田武彦	
1979	昭和54	29	2			金魚	草野心平	多田武彦	
1979	昭和54	29	2			雨	草野心平	多田武彦	
1979	昭和54	29	2			さくらちる	草野心平	多田武彦	
1979	昭和54	29	3	ポピュラー					
1979	昭和54	29	3			LUCKEY IN THE SKY WITH DIAMONDS			
1979	昭和54	29	3			PENNY LANE			
1979	昭和54	29	3			THE FOOL ON THE HILL			
1979	昭和54	29	3			HELLO GOOD-BY			
1979	昭和54	29	3			THE LONG AND WINDING ROAD			
1979	昭和54	29	4	混声合唱					
1979	昭和54	29	4		組曲「海鳥の詩」	オロロン鳥	更科源蔵	廣瀬量平	
1979	昭和54	29	4			エトピリカ	更科源蔵	廣瀬量平	
1979	昭和54	29	4			海鶴	更科源蔵	廣瀬量平	
1979	昭和54	29	4			北の海鳥	更科源蔵	廣瀬量平	
1979	昭和54	29	4		組曲「心の四季」	風が	吉野弘	高田三郎	
1979	昭和54	29	4			みずすまし	吉野弘	高田三郎	
1979	昭和54	29	4			流れ	吉野弘	高田三郎	
1979	昭和54	29	4			山が	吉野弘	高田三郎	
1979	昭和54	29	4			愛そして風	吉野弘	高田三郎	
1979	昭和54	29	4			雪の日に	吉野弘	高田三郎	
1979	昭和54	29	4			真昼の星	吉野弘	高田三郎	
1980	昭和55	30	1	女声合唱					
1980	昭和55	30	2	男声合唱					
1980	昭和55	30	2			冬の夜更けに	牧野統	牧野統	
1980	昭和55	30	2			春	山村暮鳥	牧野統	
1980	昭和55	30	2			曲がりかど	竹内しげ	石川皓也	
1980	昭和55	30	2			おてもやん	熊本県民謡		福永陽一郎
1980	昭和55	30	2			Ride the Chariot	黒人霊歌		福永陽一郎
1980	昭和55	30	2			Carry me back to Old Virginny	J.A.ブランド		加藤碧郎
1980	昭和55	30	2		組曲「水のいのち」より	雨	高野喜久雄	高田三郎	
1980	昭和55	30	2			水たまり	高野喜久雄	高田三郎	
1980	昭和55	30	2			川	高野喜久雄	高田三郎	
1980	昭和55	30	2			海	高野喜久雄	高田三郎	
1980	昭和55	30	2			海よ	高野喜久雄	高田三郎	
1980	昭和55	30	2			音楽部讃歌・光よ音の流れよ	牧野統	牧野統	

年度	年度	回	ｽﾚ	ｽﾃｰｼﾞ	曲名 1	曲名 2	作詩	作曲	編曲	
1980	昭和55	30	2	混声合唱	組曲「マッチ売りの少女」より	Finale Requiem	牧野統	牧野統		
1980	昭和55	30	3		レクイエム	Sunctus		フォーレ		
1980	昭和55	30	3			Agnus Dei		モーツァルト		
1980	昭和55	30	3		組曲「大阿蘇」	火のあけぼの	丸山豊	團伊玖磨		
1980	昭和55	30	3			カルデラの川	丸山豊	團伊玖磨		
1980	昭和55	30	3			りんどう	丸山豊	團伊玖磨		
1980	昭和55	30	3			青年讃歌	丸山豊	團伊玖磨		
1981	昭和56	31	1		MISSA DA REQUIEM					
1981	昭和56	31	1			Introitus		Claudin de Sermisy		
1981	昭和56	31	1			Kirie		Claudin de Sermisy		
1981	昭和56	31	1		Graduale		Claudin de Sermisy			
1981	昭和56	31	1		Traduale		Claudin de Sermisy			
1981	昭和56	31	1		Offertorium		Claudin de Sermisy			
1981	昭和56	31	1		Sanctus		Claudin de Sermisy			
1981	昭和56	31	1		Agnus Dei		Claudin de Sermisy			
1981	昭和56	31	2	愛唱曲集						
1981	昭和56	31	2		流浪の民					
1981	昭和56	31	2		組曲「雪と花火」より	花火	北原白秋	多田武彦	清水脩	
1981	昭和56	31	2		組曲「雨」より	武蔵野の雨	大木惇夫	多田武彦		
1981	昭和56	31	2			大漁祝い	福島県民謡			
1981	昭和56	31	2			Die minnesanger 吟遊詩人	Robert Schumann	Heinrich Heine		
1981	昭和56	31	2			我が里程標	片岡輝	平吉毅州		
1981	昭和56	31	3	All about SIMON&GARFUNKEL						
1981	昭和56	31	3			The Sound of Silence	P.Simon	P.Simon		
1981	昭和56	31	3			Scarborough Fair/Canticle	P.Simon	P.Simon		
1981	昭和56	31	3			The Boxer	P.Simon	P.Simon		
1981	昭和56	31	3			Bridge Over Troubled Water	P.Simon	P.Simon		
1981	昭和56	31	4	男声合唱とピアノの ための「ゆうやけの歌」 組曲「五つのラメント」			川崎洋	湯山昭		
1982	昭和57	32	1			十字架	草野心平	廣瀬量平	多田武彦	
1982	昭和57	32	1			さようなら一万年	草野心平	廣瀬量平		
1982	昭和57	32	1			天のベンチ	草野心平	廣瀬量平		
1982	昭和57	32	1			オーボエの雲	草野心平	廣瀬量平		
1982	昭和57	32	1			Volga	草野心平	廣瀬量平		
1982	昭和57	32	2	愛唱曲集						
1982	昭和57	32	2			Set Down Servant	黒人霊歌	横山昭		
1982	昭和57	32	2			エリモ岬	草野心平	多田武彦		
1982	昭和57	32	2			塩田小唄	香川県民謡			
1982	昭和57	32	2			水のうた	丸山豊	大中恩		
1982	昭和57	32	2			鷗どり	三好達治	多田武彦		
1982	昭和57	32	3	SHOKING CHORUS 32	by American Screen Music				佐竹俊幸	
1982	昭和57	32	3			March				

年度	年度	回	ｽﾚ	ｽﾃｰｼﾞ	曲名 1	曲名 2	作詩	作曲	編曲
1982	昭和57	32	3			Western			佐竹俊幸
1982	昭和57	32	3			Vivace			佐竹俊幸
1982	昭和57	32	3			Andante			佐竹俊幸
1982	昭和57	32	3			Finale			佐竹俊幸
1982	昭和57	32	4	組曲「海鳥の詩」					
1982	昭和57	32	4			オロロン鳥	更科源蔵	廣瀬量平	
1982	昭和57	32	4			エトピリカ	更科源蔵	廣瀬量平	
1982	昭和57	32	4			海鷗	更科源蔵	廣瀬量平	
1982	昭和57	32	4			北の海鳥	更科源蔵	廣瀬量平	
1983	昭和58	33	1	組曲「雪国にて」					
1983	昭和58	33	1			関川の里	堀口大學	多田武彦	
1983	昭和58	33	1			或る誕生	堀口大學	多田武彦	
1983	昭和58	33	1			雪の中の歌	堀口大學	多田武彦	
1983	昭和58	33	1			昔の雪	堀口大學	多田武彦	
1983	昭和58	33	1			老雪	堀口大學	多田武彦	
1983	昭和58	33	1			雪中越冬	堀口大學	多田武彦	
1983	昭和58	33	2	愛唱曲集					
1983	昭和58	33	2			Erie Canal	シーシャンティー		福永陽一郎
1983	昭和58	33	2			斎太郎節	宮城県民謡		竹花秀昭
1983	昭和58	33	2		組曲「ひたすらな道」より	弦	高野喜久雄	高田三郎	
1983	昭和58	33	2			白熊仔熊	サトウハチロー	平吉毅州	
1983	昭和58	33	2			みぞれ	伊藤民枝	野田暉行	
1983	昭和58	33	3	The Beatles					
1983	昭和58	33	3			Panny Lane			木村裕広&パーマス委員会
1983	昭和58	33	3			Paperback Writer			木村裕広&パーマス委員会
1983	昭和58	33	3			She' s Leaving Home			木村裕広&パーマス委員会
1983	昭和58	33	3			Something			木村裕広&パーマス委員会
1983	昭和58	33	3			Hey Jude			木村裕広&パーマス委員会
1983	昭和58	33	4	組曲「川よとわに美しく」					
1983	昭和58	33	4			釈哲道童子	米田栄作	三枝成彰	
1983	昭和58	33	4			永遠の川	米田栄作	三枝成彰	
1983	昭和58	33	4			荒廢に立ちて	米田栄作	三枝成彰	
1983	昭和58	33	4			静脈の川	米田栄作	三枝成彰	
1983	昭和58	33	4			川よとわに美しく	米田栄作	三枝成彰	
1984	昭和59	34	1	組曲「わがふるき日のうた」					
1984	昭和59	34	1			鶯のうへ	三好達治	多田武彦	
1984	昭和59	34	1			湖水	三好達治	多田武彦	
1984	昭和59	34	1			Enfance finie	三好達治	多田武彦	
1984	昭和59	34	1			木兎	三好達治	多田武彦	
1984	昭和59	34	1			郷愁	三好達治	多田武彦	
1984	昭和59	34	1			鐘鳴りぬ	三好達治	多田武彦	
1984	昭和59	34	1			雪はふる	三好達治	多田武彦	
1984	昭和59	34	2	愛唱曲集					
1984	昭和59	34	2			My old Kentucky Home		フォスター	小高秀一

年度	年度	回	行	ステージ	曲名 1	曲名 2	作詩	作曲	編曲
1984	昭和59	34	2		松前追分	前・本・後唄			多田武彦
1984	昭和59	34	2		「ロマンスとバラード第一集」より	二人の擲弾兵 Die Beiden Grenadiere	H.ハイネ	R.シューマン	津川圭一
1984	昭和59	34	2		「五つのラメント」より	天のベンチ	草野心平	廣瀬量平	
1984	昭和59	34	2		「月光とピエロ」より	秋のピエロ	堀口大學	清水脩	
1984	昭和59	34	3	ビリー・ジョエル	ステージ				
1984	昭和59	34	3			The Stranger			小暮孝明
1984	昭和59	34	3			My Life			千葉昌幸
1984	昭和59	34	3			Just The Way You Are			井上知己
1984	昭和59	34	3			Uptown Girl			東真也
1984	昭和59	34	3			Honesty			岡本光順
1984	昭和59	34	3			This Night			半田恭彦
1984	昭和59	34	4	男声合唱曲「岬の墓」(OB合同ステージ)			堀田善衛	團伊玖磨	
1985	昭和60	35	1	無伴奏男声合唱のための「今でも…ローセキは魔法の杖」					
1985	昭和60	35	1			溢れる泉は日々を巡り	柴野利彦	遠藤雅夫	
1985	昭和60	35	1			道路は巨大なキャンパス	柴野利彦	遠藤雅夫	
1985	昭和60	35	1			炎のように…	柴野利彦	遠藤雅夫	
1985	昭和60	35	1			爽やかなレモンの風は	柴野利彦	遠藤雅夫	
1985	昭和60	35	1			深い眠りに包まれて	柴野利彦	遠藤雅夫	
1985	昭和60	35	1			明るい光に満ちた季節は惑いを止め	柴野利彦	遠藤雅夫	
1985	昭和60	35	1						
1985	昭和60	35	2	愛歌曲集					
1985	昭和60	35	2		「阿波」より	たいしめ(鯛締)		三木稔	
1985	昭和60	35	2			年の別れ	堀口大學	多田武彦	
1985	昭和60	35	2			Choeurs des soldats		C.F.Gounod	
1985	昭和60	35	2			柳河	北原白秋	多田武彦	
1985	昭和60	35	2			秋の歌	堀口大學訳詩	南弘明	
1985	昭和60	35	2			さる	谷川俊太郎	新実徳英	
1985	昭和60	35	2						
1985	昭和60	35	3	Poul McCartney & John Lennon					
1985	昭和60	35	3			PIPES OF PEACE			園山実・高橋英之 中島康敬・渡部健之
1985	昭和60	35	3			IMAGINE			園山実・高橋英之 中島康敬・渡部健之
1985	昭和60	35	3			WOMAN			園山実・高橋英之 中島康敬・渡部健之
1985	昭和60	35	3			KEEP UNDER COVER			園山実・高橋英之 中島康敬・渡部健之
1985	昭和60	35	3			SAY SAY SAY			園山実・高橋英之 中島康敬・渡部健之
1985	昭和60	35	3			HAPPY X' MAS(WAR IS OVER)			園山実・高橋英之 中島康敬・渡部健之
1985	昭和60	35	4	組曲「ゆうべ、海を見た」					



年度	年度	回	ｽﾀ	ｽﾃｰｼﾞ	曲名 1	曲名 2	作詩	作曲	編曲
1985	昭和60	35	4			PRELUDE (前奏曲)	落合恵子	荻久保和明	
1985	昭和60	35	4			八月 (あきらめの海)	落合恵子	荻久保和明	
1985	昭和60	35	4			九月 (朽ちた小舟)	落合恵子	荻久保和明	
1985	昭和60	35	4			十月 (哭く)	落合恵子	荻久保和明	
1985	昭和60	35	4			そしてララバイ	落合恵子	荻久保和明	
1986	昭和61	36	1	組曲「中勘助の詩から」					
1986	昭和61	36	1			絵日傘	中勘助	多田武彦	
1986	昭和61	36	1			椿	中勘助	多田武彦	
1986	昭和61	36	1			四十雀	中勘助	多田武彦	
1986	昭和61	36	1			ほほじろの声	中勘助	多田武彦	
1986	昭和61	36	1			かもめ	中勘助	多田武彦	
1986	昭和61	36	1			ふり売り	中勘助	多田武彦	
1986	昭和61	36	1			追羽根	中勘助	多田武彦	
1986	昭和61	36	2	愛唱曲集					
1986	昭和61	36	2		「黒人霊歌」より	Soon Ah Will Be Done		W.L.Dawson	
1986	昭和61	36	2		「12のインベンション」より	米搗歌	岩手県民謡	間宮芳生	
1986	昭和61	36	2		「草野心平の詩から」より	さくらちる	草野心平	多田武彦	
1986	昭和61	36	2		「蛙の歌」より	小曲	草野心平	南弘明	
1986	昭和61	36	2		「潮風のうた」より	海の男	中村千栄子	平野淳一	
1986	昭和61	36	2		「流水のうた」より	光の讃歌	阿部保	湯山昭	
1986	昭和61	36	3	エア サプライ					
1986	昭和61	36	3			ロスト・イン・ラヴ			野中秀哲
1986	昭和61	36	3			潮風のラヴ・コール			今西淳
1986	昭和61	36	3			レイト・アゲイン			岡部造史
1986	昭和61	36	3			ときめきの愛を			岡部造史
1986	昭和61	36	3			さよならロンリー・ラヴ			灘芳弘
1986	昭和61	36	3			渚の誓い			塚原理
1986	昭和61	36	4	組曲「青いメッセージ」					
1986	昭和61	36	4			月蝕と花火序詩	草野心平	高嶋みどり	
1986	昭和61	36	4			青い花	草野心平	高嶋みどり	
1986	昭和61	36	4			婆さん蛙ミミミの挨拶	草野心平	高嶋みどり	
1986	昭和61	36	4			秋の夜の会話	草野心平	高嶋みどり	
1986	昭和61	36	4			サリム自伝	草野心平	高嶋みどり	
1986	昭和61	36	4			ごびらっふの独白	草野心平	高嶋みどり	
1987	昭和62	37	1	組曲「中原中也の詩から」					
1987	昭和62	37	1			北の海	中原中也	多田武彦	
1987	昭和62	37	1			汚れちまった悲しみに	中原中也	多田武彦	
1987	昭和62	37	1			間奏曲	中原中也	多田武彦	
1987	昭和62	37	1			雲雀	中原中也	多田武彦	
1987	昭和62	37	1			六月の雨	中原中也	多田武彦	
1987	昭和62	37	1			月の光	中原中也	多田武彦	
1987	昭和62	37	2	これぞ!!我らの名曲集					
1987	昭和62	37	2		「English Sea Chanty」より	What Shall We Do With The Drunken Sailor			Robert Shaw
1987	昭和62	37	2			殖生の宿	里見義訳詩	H.Bishop	小高秀一

年度	年度	回	行	ステージ	曲名 1	曲名 2	作詩	作曲	編曲
1987	昭和62	37	2			箱根八里	鳥居忱	滝廉太郎	小高秀一
1987	昭和62	37	2		「冬の日の記憶」より	南無ダダ	中原中也	多田武彦	
1987	昭和62	37	2		「月下の一群」より	人の言うことを信じるな	堀口大學訳詩	南弘明	
1987	昭和62	37	2			Die Nacht 夜	Friedrich Wilhelm Krummacher	Franz Schubert	
1987	昭和62	37	2			巨木のうた	木島始	林光	
1987	昭和62	37	2		「月下の一群・第二集」より	十月の薔薇	堀口大學訳詩	南弘明	
1987	昭和62	37	3	The Screen Music of U.S.A.					
1987	昭和62	37	3			サウンド・オブ・サイレンス			酒井学
1987	昭和62	37	3			エンターテイナー			谷口典亨
1987	昭和62	37	3			素直になれなくて			酒井学
1987	昭和62	37	3			黄色いリボン			田中一彦
1987	昭和62	37	3			雨にぬれても			田中克行
1987	昭和62	37	3			愛と青春の旅立ち			細川佳史
1987	昭和62	37	3			恋とはすばらしきもの			谷口典亨
1987	昭和62	37	4	男声合唱のための「季節へのまなざし」					
1987	昭和62	37	4			ひらく	伊藤海彦	荻久保和明	
1987	昭和62	37	4			のびる	伊藤海彦	荻久保和明	
1987	昭和62	37	4			みのる	伊藤海彦	荻久保和明	
1987	昭和62	37	4			ゆめみる	伊藤海彦	荻久保和明	
1987	昭和62	37	5	全日本合唱コンクール全国大会銀賞受賞記念ステージ					
1987	昭和62	37	5			Pomorane	Frantisek Ladislau	Antonin Dvorak	
1987	昭和62	37	5			ボメラニヤの人々	Celakovsky		
1987	昭和62	37	5		「青いメッセージ」より	ごびらっふの独白	草野心平	高嶋みどり	
1988	昭和63	38	1	組曲「三崎のうた」					
1988	昭和63	38	1			丘の三角畑			
1988	昭和63	38	1			白南風黒南風			
1988	昭和63	38	1			海雀			
1988	昭和63	38	1			雨中小景			
1988	昭和63	38	1			箱組			
1988	昭和63	38	2	愛唱歌集					
1988	昭和63	38	2		「Sea Chanty」より	Sailing-Sailing	Godfrey Mark		福永陽一郎
1988	昭和63	38	2		「雨」より	雨の日の遊動円木	大木惇夫	多田武彦	
1988	昭和63	38	2		「チャイコフスキー-歌劇」より	憧れを知る者のみが	Goethe	Tchaikovsky	
1988	昭和63	38	2			時代一飛び立つ鳥は一	阿久悠	佐藤真	
1988	昭和63	38	2		「月下の一群・第三集」より	輪踊り	堀口大學訳詩	南弘明	
1988	昭和63	38	2			心の渚	高見順	清水脩	
1988	昭和63	38	2		「祈りの虹」より	ヒロシマにかける虹	津田定雄	新実徳英	
1988	昭和63	38	3	Summer Memories					
1988	昭和63	38	3			SO MUCH IN LOVE			池田哲哉
1988	昭和63	38	3			君は天然色			谷川真樹
1988	昭和63	38	3			“OB-LA-DI,OB-LA-DA”			山土井俊晶
1988	昭和63	38	3			夏の日			辻庸一
1988	昭和63	38	3			松田の子守唱			奥山英朗

年度	年度	回	行	ステージ	曲名 1	曲名 2	作詩	作曲	編曲
1988	昭和63	38	3			SURF-IN' USA			竹沢浩司
1988	昭和63	38	3			想い出の渚			熊田啓介
1988	昭和63	38	4	[Zigeunermelodien] op.55	[ジプシーの歌] 作品55				
1988	昭和63	38	4			わが歌ひびけ	A.Heyduk	A.Dvorak	福永陽一郎
1988	昭和63	38	4			きけよトライアングル	A.Heyduk	A.Dvorak	福永陽一郎
1988	昭和63	38	4			森はしづかに	A.Heyduk	A.Dvorak	福永陽一郎
1988	昭和63	38	4			わが母の教えたまいし歌	A.Heyduk	A.Dvorak	福永陽一郎
1988	昭和63	38	4			弦を整えて	A.Heyduk	A.Dvorak	福永陽一郎
1988	昭和63	38	4			軽い着物	A.Heyduk	A.Dvorak	福永陽一郎
1988	昭和63	38	4			鷹は自由に	A.Heyduk	A.Dvorak	福永陽一郎
1989	平成1	39	1	組曲「わがふるき日のうた」					
1989	平成1	39	1			麓のうへ	三好達治	多田武彦	
1989	平成1	39	1			湖水	三好達治	多田武彦	
1989	平成1	39	1			Enfance finie	三好達治	多田武彦	
1989	平成1	39	1			木兎	三好達治	多田武彦	
1989	平成1	39	1			郷愁	三好達治	多田武彦	
1989	平成1	39	1			鐘鳴りぬ	三好達治	多田武彦	
1989	平成1	39	1			雪はふる	三好達治	多田武彦	
1989	平成1	39	2	これぞ！我らの名曲集					
1989	平成1	39	2		[マザーグースのうた]より	くぎがふそくで			
1989	平成1	39	2		[北斗の海]より	エリモ岬			
1989	平成1	39	2		[富士山]より	作品第肆			
1989	平成1	39	2		[クレーの絵本第二集]より	黄金の魚			
1989	平成1	39	2			Pater noster			
1989	平成1	39	2		[アイヌのウポポ]より	くじら祭り	近藤鏡二郎採譜	清水脩	
1989	平成1	39	2			イヨマンテ(熊祭り)	近藤鏡二郎採譜	清水脩	
1989	平成1	39	2			リムセ(輪舞)	近藤鏡二郎採譜	清水脩	
1989	平成1	39	3	ポピュラーステージ “Boy' s Hearts”					
1989	平成1	39	3			Is this love?			塚原済・辻脩一 中川督之・須藤秀和
1989	平成1	39	3			Stand by me			塚原済・辻脩一 中川督之・須藤秀和
1989	平成1	39	3			Freedom			塚原済・辻脩一 中川督之・須藤秀和
1989	平成1	39	3			Will you still love me?			塚原済・辻脩一 中川督之・須藤秀和
1989	平成1	39	3			Overnight Success			塚原済・辻脩一 中川督之・須藤秀和
1989	平成1	39	3			Alone Again			塚原済・辻脩一 中川督之・須藤秀和
1989	平成1	39	4	男声合唱とピアノのための「感傷的な2つの奏鳴曲」より					
1989	平成1	39	4			くらげの唄	金子光晴	高嶋みどり	
1989	平成1	39	4			落下傘	金子光晴	高嶋みどり	
1990	平成2	40	1	組曲「海に寄せる歌」					

年度	年度	回	行	ステージ	曲名 1	曲名 2	作詩	作曲	編曲			
1990	平成 2	40	1			砂上	三好達治	多田武彦				
1990	平成 2	40	1			仔羊	三好達治	多田武彦				
1990	平成 2	40	1			涙	三好達治	多田武彦				
1990	平成 2	40	1			この浦に	三好達治	多田武彦				
1990	平成 2	40	1			鷗どり	三好達治	多田武彦				
1990	平成 2	40	1			既に鷗は	三好達治	多田武彦				
1990	平成 2	40	1			ある橋上にて	三好達治	多田武彦				
1990	平成 2	40	2			愛唱曲集						
1990	平成 2	40	2				「水のいのち」より	雨		高野喜久雄	高田三郎	佐藤眞
1990	平成 2	40	2					大地讃頌		大木惇夫	佐藤眞	
1990	平成 2	40	2		「小譚詩」より	パリンカ	藪田義雄	小山章三	清水脩			
1990	平成 2	40	2		「五つのラメント」より	Vorga	草野心平	廣瀬量平				
1990	平成 2	40	2			最上川舟歌	山形県民謡		林雄一郎			
1990	平成 2	40	2			遙かな友に	磯部俣	磯部俣	新井元氣・北川義將 塩原敏充・西村仁史 町田能章			
1990	平成 2	40	3	ポピュラーステージ	“わがふるき日のうた”							
1990	平成 2	40	4	組曲「青いメッセージ」								
1990	平成 2	40	4			月蝕と花火序詩	草野心平	高嶋みどり				
1990	平成 2	40	4			青イ花	草野心平	高嶋みどり				
1990	平成 2	40	4			婆さん蛙ミミの挨拶	草野心平	高嶋みどり				
1990	平成 2	40	4			秋の夜の会話	草野心平	高嶋みどり				
1990	平成 2	40	4			サリム自伝	草野心平	高嶋みどり				
1990	平成 2	40	4			ごびらっふの独白	草野心平	高嶋みどり				
1991	平成 3	41	1	組曲「柳河風俗詩」								
1991	平成 3	41	1		柳河	北原白秋	多田武彦					
1991	平成 3	41	1		紺屋のおろく	北原白秋	多田武彦					
1991	平成 3	41	1		かきつばた	北原白秋	多田武彦					
1991	平成 3	41	1		梅雨の晴れ間	北原白秋	多田武彦					
1991	平成 3	41	2	これこそ我らの名曲集								
1991	平成 3	41	2			かみさまへのてがみ	谷川俊太郎訳詩	高嶋みどり				
1991	平成 3	41	2			エトピリカ	更科源蔵	廣瀬量平				
1991	平成 3	41	2			かっぱ	谷川俊太郎	新実徳英				
1991	平成 3	41	2			An Webers Grabe		Richard Wagner				
1991	平成 3	41	2			GLORIA		Albert Duhaupas				
1991	平成 3	41	2			斎太郎節	宮城県民謡	清水脩				
1991	平成 3	41	2			秋のピエロ	堀口大學	清水脩				
1991	平成 3	41	3	お茶の間シアター～映画でポン～								
1991	平成 3	41	3			背番号のないエース			高平亘・西澤 裕美・脇田潤			
1991	平成 3	41	3			男はつらいよ			高平亘・西澤 裕美・脇田潤			
1991	平成 3	41	3			WHAT A FEELING			高平亘・西澤 裕美・脇田潤			

年度	年度	回	ｽﾂ	ｽﾂｰｼﾞ	曲名 1	曲名 2	作詩	作曲	編曲
1991	平成 3	41	3			SEVEN DAYS WAR			高平亘・西澤裕美・脇田潤
1991	平成 3	41	3			DANGER ZONE			高平亘・西澤裕美・脇田潤
1991	平成 3	41	3			時をかける少女			高平亘・西澤裕美・脇田潤
1991	平成 3	41	4	季節へのまなごし (男声版)					
1991	平成 3	41	4			ひらく	伊藤海彦	荻久保和明	
1991	平成 3	41	4			のびる	伊藤海彦	荻久保和明	
1991	平成 3	41	4			みのも	伊藤海彦	荻久保和明	
1991	平成 3	41	4			ゆめみる	伊藤海彦	荻久保和明	
1992	平成 4	42	1	組曲「富士山」					
1992	平成 4	42	1			作品第壹	草野心平	多田武彦	
1992	平成 4	42	1			作品第肆	草野心平	多田武彦	
1992	平成 4	42	1			作品第拾陸	草野心平	多田武彦	
1992	平成 4	42	1			作品第拾捌	草野心平	多田武彦	
1992	平成 4	42	1			作品第貳拾壹	草野心平	多田武彦	
1992	平成 4	42	2	愛唱曲集 みんなのうた					
1992	平成 4	42	2			Vive L' Amour		Robert Shaw	
1992	平成 4	42	2			つばき・やぶかんぞう・あさがお	星野富弘	新実徳英	
1992	平成 4	42	2			鳥が	川崎洋	新実徳英	
1992	平成 4	42	2		「阿波」より	たいしめ (鯛縮)		三木稔	
1992	平成 4	42	2			もちつき (餅搗)		三木稔	
1992	平成 4	42	2			そうらん節	北海道民謡	清水脩	福永陽一郎
1992	平成 4	42	2			雨	八木重吉	多田武彦	
1992	平成 4	42	3	グ ROCKEY 4 1/2 ~炎の愛情~					
1992	平成 4	42	3			If We hold on together			栗飯原拓也・西村直人・脇田潤
1992	平成 4	42	3			Missing			栗飯原拓也・西村直人・脇田潤
1992	平成 4	42	3			Say Yes			栗飯原拓也・西村直人・脇田潤
1992	平成 4	42	3			My Revolution			栗飯原拓也・西村直人・脇田潤
1992	平成 4	42	3			けんかをやめて			栗飯原拓也・西村直人・脇田潤
1992	平成 4	42	3			ff			栗飯原拓也・西村直人・脇田潤
1992	平成 4	42	4	組曲「水のいのち」					
1992	平成 4	42	4			雨	高野喜久雄	高田三郎	
1992	平成 4	42	4			水たまり	高野喜久雄	高田三郎	
1992	平成 4	42	4			川	高野喜久雄	高田三郎	
1992	平成 4	42	4			海	高野喜久雄	高田三郎	
1992	平成 4	42	4			海よ	高野喜久雄	高田三郎	

年度	年度	回	行	ステージ	曲名 1	曲名 2	作詩	作曲	編曲
1993	平成 5	43	1	組曲「雪明かりの路」					
1993	平成 5	43	1			春を待つ	伊藤整	多田武彦	
1993	平成 5	43	1			梅ちゃん	伊藤整	多田武彦	
1993	平成 5	43	1			月夜を歩く	伊藤整	多田武彦	
1993	平成 5	43	1			白い障子	伊藤整	多田武彦	
1993	平成 5	43	1			夜まわり	伊藤整	多田武彦	
1993	平成 5	43	1			雪夜	伊藤整	多田武彦	
1993	平成 5	43	2	愛唱曲集 これぞぼくらの十八番					
1993	平成 5	43	2		箱根八里	鳥居忱	滝廉太郎		
1993	平成 5	43	2		男声合唱とピアノのための「大地讃頌」	大木惇夫	佐藤眞		佐藤眞
1993	平成 5	43	2		遠く吹く風	県多乃梨子	黒澤吉徳		
1993	平成 5	43	2		O Domine Jesu Christe おお、 主よイエス・キリスト、善き救世主よ		Antoine Brumel		
1993	平成 5	43	2		最上川舟歌	山形県民謡			清水脩
1993	平成 5	43	2		奮え友よ	山本明	牧野統		
1993	平成 5	43	3	ポピュラーステージ おいらはドラマぁ！					
1993	平成 5	43	3		ヒーロー				
1993	平成 5	43	3		北の国から				
1993	平成 5	43	3		水戸黄門				
1993	平成 5	43	3		サンダーバード				
1993	平成 5	43	3		世情				
1993	平成 5	43	3		贈る言葉				
1993	平成 5	43	4	男声合唱とピアノのための「祈りの虹」					
1993	平成 5	43	4		“炎”	峠三吉	新実徳英		
1993	平成 5	43	4		“業火”より	金子光晴	新実徳英		
1993	平成 5	43	4		Vocalise		新実徳英		
1993	平成 5	43	4		“ヒロシマ”にかける虹	津田定雄	新実徳英		
1994	平成 6	44	1	組曲「雨」					
1994	平成 6	44	1		雨の来る前	伊藤整	多田武彦		
1994	平成 6	44	1		武蔵野の雨	大木惇夫	多田武彦		
1994	平成 6	44	1		雨の日の遊動円木	大木惇夫	多田武彦		
1994	平成 6	44	1		雨 雨	尾形亀之介	多田武彦		
1994	平成 6	44	1		雨の日に見る	大木惇夫	多田武彦		
1994	平成 6	44	1		雨	八木重吉	多田武彦		
1994	平成 6	44	2	愛唱曲集 男達の叫び '94夏					
1994	平成 6	44	2		Oh! Susanna		S.フォスター		福永陽一郎
1994	平成 6	44	2		くぎがふそくて	谷川俊太郎	青島広志		
1994	平成 6	44	2		そして夜が明ける	なかにし礼	西村朗		
1994	平成 6	44	2		たんぽぽ	星野富弘	新実徳英		
1994	平成 6	44	2		草	中沢昭二	佐藤眞		
1994	平成 6	44	2		遙かな友に	磯部俣	磯部俣		林雄一郎
1994	平成 6	44	2		斎太郎節	宮城県民謡			竹花秀昭
1994	平成 6	44	3	ポピュラーステージ	緊急輸入米ラブ・コメ				

年度	年度	回	ｽﾏ	ｽﾃｰｼﾞ	曲名 1	曲名 2	作詩	作曲	編曲
1994	平成 6	44	3			さよなら			川名賢一
1994	平成 6	44	3			Oh Pretty Woman			柳暁志
1994	平成 6	44	3			When A Man Loves A Woman			板垣克彦
1994	平成 6	44	3			Still Love Her			大場健志
1994	平成 6	44	3			君がいるだけで			古川淳也
1994	平成 6	44	4	男声合唱とピアノのための「IN TERRA PAX—地に平和を—」					
1994	平成 6	44	4			知った	鶴見正夫	荻久保和明	
1994	平成 6	44	4			OH MY SOLDIER	鶴見正夫	荻久保和明	
1994	平成 6	44	4			花をさがす少女	鶴見正夫	荻久保和明	
1994	平成 6	44	4			ほうけた母の子守歌	鶴見正夫	荻久保和明	
1994	平成 6	44	4			IN TERRA PAX—地に平和を—	鶴見正夫	荻久保和明	
1995	平成 7	45	1	組曲「北斗の海」					
1995	平成 7	45	1			Bering-fantasy	草野心平	多田武彦	
1995	平成 7	45	1			窓	草野心平	多田武彦	
1995	平成 7	45	1			風景	草野心平	多田武彦	
1995	平成 7	45	1			海	草野心平	多田武彦	
1995	平成 7	45	1			エリモ岬	草野心平	多田武彦	
1995	平成 7	45	2	愛唱曲集「Best of Glee」					
1995	平成 7	45	2			上を向いて歩こう	永六輔	中村八大	北村協一
1995	平成 7	45	2			君といつまでも	岩谷時子	弾厚作	小池義郎
1995	平成 7	45	2			生きる	谷川俊太郎	新実徳英	
1995	平成 7	45	2			Come lieta si mostra		Costanzo Festa	
1995	平成 7	45	2			ティオの夜の旅	池澤夏樹	木下牧子	
1995	平成 7	45	2			紀の國	津村信夫	多田武彦	
1995	平成 7	45	2			大地讃頌	大木惇夫	佐藤眞	
1995	平成 7	45	3	ポピュラーステージ 日曜ロードショー「晴郎の名画トンパンチ」					
1995	平成 7	45	3			守ってあげたい			倉石知之
1995	平成 7	45	3			Always love you			山本純平
1995	平成 7	45	3			アンチェインド・メロディー			五十嵐琢・桑原真樹
1995	平成 7	45	3			Over			住谷慎
1995	平成 7	45	3			いつまでも変わらぬ愛を			吉野裕司
1995	平成 7	45	4	季節へのまなざし					
1995	平成 7	45	4			ひらく	伊藤海彦	荻久保和明	
1995	平成 7	45	4			のびる	伊藤海彦	荻久保和明	
1995	平成 7	45	4			みのも	伊藤海彦	荻久保和明	
1995	平成 7	45	4			ゆめみる	伊藤海彦	荻久保和明	
1996	平成 8	46	1	組曲「アイヌのウポポ」					
1996	平成 8	46	1			くじら祭り	近藤鏡二郎採譜	清水脩	
1996	平成 8	46	1			イヨマンテ(熊祭り)	近藤鏡二郎採譜	清水脩	
1996	平成 8	46	1			ピリカピリカ	近藤鏡二郎採譜	清水脩	
1996	平成 8	46	1			日食月食に祈るうた	近藤鏡二郎採譜	清水脩	
1996	平成 8	46	1			恋歌	近藤鏡二郎採譜	清水脩	
1996	平成 8	46	1			輪舞	近藤鏡二郎採譜	清水脩	
1996	平成 8	46	2	愛唱曲集 これです! 我らの芸術品					



年度	年度	回	ｽﾏ	ｽﾃｰｼﾞ	曲名 1	曲名 2	作詩	作曲	編曲
1996	平成 8	46	2			Sailing-Sailing	Godfrey-Mark		福永陽一郎
1996	平成 8	46	2			さらば青春	小椋佳	小椋佳	福永陽一郎
1996	平成 8	46	2			風を拓いて	村田さちこ	菅野由弘	
1996	平成 8	46	2			ぼろぼろな駝鳥	高村光太郎	佐藤敏直	
1996	平成 8	46	2			最上川舟歌	山形県民謡		清水脩
1996	平成 8	46	2			奮え友よ	山本明	牧野統	
1996	平成 8	46	3		ポピュラステージ メロメロ melody 歌劇な comedy 「ほ～ら！ほらホラーだよ。」				
1996	平成 8	46	3			TOP OF THE WORLD			
1996	平成 8	46	3			空も飛べるはず			
1996	平成 8	46	3			サボテンの花			
1996	平成 8	46	3			innocent world			
1996	平成 8	46	3			浪漫飛行			
1996	平成 8	46	4	組曲「ゆうべ、海を見た」					
1996	平成 8	46	4			PRELUDE	落合恵子	荻久保和明	
1996	平成 8	46	4			八月（あきらめの海）	落合恵子	荻久保和明	
1996	平成 8	46	4			九月（朽ちた小舟）	落合恵子	荻久保和明	
1996	平成 8	46	4			十月（哭く）	落合恵子	荻久保和明	
1996	平成 8	46	4			そしてララバイ	落合恵子	荻久保和明	
1997	平成 9	47	1	組曲「柳河風俗詩」					
1997	平成 9	47	1		柳河	北原白秋	多田武彦		
1997	平成 9	47	1		紺屋のおろく	北原白秋	多田武彦		
1997	平成 9	47	1		かきつばた	北原白秋	多田武彦		
1997	平成 9	47	1		梅雨の晴れ間	北原白秋	多田武彦		
1997	平成 9	47	2	愛唱歌集「歌ってもいいかね？」					
1997	平成 9	47	2		凌雲の志			小高秀一	鈴木有理
1997	平成 9	47	2		見上げてごらん夜の星を	永六輔		いずみたく	
1997	平成 9	47	2		赤とんぼ	三木露風		山田耕筰	鈴木有理
1997	平成 9	47	2		めばえ	みずかみかずよ		木下牧子	
1997	平成 9	47	2		海景色	北川冬彦		高田三郎	
1997	平成 9	47	2		斎太郎節	宮城県民謡			竹花秀昭
1997	平成 9	47	2		遙かな友に	磯部俣		磯部俣	林雄一郎
1997	平成 9	47	3	もうガンマンできない！「ギリギリSAFEのSAVE劇」					
1997	平成 9	47	3			“Take me home, Country roads”			
1997	平成 9	47	3			RUNNER			
1997	平成 9	47	3			“Hello, again ~昔からある場所~”			
1997	平成 9	47	3			ツキ			
1997	平成 9	47	4	組曲「五つのラメント」					
1997	平成 9	47	4		十字架	草野心平		廣瀬量平	
1997	平成 9	47	4		さようなら一万年	草野心平		廣瀬量平	
1997	平成 9	47	4		天のベンチ	草野心平		廣瀬量平	
1997	平成 9	47	4		オーボエの雲	草野心平		廣瀬量平	
1997	平成 9	47	4		Volga	草野心平		廣瀬量平	
1998	平成 10	48	1	組曲「海に寄せる歌」					
1998	平成 10	48	1		砂上	三好達治		多田武彦	

年度	年度	回	行	ステージ	曲名 1	曲名 2	作詩	作曲	編曲
1998	平成10	48	1			仔羊	三好達治	多田武彦	
1998	平成10	48	1			涙	三好達治	多田武彦	
1998	平成10	48	1			この浦に	三好達治	多田武彦	
1998	平成10	48	1			鷗どり	三好達治	多田武彦	
1998	平成10	48	1			既に鷗は	三好達治	多田武彦	
1998	平成10	48	1			ある橋上にて	三好達治	多田武彦	
1998	平成10	48	2	愛唱曲集「飛んでけ！グリーンメン」					
1998	平成10	48	2			Man of La Mancha			源田俊一郎
1998	平成10	48	2			翼をください	山上路夫	村井邦彦	浅井一郎
1998	平成10	48	2			また、あした	島田雅彦	三枝成彰	
1998	平成10	48	2			ふるさとの	赤木衛	池辺晋一郎	
1998	平成10	48	2			バトンタッチの歌	木島始	三善晃	
1998	平成10	48	2			紀の國	津村信夫	多田武彦	
1998	平成10	48	2			大地讃頌	大木惇夫	佐藤眞	
1998	平成10	48	3	ポピュラーステージ	PTA~とうさん	とうさん	もうやめて~		
1998	平成10	48	3			HELP			
1998	平成10	48	3			YAH YAH YAH			
1998	平成10	48	3			Forever Love			
1998	平成10	48	3			STEADY			
1998	平成10	48	4	「ハレー彗星独白」~男声合唱とピアノのための組曲~					
1998	平成10	48	4			甞人よ まみらはどうして	大岡信	鈴木輝昭	
1998	平成10	48	4			竹林卵卵	大岡信	鈴木輝昭	
1998	平成10	48	4			ハレー彗星独白	大岡信	鈴木輝昭	
1998	平成10	48	4			ララバイ	大岡信	鈴木輝昭	
1999	平成11	49	1	組曲「富士山」					
1999	平成11	49	1			作品第壹	草野心平	多田武彦	
1999	平成11	49	1			作品第肆	草野心平	多田武彦	
1999	平成11	49	1			作品第拾陸	草野心平	多田武彦	
1999	平成11	49	1			作品第拾捌	草野心平	多田武彦	
1999	平成11	49	1			作品第貳拾壹	草野心平	多田武彦	
1999	平成11	49	2	愛唱曲集「遺言…」					
1999	平成11	49	2			この世の中にある	石垣りん	大熊崇子	
1999	平成11	49	2			たたら(踊輪)		三木稔	
1999	平成11	49	2			月	三木露風	佐藤眞	
1999	平成11	49	2			ルパン三世	千家和也	大野雄二	猪間道明
1999	平成11	49	2			スタンド・バイ・ミー	ジョン・レノン	ジョン・レノン	
1999	平成11	49	2			奮え友よ	山本明	牧野統	
1999	平成11	49	2			Ride the Chariot	黒人霊歌		
1999	平成11	49	3	ポピュラーステージ	踊る大捜査線~ザ・ブービー~				
1999	平成11	49	3			夜空ノムコウ			
1999	平成11	49	3			Love Somebody			
1999	平成11	49	4	男声合唱のための組曲「Man of La Mancha」					
1999	平成11	49	4			Man of La Mancha	ジョー・ダリオン	ミッチ・レイ	源田俊一郎
1999	平成11	49	4			I Really Like Him	ジョー・ダリオン	ミッチ・レイ	源田俊一郎

年度	年度	回	ｽﾌ	ｽﾃｰｼﾞ	曲名 1	曲名 2	作詩	作曲	編曲	
1999	平成 11	49	4			Dulcinea	ジョー・ダリオン	ミッチ・レイ	源田俊一郎	
1999	平成 11	49	4			Berber's Song~Golden	ジョー・ダリオン	ミッチ・レイ	源田俊一郎	
1999	平成 11	49	4			Helmet of Mambrino	ジョー・ダリオン	ミッチ・レイ	源田俊一郎	
1999	平成 11	49	4			"Little Bird,Little Bird"				
						Finale Knight of the Woeful Countenance~	ジョー・ダリオン	ミッチ・レイ	源田俊一郎	
						Man of La Mancha The Impossible Dream				
2000	平成 12	50	1			OBステージ	わかいおじさん	牧野統	牧野統	加茂下裕
2000	平成 12	50	1				冬の夜更けに	牧野統	牧野統	
2000	平成 12	50	1				雨の降る夜は	牧野統	牧野統	加茂下裕
2000	平成 12	50	1				未来の星	牧野統	牧野統	加茂下裕
2000	平成 12	50	1		甲斐より	牧野統	牧野統	加茂下裕		
2000	平成 12	50	2		組曲「柳河風俗詩」より	柳河	北原白秋	多田武彦		
2000	平成 12	50	2			ふるさと		オナーティン	オリオンコール	
2000	平成 12	50	2		組曲「月光とピエロ」より	秋のピエロ	堀口大學	清水脩		
2000	平成 12	50	2			河童昇天	神保光太郎	石河清		
2000	平成 12	50	2		組曲「雨」より	雨	八木重吉	多田武彦		
2000	平成 12	50	2			音楽譚歌「光よ音の流れよ」	牧野統	牧野統		
2000	平成 12	50	3	ゲストステージ/シンケル高校合唱団						
2000	平成 12	50	4	第1回合唱オリンピック出場記念ステージ						
2000	平成 12	50	4			ふるさと	室生犀星	磯部徹		
2000	平成 12	50	4		合唱による風土記「阿波」より	たたら（踊鞠）		三木稔		
2000	平成 12	50	4		川高音楽部委嘱 作品「ミサNo.4」より	Dies irae 一炎上一	宗左近テキスト	荻久保和明		
2000	平成 12	50	4			Die Allmacht	Ladieslaus Pyrker	Vinzenz Lachner		

## 音楽部の沿革

年	年	月	日	月	日まで	事 項	会 場
1946	昭和21					音楽部活動を始める (?)	
1948	昭和23	4	1			新制川越高等学校・併設中学校設置	
1949	昭和24	5	4			生徒会発足	
1950	昭和25	4				旧講堂入口に部室が与えられる	
1950	昭和25	6	3			第1回音楽発表会	
1950	昭和25	9	30	10	1	演劇部第4回研究発表会で音楽を担当「地平線の彼方」二幕四場	講堂
1951	昭和26	4				牧野統先生転任	
1951	昭和26	6	26			レコードコンサート	
1951	昭和26	6				「応援歌」募集、賞金2000円	
1951	昭和26	7				応援歌「奮え友よ」完成	
1951	昭和26	9	24			音楽発表会(合唱中心の音楽発表会の初め/第1回定期演奏会)	講堂
1951	昭和26	10	19			校舎解体着工	
1951	昭和26	11	18			川越市内合同音楽演奏会	川越女子高校
1951	昭和26	12	1			第1回埼玉県高等学校合同演奏会	川口女子高校
1952	昭和27	1	17			本館上棟式	
1952	昭和27	4				練習日が月・木の放課後と毎日昼休みとなる。	
1952	昭和27	6	17			新校舎へ移転	
1952	昭和27	6	22			牧野先生ピアノ独奏並びに作品発表演奏会	講堂
1952	昭和27	9	21			レコードコンサート	
1952	昭和27	9	27			全日本学生音楽コンクール(毎日コンクール)東日本大会	都立九段高校
1952	昭和27	11	15			NHK学校音楽コンクール・埼玉県コンクール	埼玉会館
1952	昭和27	11	16			レコードコンサート	
1952	昭和27	12	14			第2回定期演奏会	川越女子高校
1953	昭和28	1	26			武徳殿の1年生新校舎に移転	
1953	昭和28	2	11			校舎新築落成式	
1953	昭和28	2	13			第4回川越市小学校・中学校・高等学校合同音楽演奏会	川越農業高校
1953	昭和28	4	10			練習日が火・木の放課後と毎日昼休みとなる。	
1953	昭和28	6	30			レコードコンサート	
1953	昭和28	9	22			埼玉県教育音楽研究会	講堂
1953	昭和28	10	4			全日本学生音楽コンクール(毎日コンクール)東日本大会	都立九段高校
1953	昭和28	11	2			所沢高校の文化祭に賛助出演	所沢高校
1953	昭和28	11	8			第3回定期演奏会/文化祭音楽会	講堂
1953	昭和28	11	14			NHK学校音楽コンクール・埼玉県コンクール	埼玉会館
1953	昭和28	11	18			NHK学校音楽コンクール・関東甲信越コンクール収録	NHK
1953	昭和28	11	29			NHK学校音楽コンクール・ラジオ第一放送で関東甲信越大会	
1953	昭和28	11	29			第3回埼玉県高等学校合同音楽会	浦和市立高校

参加人数	参加校	記事（曲目・その他）
40	26	<p>「レコード音楽愛好会」という会と重なるようだ。音楽室もなく、ピアノが講堂に一台あるだけで蓄音機もなかった。</p> <p>講堂の隅っこの来賓控室みたいな小さい部室とゼンマイ式の蓄音機を支給された。</p> <p>「生徒会報」創刊号には、「第1回音楽発表会」とある。演奏者4人。ヴァイオリン・ピアノなど末広恭子先生（その後ジャズで活躍）が弾いてくれることになっていたが当日所用のため欠席され、急きょ市内のピアノの先生に助けもらった。</p> <p>ここから合唱を主とした活動になる。</p> <p>解説：牧野先生。チャイコフスキー「ピアノ協奏曲1番」、ベートーヴェン「ピアノ協奏曲3番」ほか。</p> <p>「応援歌」1等該当なし、2等3D山本明さん「奮え友よ」入選、牧野先生が作曲することになる。他2曲。</p> <p>器楽部をまじえて。聴衆約800人。牧野先生の弟子である弓削むつ子女史による演奏で、ドラマチックソプラノで強い声ノビのある声で、皆圧倒され感激した。</p> <p>川越市の小・中・高校合同。音楽部歌「風薫る野辺に歌わん」「自由の歌」「闘牛師の合唱」（椿姫）「権兵衛が種まく」ほか。渡辺重信・中野和昭によるヴァイオリン独奏（伴奏牧野先生）、牧野先生のピアノ独奏もあり。</p> <p>「ふるさと」「風薫る野辺に歌わん」「権兵衛が種まく」ほか。</p> <p>本校関根正司事務官の俳句に曲をつけたり、喜多院に取材したオペラなど。</p> <p>ゲスト：大林深雪（ソプラノ）</p> <p>メンデルスゾーン「ヴァイオリンコンチェルト」、ベートーヴェン「交響曲第6番『田園』」、グリーク「ピアノコンチェルト」その他小曲。</p> <p>課題曲はJ. スコット「アニー・ローリー」。予選通過の8校の中には入れなかった。</p> <p>シューベルト「未完成交響曲」「冬の旅」、ベートーベン「皇帝」、シューマン「女の愛と生涯」メンデルスゾーン「ヴァイオリンコンチェルト」ほか。聴衆70数名。校舎改築記念の音楽会。賛助出演として川越女子高校、大林深雪氏、渋谷禎三氏。</p> <p>ヘルシー「眠れよいとし子」、「村の踊（ワルツ）」</p> <p>ラジオ部後援。パールギュント組曲、チャイコフスキー「悲愴」ほか。聴衆30人。「水夫のセレナーデ」で秋山日出夫の指導を受ける。</p> <p>課題曲は土岐善麿詞・ベートーヴェン曲「自由を平和を」。予選通過できず。</p> <p>合唱2、独唱2、四重唱1のステージで30分。</p> <p>賛助出演：川越女子高校、所沢高校、牧声会。聴衆約1000人。第一部合唱・独唱11ステージ、第二部（賛助出演及び牧野先生による独唱・ピアノ独奏）9ステージ。</p> <p>ドイツ民謡「流浪」ほか1曲、指揮牧野先生。男声のほか混声・女声・独唱・ハーモニカ合奏・ピアノ独奏・吹奏楽などもあり。28ステージ。</p>

年	年	月	日	月	日まで	事 項	会 場
1954	昭和29	2	13			川越市内合同音楽演奏会	川越農業高校
1954	昭和29	3				牧野統先生NHK全国唱歌コンクールの作曲に一位入賞	
1954	昭和29	4	29			テノール奥田良三、ピアノ高木幸三音楽会	講堂
1954	昭和29	6	20			障害者更生資金獲得のための洋楽と邦楽演奏会	
1954	昭和29	10	9			NHK学校音楽コンクール・埼玉県コンクール	浦和？
1954	昭和29	10	31			NHK学校音楽コンクール・ラジオ第一放送で放送	
1954	昭和29	10	31			関東合唱コンクール	中央大学講堂
1954	昭和29	11	21			斉藤勇ギター演奏会に賛助出演	講堂
1954	昭和29	11	23			第4回定期演奏会／文化祭音楽会	講堂
1954	昭和29					全日本学生音楽コンクール（毎日コンクール）に出場	
1955	昭和30	2	5			予餞会に出演	講堂
1955	昭和30	7	2			音楽会	講堂
1955	昭和30	10	9			NHK学校音楽コンクール・埼玉県コンクール	大宮小学校
1955	昭和30	10	23			NHK全国学校音楽コンクール・収録	NHK国際ラジオセンター
1955	昭和30	10	30			NHK全国学校音楽コンクール・放送	
1955	昭和30	11	20			第4回埼玉県高等学校合同音楽会	小川女子高校
1955	昭和30	12	4			第5回定期演奏会	講堂
1956	昭和31	4				練習は毎日昼休み	
1956	昭和31	6	24			関東合唱連盟・第11回合唱祭	立教大学タッカーホール
1956	昭和31	10	7			NHK学校音楽コンクール・埼玉県コンクール	大宮小学校
1956	昭和31	11	3			関東合唱コンクール	宝仙学園ホール（東中野）
1956	昭和31	11	23			第5回埼玉県高等学校合同音楽会	川越女子高校
1956	昭和31	12	2			第6回定期演奏会／文化祭音楽会	講堂
1957	昭和32	1				パートマスターを置く	
1957	昭和32	2	3			川越女子高校音楽会に賛助出演	
1957	昭和32	4	27			新入生歓迎会出演	
1957	昭和32	4				練習は毎日昼休みと金曜日放課後	
1957	昭和32	6	9			関東合唱連盟・第12回合唱祭	立教大学タッカーホール
1957	昭和32	8	20			川越早稲田会による早稲田大学グリークラブ演奏会に賛助出演	川越女子高校
1957	昭和32	8				全員が「コーラスアルバム」購入	
1957	昭和32	9	21			埼玉県合唱連盟創立	
1957	昭和32	10	13			NHK学校音楽コンクール・埼玉県コンクール	大宮小学校
1957	昭和32	10	13			関東合唱コンクール	国立音楽大学
1957	昭和32	10				NHK全国学校音楽コンクール・関東甲信越コンクール放送	
1957	昭和32	10				全日本学生音楽コンクール（毎日コンクール）東日本大会	
1957	昭和32	11	17			第2回埼玉県合唱祭	浦和第一女子高校
1957	昭和32	11	23			第7回定期演奏会／文化祭音楽会	講堂
1957	昭和32	12	1			第6回埼玉県高等学校合同音楽会	浦和第一女子高校
1958	昭和33	2	2			川越女子高校第10回音楽会に賛助出演	川越女子高校

参加人数	参加校	記事（曲目・その他）
		川越女子高校、川越商業高校と。
27		<p>高校の部は、女声（12団体）・混声（8団体）・男声（7団体）に分かれており、男声の部には熊谷高校が出演。総合一位は横浜桜ヶ丘高校。</p> <p>平井三郎「家路の歌」、村の踊、トリューン「三匹の蜂」、牧野統「未来の星」を演奏。</p> <p>特別出演：ソプラノ 笠止みや子（武蔵野音楽大学教授）、ピアノ 野田量子、バイオリン 鈴木すみ子。第一部12ステージ。第二部（賛助出演）5ステージ。</p>
7		<p>賛助出演：東京芸術大学コーラス22名。「深い河」など合唱・独奏ピアノ独奏など。ピアノ購入資金獲得のための学校行事。</p> <p>「春秋の歌」ほか合唱3曲 賛助出演：東京芸術大学コーラス</p>
115		<p>3日間開催。牧野先生指揮。ベーク「おもいで」、メンデルスゾーン「かりうどの別れ」。</p> <p>賛助出演：東京混声合唱団（東京メール・クワルテット）の独唱・四重唱</p>
119		<p>川越女子高校音楽部と混声合唱。 30年以上もたつというピアノを使って練習。</p> <p>3日間開催。牧野先生指揮。エステ「ああ楽しきはこの時」、シューマン「二人の擲弾兵」。清水脩に演奏を評価され、部員の士気あがる。</p>
25		<p>高校の部は、女声（10団体）・混声（7団体）・男声（5団体）に分かれており、混声の部には熊谷高校・熊谷女子高校混声合唱団が出演。</p> <p>課題曲「浜の子守歌」（入江静雄作詞・バーンビー作曲） 牧野先生指揮。パークス「月の夜」、ツェルター「親方と弟子」、チェコスロバキア民謡「進め若人」。</p> <p>第一部12ステージ、第二部（賛助出演）5ステージ。東京混声合唱団（東京メール・クワルテット）の独唱・四重唱および弓削睦子氏（ソプラノ）・滝沢明子氏（ピアノ）。聴衆約600人。</p> <p>牧野先生指揮。本居長世「婆やのお家」、フォスター「おおスザンナ」および混声合</p>



年	年	月	日	月	日まで	事 項	会 場
1958	昭和33	3	31			図書館竣工	
1958	昭和33	6	22			関東合唱連盟・第13回合唱祭(埼玉県大会)	埼玉会館
1958	昭和33	9	20			浦和第一女子高校・川越高校音楽部交歓演奏会	講堂
1958	昭和33	9	27	9	28	文化祭にて、LPレコードコンサート	視聴覚室
1958	昭和33	10	11			NHK学校音楽コンクール・埼玉県コンクール	大宮小学校
1958	昭和33	10	12			全日本学生音楽コンクール(毎日コンクール)東日本大会	
1958	昭和33	10	18			埼玉県合唱コンクール	浦和第一女子高校
1958	昭和33	11	29			第8回定期演奏会	講堂
1958	昭和33	11	30			第7回埼玉県高等学校合同音楽会	所沢高校
1958	昭和33					音楽室が図書館下の視聴覚室から移動	
1959	昭和34	2	7			川越女子高校音楽会に賛助出演	
1959	昭和34	6	21			関東合唱連盟・第14回合唱祭(埼玉県大会)	埼玉会館
1959	昭和34	8	30			関東合唱コンクール講習会	秩父高校
1959	昭和34	9	19			第7回埼玉県高等学校合同音楽会	
1959	昭和34	9	26			川高・創立六十周年記念式典	
1959	昭和34	9	26	9	28	文化祭にて、ラジオ部音楽部共同LPレコードコンサート	
1959	昭和34	10	4			第9回定期演奏会	講堂
1959	昭和34	10	10			NHK学校音楽コンクール・埼玉県コンクール	大宮小学校
1959	昭和34	10	18			埼玉県合唱コンクール	埼玉会館
1959	昭和34	11	1			関東合唱コンクール	共立講堂
1959	昭和34	12				埼玉大学グリーククラブとの交歓演奏会	
1960	昭和35	2	6			川越女子高校音楽会に賛助出演	
1960	昭和35	2	14			高校交歓演奏会	埼玉会館
1960	昭和35	5	7			新入生歓迎会出演	
1960	昭和35	6	26			関東合唱連盟・第15回合唱祭(埼玉県大会)	埼玉会館
1960	昭和35	7	31			合唱講習会	
1960	昭和35	9	12			熊谷高校交歓会	
1960	昭和35	9	17			埼玉県高等学校合同演奏会	飯能高校
1960	昭和35	10	1	10	2	レコードコンサートと男声合唱	
1960	昭和35	10	15			NHK学校音楽コンクール・埼玉県コンクール	大宮第三小学校
1960	昭和35	10	16			埼玉県合唱コンクール	埼玉会館
1960	昭和35	11	19			第10回定期演奏会	講堂
1961	昭和36	2					高校交歓演奏会
1961	昭和36	6	25			関東合唱連盟・第16回合唱祭(埼玉県大会)	埼玉会館
1961	昭和36	8	18			浦和第一女子高校と交歓会	長瀬青年の家
1961	昭和36	8				増田邦明(東京混声合唱団)指導に来校	
1961	昭和36	9	16			埼玉県高校合唱交歓演奏会	春日部高校
1961	昭和36	10	1			文化祭演奏会	

参加人数	参加校	記事（曲目・その他）
56	30	<p>唱で、メンデルスゾーン「羊飼の歌」、ダンディ「覚めよや風琴」。</p> <p>「おやすみ坊や」、ロシア民謡「われらのさち」、エマーソン「狩の歌」を演奏。「合唱祭」は事実上各県単位での開催となる。</p> <p>ベリー「おもいで」、アメリカ民謡「おやすみ坊や」、ロシア民謡「われらのさち」、シューベルト「聖なるかな」、エマーソン「水夫のセレナーデ」、雨宮伊之助「未来は遙か」、平井康三郎「月夜」、エマーソン「狩の歌」。小学校NHKコンクール課題曲「風は見た」、中学校課題曲「燈台」を牧野先生が指導するプログラムもあり、小学生らも合唱。浦和第一女子高校130名。</p> <p>ドボルザーク「新世界より」、モーツアルト「狩」、ハイドン「ひばり」ほか。</p> <p>課題曲「盟友」（龍田和夫訳詩・メンデルスゾーン作曲）</p>
	7	<p>賛助出演：水村浩一・高橋誠（ともにOB）、篠沢愛枝、藤田みどりほか。男声合唱・四重唱・独唱・ヴァイオリンのほか特別出演。</p> <p>二部構成、28ステージ。牧野先生指揮。平田甫「新しき歌をエホバに向いて歌え」エストニア民謡「祝婚ポルカ」。川越女子高校と混声ステージ、牧野先生指揮で信時潔「渡り鳥」、ラッツ「マトナの君よ」。また、川越高校・木村光によるヴァイオリン独奏（牧野先生伴奏）モーツアルト「コンチェルト No.5 第一楽章」</p>
	30	<p>「アヴェ・マリア」、「リトルブランチャーチ」、「オールドブラックジョー」津川圭一指導。</p> <p>賛助出演：HGメンネルコール（秋山日出夫指揮、船橋市）</p>
	6	<p>ゲスト：清水脩 浦和第一女子高校主催。指揮：安田重規</p>
	43	<p>講師：高田三郎 生徒会主催。</p>
60	9	<p>賛助出演：牧野美紀子、牧野邦彦「通りゃんせ」、東京芸術大学音楽部員6名がピアノ・フルート演奏</p>
	49	<p>浦和第一女子高校は合宿中。交歓合唱・スポーツ・フォークダンスほか。</p>

年	年	月	日	月	日まで	事 項	会 場
1961	昭和36	10	14			N H K 学校音楽コンクール・埼玉県コンクール	大宮小学校
1961	昭和36	10	15			埼玉県合唱コンクール	大宮商工会館
1961	昭和36	10	22			N H K 全国学校音楽コンクール・関東甲信越大会収録	N H K 国際ラジオセンター
1961	昭和36	10	29			関東合唱コンクール	
1961	昭和36	11	5			第11回定期演奏会	講堂
1962	昭和37	2				埼玉県高校合唱交歓演奏会	
1962	昭和37	4				吹奏楽部誕生	
1962	昭和37	6	24			関東合唱連盟・第17回合唱祭(埼玉県大会)	大宮商工会館
1962	昭和37	7	29			合唱講習会	講堂
1962	昭和37	8	17	8	21	第1回合宿	長瀨青年の家
1962	昭和37	9	29	9	30	文化祭参加	
1962	昭和37	9				第12回定期演奏会	講堂
1962	昭和37	10	5			N H K 学校音楽コンクール・埼玉県コンクール	
1962	昭和37	10	14			埼玉県合唱コンクール	大宮商工会館
1962	昭和37	10				関東合唱コンクール	
1962	昭和37	11	9			新校舎(理科棟)竣工式	
1963	昭和38	6	23			関東合唱連盟・第18回合唱祭(埼玉県大会)	大宮商工会館
1963	昭和38	7				N H K 学校音楽コンクール・埼玉県コンクール	
1963	昭和38	8				第2回合宿	長瀨青年の家
1963	昭和38	10	13			埼玉県合唱コンクール	大宮商工会館
1963	昭和38	11	2			関東合唱コンクール	神奈川県立音楽堂
1963	昭和38					埼玉県高等学校合同演奏会	蕨高校
1963	昭和38					第13回定期演奏会	講堂
1964	昭和39	1	14			川高・長髪を承認	
1964	昭和39	4	1			小高秀一先生音楽部顧問として加わる	
1964	昭和39	4	18			新入生歓迎会出演	
1964	昭和39	4				川越市民会館落成記念音楽会に出演	川越市民会館
1964	昭和39	6	21			関東合唱連盟・第19回合唱祭(埼玉県大会)	大宮商工会館
1964	昭和39	7	24			N H K 学校音楽コンクール・埼玉県コンクール	大宮商工会館
1964	昭和39	8	15	8	20	第3回合宿	長瀨青年の家
1964	昭和39	8	23			N H K 学校音楽コンクール・関東甲信越コンクール放送	
1964	昭和39	9	12			N H K 全国学校音楽コンクール全国優勝が正午のニュースで発表される	
1964	昭和39	9	26			N H K 全国学校音楽コンクール全国コンクール入賞式・発表会	
1964	昭和39	9	27			N H K テレビ・ラジオに出演	
1964	昭和39	9				埼玉県高等学校合同演奏会	
1964	昭和39	10	3	10	4	文化祭演奏会に出演	川越市民会館(第二会場)
1964	昭和39	10	11			埼玉県合唱コンクール	大宮市民会館
1964	昭和39	10	17			第14回定期演奏会	川越市民会館
1964	昭和39	11	15			青少年音楽祭に参加	川越市民会館
1964	昭和39	11	23			青少年音楽祭がN H K テレビ・ラジオで放送された	
1965	昭和40	1	22			川越女子高校音楽会に賛助出演	
1965	昭和40	1	28			J.High Schoolを訪問し演奏	入間川米軍基地内
1965	昭和40	2	1			予餞会に出演	
1965	昭和40	2	8			行田女子高校予餞会に賛助出演	

	参加人数	参加校	記事（曲目・その他）
		8	賛助出演：HGメンネルコール（秋山日出夫指揮、船橋市）
		47	講師：山根一夫（神奈川県合唱連盟理事長） 17日深谷女子高校と演奏、親睦会スタンプ大会。18～19日猛練習。20日秩父高校が訪問。21日長滞ハイキングののち解散。  賛助出演：日本歌曲研究会。独唱、四重唱、カタリー等。
70	12		「県内コンクールの部」「関東予選の部」に分かれる。高校は「高校第一部」（16～40人）「高校第二部」（41人以上）。川越高校は二部に出場。
65	52		牧野先生指揮。J.Blumenthal「綺麗な人に」、マルシュネル「小夜曲」、アルカデルト「Ave Maria」
60	12		「県内コンクールの部」は「中学校の部」「その他」に分かれる。「関東予選の部」のうち高校は「高校第一部」「高校第二部」。川越高校は二部に出場。
40	15		高校の部は「一部」6団体、「二部」9団体。 「祝婚ポルカ」、「二人の擲弾兵」  牧野先生指揮による「アヴェマリア」「春」「夜明け」、小高先生指揮による「進め若人」（チェコ民謡）ほか。
		49 15	「合宿便覧」に、今年の格言は「厳粛にして爽快に」とある。
87	15		賛助出演：埼玉大学合唱団「夏の思い出」ほか。観客約1800人。  牧野先生の指揮で混声合唱も。

年	年	月	日	月	日まで	事 項	会 場
1965	昭和40	2	21			埼玉県交歓演奏会	埼玉県自治会館
1965	昭和40	4	30			新入生歓迎演奏会出演	川越市民会館
1965	昭和40	6	8			熊谷高校との交歓会	
1965	昭和40	6	27			関東合唱連盟・第20回合唱祭(埼玉県大会)	大宮商工会館
1965	昭和40	7	28			NHK学校音楽コンクール・埼玉県コンクール	大宮商工会館
1965	昭和40	8	19	8	23	合宿	長滞青年の家
1965	昭和40	8	22			NHK学校音楽コンクール・関東甲信越コンクール放送	
1965	昭和40	9	10			理科棟増築竣工・落成式	
1965	昭和40	9	12			NHK全国学校音楽コンクール全国コンクール	
1965	昭和40	9	16			西部地区合同演奏会	
1965	昭和40	9	19			毎日コンクール東京地区予選	共立講堂
1965	昭和40	9	23			NHK全国学校音楽コンクール全国コンクール入賞式・発表会	NHKホール
1965	昭和40	9	23			フジテレビ「小川宏ショー」に出演	フジテレビ
1965	昭和40	10	10			埼玉県合唱コンクール	大宮商工会館
1965	昭和40	10	31			第15回定期演奏会	川越市民会館
1966	昭和41	1	20			牧野統先生・優良教員として県教委から表彰される	
1966	昭和41	5	20			古典ギター部発足	
1966	昭和41	6	8			プール完工式	
1966	昭和41	6	29			埼玉会館・落成記念演奏会	埼玉会館
1966	昭和41	7	3			関東合唱連盟・第21回合唱祭(埼玉県大会)	埼玉会館
1966	昭和41	7	28			NHK学校音楽コンクール・関東甲信越コンクール放送	
1966	昭和41	7				NHK学校音楽コンクール・埼玉県コンクール	
1966	昭和41	9	11			NHK全国学校音楽コンクール・全国コンクール	
1966	昭和41	9	23	9	25	文化祭演奏会に出演	川越市民会館(第二会場)
1966	昭和41	10	9			埼玉県合唱コンクール	埼玉会館
1966	昭和41	10	15			第16回定期演奏会	川越市民会館
1966	昭和41	10	30			国体開会式・リハーサルに参加	上尾運動公園
1967	昭和42	2	9			予餞会に出演	川越市民会館
1967	昭和42	6	25			埼玉県合唱祭	埼玉会館
1967	昭和42	7	1			NHK学校音楽コンクール・埼玉県コンクール	小松原高校
1967	昭和42	8	20			NHK学校音楽コンクール・関東甲信越コンクール放送	
1967	昭和42	8	20			NHK全国学校音楽コンクール全国進出が夜7時のニュースで発表される	
1967	昭和42	8				合宿	長滞青年の家
1967	昭和42	9	10			NHK全国学校音楽コンクール・全国コンクール	
1967	昭和42	9	20			NHK全国学校音楽コンクール・全国コンクール放送	
1967	昭和42	9	24			埼玉県合唱コンクール	埼玉会館
1967	昭和42	10	7			第17回定期演奏会	川越市民会館
1967	昭和42	10	22			第22回国民体育大会開会式・式典音楽に参加	上尾運動公園
1967	昭和42	10				関東合唱コンクール	
1967	昭和42	11	11			川越女子高校音楽部第一回定期演奏会	川越市民会館
1967	昭和42					久喜高校との交歓会	
1967	昭和42					熊谷高校との交歓会	
1967	昭和42					全日本合唱コンクール	日本武道館
1968	昭和43	2	8			予餞会に出演	川越市民会館
1968	昭和43	5	4			新入生歓迎演奏会出演	川越市民会館

参加人数	参加校	記事（曲目・その他）
80	59 18	<p>川越女子高校（音楽部・マンドリン部）、川越高校（音楽部・吹奏楽部・古典ギター同好会）主催「光よ音の流れよ」「夜明け」「小夜曲」「ふり売り」などのほか、混声で「乳母車」など。</p> <p>牧野先生指揮。W.Berwald「思い出の港」、蛙の合唱、Fr.Kucken「君美わしく」</p>
36 76	9  751 8	<p>全国大会出場権を得る。</p> <p>代表校10校。第2位に入賞。 フォスター名曲集をソロや重唱をおり込み演奏する。</p> <p>予選通過の4校に選ばれる。 表彰を受ける。</p>
	11	<p>観客2377人。</p>
85	15	<p>総勢800人の合唱。 牧野先生・小高先生指揮。マルシュネル「小夜曲」、高田三郎「夜明け」、山田耕筰「からたちの花」</p> <p>ほかに「河童と歌おう」という企画も。</p>
	64	<p>音楽部部長の指揮で校歌斉唱。</p>
80	14	<p>賛助出演：古典ギター部。観客約1300人。</p> <p>磯部淑小品集、こどもの歌、組曲「噴水のある風景」、賛助出演（フルート独奏、テノール独唱）、ワルツ集など。</p>

年	年	月	日	月	日まで	事 項	会 場
1968	昭和43	6	6			熊谷高校との交歓会	
1968	昭和43	6	23			埼玉県合唱祭	埼玉会館
1968	昭和43	8	13	8	16	合宿	妙義山・ひしや旅館
1968	昭和43	8	29			大宮高校・蕨高校が訪問	
1968	昭和43	9	16			N H K 学校音楽コンクール・埼玉県コンクール	大宮商工会館
1968	昭和43	9	21			N H K 全国学校音楽コンクール・関東甲信越大会収録	
1968	昭和43	9	21	9	22	文化祭「歌え若者」	川越市民会館・講堂
1968	昭和43	9	28			第18回定期演奏会	川越市民会館
1968	昭和43	10	13			埼玉県合唱コンクール	埼玉会館
1968	昭和43	10	26			関東合唱コンクール	茨城県民文化センター
1969	昭和44	3				講堂取り壊し	
1969	昭和44	4	26			新入生歓迎演奏会出演	川越市民会館
1969	昭和44	6	29			埼玉県合唱祭	埼玉会館
1969	昭和44	8				合宿	妙義山
1969	昭和44	9				N H K 学校音楽コンクール・埼玉県コンクール	川越市民会館
1969	昭和44	9				N H K 全国学校音楽コンクール・関東甲信越大会収録	
1969	昭和44	9				文化祭を「くすのき祭」と改称	
1969	昭和44	10	12			埼玉県合唱コンクール	埼玉会館
1969	昭和44	10	12			埼玉県合唱コンクール一般の部に「川越高OB合唱団」が参加	埼玉会館
1969	昭和44	10	18			第19回定期演奏会	川越市民会館
1969	昭和44					川越女子高校マンドリン部・演奏会賛助出演	
1969	昭和44					熊谷高校との交歓会	
1970	昭和45	3	6			旧体育館完成	
1970	昭和45	3				春休み強化練習	
1970	昭和45	4	1			「生徒憲章」「生徒規約」実施	
1970	昭和45	4				新入生歓迎演奏会出演	川越市民会館
1970	昭和45	5	30			旧体育館完工式	
1970	昭和45	6	21			埼玉県合唱祭	埼玉会館
1970	昭和45	7				加ブリティッシュコロンビア州・オークベイセカンダリースクール バンド、ミネソタ州・ダルスアコーディオン合奏団と交歓会	川越市民会館
1970	昭和45	8	16	8	18	合宿	長瀨青年の家
1970	昭和45	9	21			N H K 学校音楽コンクール・埼玉県コンクール	大宮商工会館
1970	昭和45	10	10			埼玉県合唱コンクール	埼玉会館
1970	昭和45	10	31			第20回定期演奏会	川越市民会館
1971	昭和46	4	24			新入生歓迎演奏会出演	川越市民会館
1971	昭和46	6	20			埼玉県合唱祭	埼玉会館
1971	昭和46	9				N H K 学校音楽コンクール・埼玉県コンクール	
1971	昭和46	10	2	10	3	くすのき祭に参加	
1971	昭和46	10	9			第21回定期演奏会	川越市民会館
1971	昭和46	10	17			埼玉県合唱コンクール	埼玉会館
1972	昭和47	2	14			予饗会に出演	川越市民会館
1972	昭和47	3	28			牧野統先生逝去（享年54歳）	
1972	昭和47	6	25			埼玉県合唱祭	埼玉会館
1972	昭和47	6				秋月直胤先生新指揮者に就任	
1972	昭和47	6				牧声会の牧野先生追悼演奏会に出演	
1972	昭和47	8	14	8	17	合宿	長瀨青年の家
1972	昭和47	9				N H K 学校音楽コンクール・埼玉県コンクール	
1972	昭和47	10	1			埼玉県合唱コンクール	埼玉会館

参加人数	参加校	記事（曲目・その他）
	66	
75	13 17	<p>定時制音楽部も参加。市民会館で公開練習。</p> <p>一部9団体、二部8団体。川越高校は二部に出場。</p> <p>川越高校・川越女子高校生徒会共催。川越女子高校音楽部も出演。混声合唱もあり。</p>
60	62   12	<p>賛助出演：川越女子高校マンドリン部。</p> <p>年に一度の川越女子高校との混声合同練習。</p> <p>川越高校・川越女子高校生徒会共催。川越女子高校音楽部も出演。混声合唱もあり。</p>
55	65	<p>テレビ放映 川越女子高校マンドリン部とともに。</p> <p>観光バスで移動。初日夜に親睦会。あとは合唱漬け。</p>
53	14   11	<p>実況LPを作成。 川越高校・川越女子高校生徒会共催。「柳河」など。川越女子高校音楽部「流れ」など。混声合唱「アロハ・オエ」など。</p> <p>賛助出演：島山睦子さん（伴奏田尻明規さん）「ロンドカプリチオーゾ」など。</p> <p>ゲストは吉田拓郎であった。</p>
40	74   13	



年	年	月	日	月	日まで	事 項	会 場
1972	昭和47	10	7	10	8	くすのき祭に参加	
1972	昭和47	10	28			第22回定期演奏会	川越市民会館
1973	昭和48	2	7			予餞会に出演	川越市民会館
1973	昭和48	4	1			牧声会定期演奏会にOBを交えて出演	
1973	昭和48	4	10			管理棟の東半分解体	
1973	昭和48	4	21			新入生歓迎会出演	川越市民会館
1973	昭和48	4				練習は土・日曜日を除く毎日、図書館1階「音楽庭」にて	
1973	昭和48	6	24			埼玉県合唱祭・川高の演奏の他、川越女子高校との混声合唱も出演する	埼玉会館
1973	昭和48	8	14	8	17	合宿	長瀬青年の家
1973	昭和48	9	15	9	16	くすのき祭に参加	
1973	昭和48	9	21			西部地区音楽祭	川越市民会館
1973	昭和48	9	25			NHK学校音楽コンクール・埼玉県コンクール	埼玉県商工会館
1973	昭和48	10	13			第23回定期演奏会・第1回川越女子高校音楽部との合同演奏会	川越市民会館
1973	昭和48	10	14			埼玉県合唱コンクール	埼玉会館
1973	昭和48	12	6			管理棟の東半分について教室使用を開始	
1974	昭和49	2	7			予餞会に出演	川越市民会館
1974	昭和49	5	4			新入生歓迎会出演	川越市民会館
1974	昭和49	6	30			埼玉県合唱祭・川高の演奏の他、川越女子高校との混声合唱も出演する	埼玉会館
1974	昭和49	8				合宿	長瀬青年の家
1974	昭和49	9				NHK学校音楽コンクール・埼玉県コンクール	
1974	昭和49	11				全国音楽教育発表会埼玉県大会に出場	
1974	昭和49					くすのき祭「みんなで歌おう」	音楽室
1974	昭和49					第24回定期演奏会・第2回合同演奏会	川越市民会館
1975	昭和50	2	5			予餞会に出演	川越市民会館
1975	昭和50	3	10			生徒ホール完成	
1975	昭和50	4	25			新入生歓迎会出演	川越市民会館
1975	昭和50	6	29			埼玉県合唱祭・男声および混声合唱	埼玉会館
1975	昭和50	9	27			第25回定期演奏会・第3回合同演奏会	川越市民会館
1975	昭和50	9				NHK学校音楽コンクール・埼玉県コンクール	
1975	昭和50	10	10			埼玉県合唱コンクール	埼玉会館
1975	昭和50	12				管理棟改築第2期工事竣工	
1976	昭和51	1	21			予餞会に出演	川越市民会館
1976	昭和51	4	1			小高秀一先生狭山高校から転勤、音楽部指揮者となる	
1976	昭和51	4	24			新入生歓迎会出演	川越市民会館
1976	昭和51	6	27			埼玉県合唱祭・男声および混声合唱	埼玉会館
1976	昭和51	8	13	8	15	合宿	長瀬青年の家
1976	昭和51	8	25			秩父東高校との交歓会	
1976	昭和51	9	11	9	12	くすのき祭に参加	
1976	昭和51	9	14			NHK学校音楽コンクール・埼玉県コンクール	埼玉県商工会館
1976	昭和51	9	26			埼玉県合唱コンクール	大宮市民会館
1976	昭和51	9	27			西部地区音楽祭	東松山文化会館
1976	昭和51	10	9			第26回定期演奏会・第4回合同演奏会	川越市民会館
1976	昭和51	10	16			埼玉県音楽祭に出演	川越市民会館
1977	昭和52	1	17			予餞会に出演	川越市民会館
1977	昭和52	1	22			狭山高校との交歓会	
1977	昭和52	4	30			新入生歓迎会出演	川越市民会館
1977	昭和52	6	26			國學院大学フォイエールコール混声合唱団川越特別公演に賛助出演	川越市民会館
1977	昭和52	6	26			埼玉県合唱祭・男声および混声合唱	埼玉会館

	参加人数	参加校	記事（曲目・その他）
		80	<p>牧野先生追悼演奏会。 ゲストは東京混声合唱団だった。</p> <p>川越高校単独開催となる。「校歌」「乾杯の歌」など。</p>
	40	14	「拓次」（「大手拓次の3つの大手歌」より「ふたりの擲弾兵」「引き念仏」（「コンポジションⅢ」より）
	40	14	<p>長谷川賞受賞。</p> <p>ゲストは東京混声合唱団であった。 1年生の参加が少ないことが問題となる。</p>
		89	
		89	<p>ゲストは荒井由実であった。</p> <p>校歌ほか9曲。</p>
	40	13	
		89	秋月先生非常勤講師に。
	32	15	
	32	12	
	32		
		97	<p>ゲストは中島みゆきであった。</p> <p>川越女子高校・秩父東高校・狭山高校などとともに混声合唱</p>

年	年	月	日	月	日まで	事 項	会 場
1977	昭和52	8	18	8	21	夏季合宿	長瀨青年の家
1977	昭和52	9	10			N H K 学校音楽コンクール・埼玉県コンクール	大宮市民会館
1977	昭和52	9	14			西部地区音楽祭	所沢市民会館
1977	昭和52	9	24			第27回定期演奏会・第5回合同演奏会	川越市民会館
1977	昭和52	10	10			埼玉県合唱コンクール	大宮市民会館
1977	昭和52	10	23			関東合唱コンクール	群馬音楽センター(高崎)
1977	昭和52	11				川高・川女1年生親睦会	
1978	昭和53	1	19			予餞会に出演	川越市民会館
1978	昭和53	3	28	3	30	春季合宿	校内
1978	昭和53	3	31			管理棟改築第3期工事竣工・現音楽室完成	
1978	昭和53	4	27			新入生歓迎会出演	川越市民会館
1978	昭和53	6	25			埼玉県合唱祭・男声および混声合唱	川越市民会館
1978	昭和53	7	15			旧図書館改築竣工	
1978	昭和53	7	15			第28回定期演奏会・第6回合同演奏会	川越市民会館
1978	昭和53	8	18	8	20	合宿	長瀨青年の家
1978	昭和53	8				夏休み登校日廃止	
1978	昭和53	9	9	9	10	くすのき祭に参加	
1978	昭和53	9	11			N H K 学校音楽コンクール・埼玉県コンクール	大宮商工会館
1978	昭和53	9	20			西部地区音楽祭	坂戸文化会館
1978	昭和53	10	1			埼玉県合唱コンクール	大宮市民会館
1978	昭和53	11	1			埼玉県高等学校音楽祭	熊谷会館
1979	昭和54	1	13	1	14	共通一次試験始まる	
1979	昭和54	1				冬季合宿	
1979	昭和54	3	7			予餞会に出演	川越市民会館
1979	昭和54	4	21			新入生歓迎会出演	川越市民会館
1979	昭和54	4				川高・模試を廃止	
1979	昭和54	6	10			埼玉県合唱祭・男声および混声合唱	埼玉会館
1979	昭和54	6				川越第九合唱団演奏会に賛助出演	川越市民会館
1979	昭和54	6				埼玉県合唱祭	
1979	昭和54	7	18			第29回定期演奏会・第7回合同演奏会	川越市民会館
1979	昭和54	8				合宿	長瀨青年の家
1979	昭和54	9	30			埼玉県合唱コンクール	大宮市民会館
1979	昭和54	9				N H K 学校音楽コンクール・埼玉県コンクール	
1979	昭和54	11	17			川高創立八十周年記念式典	体育館
1980	昭和55	2				音楽部駅伝大会	
1980	昭和55	3	7			予餞会に出演	川越市民会館
1980	昭和55	4	18			新入生歓迎会出演	川越市民会館
1980	昭和55	6	22			埼玉県合唱祭・男声および混声合唱	大宮市民会館
1980	昭和55	7	17			第30回定期演奏会・第8回合同演奏会	川越市民会館
1980	昭和55	8	15	8	17	夏季合宿	人間青年の家
1980	昭和55	8				秩父東高校との交歓会	音楽室
1980	昭和55	9	2			N H K 学校音楽コンクール・埼玉県コンクール	大宮商工会館
1980	昭和55	9	13	9	14	くすのき祭に参加	音楽室
1980	昭和55	10	19			埼玉県合唱コンクール	狭山市民会館
1980	昭和55	11	3			関東合唱コンクール	東京文化会館
1980	昭和55	11				川越女子高校とのお別れ会	
1980	昭和55	11				西部地区音楽祭	
1980	昭和55	12				川越女子高校と翌年以降の定期演奏会日程をめぐりじゃんけん大会	音楽室
1981	昭和56	3	7			予餞会に出演	川越市民会館

参加人数	参加校	記事（曲目・その他）
40 40 40 40 40	19  12	
	107	春季合宿のはじめ。
37	26  14	
56	111	「キリエ・エレイソン」「さくらちる」 用意した入場券がすべてなくなるという超満員。
	17 24	優勝バリトン、準優勝セカンド。
	120	川越女子高校との合同演奏による出場の最後。 川越女子高校との合同演奏会の最後。
65	27  18	ちなみに、当時の秩父東高校の顧問は宮寺勇先生。  川越女子高校とアベック金賞。  お互いの合唱完成のため。両校とも部員が増え、音楽室が手狭になったことも要因。

年	年	月	日	月	日まで	事 項	会 場
1981	昭和56	3				寄居養護学校への訪問演奏会	寄居養護学校
1981	昭和56	4	18			新入生歓迎会出演	川越市民会館
1981	昭和56	4				春季合宿	入間青年の家
1981	昭和56	6	28			埼玉県合唱祭	大宮市民会館
1981	昭和56	6				テレビ埼玉出演	音楽室
1981	昭和56	7	18			第31回定期演奏会	川越市民会館
1981	昭和56	8	20	8	22	夏季合宿	長瀨青年の家
1981	昭和56	8	27			NHK学校音楽コンクール・埼玉県コンクール	大宮市民会館
1981	昭和56	9	12	9	13	くすのき祭に参加	音楽室
1981	昭和56	9	27			埼玉県合唱コンクール	戸田市文化会館
1981	昭和56	10	25			関東合唱コンクール	千代田女学園講堂
1981	昭和56	11	24			西部地区音楽祭	武蔵野音楽大学パッハザール
1982	昭和57	1	26			西部地区高等学校音楽教員による演奏会「日本歌曲の花束」	川越市民会館
1982	昭和57	3	8			予餞会出演	川越市民会館
1982	昭和57	3	19			松山女子高校と交歓会	松山女子高校
1982	昭和57	3	24	3	26	春季合宿	入間青年の家
1982	昭和57	3	28			音楽部OB会・第1回総会	同窓会室
1982	昭和57	4	24			新入生歓迎会出演	川越市民会館
1982	昭和57	6	27			埼玉県合唱祭	狭山市民会館
1982	昭和57	7	24			第32回定期演奏会	川越市民会館
1982	昭和57	8	18	8	20	夏季合宿	
1982	昭和57	8	24			NHK学校音楽コンクール・埼玉県コンクール	大宮市民会館
1982	昭和57	9	11	9	12	くすのき祭に参加	音楽室
1982	昭和57	9	26			埼玉県合唱コンクール	大宮市民会館
1982	昭和57	11				西部地区音楽祭	武蔵野音楽大学パッハザール
1982	昭和57	12	17			新部室棟完成	
1983	昭和58	3	9			予餞会出演	川越市民会館
1983	昭和58	4	23			新入生歓迎会出演	川越市民会館
1983	昭和58	4				春季合宿	長瀨青年の家
1983	昭和58	6	19			埼玉県合唱祭	東松山文化会館
1983	昭和58	7	23			第33回定期演奏会	川越市民会館
1983	昭和58	7	30	8	1	夏季合宿	長瀨青年の家
1983	昭和58	8	4			全国高等学校総合文化祭参加	山口市市民会館
1983	昭和58	8	19			NHK学校音楽コンクール・埼玉県コンクール	狭山市民会館
1983	昭和58	9	10	9	11	くすのき祭に参加	音楽室
1983	昭和58	10	9			埼玉県合唱コンクール	大宮市民会館
1983	昭和58	10	22			関東合唱コンクール	青山学院講堂
1983	昭和58	10	30			川越市合唱祭	川越市民会館
1983	昭和58	11	28			西部地区音楽祭	武蔵野音楽大学パッハザール
1984	昭和59	1	16			吹奏楽部チャリティーコンサートに賛助出演	川越市民会館
1984	昭和59	3	12			予餞会出演	川越市民会館
1984	昭和59	3	29	3	31	春季合宿	長瀨青年の家
1984	昭和59	4	28			新入生歓迎会出演	川越市民会館
1984	昭和59	6	17			埼玉県合唱祭	大宮市民会館
1984	昭和59	7	20			第34回定期演奏会	坂戸文化会館
1984	昭和59	8	3	8	5	夏季合宿	長瀨青年の家
1984	昭和59	8	22			NHK学校音楽コンクール・埼玉県コンクール	深谷市民文化会館

参加人数	参加校	記事（曲目・その他）
	131	単独出場に戻る。「巡礼の合唱」「武蔵野の雨」「大漁祝い」 大学グリークラブを意識して立派なプログラム・ポスターを完成。
	30	
	19	「太郎」「早春」「紀の園」（「父のいる庭」より） 小高・有山・沢田先生出演  松本正自会長、南宗興副会長、小高秀一幹事長となる。
67	123	「十字架」（「五つのラメント」より）「オロロン鳥」「海鷗」（「海鳥の詩」より） 第二ステージ「塩田小唄」で小高先生がソロ。市民会館が工事中で、塗料のにおいと騒音の中でのコンサート。
	29	
	20	2日目台風接近のため11時以降下校の措置がとられる。  「くらづくり」を設計モチーフに。
	132	「廃墟に立ちて」（「川よとわに美しく」より）「光の讃歌」（「流氷のうた」より）
	26	
61	20	
61		ゲスト白井貴子で大荒れ。「一年間会館使用自粛」のあおりをうけて定期演奏会など別会場に。
81	142	「秋のピエロ」（「月光とピエロ」より）「木乃伊」（「野分」より）
	22	

年	年	月	日	月	日まで	事 項	会 場
1984	昭和59	8	26			第1回男声四校合同演奏会	深谷市民文化会館
1984	昭和59	9	8	9	9	くすのき祭に参加	音楽室
1984	昭和59	9	16			NHK学校音楽コンクール・1都6県演奏会収録	NHKホール
1984	昭和59	9	27			NHK学校音楽コンクール・1都6県演奏会放送	NHK総合テレビ
1984	昭和59	9	30			埼玉県合唱コンクール	大宮市民会館
1984	昭和59	10	7			NHK学校音楽コンクール・関東甲信越コンクール放送	NHK・FM
1984	昭和59	10	20			関東合唱コンクール	青山学院講堂
1984	昭和59	11	28			西部地区音楽祭	武蔵野音楽大学パッハザール
1985	昭和60	3	8			予餞会に出演	体育館
1985	昭和60	3	23			第1回送別演奏会	坂戸文化会館
1985	昭和60	3	29	3	31	春季合宿	長瀬青年の家
1985	昭和60	4	27			新入生歓迎会出演	川越市民会館
1985	昭和60	5	7			学徒総合体育大会開会式出演	上尾運動公園
1985	昭和60	6	16			埼玉県合唱祭	大宮市民会館
1985	昭和60	7	19			第35回定期演奏会	川越市民会館
1985	昭和60	8	20	8	22	夏季合宿	長瀬青年の家
1985	昭和60	8	25			第2回男声四校合同演奏会	川越市民会館
1985	昭和60	8	29			NHK学校音楽コンクール・埼玉県コンクール	浦和市文化センター
1985	昭和60	9	7	9	8	くすのき祭に参加	音楽室
1985	昭和60	9	29			埼玉県合唱コンクール	大宮市民会館
1985	昭和60	10	19			関東合唱コンクール	青山学院講堂
1985	昭和60	10	27			川越市合唱祭	川越市民会館
1985	昭和60	11	22			全日本合唱コンクール	長野県民文化会館
1985	昭和60	11	26			西部地区音楽祭	武蔵野音楽大学パッハザール
1985	昭和60	12	20			東松山養護学校に招待演奏	東松山中央公民館
1986	昭和61	3	8			予餞会に出演	体育館
1986	昭和61	3	28	3	30	春季合宿	長瀬青年の家
1986	昭和61	4	26			新入生歓迎会出演	川越市民会館
1986	昭和61	6	15			埼玉県合唱祭	浦和市文化センター
1986	昭和61	7	19			第36回定期演奏会	川越市民会館
1986	昭和61	7	21	7	23	夏季合宿	長瀬青年の家
1986	昭和61	8	28			NHK学校音楽コンクール・埼玉県コンクール	浦和市文化センター
1986	昭和61	8				第3回男声四校合同演奏会	
1986	昭和61	9	13	9	14	くすのき祭に参加	音楽室
1986	昭和61	9	28			埼玉県合唱コンクール	浦和市文化センター
1986	昭和61	10	18			関東合唱コンクール	青山学院講堂
1986	昭和61	10	26			川越市合唱祭	川越市民会館
1986	昭和61	11	22			全日本合唱コンクール	愛媛県民文化会館
1986	昭和61	11	28			西部地区音楽祭	武蔵野音楽大学パッハザール
1986	昭和61	12	24			吹奏楽部チャリティーコンサートに賛助出演	川越市民会館
1987	昭和62	3	7			予餞会に出演	体育館
1987	昭和62	3	22			川越市合唱連盟創立5周年記念演奏会	川越市民会館
1987	昭和62	4	1			1年生11クラスとなり、K組が登場	

参加人数	参加校	記事（曲目・その他）
75	21	川越高校・浦和高校・熊谷高校・松山高校の男声合唱4校。「天のベンチ」「暁」（組曲「縄文」より）、「海鳥の詩」ほか。合同演奏は岩田正彦先生（熊谷）の指揮で「海の構図」。
75		部員は音楽室と視聴覚室に別れて視聴した。自分が映っているかどうかで一喜一憂。
98	144	ゲストは山本コウタローであった。 現役ステージ「柳河風俗詩」、愛唱曲集「秋のピエロ」「天のベンチ」「野分」「木乃伊」「曙」、卒業生ステージ、合同ステージ「岬の墓」ほか。
92	24	「深い眠りに包まれて」（「今でも…ローセキは魔法の杖」より）「さる」（「ことばあそびうたⅡ」より）
92		「七つの子」「赤とんぼ」「オレーグ公の歌」「ことばあそびうたⅡ」ほか。四校合同ステージは小高先生の指揮で「ゆうやけの歌」。
92	22	埼京線開業前日で、川越線気動車で会場に向かった。
115	141	「ごびらっふの独白」（「青いメッセージ」より）
110	23	「The Lord Is My Shepherd」「夕やけこやけ」「Pomorane」「蛙の歌」「青いメッセージ」ほか。四校合同ステージは大橋勝司先生（浦和）の指揮で「流水のうた」。
110	20	
110		
110		
76		「間奏曲」「雲雀」「秋の歌」 吹奏楽・合唱に、合同演奏として「ハレルヤ・コーラス」。 ゲストはラサール石井であった。



年	年	月	日	月	日まで	事 項	会 場
1987	昭和62	4	3	4	5	春季合宿	長瀨青年の家
1987	昭和62	4	25			新入生歓迎会出演	川越市民会館
1987	昭和62	4	26			第4回男声四校合同演奏会	東松山中央公民館
1987	昭和62	5	4			松山女子高校と交歓会	食堂
1987	昭和62	6	21			埼玉県合唱祭	大宮市民会館
1987	昭和62	7	17			第37回定期演奏会（1日目）	川越市民会館
1987	昭和62	7	20			第37回定期演奏会（2日目）	川越市民会館
1987	昭和62	8	20	8	22	夏季合宿	長瀨青年の家
1987	昭和62	8	27			NHK学校音楽コンクール・埼玉県コンクール	浦和市文化センター
1987	昭和62	9	12	9	13	くすのき祭に参加	音楽室
1987	昭和62	9	20			NHK学校音楽コンクール・関東甲信越コンクール収録	NHK
1987	昭和62	9	20			埼玉県合唱コンクール	戸田市文化会館
1987	昭和62	10	4			NHK学校音楽コンクール・関東甲信越コンクール放送	NHK・FM
1987	昭和62	10	10			関東合唱コンクール	青山学院講堂
1987	昭和62	11	1			NHK学校音楽コンクール・全国コンクール	NHK・総合テレビ
1987	昭和62	11	8			川越市合唱祭	川越市民会館
1987	昭和62	11	23			「歌声の祭典」に出演	浦和市文化センター
1987	昭和62	11	25			西部地区音楽祭	武蔵野音楽大学パッハザール
1988	昭和63	1	10			春日部女子高校と交歓会	春日部女子高校
1988	昭和63	2	13			さいたま博テーマ曲録音	戸田市文化会館
1988	昭和63	3	8			予餞会に出演	体育館
1988	昭和63	3	24			第2回送別演奏会	川越市民会館（やまぶき会館）
1988	昭和63	3	25	3	27	春季合宿	長瀨青年の家
1988	昭和63	4	1			浅井一郎先生川口工業高校から転勤、音楽部指揮者となる	
1988	昭和63	4	2			さいたま博イベントに出演	熊谷・さいたま博覧会場
1988	昭和63	5	1			第5回男声四校合同演奏会	川越市民会館
1988	昭和63	5	7			新入生歓迎会出演	川越市民会館
1988	昭和63	5	14			埼玉県学徒大会開会式に出演	上尾運動公園
1988	昭和63	6	19			埼玉県合唱祭	浦和市文化センター
1988	昭和63	7	20			第38回定期演奏会	川越市民会館
1988	昭和63	8	18	8	20	夏季合宿	
1988	昭和63	8	26			NHK学校音楽コンクール・埼玉県コンクール	浦和市文化センター
1988	昭和63	9	10	9	11	くすのき祭に参加	音楽室
1988	昭和63	9	25			NHK学校音楽コンクール・関東甲信越コンクール放送	NHK・FM
1988	昭和63	9	25			埼玉県合唱コンクール	大宮ソニックシティ
1988	昭和63	10	15			関東合唱コンクール	青山学院講堂
1988	昭和63	11	6			川越市合唱祭	川越市民会館
1988	昭和63	11	16			西部地区音楽祭	武蔵野音楽大学パッハザール
1988	昭和63	11	26			ウィリアム・ウー先生による発声指導	音楽室
1989	平成1	3	9			予餞会に出演	体育館
1989	平成1	3	31	4	2	春季合宿	長瀨青年の家
1989	平成1	4	22			新入生歓迎会出演	川越市民会館
1989	平成1	4	30			第6回男声四校合同演奏会	
1989	平成1	6	25			埼玉県合唱祭	浦和市文化センター
1989	平成1	7	20			第39回定期演奏会	川越市民会館
1989	平成1	8	18	8	20	夏季合宿	長瀨青年の家

参加人数	参加校	記事（曲目・その他）
103	143	<p>「南無ダダ」「人のいうことを信じるな」「ゆめみる」ほか。合同ステージは八木原宗夫先生（松山）の指揮で4校合計120名の「枯木は独りで歌う」「流浪の民」は圧巻。</p> <p>「ゆめみる」（「季節へのまなざし」より）</p>
105	18	<p>渋谷のNHKから戸田のコンクール会場に飛ぶ。</p>
105	25	<p>修学旅行中のため1年生のみ出演。</p> <p>「雨中小景」（「三崎のうた」より）「ViveL' Amour」「蛇祭り行進」「ゆめみる」</p> <p>「雨中小景」（「三崎のうた」より）「ViveL' Amour」</p>
		<p>在校生ステージ「三崎のうた」、卒業生ステージ、合同ステージ「巨木のうた」「十月の薔薇」「季節へのまなざし」ほか。</p> <p>大阪・淀川工業高校の高嶋先生が見える。</p> <p>「ジプシーの歌」「心の渚」「ヒロシマにかける虹」ほか。合同ステージは大澤壮吉先生（熊谷）の指揮で「月光とピエロ」より3曲を合同演奏。</p>
120	161	<p>「心の渚」「ヒロシマにかける虹」（「祈りの虹」より）</p> <p>宿泊室のガラス1枚割れる。</p>
122 122	26	<p>「中原中也の詩から」</p> <p>ウィリアム・ウー先生はオペラ歌手。</p>
110	157	<p>「Pster noster」「くじら祭り」「イヨマンテ」「リムセ」（「アイヌのウポポ」より）</p>

年	年	月	日	月	日まで	事 項	会 場
1989	平成1	8	29			NHK学校音楽コンクール・埼玉県コンクール	浦和市文化センター
1989	平成1	9	10	9	11	くすのき祭に参加	音楽室
1989	平成1	9	16			埼玉県合唱コンクール	浦和市文化センター
1989	平成1	10	14			関東合唱コンクール	青山学院講堂
1989	平成1	11	3			国民文化祭さいたま（合唱部門）に出演	大宮ソニックシティー
1989	平成1	11	8			西部地区音楽祭	武蔵野音楽大学パッハザール
1989	平成1	11	19			川越市合唱祭	川越市民会館
1989	平成1	11	24			全日本合唱コンクール	福岡サンパレスホール
1990	平成2	1	13	1	14	大学入試センター試験始まる	
1990	平成2	1	15			第1回埼玉ヴォーカルアンサンブルコンテストが行われる	
1990	平成2	1	21			春日部女子高校と交歓会	春日部女子高校
1990	平成2	3	8			予餞会に出演	体育館
1990	平成2	3	26			第3回送別演奏会	川越市民会館（やまぶき会館）
1990	平成2	4	4	4	6	春季合宿	長瀬青年の家
1990	平成2	4	21			新入生歓迎会出演	川越市民会館
1990	平成2	4	30			第7回男声四校合同演奏会	川越市民会館
1990	平成2	6	23			埼玉県合唱祭	大宮市民会館
1990	平成2	7	21			第40回定期演奏会	川越市民会館
1990	平成2	8	21	8	23	夏季合宿	長瀬青年の家
1990	平成2	8	29			NHK学校音楽コンクール・埼玉県コンクール	浦和市文化センター
1990	平成2	9	9			埼玉県合唱コンクール	浦和市文化センター
1990	平成2	9	10			くすのき祭に参加	音楽室
1990	平成2	10	13			関東合唱コンクール	青山学院講堂
1990	平成2	11	11			川越市合唱祭	川越市民会館
1990	平成2	11	19			西部地区音楽祭	武蔵野音楽大学パッハザール
1990	平成2	11	23			全日本合唱コンクール	札幌・厚生年金会館
1991	平成3	2	17			春日部女子高校と合同練習会	春日部女子高校
1991	平成3	3	7			予餞会に出演	体育館
1991	平成3	3	24			第4回送別演奏会	川越市民会館（やまぶき会館）
1991	平成3	3	27	3	29	春季合宿	長瀬青年の家
1991	平成3	5	18			新入生歓迎会出演	川越市民会館
1991	平成3	5				第8回男声四校合同演奏会	東松山文化会館
1991	平成3	6	29			埼玉県合唱祭	浦和市文化センター
1991	平成3	7	21			第41回定期演奏会	川越市民会館
1991	平成3	8	20	8	22	夏季合宿	加須青年の家
1991	平成3	8	29			NHK学校音楽コンクール・埼玉県コンクール	浦和市文化センター
1991	平成3	9	7	9	8	くすのき祭に参加	音楽室
1991	平成3	9	23			埼玉県合唱コンクール	浦和市文化センター
1991	平成3	10	6			川越市合唱祭	川越市民会館
1991	平成3	10	12			関東合唱コンクール	青山学院講堂
1991	平成3	11	13			西部地区音楽祭	武蔵野音楽大学パッハザール
1991	平成3	11	23			全日本合唱コンクール	岡山シンフォニーホール
1992	平成4	1	19			第3回埼玉ヴォーカルアンサンブルコンテストに有志合唱団として初参加	
1992	平成4	3	9			予餞会に出演	体育館
1992	平成4	3	22			川越市合唱連盟創立10周年記念事業	川越市民会館
1992	平成4	3	26			第5回送別演奏会	川越市民会館（やまぶき会館）

参加人数	参加校	記事（曲目・その他）
105	24	<p>「大地讃頌」「リムセ」を演奏。</p> <p>ただし出場せず。</p> <p>在校生ステージ「海に寄せる歌」、卒業生ステージ、合同ステージ「紀の國」「作品第肆」（「富士山」より）「アイヌのウポポ」ほか。</p>
120	170	<p>「いとしのエリー」「鷗どり」「青いメッセージ」ほか。合同ステージは大橋先生（浦和）の指揮で「水のいのち」。料金100円に設定。</p> <p>「パリンカ」（「小譚詩」より）「Volga」（「五つのラメント」より）</p>
115	12	
115	24	<p>前日が埼玉県コンクールのためハード。</p>
109		<p>練習中心。「交歓発声体操」なども。</p> <p>在校生ステージ「柳河風俗詩」「季節へのまなざし」、卒業生ステージ「思い出のシンフォニー」、合同ステージ「パリンカ」「Volga」「ごびらっふの独白」ほか。長瀨青年の家が今回の合宿を最後に改築工事にはいる。</p>
115	181	<p>料金100円に設定。</p> <p>「An Webers Grabe」「花」（「幼年連禱」より）</p>
110	27	
110		
115		<p>有志合唱団、金賞。</p> <p>在校生ステージ組曲「富士山」、卒業生ステージ「思い出のシンフォニー」、合同ス</p>

年	年	月	日	月	日まで	事 項	会 場
1992	平成4	4	3	4	5	春季合宿	加須青年の家
1992	平成4	4	18			新入生歓迎会出演	川越市民会館
1992	平成4	4	26			第9回男声四校合同演奏会	川越市民会館
1992	平成4	6	20			埼玉県合唱祭	埼玉会館
1992	平成4	7	19			第42回定期演奏会	川越市民会館
1992	平成4	8	18	8	20	夏季合宿	大滝グリーンスクール
1992	平成4	8	27			NHK学校音楽コンクール・埼玉県コンクール	浦和市文化センター
1992	平成4	9	1			毎月第二土曜日が休業日となる	
1992	平成4	9	12			埼玉県合唱コンクール	浦和市文化センター
1992	平成4	9	13			くすのき祭に参加	音楽室
1992	平成4	9	20			川越市合唱祭	川越市民会館
1992	平成4	10	4			関東合唱コンクール	群馬音楽センター
1992	平成4	11	15			埼玉県合唱連盟創立35周年記念式典	浦和市文化センター
1993	平成5	1	16			第4回埼玉ヴォーカルアンサンブルコンテスト参加(有志)	川口リリアホール
1993	平成5	3	8			予餞会出演	体育館
1993	平成5	3	27			第6回送別演奏会	川越市民会館(やまぶき会館)
1993	平成5	3	30	4	1	春季合宿	長瀬青年の家
1993	平成5	3	31			仙台屋閉店	
1993	平成5	4	17			新入生歓迎会出演	川越市民会館
1993	平成5	4	25			第10回男声四校合同演奏会	川越市民会館
1993	平成5	6	19			埼玉県合唱祭	浦和市文化センター
1993	平成5	7	25			第43回定期演奏会	川越市民会館
1993	平成5	8	6			第17回全国高等学校総合文化祭(合唱部門)参加	大宮ソニックシティ
1993	平成5	8	17			全国合唱教育研究会全国大会出演	埼玉会館
1993	平成5	8	19	8	21	夏季合宿	大滝グリーンスクール
1993	平成5	8	30			NHK学校音楽コンクール・埼玉県コンクール	大宮ソニックシティ
1993	平成5	9	5			埼玉県合唱コンクール	浦和市文化センター
1993	平成5	9	11	9	12	くすのき祭に参加	音楽室
1993	平成5	9	26			関東合唱コンクール	静岡市民文化会館
1993	平成5	10	31			全日本合唱コンクール(中学校の部)特別出演	大宮ソニックシティ
1993	平成5	11	15			西部地区音楽祭	武蔵野音楽大学パッハザール
1993	平成5	11	19			全日本合唱コンクール	大阪フェスティバルホール
1993	平成5	11	28			川越市合唱祭	川越市民会館
1994	平成6	1	22			第5回埼玉ヴォーカルアンサンブルコンテスト参加(有志)	川口リリアホール
1994	平成6	1	26			本校初の推薦入学試験行われる	
1994	平成6	3	8			予餞会出演	体育館
1994	平成6	3	26			第7回送別演奏会	川越市民会館(やまぶき会館)
1994	平成6	3	29	3	31	春季合宿	長瀬青年の家
1994	平成6	4	8			本年度入学生より「家庭科」必修に	
1994	平成6	4	16			新入生歓迎会出演	川越市民会館
1994	平成6	5	1			第11回男声四校合同演奏会	川越市民会館
1994	平成6	6	25			埼玉県合唱祭	浦和市文化センター
1994	平成6	7	24			第44回定期演奏会	川越市民会館

参加人数	参加校	記事（曲目・その他）
128	186	<p>テージ「GLORIA」「かきつばた」「季節へのまなざし」ほか。</p> <p>「IF WE HOLD ON TOGETHER」「鳥が」「Vive L' Amour」「海よ」（「水のいのち」より）、合同ステージ「月光とピエロ」。</p> <p>「海神」（「ティオの夜の旅」より）「たいしめ」「もちつき」（「アイヌのウポポ」より）</p>
100	26	<p>12日が埼玉県コンクールと重なり、1日だけ参加。今回から「歩き回り合唱団」も登場。</p>
102		
20		<p>有志合唱団、銅賞。「柳河風俗詩」より3曲。</p>
		<p>新装なった青年の家。一部工事中だった。</p>
107	175	<p>岩田・八木原・小高先生も第10回記念としてゲスト出演。</p> <p>「O Domine Jesu Christe」「ヒロシマにかける虹」（「祈りの虹」より）</p> <p>総勢198名、男声合唱4校の合同ステージ。</p>
90		
90		
88		<p>有志合唱団、銀賞。</p>
		<p>在校生ステージ組曲「雨」、卒業生ステージ、合同ステージ「遠く吹く風」「雪夜」「ヒロシマにかける虹」ほか。</p>
88	195	<p>組曲「雨」（一部）「そして夜が明ける」「IN TERRA PAX～地に平和を～」ほか。合同ステージは大橋先生（浦和）の指揮で「家路」「Die Ehre Gottes in der Natur」ほか。「たんぼぼ」（「花に寄せて」より）「草」（「若人のうた」より）</p>

年	年	月	日	月	日まで	事 項	会 場
1994	平成6	8	4			N H K 学校音楽コンクール・埼玉県コンクール	大宮ソニックシティー
1994	平成6	8	25	8	27	夏季合宿	長湍青年の家
1994	平成6	9	6			埼玉県合唱コンクール	浦和市文化センター
1994	平成6	9	10	9	11	くすのき祭に参加	音楽室
1994	平成6	9	25			関東合唱コンクール	浦和市文化センター
1994	平成6	10	30			川越市合唱祭	川越市民会館
1994	平成6	11	22			西部地区音楽祭	武蔵野音楽大学パッハザール
1995	平成7	1	21			第6回埼玉ヴォーカルアンサンブルコンテスト参加(有志)	川口リリアホール
1995	平成7	3	8			予餞会に出演	体育館
1995	平成7	3	26			第8回送別演奏会	川越市民会館(やまぶき会館)
1995	平成7	3	29	3	31	春季合宿	長湍青年の家
1995	平成7	4	1			毎月第二・四土曜日が休業日となる	
1995	平成7	4	11			「家庭科」開講	
1995	平成7	4	15			新入生歓迎会出演	川越市民会館
1995	平成7	4	30			第12回男声四校合同演奏会	川越市民会館
1995	平成7	6	24			埼玉県合唱祭	浦和市文化センター
1995	平成7	7	23			第45回定期演奏会	川越市民会館
1995	平成7	8	18			N H K 学校音楽コンクール・埼玉県コンクール	大宮ソニックシティー
1995	平成7	8	23	8	25	夏季合宿	長湍青年の家
1995	平成7	9	6			埼玉県合唱コンクール	浦和市文化センター
1995	平成7	9	9	9	10	くすのき祭に参加	音楽室
1995	平成7	10	1			関東合唱コンクール	新潟県民会館
1995	平成7	11	10			西部地区音楽祭	和光市民文化会館
1995	平成7	11	12			川越市合唱祭	川越市民会館
1996	平成8	1	20			第7回埼玉ヴォーカルアンサンブルコンテスト参加(有志)	川口リリアホール
1996	平成8	3	6			予餞会に出演	体育館
1996	平成8	3	24			第9回送別演奏会	川越市民会館(やまぶき会館)
1996	平成8	3	28	3	30	春季合宿	長湍青年の家
1996	平成8	4	20			新入生歓迎会出演	川越市民会館
1996	平成8	4	28			第13回男声四校合同演奏会	川越市民会館
1996	平成8	6	23			埼玉県合唱祭	浦和市文化センター
1996	平成8	7	21			第46回定期演奏会	川越市民会館
1996	平成8	8	20			N H K 学校音楽コンクール・埼玉県コンクール	大宮ソニックシティー
1996	平成8	8	26	8	28	夏季合宿	小鹿野町・宮本荘/ 秩父ミュージックパーク音楽堂
1996	平成8	9	7	9	8	くすのき祭に参加	音楽室
1996	平成8	9	11			埼玉県合唱コンクール	浦和市文化センター
1996	平成8	9	29			関東合唱コンクール	茨城県民文化センター
1996	平成8	10	6			埼玉栄高校コーラス部と交歓サッカー大会	グラウンド
1996	平成8	10	26			全日本合唱コンクール	京都コンサートホール
1996	平成8	11	17			川越市合唱祭	川越市民会館
1996	平成8	11	27			西部地区音楽祭	和光市民文化会館
1997	平成9	1	17			第8回埼玉ヴォーカルアンサンブルコンテスト参加(有志)	さいたま芸術劇場
1997	平成9	3	6			予餞会に出演	体育館
1997	平成9	3	20			第10回送別演奏会	川越市民会館(やまぶき会館)

参加人数	参加校	記事（曲目・その他）
		<p>「合唱戦隊ウタウンジャー」優良賞、「粗品」優良賞。</p> <p>在校生ステージ「北斗の海」、卒業生ステージ、合同ステージ「雨の日に見る」「OH MY SOLDIER」「たんぽぽ」「草」ほか。</p>
74		<p>「くじら祭り」（「アイヌのウポポ」より）「最上川舟歌」</p>
74		<p>「調」優良賞、「Coro・felice」銀賞</p> <p>在校生ステージ「アイヌのウポポ」、卒業生ステージ、合同ステージ「Bering Fantasy」「ティオの夜の旅」「季節へのまなざし」ほか。</p> <p>“「くじら祭り」「Sailig,Sailing」「さらば青春」「十月（哭く）」ほか。春日部高校コーロマスキーレが友情出演。大澤先生（熊谷）の指揮で「花に寄せて」など。”</p>
81		
81		
81		<p>「柳河」「斎太良節」</p> <p>「雅」銅賞、「調97」銀賞、「男たちの讃歌」銅賞。</p> <p>在校生ステージ「柳河風俗詩」、卒業生ステージ、合同ステージ「ぼろぼろな駝鳥」「アイヌのウポポ」「そしてララバイ」ほか。</p>



年	年	月	日	月	日まで	事 項	会 場
1997	平成9	3	23			全日本合唱連盟関東支部50周年記念合唱祭	大宮ソニックシティー
1997	平成9	3	27	3	29	春季合宿	長瀬青年の家
1997	平成9	4	19			新入生歓迎会出演	川越市民会館
1997	平成9	4	27			第14回男声五校合同演奏会	東松山中央公民館
1997	平成9	6	14			埼玉県合唱祭	埼玉会館
1997	平成9	7	21			第47回定期演奏会	川越市民会館
1997	平成9	8	20			NHK学校音楽コンクール・埼玉県コンクール	大宮ソニックシティー
1997	平成9	8	26	8	28	夏季合宿	加須青年の家
1997	平成9	9	5			埼玉県合唱コンクール	浦和市文化センター
1997	平成9	9	13	9	14	くすのき祭に参加	音楽室
1997	平成9	9	28			関東合唱コンクール	宇都宮市文化会館
1997	平成9	11	1			全日本合唱コンクール	昭和女子大学人見記念講堂
1997	平成9	11	3			川越市合唱祭	川越市民会館
1997	平成9	11	16			千葉県合唱祭に特別出演	千葉県文化会館
1997	平成9	11	17			西部地区音楽祭	武蔵野音楽大学パッハザール
1998	平成10	1	16			第9回埼玉ヴォーカルアンサンブルコンテスト参加(有志)	さいたま芸術劇場
1998	平成10	3	6			予餞会出演	川越市民会館
1998	平成10	3	21			第11回送別演奏会	川越市民会館(やまぶき会館)
1998	平成10	3	27	3	29	春季合宿	長瀬青年の家
1998	平成10	4	8			「冬時間」廃止	
1998	平成10	4	16			新入生歓迎会出演	川越市民会館
1998	平成10	4	29			第15回男声五校合同演奏会	川越市民会館
1998	平成10	6	13			埼玉県合唱祭	埼玉会館
1998	平成10	7	19			第48回定期演奏会	川越市民会館
1998	平成10	8	20			NHK学校音楽コンクール・埼玉県コンクール	大宮ソニックシティー
1998	平成10	8	25	8	27	夏季合宿	加須青年の家
1998	平成10	9	4			埼玉県合唱コンクール	浦和市文化センター
1998	平成10	9	12	9	13	くすのき祭に参加	音楽室
1998	平成10	9	27			関東合唱コンクール	グリーンホール相模大野
1998	平成10	10	31			全日本合唱コンクール	アクティシティ浜松
1998	平成10	11	16			西部地区音楽祭	武蔵野音楽大学パッハザール
1999	平成11	1	15			第10回埼玉ヴォーカルアンサンブルコンテスト参加(有志)	さいたま芸術劇場
1999	平成11	3	5			予餞会出演	体育館
1999	平成11	3	21			第12回送別演奏会	川越市民会館(やまぶき会館)
1999	平成11	3	24			川高創立百周年記念校歌・応援歌CD収録	川越市民会館
1999	平成11	3	26	3	28	春季合宿	長瀬青年の家
1999	平成11	3	30			浦和第一女子高校定期演奏会出演	埼玉会館
1999	平成11	4	1			宮寺勇先生久喜北陽高校から転勤、音楽部指揮者となる	
1999	平成11	4	15			新入生歓迎会出演	川越市民会館
1999	平成11	4	29			第16回男声五校合同演奏会	川越市民会館
1999	平成11	6	12			埼玉県合唱祭	埼玉会館
1999	平成11	7	20			第49回定期演奏会	川越市民会館

参加人数	参加校	記事（曲目・その他）
94		<p>浦和・熊谷・松山・川越の合同合唱団111名で、浅井先生の指揮で「月光とピエロ」から三曲を演奏。</p> <p>「めばえ」「上を向いて歩こう」「Volga」ほか。男声合唱四校に春日部高校が加わる。合同演奏は浅井先生の指揮で「月光とピエロ」。</p> <p>「海景色」「Volga」（「五つのラメント」より）</p>
94		
81		<p>「OURS」金賞、「調' 98」銀賞、「楠」銅賞。</p> <p>在校生ステージ「海に寄せる歌」、卒業生ステージ、合同ステージ「輪舞（リムセ）」「海景色」「Volga」ほか。</p> <p>「Sailing Sailing」「陽どり」「また、あした」「弥生人よ きみらはどうして」ほか。五校合同ステージは大橋先生（浦和）の指揮で「五つのルフラン」。混声合唱ステージもあり。</p>
82		
82		
80		<p>「くすのき」銀賞、「小江戸合唱団」優良賞。</p> <p>在校生ステージ「富士山」、卒業生ステージ、合同ステージ「ふるさとの」「バトンタッチのうた」「ハレー彗星独白」ほか。</p> <p>応援団・吹奏楽部ほか。</p> <p>「Ride the Chariot」「この世の中にある」「Man of La Mancha」より2曲。合同ステージは「柳河風俗詩」。混声ステージもあり。</p> <p>「Finale」（「Man of La Mancha」より）</p>

年	年	月	日	月	日まで	事 項	会 場
1999	平成11	8	6			NHK学校音楽コンクール・埼玉県コンクール	大宮ソニックシティー
1999	平成11	8	24	8	26	夏季合宿	加須青年の家
1999	平成11	9	10			埼玉県合唱コンクール	浦和市文化センター
1999	平成11	9	11	9	12	くすのき祭に参加	音楽室
1999	平成11	9	18			川高創立百周年記念音楽会出演	川越市民会館
1999	平成11	9	26			関東合唱コンクール	千葉県文化会館
1999	平成11	10	23			川高創立百周年記念式典	体育館
1999	平成11	10	30			全日本合唱コンクール	岡山シンフォニーホール
1999	平成11	11	15			西部地区音楽祭	武蔵野音楽大学パッハザール
2000	平成12	1	14			第11回埼玉ヴォーカルアンサンブルコンテスト参加(有志)	さいたま芸術劇場
2000	平成12	3	9			音楽室のじゅうたん更新される	
2000	平成12	3	18			第13回送別演奏会	川越市民会館(やまぶき会館)
2000	平成12	4	4	4	6	春季合宿	加須青年の家
2000	平成12	4	21			新入生歓迎会出演	川越市民会館
2000	平成12	4	30			第17回男声五校合同演奏会	埼玉会館
2000	平成12	6	10			埼玉県合唱祭	所沢ミュージズ
2000	平成12	6	25			ハンガリー・プロムジカ女声合唱団所沢演奏会・歓迎演奏に出演	所沢ミュージズ
2000	平成12	7	9			LINZ2000第1回合唱オリンピック出演	オーストリアLINZ
2000	平成12	7	20			第50回定期演奏会	川越市民会館
2000	平成12	7	20			男声合唱曲「ミサNo.4」(荻久保和明作曲)OB会より贈呈	川越市民会館
2000	平成12	7	20			創部50周年記念祝賀会	川越プリンスホテル
2000	平成12	8	25			埼玉県合唱コンクール	浦和市文化センター
2000	平成12	9	24			関東合唱コンクール	山梨県民文化ホール

参加人数	参加校	記事（曲目・その他）
80		<p>第一部（生徒対象）・第二部（一般・同窓生対象）の二部構成。第二部ではOB合同ステージとして「光よ音の流れよ」ほか。ゲスト：古澤巖（ヴァイオリン）、椎野伸一・塚原理（ピアノ）ほか。</p>
80		
80		<p>「真-X」金賞、「27%」銅賞、「芋の国から」優良賞。</p> <p>在校生ステージ「牧野統作品集」「ヴォーカルアンサンブル」…27%・真-x・芋の国から、卒業生ステージ、合同ステージ「Man of La Mancha」ほか。浦和第一女子高校と同日程。交歓練習会も。</p> <p>「わかいおじさん」「冬の夜更けに」「雨の降る夜は」「未来の星」「甲斐より」ほか。五校合同ステージは田久保昌修先生指揮による（春日部）「柳河風俗詩」。混声合唱ステージもあり。</p> <p>「ふるさと」「Dies irae 一炎上一」</p> <p>「ふるさと」「Dies irae 一炎上一」「たたら」「Die Allmacht」男声の部銀メダル。1位はスウェーデン。渡航日に台風が襲来し、予定になかった成田での前泊。ゲストとしてシンケル高校（ドイツ）。この日、生徒宅などにホームステイ。記念曲「Kirie」の伴奏に関し、来賓の荻久保和明氏より、伴奏の永山君が絶賛される。音楽部OB会松本会長より音楽部森田第50代部長に贈呈</p> <p>出席者69名。来賓として渋谷同窓会長、深澤教頭、大岩県合唱連盟副理事長、廣重市合唱連盟副会長、歴代指導者ご夫妻、ピアニストほか多彩な顔ぶれ。</p>
75	25	

川越高校音楽部 歴代顧問 歴代部長

年度	年度	指揮者	顧問	顧問	顧問	部長	副部長	副部長
1949	昭和24		河盛 鋭治	市川 正男				
1950	昭和25		河盛 鋭治			新井 涼平	原 武	
1951	昭和26	牧野 統	河盛 鋭治			岸田 徹	福田 雄彦	渡辺 重信
1952	昭和27	牧野 統	河盛 鋭治			渡辺 重信	下 恭治	高橋 広
1953	昭和28	牧野 統				高橋 広	石川 徳夫	水村 浩一
1954	昭和29	牧野 統				水村 浩一	大島 義明	吉野 宏
1955	昭和30	牧野 統				吉野 宏	大内 聡矣	高橋 誠
1956	昭和31	牧野 統				浅見 貞治	木村 孝	佐藤 勝弘
1957	昭和32	牧野 統				本木 淳一	中島 次男	木村 光
1958	昭和33	牧野 統				木村 光	田島 英雄	海野 照夫
1959	昭和34	牧野 統				小川 光昭	岡田 忠彦	安田 直弘
1960	昭和35	牧野 統				安田 直弘	武藤 郁夫	安田 重規
1961	昭和36	牧野 統				安田 重規	大塚 和彦	野沢 達也
1962	昭和37	牧野 統				野沢 達也	古川 宏	小林 良二
1963	昭和38	牧野 統	小高 秀一			柴生田量教	鈴木 慎一	塚川 繁
1964	昭和39	牧野 統	森江 進	小高 秀一		大塚 英男	太田 淑夫	岡部 申之
1965	昭和40	牧野 統	森江 進	小高 秀一		岡部 申之	山口 祥教	浅見 慎一
1966	昭和41	牧野 統	森江 進	小高 秀一		浅見 慎一	岡部 泉	
1967	昭和42	牧野 統				望月 克美	金子 一美	矢部 秀一
1968	昭和43	牧野 統	黒井 恒男			矢部 秀一	吉田 均	鎌田 一顕
1969	昭和44	牧野 統	黒井 恒男			鎌田 一顕	石崎 俊一	萩久保和明
1970	昭和45	牧野 統	黒井 恒男			萩久保和明	小山 浩	島田 徹
1971	昭和46	牧野 統	黒井 恒男	斉藤 功司		島田 徹	長谷川 眞	牛山 行雄
1972	昭和47	秋月 直胤	黒井 恒男			磯田 延雄	牛山 行雄	柴田 徹造
1973	昭和48	秋月 直胤	黒井 恒男			柴田 徹造	目時 隆一	村田 学
1974	昭和49	秋月 直胤	黒井 恒男	作山 好邦	斉藤 功司	目時 隆一	山崎 敏彦	斉藤 昌宏
1975	昭和50	秋月 直胤	黒井 恒男	作山 好邦		斉藤 昌宏	内田 喜之	須貝 俊二
1976	昭和51	小高 秀一	黒井 恒男	作山 好邦	秋月 直胤	伴義 典	馬場 正志	伊藤 彰
1977	昭和52	小高 秀一	黒井 恒男	作山 好邦		福田 紳一	伊藤 彰	常見 晃
1978	昭和53	小高 秀一				内堀 充佳	伊藤 孝雄	柴田 励司
1979	昭和54	小高 秀一				柴田 励司	山崎 修	臼木 学
1980	昭和55	小高 秀一	高岸 知子	島田 薫	吉田美恵子	金子 高広	阿部 和彦	岩田 英明
1981	昭和56	小高 秀一	高岸 知子	吉田美恵子	沢田 妙子	坂下 誠	山田 敦	富山 一哉
1982	昭和57	小高 秀一	関口 弘	有山美恵子	加藤千恵子	富山 一哉	小坏 俊哉	清沢 優
1983	昭和58	小高 秀一	関口 弘	有山美恵子	加藤千恵子	小島 達也	清沢 優	高橋 啓太
1984	昭和59	小高 秀一	関口 弘			高橋 啓太	松本 秀敏	園山 実
1985	昭和60	小高 秀一	関口 弘			園山 実	井口 治	灘 芳弘
1986	昭和61	小高 秀一	関口 弘	滝本 信一		灘芳 弘	田中 俊光	藪内 諭
1987	昭和62	小高 秀一	関口 弘	瀬野 昭憲		藪内 諭	細川 佳史	池田 哲哉
1988	昭和63	浅井 一郎	関口 弘	青木 恭子		池田 哲哉	須藤 博史	小野 和彦
1989	平成1	浅井 一郎	関口 弘	青木 恭子		小野 和彦	梅田 能生	内藤 慎
1990	平成2	浅井 一郎	青木 恭子	清水 徳雄		松枝 治	上義 輝	篠原 哲
1991	平成3	浅井 一郎	青木 恭子	清水 徳雄		篠原 哲	高平 亘	西澤 裕美
1992	平成4	浅井 一郎	青木 恭子	清水 徳雄		西澤 裕美		小林 正俊
1993	平成5	浅井 一郎	青木 恭子	清水 徳雄		小林 正俊	北川 浩隆	古川 淳也
1994	平成6	浅井 一郎	青木 恭子	内田 正俊		古川 淳也	前田 浩次	北山 哲
1995	平成7	浅井 一郎	青木 恭子	内田 正俊		北山 哲	佐藤 孝明	山崎 拓洋
1996	平成8	浅井 一郎	青木 恭子	内田 正俊		山崎 拓洋	門間 徹	三吉 圭介
1997	平成9	浅井 一郎	遠藤 静枝	内田 正俊		三吉 圭介	坪 広志	安保 友博
1998	平成10	浅井 一郎	遠藤 静枝	内田 正俊		守谷 滋記	金澤 篤憲	伊藤 貴史
1999	平成11	宮寺 勇	遠藤 静枝	内田 正俊		伊藤 貴史	寺田 博一	森田 哲史
2000	平成12	宮寺 勇	内田 正俊			森田 哲史	鈴木 聡	柳下 孝登

	副部长	学生指揮者	【参考】生徒会予算	定演入場料	
			¥4,920		
			¥7,920		
			¥10,040		
			¥12,000		
			¥14,500		
			¥14,900		
			¥19,350		
			¥19,350		
			¥19,000	¥50	小中学生¥30
			¥17,700		
			¥21,500		
			¥20,000		
			¥22,500		
			¥29,070		
		塚川 繁		¥80	
			¥42,500	¥80	
				¥50	
				¥90	
			¥32,550	¥100	
				¥100	
				¥100	
			¥40,000	¥150	
		目時 隆一	¥48,000	¥150	
		内田 喜之	¥54,000	¥150	
		吉田 源三	¥59,000	¥150	
		浅井 一郎	¥80,000	¥150	
		伊藤 孝雄	¥100,000	¥150	
		遠藤 和郎	¥90,000	¥150	
		馬渡 啓充		¥200	
		新井 貴		¥250	
		西岡 康一		¥200	
		島田 卓也	¥108,000	¥200	
		小暮 孝明	¥119,500	¥250	
		渡部 健之	¥120,000	¥200	
		塚原 理	¥131,500	¥200	
		谷口 典亨	¥134,000	¥200	
		山土井俊晶	¥134,000	¥200	
	田辺 玲	塚原 濟	¥176,000	¥200	
		西村 仁史	¥165,000	¥200	
		田島 宏幸	¥162,000	¥200	
		池原 琢治	¥148,000	¥200	
		橋本 貴朗	¥160,000	¥200	
		川名 賢一	¥178,000	¥200	
		山本 純平	¥175,350	¥200	
		宮寺 孝幸	¥180,000	¥200	
		平田 由布	¥178,000	¥200	
		栗津 慶智	¥188,500	¥200	
		矢澤 啓之	¥190,000	¥200	
		細川 惇一	¥190,000	¥500	

# 西 県

## くすの木のついで

部活動でたどる  
川越高1000年

■38

題字は  
同窓会長  
渋谷健氏

### 音楽部

音楽部は文化部の一員として戦前も存在していたが、「音楽部」として創設されたのは一九四九(昭和二十四)年。同年十二月発行の生徒会会報「創刊号」中に活動状況が紹介されている。四月から二週間に一回の割合で「レコード音楽愛好会」を行っている。もともと部にはベートーベンの作品など十二枚のレコードしかなかった。このため顧問の先生の所用品を借り、各作曲家の解説をしてもらうという鑑賞会だった。

翌年から、旧講堂の入り口の所に部室が与えられ、部費も出るようになった。六月三日、部員五人が初の「音楽発表会」を開いている。バイオリンやピアノの個人演奏、準備不足や停電日なども重なり不評の上だった。

部員の一人は、会報の中で「冒険としか思えない程の大仕事だった。器楽とコーラスが共同して開けば、より立派に出来ると思っていたが...」と回顧。当時は、コーラスをするにも部員が練習に集まらなかつた。また、定まった指導者もいなかった。

昭和二十六年、故・牧野統先生が赴任。本格的なコーラ

## 指導者得て実力向上

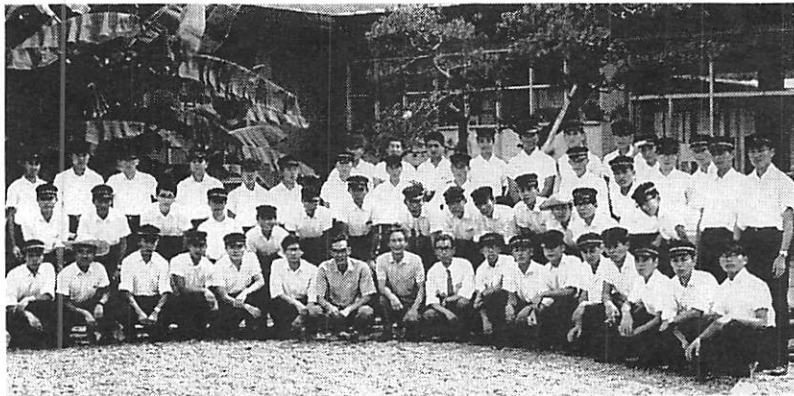
スに取り組むようになる。九けて初優勝を飾り、県代表と月には器楽部を交えた音楽発表会を開催。約八百人の拍手を受けたとの記録がある。

翌年、「NHKラジオ唱歌音楽部OB会会長の松本正自さん(仮名、昭和二十五年の「未来の星」(丸山薫作)入学、同二十八年の卒業。の作曲で牧野先生が一位で入「牧野先生がきてからコーラ選している。当時の学校新聞の音楽部が始まった。先生は「秋のコンクールでは、この人柄に好感を持ち入部しそれが課題曲となるので、全国優勝も夢ではなさそうであるとおっしゃって、練習を促す」と期待を寄せている。でも県代表となったものの「夢の表現」はならなかつた。

この時の曲の一部を口ずさむことがあった。

翌年から、毎日の昼休みの四十分間と放課後の毎週二回をコーラスの練習にあて、各合唱音楽コンクールに出場するようになる。また、部員約四十人と少なく、他校の合唱団に対抗するには無理があつた。でも音楽的なレベルは著実には上がっていった。

昭和二十八年十一月、埼玉県の大きな音楽会を作る人々の会館で行われた「NHK合唱コンクール」の県大会。早くも先生が切っ掛けだった」とも伝統のある各女子高校を退振る。



昭和39年。「長瀬青年の家」で行われた夏合宿の記念写真。1列目右から10人目が牧野統先生＝鈴木智さん提供

# 西 県

## くすの木のついで

### 部活動でたどる 川越高一〇〇年

■39

題字は  
同窓会長  
渋谷健氏

一九五七(昭和三十三年)四月。初の試みとして「新入生歓迎演奏会」を開き音楽部の存在をアピールしている。この年から本真が「コーラスアルバム」を購入し、課題曲と共に練習を進めている。

秋には伝統のあるNHKコンクールと関東合唱コンクールが同じ日に重なったが、両方に出場している。開演時間にずれたいための逃げ場はなかった。大宮で開かれたNHKコンクールには二十八人の「選抜軍」が出場、演奏後、都内の国立音大へ向かった。駅に着いた時には、すでに始まっていた。会場では発声練習をする間もなく舞台に上がっている。それでもNHKコンクールでは四度目の県代表になっている。

## 音楽部

②

コンクールの県予選高校の部になっている。同三十六年八月には優勝。余程うれしかったには、秩父の長瀬青年の家、の、故・牧野統先生と部員、合唱界の名門・浦和一女と夏には審査発表後、会場で先生、休み初の交歓会を開いている自身が作曲した川越高校の応援歌「奮え友よ」を歌ったと宿を始め、この後のNHKと朝日新聞主催の両コンクールで県代表になっている。

川越商工会議所副会頭の馬場弘さん(ま)も、昭和三十三年、同二十八年度、この年から入学、同三十五年の卒業。一学年十学級となり生徒数が「関東合唱祭」県合唱祭に増える。同三十九年には、音加したのを覚えて、その、部員は九人、その中には牧野先生の指導、振り返る。同期には川越市医師会副会長の犬竹庸二さん(いぬたけ)が、NHK全国学校音楽コンクールの県予選の会場、東京オリピックのため例年より、開催が早まった。高校合唱の部には十九校が参加、課題曲は「月の夜」。

昭和三十五年十月、NHKの全国コンクールで第三位に四月から顧問となったOBの

# 優勝に歓喜の応援歌



昭和39年7月。NHK主催の全国学校音楽コンクールの県予選。指揮・牧野統先生、ピアノ伴奏・小高秀一さん—鈴木智さん提供

中、指揮者の牧野先生のたく  
トが振られた。





# 西 県

## くすの木のついで

### 部活動でたどる 川越高一〇〇年

■41

題字は  
同窓会長  
渋谷健氏

一九六四(昭和三十九年)NHK全国学校音楽コンクール高校合唱の部で第一位(最優秀校)の栄冠を獲得。

このころ音楽室もない状態で、しかも男子普通高校の男声合唱が「日本一」になったことについて故・牧野統先生は、当時の音楽雑誌に「(略)この奇跡は、どうして起こったのか? 分析すれば理由はいくつもあるでしょうが、川越高校の歴史と伝統もその一つであると思います。(略)私の学校に参観にいらしてもお見せするものは何もありません。精神的な結びつきの美しさだけが誇りなのです(略)」などと書いている。

翌年も同コンクールの県大会に優勝。関東、全国大会に進み、第二位。昭和四十一年は入賞を逸したが、連続三回の全国大会出場。特に県大会は同四十四年まで六年連続の最優秀校に選ばれている。

昭和四十七年三月二十五日。以前から体調を崩していた牧野先生が逝去。それとともに部員も少なくなり、成績も低迷していった。牧野先生

## 音楽部 ④

が昔年以来、一年間の成果を発表するために毎年開催していた音楽部の定期演奏会、部員減で単独開催が難しくなると、翌年から八年間、川越女子高と合同開催している。県立行田進修館高の浅井一郎先生(昭和三十九年入学、同五十二年卒業)が、当時同部員も少なかった。でもみんな力を合わせて一生懸命に努力していた。勉強より部活のために学校にきていた面もあった。一生の仲間も得たと話す。

昭和五十一年、他校に転任していた小高秀一先生が戻ってきた。翌年の全日本合唱コンクールでは県代表となり、受賞している。今年四月から七年前に関東大会出場。翌年には新しい音楽室が増え、その後、徐々に部員数も増え、昭和六十年には百人の部員を擁している。この年、(ま)昭和三十五年入学、同全日本合唱コンクールの全国大会に初出場。翌年も連続出場、銀賞に入賞している。五十回目になります。OBに

も働き掛けて記念演奏会を成  
功させたい  
(次回から井輪部を紹介す  
る予定です)

## さらなる飛躍を目指す



昭和57年7月、川越市民会館で行われた「第32回川越高校音楽部定期演奏会」＝川越高校音楽部提供



# 川越高校校歌

古谷喜十郎 作詞  
内田久米太郎 作曲

堂々と

むらさきに おうむさま しののて  
し いていのじよ - -しこ ま やか - に せ

んよもふ か - きか わ ごえ - に おし  
-つ しの ゆ ー -き ま た あつ - く か -

えのには わの - きぼ ひ ろく い し つ えす えし - ま な  
び には いら ずじ っ に つき ち を た が や して - と く

びやは ち ち ぶの み ね - の ゆ る きな -  
を し く わ が こう ぶ う - は み よ しの -

いるまの

く いらと まの み ず - の す え なが - し  
の しゃ と うの う め - と か お るな - り

# 川越高校応援歌『奮え友よ』

山本明 作詞  
牧野統 作曲

力強く *mf* ゆったりと

ふるえともよ ふるえともよ ふるいたていま はつかりの

ふるえ ともよ ふるいたていま

こうきはためく むさしのに きたえしわれら えいこうの

こうきはためく むさしのに きたえしわれら えいこうの

でんとうまもり ねつけつと う こんたかく いまこそほこ - れ(ほこれ)

でんとうまもり ねつけつと う こんたかく いまこそほこ - れ(ほこれ)

しょうりのおおざ しょうりのおおざ かわこう(かわこう)かわ

しょうりのおおざ しょうりのおおざ かわこう(かわこう)かわ

*Fine*

こうかわこうかわこう(かわこう)お おわがかわごえこうこう

こうかわこうかわこう(かわこう)お おわがかわごえこうこう

*D.C.*

# 川高音楽部の歌

牧野 統 作詞  
作曲

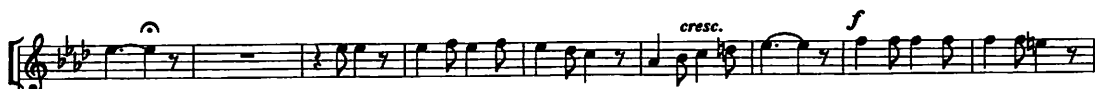
Allegretto



1.か ぜ かおる の べにう た - わん - げに われ - ら - ムズイカのと も - -  
2.く もしろき そらにう た - わん -



1.か ぜ かおる の べにう た わん う た わん げに われ - ら - ムズイカのと も - よ と  
2.く もしろき そらにう た わん う た わん



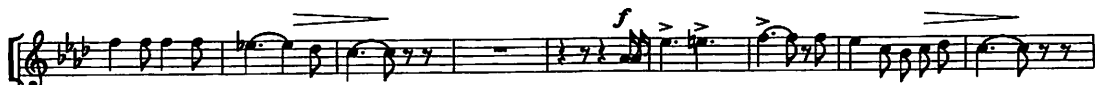
よ - よき ひとひを おきて いつのひか - さいわい あらむ  
ああ たのしあ げくれ うたありて - さいよふ かむを



も - よ かるよ き - ひとひを おきて い つ のひか さいわい あらむ  
まなびや の - たのしあ げくれ う た ありて さいよふ かむを



いつのひか -  
うたありて -



さいわい あ - ら む - うたえい ざ - わ かきこころを -  
さいよふ か - むを - あふる お - もい -



さいわい あら む - うたえい ざ - い ざ - わ かきこころを -  
さいよふ か む を - あふる お - もい -



うたえい ざ - うたえい ざ - よろ  
かん

昭和26(1951)年ころ作曲されたもの。  
原本は牧野先生ガリ切りの手書きのもの。



よるこび の - リズムにの - せ て - き か ず や き み よ わ  
かんげ き の -



よるこび の - よるこびの リズムにの - せ て - わ  
かんげ き の - かんげきの



こび の - よるこび の -  
げき の - かんげき の -



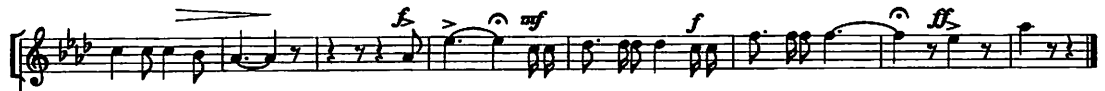
れらが - う た - か が - や く ひ ろ の を



れらが - う た - い ま こ そ き よ ら に か が - や く ひ ろ の を



い ま こ そ た か ら に



こ え て ゆ く - お お - そ の ハ ル モ ニ イ そ の ハ ル モ ニ イ - プ ラ ヴ ォ



こ え て ゆ く - お お お お - そ の ハ ル モ ニ イ そ の ハ ル モ ニ イ - プ ラ ヴ ォ



お お お お お -

Maestoso 音楽部讃歌 光よ音の流れよ

Top Tenor *f* ひ か りよ お と の な が れ よ *p* Andante Hm -- Hm --

Second Tenor *f*

Baritone *f* ひ か りよ お と の な が れ よ *p* Hm -- Hm --

Bass *f*

U U

Hm -- Hm -- *accel.* ちいさなうずが ひろがりひろがり

*espress.* うまれたばかりの ちいさなうずが

Hm -- Hm -- *p* *mf* ちいさなうずが ひろがり - ひろがり

U U

(中ひろく) *f* *ff* *a tempo* *mp* *poco rit.* *p* むげんの ひろさを あきの そらに えがいた

*f* *ff* *mp* *p* むげんの ひろさを むげんの ひろさを えがいた



*sp* *mf* *più mosso* *poco rit.* *a tempo* *mp*

あー わかい えいびんな たましい は くるしみ

お

*pp* *mf* *mp*

そのひ わかい えいびんな たましい は お -

*pp* (*ゆっくり*) *ppp* *mf* *Moderato* (大らかに)

を うつ くしさに - か え た し おさいの ように

- お - -

- お - - か え た し おさい の ように

*mf* *f* *ff*

か んどうの なみは すべ ての いしを ちょうえつ した

か んどう の なみは すべ ての いしを ちょうえつ した

Andante

Hm -- Hm -- Hm -- Hm -- Hm ひ

だが なんと いう しずけさ だ

お -- Hm -- Hm -- Hm -- Hm -- Hm ひ

U U U U U

かりよ おとのながれよ むげんのうずは みらいをみた

かりよ おとのながれよ むげんのうずは みらいをみた

みらいをしゆくふく したのだ - そうだ きみらは みた たしかに

みらいを

みらいをしゆくふく - したのだ みらいを そうだ きみらは みた

きいた みるえる

みる - え - る

しっかりとつ みる - え - る

みるえる

こころでひとのよのうつつ

こころで

こころでひとのよのうつつ

こころで

くしさをひとのよのうつくしさを

くしさをひとのよのうつくしさを

くしさをひとのよのうつくしさを

「昭和40年晩秋の夕、川高音楽部NHK全国大会2年連続入賞を祝って」

≡≡≡ 埼玉県立川越高等学校音楽部 創部50周年記念祝賀会 ≡≡≡

平成12年7月20日(木) 午後5時30分受付・6時開会  
川越プリンスホテル マリーゴールドルーム

◇ 次 第 ◇

- 一、開会の辞
- 一、校 歌
- 一、音楽部OB会会長挨拶
- 一、来賓祝辞
  - 埼玉県立川越高等学校同窓会長
  - 埼玉県立川越高等学校長
  - 埼玉県合唱連盟
  - 川越市合唱連盟
  - 川越高校音楽部指揮者
- 一、乾 杯
- 一、歓 談
- 一、応 援 歌
- 一、閉会の辞



## 【 来 賓 】

埼玉県立川越高等学校同窓会会長	渋谷 健様
埼玉県立川越高等学校 教頭	深澤 一博様
埼玉県合唱連盟 副理事長	大岩 篤郎様
川越市合唱連盟 副会長	廣重 雅巳様
川越高校音楽部指揮者	牧野 統先生・令夫人 牧野 陽子様
川越高校音楽部指揮者	牧野 統先生・令嬢 牧野美紀子様
川越高校音楽部指揮者	秋月 直胤先生・令夫人 秋月 智代様
川越高校音楽部指揮者	小高 秀一先生・雅子様ご夫妻
川越高校音楽部指揮者	浅井 一郎先生・和代様ご夫妻
川越高校音楽部指揮者	宮寺 勇先生・順子様ご夫妻
川越高校音楽部伴奏者	斉藤 功司先生
川越高校音楽部伴奏者	野島万里子先生
川越高校音楽部伴奏者	小島 圭子先生
川越高校音楽部創部50周年記念曲作曲者	荻久保和明様

## 【埼玉県立川越高等学校音楽部OB会】

会 長	松本 正自	音楽部 2回・高校 5回・昭和28年 3月卒
副会長	南 宗興	音楽部 5回・高校 8回・昭和31年 3月卒
音楽部 2回	柳下 恭治	高校 5回 昭和28年 3月卒
音楽部 4回	伊藤 安男	高校 7回 昭和30年 3月卒
音楽部 12回	河合 正雄	高校 15回 昭和38年 3月卒
音楽部 14回	大塚 英男	高校 17回 昭和40年 3月卒
音楽部 14回	鈴木 智	高校 17回 昭和40年 3月卒
音楽部 16回	島田 薫	高校 19回 昭和42年 3月卒
音楽部 16回	清水 徳雄	高校 19回 昭和42年 3月卒



音楽部 17回	天野 勤	高校20回	昭和43年3月卒
音楽部 17回	松島 仁志	高校20回	昭和43年3月卒
音楽部 17回	望月 克美	高校20回	昭和43年3月卒
音楽部 18回	内野 滋生	高校21回	昭和44年3月卒
音楽部 18回	佐藤 幸雄	高校21回	昭和44年3月卒
音楽部 18回	清水 光丸	高校21回	昭和44年3月卒
音楽部 18回	矢部 秀一	高校21回	昭和44年3月卒
音楽部 19回	山本 恵男	高校22回	昭和45年3月卒
音楽部 21回	宇佐美平和	高校24回	昭和47年3月卒
音楽部 22回	小沢 誠	高校25回	昭和48年3月卒
音楽部 22回	木村 雅文	高校25回	昭和48年3月卒
音楽部 22回	野田 清	高校25回	昭和48年3月卒
音楽部 23回	川本 軒司	高校26回	昭和49年3月卒
音楽部 23回	柴田 徹造	高校26回	昭和49年3月卒
音楽部 23回	洞口 靖	高校26回	昭和49年3月卒
音楽部 24回	平田 利幸	高校27回	昭和50年3月卒
音楽部 24回	山崎 敏彦	高校27回	昭和50年3月卒
音楽部 26回	関根 康弘	高校29回	昭和52年3月卒
音楽部 26回	馬場 正志	高校29回	昭和52年3月卒
音楽部 27回	福田 紳一	高校30回	昭和53年3月卒
音楽部 27回	米丸 健一	高校30回	昭和53年3月卒
音楽部 28回	岩政 靖夫	高校31回	昭和54年3月卒
音楽部 28回	大河内一男	高校31回	昭和54年3月卒
音楽部 28回	常見 晃	高校31回	昭和54年3月卒
音楽部 28回	正木 一弘	高校31回	昭和54年3月卒
音楽部 29回	柴田 励司	高校32回	昭和55年3月卒
音楽部 30回	金子 高広	高校33回	昭和56年3月卒
音楽部 31回	河野 豊	高校34回	昭和57年3月卒
音楽部 31回	齋藤 智	高校34回	昭和57年3月卒
音楽部 31回	柴崎 淳夫	高校34回	昭和57年3月卒
音楽部 31回	山田 敦	高校34回	昭和57年3月卒
音楽部 32回	内田 正俊	高校35回	昭和58年3月卒
音楽部 32回	細田 潤	高校35回	昭和58年3月卒
音楽部 33回	佐村 一久	高校36回	昭和59年3月卒
音楽部 33回	角田 剛	高校36回	昭和59年3月卒
音楽部 34回	内部 正明	高校37回	昭和60年3月卒
音楽部 34回	服部 大	高校37回	昭和60年3月卒
音楽部 35回	園山 実	高校38回	昭和61年3月卒
音楽部 36回	久保 直樹	高校39回	昭和62年3月卒
音楽部 36回	塚原 理	高校39回	昭和62年3月卒
音楽部 37回	田中 一彦	高校40回	昭和63年3月卒
音楽部 38回	熊田 啓介	高校41回	平成元年3月卒
音楽部 43回	桐生 誠	高校46回	平成6年3月卒
音楽部 45回	橋爪 宏明	高校48回	平成8年3月卒
	黒沢 紀子	川越女子高校音楽部OG	

## 【埼玉県立川越高等学校音楽部OB会 会則】

(名称、事務所)

第1条 本会は、埼玉県立川越高等学校音楽部OB会と称し、事務所を同校内に置く。

(目的)

第2条 本会は、会員相互の親睦を図り、かつ、音楽部との連絡、調整を行い、その発展に寄与するものとする。

(会員)

第3条 本会の会員は、埼玉県立川越高等学校音楽部（以下「音楽部」という。）に在籍した卒業生とする。

(役員)

第4条 本会に次の役員を置く。

- (1) 会長 1名
- (2) 副会長 1名
- (3) 幹事長 1名（常任幹事より選出）
- (4) 常任幹事 若干名（1名は、庶務会計事務を行う）
- (5) 幹事 若干名

2 この会に顧問を置くことができる。

(役員を選任)

第5条 本会の役員は総会で選出する。

2 役員任期は1年とする。ただし、再任を妨げない。

(役員職務)

第6条 会長は、本会を代表し、会議の議長となる。

2 会長に事故あるときは、副会長若しくは会長があらかじめ指名した者をもって、職務を代理する。

3 常任幹事および幹事は、会務を処理する。

(会議)

第7条 会議は、総会及び役員会とし、会長が招集する。

2 会議は、出席者の過半数の賛意をもって決する。

(会計)

第8条 本会の経費は、会費、寄附金及びその他の収入をもって充てる。

(会計年度)

第9条 本会の会計年度は、毎年4月1日に始まり翌年3月31日に終わるものとする。

(補則)

第10条 この会則に定めるもののほか必要な事項は、別に定める。

附則

この会則は、昭和45年4月1日から施行する。

### 埼玉県立川越高等学校音楽部OB会 内規（昭和45年4月1日）

- 1 幹事は、各卒業年度の会員から選出し、相互の連絡、調整に務めるものとする。
- 2 本会の経費は、寄附金その他の収入をもって充て、当分の間、会費は徴収しないものとする。
- 3 会計年度は、当分の間、その年度の総会から次年度の総会までとする。

## 埼玉県立川越高等学校音楽部OB会

### 【 役 員 名 簿 】

(会 長) 松本 正自 高校 5回 昭28年 3月卒・音楽部 2回  
 (副会長) 南 宗興 高校 8回 昭31年 3月卒・音楽部 5回  
 (幹事長) 小高 秀一 高校 11回 昭34年 3月卒・音楽部 8回

#### (常任幹事)

鈴木 智 昭40年 3月卒・音楽部 14回  
 初野 敬彦 昭40年 3月卒・音楽部 14回  
 清水 徳雄 昭42年 3月卒・音楽部 16回  
 矢部 秀一 昭44年 3月卒・音楽部 18回  
 宇佐美平和 昭47年 3月卒・音楽部 21回  
 川本 軒司 昭49年 3月卒・音楽部 23回  
 浅井 一郎 昭53年 3月卒・音楽部 27回  
 正木 一弘 昭54年 3月卒・音楽部 28回  
 内田 正俊 昭58年 3月卒・音楽部 32回  
 松枝 治 平 3年 3月卒・音楽部 40回  
 川名 賢一 平 7年 3月卒・音楽部 44回  
 宮寺 勇 (音楽部顧問代表)

#### (幹事)

島崎 裕士 昭38年 3月卒・音楽部 12回  
 島田 薫 昭42年 3月卒・音楽部 16回  
 望月 克美 昭43年 3月卒・音楽部 17回  
 吉田 均 昭44年 3月卒・音楽部 18回  
 鎌田 一顕 昭45年 3月卒・音楽部 19回  
 島田 徹 昭47年 3月卒・音楽部 21回  
 磯田 延雄 昭48年 3月卒・音楽部 22回  
 小沢 誠 昭48年 3月卒・音楽部 22回  
 洞口 靖 昭49年 3月卒・音楽部 23回  
 山崎 敏彦 昭50年 3月卒・音楽部 24回  
 関根 康弘 昭52年 3月卒・音楽部 26回  
 馬場 正志 昭52年 3月卒・音楽部 26回  
 米丸 健一 昭53年 3月卒・音楽部 27回  
 伊藤 孝雄 昭54年 3月卒・音楽部 28回  
 船橋 博隆 昭54年 3月卒・音楽部 28回  
 柴田 励司 昭55年 3月卒・音楽部 29回  
 臼木 学 昭56年 3月卒・音楽部 30回  
 金子 高広 昭56年 3月卒・音楽部 30回  
 柴崎 淳夫 昭57年 3月卒・音楽部 31回  
 小林 正 昭58年 3月卒・音楽部 32回  
 清澤 優 昭59年 3月卒・音楽部 33回  
 角田 剛 昭59年 3月卒・音楽部 33回  
 小暮 孝明 昭60年 3月卒・音楽部 34回

高橋 啓太 昭60年 3月卒・音楽部 34回  
 井口 治 昭61年 3月卒・音楽部 35回  
 園山 実 昭61年 3月卒・音楽部 35回  
 田中 俊光 昭62年 3月卒・音楽部 36回  
 灘 芳弘 昭62年 3月卒・音楽部 36回  
 谷口 典亨 昭63年 3月卒・音楽部 37回  
 細川 佳史 昭63年 3月卒・音楽部 37回  
 池田 哲哉 平元年 3月卒・音楽部 38回  
 須藤 博史 平元年 3月卒・音楽部 38回  
 梅田 能生 平 2年 3月卒・音楽部 39回  
 小野 和彦 平 2年 3月卒・音楽部 39回  
 上 義輝 平 3年 3月卒・音楽部 40回  
 篠原 哲 平 4年 3月卒・音楽部 41回  
 高平 亘 平 4年 3月卒・音楽部 41回  
 池原 琢治 平 5年 3月卒・音楽部 42回  
 西澤 裕美 平 5年 3月卒・音楽部 42回  
 北川 浩隆 平 6年 3月卒・音楽部 43回  
 小林 正俊 平 6年 3月卒・音楽部 43回  
 安倍 清史 平 7年 3月卒・音楽部 44回  
 古川 淳也 平 7年 3月卒・音楽部 44回  
 北山 哲 平 8年 3月卒・音楽部 45回  
 佐藤 孝明 平 8年 3月卒・音楽部 45回  
 門間 徹 平 9年 3月卒・音楽部 46回  
 山崎 拓洋 平 9年 3月卒・音楽部 46回  
 坪 広志 平 10年 3月卒・音楽部 47回  
 三吉 圭介 平 10年 3月卒・音楽部 47回  
 金澤 篤憲 平 11年 3月卒・音楽部 48回  
 中村 義範 平 11年 3月卒・音楽部 48回  
 守谷 滋記 平 11年 3月卒・音楽部 48回  
 伊藤 貴史 平 12年 3月卒・音楽部 49回  
 寺田 博一 平 12年 3月卒・音楽部 49回



## 編 集 後 記

まだ先の話だと思っていたが、「その時」はあっという間にやってきた。二十世紀最後の年というめぐり合わせも何かの縁であろう。

音楽部「創立五〇周年」に向けて常任幹事会で準備作業の話が出たのは6年前の平成6年のことだった。「記念曲の委嘱」「記念誌」「CD制作」「祝賀会」を柱に、うまく行けば音楽室のじゅうたんとピアノの更新まで、多彩な企画が計画された。諸般の事情から時間が経つにつれて計画は「現実的」になっていくが、それでも四つの企画は現実になった。まずはそのことを素直に喜びたい。

川越高校の百周年関係で各方面から資料を集めたが、これを使わせてもらえたのも幸이었다。調べれば調べるほど、新しい発見がある。それはよいのだが、確認なども必要になる。より多くの事実を盛り込もうと考えるうちに時間ばかりが過ぎてしまった。

原稿については、各回の幹事の方を中心にご依頼申し上げ、ご多忙の中に快諾いただくことができた。頂戴した玉稿はどれも思い出深い内容であり、私たちにとって示唆に富んだ内容だった。資料として、当時の写真、プログラム、レコードなどをご提供くださる方もあった。わざわざお時間をさいて学校にお出向き下さり、当時の話をして下さる方もあった。50年間の時間の流れの中に各位の努力の積み重ねを実感した。

加えて、各界から心あたたまるお祝いの言葉を頂戴することができた。

誤字・脱字・日付などに関しては注意したつもりだが、行き届かない点が多々あることと思う。ご容赦いただくとともに、ぜひお知らせいただきたい。

最後に、この記念誌の制作にあたって、細かなところまで煩をいとわずご援助下さいました青垣印刷・山中光浩氏をはじめ関係の皆様には厚くお礼を申し上げます。〈U〉

### 編集委員

清水 徳雄（音楽部16回）・宇佐美平和（音楽部21回）・内田 正俊（音楽部32回）

埼玉県立川越高等学校音楽部創部五〇周年記念誌

「光よ音の流れよ」

平成12年12月20日発行

埼玉県立川越高等学校音楽部OB会

〒350-0053 埼玉県川越市郭町二丁目6

埼玉県立川越高等学校内

電話 0492-22-0224

印刷 青垣印刷

〒669-3811 兵庫県氷上郡青垣町佐治534

電話 0795-87-0250

